



S

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

目次

S	1
保存.....	1
ドライブログの保存 - SANtricity CLI	1
トレイログの保存 - SANtricity CLI	2
監査ログレコードを保存する - SANtricity CLI	2
保存ボリュームのパリティチェックジョブのパリティエラー - SANtricity CLI	4
Webサーバーの証明書署名要求 (CSR) を生成する - SANtricity CLI	5
インストールされたサーバー証明書を取得する - SANtricity CLI	7
インストールされた CA 証明書を取得する - SANtricity CLI	8
コントローラのNVSRAMを保存する - SANtricity CLI	10
ドライブチャネル障害分離診断ステータスの保存 - SANtricity CLI	10
入出力コントローラ (IOC) ダンプを保存する - SANtricity CLI	12
ストレージアレイ診断データを保存する - SANtricity CLI	13
非同期ミラーグループの統計を保存する - SANtricity CLI	14
自動ロードバランシング統計を保存する - SANtricity CLI	17
AutoSupport ログの取得 - SANtricity CLI	18
ストレージアレイ構成の保存 - SANtricity CLI	19
ストレージアレイコントローラのヘルスイメージを保存する - SANtricity CLI	21
ストレージアレイDBMデータベースの保存 - SANtricity CLI	23
ストレージアレイDBMバリデータ情報ファイルを保存する - SANtricity CLI	25
ストレージアレイのファームウェアインベントリを保存する - SANtricity CLI	27
ストレージアレイのホストポート統計を保存する - SANtricity CLI	28
ストレージアレイのInfiniBand統計を保存する - SANtricity CLI	30
ストレージアレイの iSCSI 統計を保存する - SANtricity CLI	31
ストレージアレイの iSER 統計を保存する - SANtricity CLI	32
インストールされた外部キー管理証明書を取得する - SANtricity CLI	33
キー管理証明書署名要求 (CSR) を生成する - SANtricity CLI	34
ストレージアレイのログインバナーを保存する - SANtricity CLI	36
ストレージアレイのパフォーマンス統計を保存する - SANtricity CLI	37
ストレージアレイのRLSカウントを保存する - SANtricity CLI	37
ストレージアレイの SAS PHY カウントを保存する - SANtricity CLI	38
ストレージアレイの SOC カウントを保存する - SANtricity CLI	39
ストレージアレイの状態キャプチャを保存する - SANtricity CLI	40
ストレージアレイのサポートデータを保存する - SANtricity CLI	41
インストールされた信頼された CA 証明書を取得する - SANtricity CLI	49
ストレージアレイイベントの保存 - SANtricity CLI	50
設定.....	52
非同期ミラーグループの設定 - SANtricity CLI	52
監査ログ設定 - SANtricity CLI	55

AutoSupport ディスパッチサイズ制限の設定 - SANtricity CLI	57
AutoSupport HTTP(S)配信方法を指定する - SANtricity CLI	58
整合性グループのスナップショットボリュームを設定する - SANtricity CLI	59
整合性グループの属性を設定する - SANtricity CLI	60
整合性グループにメンバーを追加する - SANtricity CLI	62
コントローラのDNS設定を行う - SANtricity CLI	65
コントローラのホストポートプロパティを設定する - SANtricity CLI	67
iSCSI ホストポートのネットワークプロパティを設定する - SANtricity CLI	74
コントローラのNTP設定を行う - SANtricity CLI	81
コントローラのサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI	84
コントローラの設定 - SANtricity CLI	85
ディスクプールの設定（ディスクプールの変更） - SANtricity CLI	91
ディスクプールの設定 - SANtricity CLI	93
ドライブのホットスワップを設定する - SANtricity CLI	97
外部ドライブをネイティブに設定する - SANtricity CLI	98
ドライブの状態を設定する - SANtricity CLI	100
FIPSドライブセキュリティ識別子の設定 - SANtricity CLI	101
ドライブサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI	103
ドライブチャンネルステータスの設定 - SANtricity CLI	105
メール（SMTP）配信方法を指定する - SANtricity CLI	106
電子メールアラート設定を構成する - SANtricity CLI	107
イベントアラートフィルタリングの設定 - SANtricity CLI	109
ホストの設定 - SANtricity CLI	111
ホストチャネルの設定 - SANtricity CLI	113
ホストグループの設定 - SANtricity CLI	114
ホストポートの設定 - SANtricity CLI	114
イニシエータの設定 - SANtricity CLI	115
iSCSIイニシエータの設定 - SANtricity CLI	117
iSCSI ターゲットのプロパティを設定する - SANtricity CLI	120
iSERターゲットの設定 - SANtricity CLI	122
セッションの設定 - SANtricity CLI	123
スナップショットグループのスケジュールを設定する - SANtricity CLI	125
スナップショットグループリポジトリボリューム容量の設定 - SANtricity CLI	128
スナップショットグループのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI	130
スナップショットグループ属性の設定 - SANtricity CLI	131
読み取り専用スナップショットボリュームを読み取り/書き込みボリュームに設定する - SANtricity CLI	133
スナップショットボリュームのリポジトリボリューム容量を設定する - SANtricity CLI	136
スナップショットボリュームのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI	139
スナップショットボリュームの名前変更 - SANtricity CLI	140
SNMPコミュニティの更新 - SANtricity CLI	141

SNMP MIB II システムグループ変数の更新 - SANtricity CLI	142
SNMPトラップの送信先を更新する - SANtricity CLI	143
SNMPv3 USMユーザーの更新 - SANtricity CLI	144
ストレージレイの自動ロードバランシングを有効または無効に設定する - SANtricity CLI	146
AutoSupport メッセージ収集スケジュールの設定 - SANtricity CLI	148
AutoSupport メンテナンス ウィンドウを有効または無効にする - SANtricity CLI	149
AutoSupport OnDemand 機能を有効または無効にする - SANtricity CLI	151
AutoSupport リモート診断機能を有効または無効にする - SANtricity CLI	152
ストレージレイを設定してキャッシュミラーデータアシュアランスチェックを有効または無効にする - SANtricity CLI	153
ストレージレイコントローラのヘルスイメージの上書きを許可する設定 - SANtricity CLI	154
ストレージレイディレクトリサーバの役割マッピングを設定する - SANtricity CLI	155
ストレージレイディレクトリサーバの設定 - SANtricity CLI	157
外部キー管理設定の設定 - SANtricity CLI	159
ホスト接続レポートの有効化または無効化 - SANtricity CLI	160
ストレージレイのICMP応答を設定する - SANtricity CLI	161
ストレージレイの iSNS サーバの IPv4 アドレスを設定する - SANtricity CLI	162
ストレージレイの iSNS サーバの IPv6 アドレスを設定する - SANtricity CLI	163
ストレージレイの iSNS サーバのリスニングポートを設定する - SANtricity CLI	164
ストレージレイの iSNS 登録を設定する - SANtricity CLI	165
ストレージレイの iSNS サーバの更新を設定する - SANtricity CLI	167
ストレージレイコントローラのバッテリー学習サイクルを設定する - SANtricity CLI	168
ストレージレイのローカルユーザーパスワードまたはSYMBOLパスワードを設定する - SANtricity CLI	170
ストレージレイのログインバナーを設定する - SANtricity CLI	171
ストレージレイ管理インターフェースの設定 - SANtricity CLI	172
ODX を有効化または無効化する - SANtricity CLI	173
ストレージレイのパスワードの長さを設定する - SANtricity CLI	174
再構築時にストレージレイのPQ検証を設定する - SANtricity CLI	175
ストレージレイの冗長モードを設定する - SANtricity CLI	177
ストレージレイリソースのプロビジョニングされたボリュームを設定する - SANtricity CLI	177
証明書失効チェック設定の設定 - SANtricity CLI	178
内部ストレージレイのセキュリティキーを設定する - SANtricity CLI	179
ストレージレイのSyslog構成の更新 - SANtricity CLI	181
ストレージレイの時間を設定する - SANtricity CLI	182
ストレージレイトレイの位置を設定する - SANtricity CLI	182
ストレージレイの名前なし検出セッションを設定する - SANtricity CLI	184
ストレージレイのユーザーセッションの設定 - SANtricity CLI	184
VAAI を有効化または無効化する - SANtricity CLI	185
ストレージレイの設定 - SANtricity CLI	186
同期ミラーリングの設定 - SANtricity CLI	197

Syslog設定を構成する - SANtricity CLI	200
ターゲットプロパティの設定 - SANtricity CLI	202
シンボリックの属性を設定する - SANtricity CLI	203
トレイ属性の設定 - SANtricity CLI	206
ドローサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI	206
トレイ識別の設定 - SANtricity CLI	208
トレイサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI	210
ボリュームグループ内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI	212
ボリュームマッピングの設定 - SANtricity CLI	222
ボリュームの SSD キャッシュを設定する - SANtricity CLI	224
ボリュームコピーの設定 - SANtricity CLI	226
ボリュームグループの強制状態を設定する - SANtricity CLI	227
ボリュームグループの設定 - SANtricity CLI	228
ディスクプール内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI	231
表示...	236
ドライブのダウンロード進行状況を表示する - SANtricity CLI	236
ドライブのパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI	237
ドライブの表示 - SANtricity CLI	239
ホストポートの表示 - SANtricity CLI	242
SNMPコミュニティを表示する - SANtricity CLI	243
SNMPv3 USM ユーザーの表示 - SANtricity CLI	245
アレイラベルの表示 - SANtricity CLI	247
非同期ミラーグループの表示 - SANtricity CLI	247
非同期ミラーグループの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI	249
監査ログ設定の表示 - SANtricity CLI	250
監査ログの概要を表示 - SANtricity CLI	251
ブロックされたイベントを表示する - SANtricity CLI	252
証明書の表示 - SANtricity CLI	253
整合性グループのスナップショットイメージを表示する - SANtricity CLI	253
ボリュームパリティチェックジョブの表示 - SANtricity CLI	256
整合性グループの表示 - SANtricity CLI	257
署名済み証明書の表示 - SANtricity CLI	258
インストールされたルート/中間 CA 証明書の概要を表示する - SANtricity CLI	259
コントローラの診断ステータスを表示する - SANtricity CLI	261
コントローラのNVS RAMを表示する - SANtricity CLI	261
コントローラの表示 - SANtricity CLI	262
ディスクプールの表示 - SANtricity CLI	266
ドライブチャネル統計情報の表示 - SANtricity CLI	267
電子メールアラートの設定を表示する - SANtricity CLI	268
現在の iSCSI セッションを表示する - SANtricity CLI	269
交換可能なドライブの表示 - SANtricity CLI	271

スナップショットグループの表示 - SANtricity CLI	273
スナップショットイメージを表示 - SANtricity CLI	275
スナップショットボリュームの表示 - SANtricity CLI	277
SNMP MIB II システムグループ変数を表示する - SANtricity CLI	279
SSD キャッシュ統計を表示する - SANtricity CLI	280
SSD キャッシュを表示 - SANtricity CLI	283
ストレージレイの自動構成を表示する - SANtricity CLI	285
AutoSupport 構成の表示 - SANtricity CLI	292
ストレージレイキャッシュミラーデータアシュアランスチェックの有効化を表示 - SANtricity CLI	294
ストレージレイコントローラのヘルスイメージを表示する - SANtricity CLI	295
ストレージレイの DBM データベースを表示する - SANtricity CLI	296
ストレージレイのディレクトリサービスの概要を表示する - SANtricity CLI	297
ストレージレイホストの接続レポートを表示する - SANtricity CLI	298
ストレージレイホストポロジの表示 - SANtricity CLI	299
ストレージレイネゴシエーションのデフォルトを表示する - SANtricity CLI	300
ストレージレイのLUNマッピングを表示する - SANtricity CLI	301
ストレージレイのODX設定を表示する - SANtricity CLI	302
ストレージレイの電源情報を表示する - SANtricity CLI	303
証明書失効チェック設定を表示する - SANtricity CLI	304
ストレージレイのSyslog構成を表示する - SANtricity CLI	305
インストールされた信頼された CA 証明書の概要を表示する - SANtricity CLI	306
未構成のイニシエーターを表示する - SANtricity CLI	308
ストレージレイの未構成の iSCSI イニシエーターを表示する - SANtricity CLI	308
ストレージレイの読み取り不可能なセクターを表示する - SANtricity CLI	309
ストレージレイのユーザーセッションを表示する - SANtricity CLI	310
ストレージレイの表示 - SANtricity CLI	310
同期ミラーリングボリュームの候補を表示する - SANtricity CLI	318
同期ミラーリングボリュームの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI	319
Syslog 設定の表示 - SANtricity CLI	321
文字列を表示 - SANtricity CLI	322
ボリュームアクションの進行状況を表示する - SANtricity CLI	323
ボリュームパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI	323
ボリューム予約の表示 - SANtricity CLI	326
ボリュームの表示 - SANtricity CLI	327
シンボリュームの表示 - SANtricity CLI	329
ボリュームコピーのターゲット候補を表示する - SANtricity CLI	331
ボリュームコピーソース候補の表示 - SANtricity CLI	332
ボリュームコピーの表示 - SANtricity CLI	332
ボリュームグループのエクスポート依存関係を表示する - SANtricity CLI	333
ボリュームグループのインポート依存関係を表示する - SANtricity CLI	334
ボリュームグループの表示 - SANtricity CLI	335

SMcli ...	337
テストアラート - SANtricity CLI	337
AutoSupportバンドルコレクション設定の表示 - SANtricity CLI	338
AutoSupport 構成のテスト - SANtricity CLI	340
AutoSupport の配信方法を指定する - SANtricity CLI	342
AutoSupport ログのキャプチャまたは表示 - SANtricity CLI	344
AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI	346
AutoSupport メッセージ収集スケジュールの表示 - SANtricity CLI	347
EMW管理ドメインレベルでAutoSupportを有効化または無効化する（SMcliのみ） - SANtricity CLI	349
EMW管理ドメインレベルでAutoSupport OnDemand機能を有効化または無効化する（SMcliのみ） - SANtricity CLI	350
EMW管理ドメインレベルでAutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする（SMcliのみ） - SANtricity CLI	351
自動サポートバンドル収集構成のスケジュール - SANtricity CLI	352
開始...	359
非同期ミラーリング同期を開始する - SANtricity CLI	359
整合性グループスナップショットのロールバックを開始する - SANtricity CLI	360
ボリュームパリティチェックジョブの開始 - SANtricity CLI	362
iSCSI DHCP 更新を開始する - SANtricity CLI	363
コントローラのトレースを開始する - SANtricity CLI	365
ディスクプールのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	368
ディスクプールの検索を開始する - SANtricity CLI	369
ディスクプールのリソースプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	370
ドライブ消去の開始 - SANtricity CLI	371
ドライブの初期化を開始する - SANtricity CLI	372
ドライブの検索を開始する - SANtricity CLI	373
ドライブ再構築の開始 - SANtricity CLI	375
ドライブチャンネル障害分離診断の開始 - SANtricity CLI	376
ドライブチャンネルの検索を開始する - SANtricity CLI	378
テストメールアラート設定 - SANtricity CLI	379
ディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの容量を増やす - SANtricity CLI	380
入出力コントローラ（IOC）ダンプの開始 - SANtricity CLI	382
FDEセキュアドライブ消去を開始する - SANtricity CLI	383
スナップショットイメージのロールバックを開始する - SANtricity CLI	385
SNMPトラップの送信先をテストする - SANtricity CLI	387
SSD キャッシュの検索を開始する - SANtricity CLI	388
SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを開始する - SANtricity CLI	388
AutoSupport 配信設定のテスト - SANtricity CLI	390
ストレージアレイの AutoSupport 手動ディスパッチの開始 - SANtricity CLI	391
ストレージアレイ構成データベース診断を開始する - SANtricity CLI	391
ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの開始 - SANtricity CLI	394

ストレージアレイディレクトリサーバーのテスト - SANtricity CLI	395
外部キー管理通信のテスト - SANtricity CLI	396
ストレージアレイの iSNS サーバーの更新を開始する - SANtricity CLI	396
ストレージアレイの検索を開始する - SANtricity CLI	397
OCSP サーバー URL テストを開始する - SANtricity CLI	398
ストレージアレイのSyslogテストを開始する - SANtricity CLI	398
同期ミラーリング同期の開始 - SANtricity CLI	399
Syslog 構成のテスト - SANtricity CLI	400
トレイの位置特定を開始する - SANtricity CLI	401
ボリュームの初期化を開始する - SANtricity CLI	402
シンボリックボリュームの初期化 - SANtricity CLI	402
ボリュームグループのデフラグを開始する - SANtricity CLI	405
ボリュームグループのエクスポートを開始する - SANtricity CLI	406
ボリュームグループのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	407
ボリュームグループのインポートを開始する - SANtricity CLI	409
ボリュームグループの検索を開始する - SANtricity CLI	410
ボリュームグループリソースのプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI	411
停止...	412
非同期ミラーグループの役割の逆転をキャンセルする - SANtricity CLI	412
整合性グループのスナップショットのロールバックを停止する - SANtricity CLI	412
整合性グループのスナップショットボリュームを停止する - SANtricity CLI	414
ボリュームパリティチェックジョブの停止 - SANtricity CLI	415
整合性グループ上の保留中のスナップショットイメージを停止する - SANtricity CLI	416
ディスクプールの検索を停止する - SANtricity CLI	417
ドライブの検索を停止する - SANtricity CLI	417
ドライブ交換の停止 - SANtricity CLI	418
ドライブチャネル障害分離診断を停止する - SANtricity CLI	419
ドライブチャネルの検索を停止する - SANtricity CLI	420
スナップショットグループの保留中のスナップショットイメージを停止する - SANtricity CLI	421
スナップショットイメージのロールバックを停止する - SANtricity CLI	422
スナップショットボリュームの停止 - SANtricity CLI	424
SSD キャッシュの検索を停止する - SANtricity CLI	424
SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを停止する - SANtricity CLI	425
ストレージアレイ構成データベース診断を停止する - SANtricity CLI	427
ストレージアレイドライブのファームウェアのダウンロードを停止する - SANtricity CLI	428
ストレージアレイのiSCSIセッションを停止する - SANtricity CLI	429
ストレージアレイの検索を停止する - SANtricity CLI	430
トレイの位置特定を停止 - SANtricity CLI	430
ボリュームコピーを停止する - SANtricity CLI	431
ボリュームグループの検索を停止する - SANtricity CLI	431
中断...	432

非同期ミラーグループの一時停止 - SANtricity CLI	432
SSD キャッシュを一時停止する - SANtricity CLI	433
同期ミラーリングの一時停止 - SANtricity CLI	434

S

保存...

ドライブログの保存 - SANtricity CLI

save allDrives logfile コマンドは、ドライブ・ログをファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイでは、ドライブログデータがドライブごとに管理されます。




このコマンドは、テクニカルサポートから指示がないかぎり実行しないでください。

構文

```
save allDrives logfile="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
logfile`	<p>ドライブログの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\drive01.zip</p> <div><p>このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名には.zipファイル拡張子を指定する必要があります。</p></div>

トレイログの保存 - SANtricity CLI

save allTrays logfile コマンドは'ログセンスデータをファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ログセンスデータは、各トレイの環境カードで管理されますすべての環境カードにログセンスデータが含まれているわけではありません。

構文

```
save allTrays logFile="filename"
```

パラメータ

パラメータ	説明
logfile`	ログセンスデータの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： 'file="C:\Program Files\CLI\logs\traylogdat.txt このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。

監査ログレコードを保存する - SANtricity CLI

save auditLog コマンドは'監査ログ・レコードを取得します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール


このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
save auditLog (all | (beginDate=<em>date</em> | endDate=<em>date</em>)
| (beginRecord=<em>timestamp</em> | endRecord=<em>timestamp</em>))
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「すべて」	すべての監査ログレコードを取得できます。
「開始日」	<p>取得の開始日を指定できます。日付の入力形式は、クライアントタイムゾーンでMM：DD：YYです。取得される最初の監査ログレコードは、指定した日付以降に投稿された最初のレコードです。</p> <div> 午前0時から午前0時までの範囲は、クライアントのタイムゾーンに基づいています。</div>
「endDate」	<p>取得の終了日を指定できます。指定しない場合は、ログの最後のレコードが取得されます。日付の入力形式は、クライアントタイムゾーンでMM：DD：YYです。取得される最後の監査ログレコードは、指定した日付以前に投稿された最後のレコードです。</p> <div> 午前0時から午前0時までの範囲は、クライアントのタイムゾーンに基づいています。</div>
「beginRecord」	取得する最初のレコードを指定できます。この値は、最初の監査ログレコードのタイムスタンプを表す整数値です。指定しない場合は、ログの最初のレコードが取得されます。

パラメータ	説明
「endRecord」	取得する終了レコードを指定できます。この値は、最後の監査ログレコードのタイムスタンプを表す整数値です。指定しない場合は、ログの最後のレコードが取得されます。
'file'	<div>監査ログの出力ファイル名を指定できます。</div> <div>  監査ログのレコードは、新しいものから順にファイルに保存されます。 </div>

例

```
SMcli -n Array1 -c "save auditLog all file="myAuditLog.txt";"

SMcli -n Array1 -c "save auditLog endRecord=1493070393313
file="myAuditLog.txt";"

SMcli -n Array1 -c "save auditLog beginDate=12:12:16 endDate=04:01:17
file="myAuditLog.txt";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

保存ボリュームのパリティチェックジョブのパリティエラー - SANtricity CLI

。save check volume parity job parity errors コマンドは、ボリュームチェックパリティジョブによってログに記録されたパリティエラーを指定のファイルに保存します。出力ファイルは、廃止されたcheck volume parityコマンドと同じ形式で書き込まれるため、既存のrepair volume parityコマンドの入力として使用できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
save check volume parity job parityErrors jobId=<job_id>
parityErrorFile=<parity_error_file>;
```

パラメータ

パラメータ	説明
jobId	ログに記録されたパリティエラーを取得して保存するジョブID。この値は必須です。
'parityErrorFile'	ログに記録されたパリティエラーを保存する場所を示すためにユーザーが指定したファイル。この値は必須です。

最小ファームウェアレベル

11.80

Webサーバーの証明書署名要求（CSR）を生成する - SANtricity CLI

save controller arrayManagementCSR' コマンドは'コントローラの証明書署名要求(CSR)を生成します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

CSRには、認証局（CA）による署名が必要です。署名された証明書はコントローラのWebサーバにインストールされます。これにより、アレイを管理するときに、ブラウザはコントローラのWebサーバを自動的に信頼できます。この処理はコントローラごとに実行します。

構文

```

save controller [(a|b)] arrayManagementCSR
commonName="ipOrDnsName"
[alternateIPAddresses=(ipVx1...ipVxN)]
[alternateDnsNames=("dnsName1"..."dnsNameN")]
organization="organizationName"
[organizationalUnit="organizationalUnitName"]
locality="cityOrLocality"
[stateProvince="stateOrRegion"]
country="string"
keySize=["2048 | 3072 | 4096 "]
file="filename"

```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	CSR作成の対象となるコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。
「commonName」	コントローラのIPアドレスまたはDNS名を指定できます。これは、ブラウザでSystem Managerにアクセスする際に入力したアドレス（http://またはhttps://を除く）と正確に一致している必要があります。一致していないと、名前不一致エラーが発生します。
「alternateIPAddresses」	コントローラの追加のIPアドレスまたはエイリアスを指定できます。すべてのIPアドレスを角カッコで囲みます。複数のIPアドレスを入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。
「alternateDnsNames」	コントローラの追加のDNS名を指定できます。すべてのDNS名を角カッコで囲みます。複数の名前を入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。
「組織」	ストレージレイが属する組織の正式名称を指定できます。省略はせず、Inc、Corp、LLCなどのサフィックスもすべて含めてください。
organizationalUnit	証明書を処理する組織の部門を指定できます。
「ローカリティ」	ストレージレイが配置されている市区町村を指定できます。

パラメータ	説明
「州」	ストレージアレイが配置されている都道府県を指定できます。これは省略しないでください。
「country」	ISO（国際標準化機構）の2桁の国別コード（USなど）を指定できます。
keySize	サーバのキーサイズとして、3072、またはの4096`値を指定できます`2048。キーサイズが選択されていない場合、デフォルトのキーサイズは3072です。
'file'	コントローラのCSRファイルの保存先となるファイルを指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save controller [a] arrayManagementCSR
  commonName="ictd0702s05c01-a.ict.englab.xyz.com"
  alternateIPAddresses=(10.113.174.190 10.113.174.191)
  alternateDnsNames=("ictd0702s05c01-b.ict.englab.xyz.com")
  organization="Company"
  locality="Wichita"
  stateProvince="Kansas"
  country="US"
  file="C:\storage_array_csr.csr";"
```

SMcli completed successfully.

最小ファームウェアレベル

8.40

インストールされたサーバー証明書を取得する - SANtricity CLI

コマンドは save controller arrayManagementCSR、コントローラにインストールされているサーバのCertificate Signing Request（CSR；証明書署名要求）を取得して、証明書の詳細を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
save controller [(a|b)] arrayManagementCSR file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	署名済み証明書のダウンロード元のコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。
'file'	コントローラの署名済み証明書ファイルの保存先となるファイルを指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save controller [a] aarrayManagementCSR  
file="C:\controllerAcertificate.cer";"  
  
SMcli -n Array1 -c "save controller [b] arrayManagementCSR  
file="C:\controllerBcertificate.cer";"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

インストールされた CA 証明書を取得する - SANtricity CLI

save controller cAcertifate' コマンドは、インストールされているCA証明書を指定されたコントローラから取得します。取得した証明書に含まれているのは、コントローラのWebサーバから要求されたCA証明書です。

サポートされているレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
save controller[(a|b)] caCertificate [all | aliases=("<em>alias1</em>" ...
"<em>aliasN</em>")]
    path="fileLocation"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。
「すべて」	署名済み証明書チェーンを解決するためにインポートされたすべての証明書の取得を指定できます。ユーザがインストールした証明書にはキー管理証明書が含まれています
「別名」	取得するユーザがインストールしたルート/中間証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。
「path」	コントローラのルート/中間証明書を保存するローカルの場所を指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save controller[a] caCertificate all path="C:\";"

SMcli -n Array1 -c "save controller[b] caCertificate aliases=("myAlias"
"anotherAlias") path="C:\";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

コントローラのNVSRAMを保存する - SANtricity CLI

save controller NVSRAM file コマンドは、選択したコントローラNVSRAM領域のセットをファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
save controller [(a|b)] NVSRAM file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	NVSRAM値を保存するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。
'file'	NVSRAM値の保存先となるファイルパスとファイル名。NVSRAMファイル名は二重引用符 (") で囲みます。例： 'file'="C:\Program Files\CLI\logs\nvsramb.txt NVSRAM値を格納するファイルのデフォルト名は、「NVSRAMデータ.txt」です。このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.10

ドライブチャネル障害分離診断ステータスの保存 - SANtricity CLI

save driveChannel faultDiagnostics file コマンドは、start driveChannel faultDiagnostics コ

マンドから返されたドライブチャネル障害切り分け診断データを保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェアバージョン8.10では、save driveChannel faultDiagnosticsコマンドは廃止されました。

診断データは、標準テキストまたはXMLとしてファイルに保存できます。

構文

```
save driveChannel faultDiagnostics file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>ドライブチャネルでの障害切り分け診断テストの結果の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\sup\fltdiag.txt</p> <p>このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。</p>

注：

保存されたファイルには、ファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイルに適切な形式のファイル拡張子を指定する必要があります。ファイル拡張子「.txt」を指定すると、出力はテキストファイル形式になります。ファイル拡張子に「.xml」を指定すると、出力はXMLファイル形式になります。

最小ファームウェアレベル

この新しい機能は7.15でレガシーコントローラトレイに導入されました。

入出力コントローラ（IOC）ダンプを保存する - SANtricity CLI

save IOCLog コマンドは、ストレージアレイ内のコントローラからホスト上のファイルにIOCダンプを保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
save IOCLog [file="<em>filename</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>IOCダンプの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（"）で囲みます。例：</p> <div><pre>file="C:\Array Backups\IOCcoredump1.7z"</pre></div> <p>このコマンドは、データを圧縮ファイルに保存し、ファイル拡張子「.7z」を保存されたファイルに追加します。ストレージアレイ内のコントローラのIOC関連データを格納するファイルのデフォルト名には、ストレージアレイのWWNが使用されます。</p>

注：

このコマンドは、両方のコントローラからIOCダンプログデータとIOCダンプメタデータを取得します。7zip ファイル形式を使用して、取得したデータが指定した名前の単一のファイルに圧縮されてアーカイブされます。この7zipアーカイブファイルの内容は次のとおりです。

- ファイル名+「IOCLog」+[A|B].gz -コントローラAまたはコントローラBから取得されたIOCログ（利用可能な場合）
- ファイル名+「IOCLogInfo」+[A|B].txt -コントローラAまたはコントローラBから取得されたIOCログのメタデータ情報。コントローラからIOCログデータを取得できない場合は、メタデータ.txtファイルにエラーの状態と理由が記録されます。

エラー状態は次のとおりです。

- コントローラプラットフォームとHICがIOCダンプをサポートしていない。
- コントローラでIOCダンプデータが収集されていない。

圧縮されたログは人間が判読できる形式ではありません。テクニカルサポートに渡して評価してもらう必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.20で

ストレージアレイ診断データを保存する - **SANtricity CLI**

save storageArray diagnosticData コマンドは、ストレージアレイの診断データをコントローラまたは環境サービスモジュール (ESM) からファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ファイルの内容はあとで確認できます。また、ファイルをテクニカルサポートに送信して詳しい確認を依頼することもできます。

診断データを保存したら、古いデータを上書きできるように、診断データが含まれているNVSRAMレジスタをリセットできます。診断データレジスタをリセットするには、「reset storageArray diagnosticData」コマンドを使用します。



このコマンドは、テクニカルサポートの助言の下で実行してください。

構文

```
save storageArray diagnosticData [(controller | tray)]  
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diagnosticData」を参照してください	このパラメータでは、診断データをコントローラとESMのどちらからダウンロードするかを指定できます。
'file'	<p>ストレージアレイ診断データの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <pre>'file="C:\Program Files\CLI\logs\sadag.zip "'</pre> <p>このコマンドではデータが自動的に圧縮ファイルに保存されますが、ファイルには自動的にファイル拡張子が付加されません。ファイル名を入力するときは.zip拡張子を指定する必要があります</p>

注：

このコマンドの7.77より前のバージョンでは'ユーザ・オプションはtrayではなくESMでした7.77では'trayは'ESMを置き換えます「ESM」の使用はまだサポートされていますが、今後のリリースとの互換性を最大限に高めるために、「ESM」を「tray」に置き換えてください。

最小ファームウェアレベル

6.16

7.77 「tray」は「ESM」に代わるものです。

非同期ミラーグループの統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray arvmStats asyncMirrorGroupコマンドは、非同期ミラーグループ内の1つ以上のメンバーボリュームの同期統計をファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

収集される統計は、ローカルストレージアレイ上のプライマリロールの非同期ミラーグループのメンバーボリュームでのみ使用できます。

ミラー構成が適切に機能しているかどうかを評価するために使用できる同期プロセス中に一連のデータが収集

されます。データは `_samples_` のセットとして収集されます。サンプルは同期プロセスの開始時に作成され、同期プロセスの実行中に定期的に更新されます。

サンプルは'同期プロセスが完了するまで'またはボリューム所有権の転送や読み取り/書き込みエラーなど'同期プロセスの中断が発生するまで'データを収集します同期プロセスの停止が解決されると（ボリュームが代替コントローラに転送された場合など）、新しいサンプルが作成され、同期プロセスの続行に従って更新されず。

構文

```
save storageArray arvmStats asyncMirrorGroup
[<em>asyncMirrorGroupName</em>]
arvmStats file="<em>filename</em>"
"
[volume="<em>volumeName</em>"]
[sampleType=(all | mostRecent | longestSyncTime | errors)]
[recordLimit=(1-90)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	同期の統計を保存する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
'file'	同期の統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 (") で囲みます。例： 'file="C:\Program Files\CLI\logs\asynchdata.csv" このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。任意のファイル名を使用できますが、.csv拡張子を使用する必要があります

パラメータ	説明
「volume」	<p>このパラメータはオプションです。同期の統計を取得する非同期ミラーグループ内の特定のメンバーボリュームの名前。ボリュームを指定しない場合は、非同期ミラーグループ内のすべてのメンバーボリュームの統計が保存されます。</p> <p>非同期ミラーグループ内の複数のボリュームについて統計が収集される場合は、すべてのデータが同じファイルに書き込まれます。</p> <p>ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。</p>
「sampleType」	<p>このパラメータはオプションです。「sampleType」のデフォルト値は「all」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all — 3つのサンプルタイプすべてのデータが収集され'同じファイルに書き込まれます • 「mostrecent」 --最新の50件の再同期サンプルの統計が記録されます。 • longestSyncTime'--最新の20件の最も長い再同期サンプルの統計情報が収集されます • errors--直近の20件の失敗した再同期サンプルの統計が記録されますこれらのサンプルには、障害コードが含まれています。
「レコード制限」	<p>このパラメータはオプションです。レコード制限のデフォルト値は「無制限」です。'recordLimit'は0より大きく90以下である必要があります</p>

注：

プライマリロールでは、ミラーボリュームの統計がキャプチャされます。収集される統計には次のデータが含まれます。

- 同期の開始時刻
- 同期タイプ（手動または定期的）
- 同期の期間
- 送信バイト数
- 最大書き込み時間（単一の書き込みの場合）
- 最短の書き込み時間（単一の書き込みの場合）
- 最低の同期データ速度
- 最大同期データ速度
- 合計書き込み時間

- リポジトリの使用率(%)
- リカバリポイントの経過時間

初期同期中は、約15分ごとに統計サンプルがキャプチャされます。

同期の統計はサポートバンドルに含まれています。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

自動ロードバランシング統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray autoLoadBalanceStatistics fileコマンドは、I/Oワークロードの自動バランシングを提供し、ホストからの受信I/Oトラフィックが動的に管理され、両方のコントローラに分散されるようにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイの自動ロードバランシングの統計をファイルに保存します。これらの統計には、アレイ内の各ボリュームにおける所有権の変更履歴が表示されます。



このファイルをテクニカルサポートに送信し、調査を依頼してください。

構文

```
save storageArray autoLoadBalanceStatistics file="<em>filename</em>"
(numberOfDays=<em>numberOfDays</em>);
```

パラメータ

パラメータ	説明
「storageArray storageArray storageArray」	このコマンドがストレージアレイに対して機能するように指定します。

パラメータ	説明
'file'	自動ロードバランシングの統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（""）で囲みます。
「日数」	統計を保存する日数。このパラメータはオプションで、デフォルト値は0です。これは、使用可能なすべてのデータを示します。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save storageArray autoLoadBalanceStatistics
file="filename" numberOfDays=30;"
```



「ドライブがプライマリパスを喪失」状態がアクティブな場合、自動ロードバランシングがワークロードを分散することができません。自動ロードバランシング機能でワークロードが分散されるためには、この状態が非アクティブである必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.30

AutoSupport ログの取得 - SANtricity CLI

save storageArray autolog' AutoSupport コマンドを使用すると、AutoSupport ログファイルを表示できます。このファイルには、ステータスに関する情報、送信アクティビティの履歴、およびAutoSupport メッセージの配信中に発生したエラーが格納されます。AutoSupportに対応したストレージレイとAutoSupportが有効なストレージレイのすべてについてログを使用できます。

サポートされているレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドを使用すると、次の2種類のログを表示できます。

- 現在のログ—この時点でキャプチャされたログを表示します

- ・アーカイブログーアーカイブされたファイルからログを表示します

構文

```
save storageArray autoSupport log [inputArchive=n]
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「inputArchive」と入力します	<p>アーカイブされたAutoSupport ログを指定できますアーカイブ・ファイルは'n'0から始まる整数です</p> <div>  <p>このパラメータを省略する場合は、現在のAutoSupport ログ（現時点でキャプチャ）を選択します。</p> </div>
'file'	<p>出力のASUP送信ログファイル名を指定できます。</p> <div>  <p>このパラメータは必須です。</p> </div>

例

```
SMcli -n Array1 -c "save storageArray autoSupport log inputArchive=0
file=\"ASUPTransmissionLog\";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイ構成の保存 - SANtricity CLI

save storageArray configurationコマンドは'現在のストレージ・アレイ・ボリューム構成を再作成するために使用できるスクリプト・ファイルを作成します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。ただし、このコマンドでLDAPパラメータを指定できるのは、Security Adminロールが割り当てられたユーザだけです。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、現在のストレージレイ上のリモートミラーリングまたはボリュームコピーの構成データをファイルに保存しません。

構文

```
save storageArray configuration file="filename"
(allconfig|[globalSettings=(TRUE | FALSE)]
[volumeConfigAndSettings=(TRUE | FALSE)]
[hostTopology=(TRUE | FALSE)]
[lunMappings=(TRUE | FALSE)])
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	設定の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： 'file="C:\Program Files\CLI\logs\sacnf.cfg"です 構成設定を含むファイルのデフォルト名は'storage-array-configuration.cfg'ですこのコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。
「allConfig」	すべての設定値をファイルに保存するための設定。 (このパラメータを選択すると、すべての設定パラメータが「true」に設定されます)。
「globalSettings」 と入力します	グローバル設定をファイルに保存するための設定。 グローバル設定を保存するには、このパラメータを「true」に設定します。グローバル設定を保存しない場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト値は「true」です。

パラメータ	説明
'volumeConfigAndSettings'	ボリューム構成の設定とすべてのグローバル設定をファイルに保存するための設定。ボリューム構成の設定とグローバル設定を保存するには'このパラメータをTRUEに設定しますボリューム構成の設定とグローバル設定を保存しない場合は'このパラメータをFALSEに設定しますデフォルト値は「true」です。
「hostTopology」のようになります	ホストトポロジをファイルに保存するための設定。ホストトポロジを保存するには、このパラメータを「true」に設定します。ホストトポロジを保存しない場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト値は'FALSE'です
「lunMappings」	LUNまたはNSIDマッピングをファイルに保存するための設定。LUNまたはNSIDマッピングを保存するには、このパラメータを「true」に設定します。LUNまたはNSIDマッピングを保存しない場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト値は'FALSE'です

注：

このコマンドでは、グローバル設定、ボリューム構成の設定、ホストトポロジ、LUNマッピングの各パラメータを任意に組み合わせて指定できます。すべての設定を入力する場合は'allConfig'パラメータを使用します「allConfig」パラメータを使用するか、その他の4つのパラメータのうちの1つ以上を使用する必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージを保存する - SANtricity CLI

save storageArray controllerHealthImage'コマンドは、コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイのコントローラヘルスイメージを、ホスト上の指定されたファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン8.20で'coredump'パラメータは'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、コマンドはエラーを返します。

構文

```
save storageArray controllerHealthImage file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	コントローラヘルスイメージの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： <div>file="C:\Array Backups\DBMbackup_03302010.core"</div>

注：

コントローラヘルスイメージファイルは、サイズが1~2ギガバイト程度になり、保存に数分を要します。このコマンドは、コントローラヘルスイメージ自体を保存するとともに、コントローラヘルスイメージのメタデータを基にXML記述子ファイルを生成します。この記述子ファイルは、コントローラヘルスイメージと同じパスにZIPファイル形式で保存されます。次の例は、この記述子ファイルのXML形式を示しています。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
- <DPLcontrollerHealthImageInfo>
<dplcontrollerHealthImageTag>sometag#</dplcontrollerHealthImageTag>
<captureTime>12/22/10 3:58:53 PM IST</captureTime>
- <StorageArrayData>
<ArraySAID>600a0b80006e006a000000004c65efc1</ArraySAID>
<ManagementApiVersion>devmgr.v1083api01.Manager</ManagementApiVersion>
<fwVersion>07.83.01.00</fwVersion>
<platformType>7091</platformType>
</StorageArrayData>
<fullcontrollerHealthImageCtrl>controllerserialNumber1
    </fullcontrollerHealthImageCtrl>
<fullcontrollerHealthImageSize>fullCaptureSize</fullcontrollerHealthImageSize>
<altcontrollerHealthImageCtrl>controllerserialNumber2</altcontrollerHealthImageCtrl>
<altcontrollerHealthImageSize>altCaptureSize</altcontrollerHealthImageSize>
<triggerReason>Exception</triggerReason>-<DPLcontrollerHealthImageDetail>
<dplcontrollerHealthImageReason>DPLcontrollerHealthImageReason
    </dplcontrollerHealthImageReason>
- <fwLocation >
<filename>filename</filename>
<lineNumber>line#</lineNumber>
</fwLocation >
<panicReason>panicString</panicReason>
</DPLcontrollerHealthImageDetail>
</DPLcontrollerHealthImageInfo>

```

コントローラヘルスイメージをコントローラキャッシュからホストに取得すると、コントローラヘルスイメージの取得が不要であることを示すフラグがコントローラに設定されます。この設定は48時間持続します。この期間に新しいコントローラヘルスイメージが発生すると、新しいコントローラヘルスイメージがコントローラキャッシュに保存され、キャッシュ内の以前のコントローラヘルスイメージが上書きされます。

最小ファームウェアレベル

7.83

8.20で'coredump'パラメータが'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイDBMデータベースの保存 - SANtricity CLI

save storageArray dbmDatabaseコマンドは、RAID設定データまたはすべてのデータをホスト上のファイルにバックアップします。データの場所とコントローラは複数指定できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
save storageArray dbmDatabase
[sourceLocation=(disk | onboard)]
[controller [(a|b)]]
[contentType= all]
file="fileName"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>データベースの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\logs\dbmdata.zip "</pre> <p>このパラメータは、オプションのパラメータのあとに指定する必要があります。</p> <p>このコマンドでは.zipファイルが作成されます。ファイル拡張子を指定する必要はありません。</p>
「sourceLocation」と入力します	<p>このパラメータは、バックアップデータベースの情報を取得する場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">「disk」は、ドライブ上のデータベースから直接データが取得されることを示します「onboard」は、RPAメモリ上の場所からデータを取得することを示します <p>デフォルトの場所は「onboard」です。</p>

パラメータ	説明
「controller」と入力します	<p>「sourceLocation」が「onboard」に設定されている場合は、データを排他的に取得するコントローラを指定します。「controller」パラメータが指定されていない場合は、どちらのコントローラからもデータが取得される可能性があります。</p> <p>有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです</p>
「contentType」を参照してください	<p>このパラメータは、取得するデータのコンテンツタイプを指定します。</p> <p>このパラメータはデフォルトで「all」に設定されているため、ディスク・プール構成データを含むすべてのデータが取得されます。</p>

注：

このコマンドを使用してホストに保存したデータは、必要に応じてコントローラにリストアできます。ただし、ホスト上のファイルからデータをリストアするにはバリデータが必要です。

最小ファームウェアレベル

7.75

7.83で、次のパラメータが追加されました

- 「sourceLocation」と入力します
- 「controller」と入力します
- 「contentType」を参照してください

ストレージアレイ**DBM**バリデータ情報ファイルを保存する - **SANtricity CLI**

save storageArray dbmValidatorInfoコマンドは、ストレージ・アレイのデータベース管理（DBM）検証情報をXMLファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

テクニカルサポートでは、このXMLファイルを使用してバリデータ文字列（セキュリティコード）を生成できます。バリデータ文字列は'ストレージ・アレイ'を既存の構成にリストアするときに'load storageArray dbmDatabase'コマンドに含める必要があります

構文

```
save storageArray dbmValidatorInfo file="<em>filename</em>"
dbmDatabase="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	テクニカルサポートが必要とするDBMバリデータのファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： 「file="C:\Array Backups\DBMvalidator.xml"」このコマンドでは、保存されたファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名を入力するときに、.xmlファイル拡張子を指定する必要があります。
「dbmDatabase」 と入力します	XML情報ファイルの生成元となるDBMデータベースのファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： dbmDatabase="C:\Array Backups\DBMbackup_03302010.dbm"このコマンドでは'保存されたファイルにファイル拡張子が自動的に付加されません'ファイル名を入力するときに、.dbmファイル拡張子を指定する必要があります。

注：

バリデータ文字列を取得するためにXML情報ファイルを生成する場合は、データベースをリストアするコントローラに接続した状態でこのコマンドを実行する必要があります。次の例は、XMLファイルの形式を示しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<DbmImageMetadata>
<Controllers>
<A>1IT0nnnnnnnnnnABCD</A>
<B>1T0nnnnnnnnnnABCD</B>
</Controllers>
<Header>
<ImageVersion>1</ImageVersion>
<TimeStamp>1269388283</TimeStamp>
</Header>
<Trailer>
<CRC>nnnnnnnnnn</CRC><
/Trailer>
</DbmImageMetadata>
```

最小ファームウェアレベル

7.75

ストレージアレイのファームウェアインベントリを保存する - **SANtricity CLI**

save storageArray firmwareInventory コマンドは、ストレージ・アレイで現在実行されているすべてのファームウェアのファイルにレポートを保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このレポートには、次のコンポーネントのファームウェアが表示されます。

- コントローラ
- ドライブ
- ドロワー (該当する場合)
- 環境サービスモジュール (ESM)
- 電源装置

この情報から、古くなったファームウェアや、ストレージアレイ内の他のファームウェアと一致しないファームウェアを特定できます。また、レポートをテクニカルサポートに送信して詳しい確認を依頼することもでき

ます。

構文

```
save storageArray firmwareInventory file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>ファームウェアインベントリの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（"）で囲みます。例：</p> <p>'file'="C:\Program Files\CLI\logs\fwinvent.txt</p> <p>ファームウェアインベントリを格納するファイルのデフォルト名は、「firmware-inventory.txt」です。このコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。</p>

最小ファームウェアレベル

7.70

ストレージアレイのホストポート統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray hostPortStatisticsコマンドは'ストレージ・アレイのホスト・ポートの統計情報を保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSecurity Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止された置き換えます [ストレージアレイのiSCSI統計を保存します](#)、[ストレージアレイのiSER統計を保存します](#)および [ストレージアレイのInfiniBandの統計を保存します](#) コマンド

構文

```
save storageArray hostPortStatistics [(raw | baseline)] type=(ISCSI| ISER
| SRP | NVMEOF) file="filename"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「raw」	一日の開始時刻以降に収集された統計を取得できます。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。
「BASELINE」	コントローラのベースラインがゼロにリセットされた時刻から収集された統計を取得できます。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。
「type」と入力します	収集する統計のタイプを指定できます。有効な選択肢は、「iscsi」、「isER」、「srp」、「NVMEOF」です。
'file'	統計の保存先となるファイルパスとファイル名を指定できます。ファイル名は二重引用符 (") で囲みます。拡張子が「.csv」のファイル名を使用します。

を入力します	イーサネット MAC 、イーサネット TCP / IP 、ローカルイニシエータ（プロトコル）、 DCBX の動作状態、 LLDP TLV 、 DCBX TLV	ターゲット（プロトコル）	InfiniBand インターフェイス	NVMe サブシステム	ASUP ファイル名
「iSCSI」	X	X			
「isER」		X	X		
「srp」			X		
'nvmeof'			X	X	

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージレイのInfiniBand統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray ibStats コマンドは、ストレージレイのInfiniBandパフォーマンス統計をファイルに保存します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ストレージレイのホストポートの統計を保存します](#) コマンドを実行します

構文

```
save storageArray ibStats [raw | baseline]
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「raw」	コントローラの一日の開始時刻からの全統計が収集されます。パラメータは角っこ ([]) で囲みます。
「BASELINE」	コントローラが「reset storageArray ibStatsBaseline」コマンドを使用してゼロにリセットされた時刻からのすべての統計が収集されます。パラメータは角っこ ([]) で囲みます。
'file'	<p>パフォーマンス統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 (") で囲みます。例：</p> <pre>'file="C:\Program Files\CLI\sup\ibstat.csv "'</pre> <p>InfiniBandパフォーマンス統計情報を格納するファイルのデフォルト名は'ib-statistics.csv'です任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

注：

コントローラの一日の開始時刻以降にInfiniBandベースライン統計をリセットしていない場合は、一日の開始時刻がデフォルトのベースライン時刻です。

最小ファームウェアレベル

7.32

8.41で、このコマンドは廃止されました。

ストレージアレイの iSCSI 統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray iscsiStatisticsコマンドは、ストレージアレイのiSCSIパフォーマンス統計をファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、置き換えられました [ストレージアレイのホストポートの統計を保存します](#) コマンドを実行します

構文

```
save storageArray iscsiStatistics [(raw | baseline)]
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「raw」	コントローラの一日の開始時刻からの統計がすべて収集されます。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。
「BASELINE」	コントローラが「reset storageArray ibStatsBaseline」 コマンドを使用してゼロにリセットされた時刻からのすべての統計が収集されます。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
'file'	<p>パフォーマンス統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（"）で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\iscsistat.csv</p> <p>iSCSIパフォーマンス統計を格納するファイルのデフォルト名は'iscsi-statistics.csv'です任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

注：

コントローラの一日の開始時刻以降にiSCSIベースライン統計をリセットしていない場合は、一日の開始時刻がデフォルトのベースライン時刻です。

最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

ストレージアレイの iSER 統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray iserStatistics コマンドは、ストレージアレイのiSERパフォーマンス統計をファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、置き換えられました [ストレージアレイのホストポートの統計を保存します](#) コマンドを実行します

構文

```
save storageArray iserStatistics [(raw | baseline)]
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「raw」	コントローラの一日の開始時刻からの統計がすべて収集されます。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。
「BASELINE」	コントローラが「reset storageArray iserStatsBaseline」 コマンドを使用してゼロにリセットされた時点から収集される統計はすべてです。パラメータは角かっこ ([]) で囲みます。
'file'	<p>パフォーマンス統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\logs\iserstat.csv "</pre> <p>iSCSIパフォーマンス統計を格納するファイルのデフォルト名は、「iser-statistics .csv」です。任意のファイル名を使用できますが、.csv拡張子を使用する必要があります</p>

注：

コントローラの一日の開始時刻以降にiSERベースライン統計をリセットしていない場合は、一日の開始時刻がデフォルトのベースライン時刻です。

最小ファームウェアレベル

8.20で

8.41で、このコマンドは廃止されました。

インストールされた外部キー管理証明書を取得する - SANtricity CLI

save storageArray keyManagementCertificateコマンドは、インストールされている証明書を取得します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
save storageArray keyManagementCertificate
certificateType="<em>certificateType</em>"
file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「certificateType」	インストールする証明書のタイプを指定できます。 有効な選択肢は「client」または「server」です。
'file'	署名済み証明書またはサーバCA証明書のファイル名 を指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.40

キー管理証明書署名要求 (CSR) を生成する - SANtricity CLI

save storageArray keyManagementClientCSR'コマンドは、ストレージアレイ用に生成された、ファイルに保存可能なCSRを要求します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```

save storageArray keyManagementClientCSR commonName="common_name"
organization="organization"
locality="locality"
country="country"
file="file"
[organizationalUnit="organizational unit"]
[stateProvince="state_province"]

```

パラメータ

パラメータ	説明
「commonName」	このパラメータに入力する値は、KMIPサーバ上で定義されているユーザ名のいずれかと一致する必要があります。
「組織」	ストレージアレイが属する組織の正式名称を指定できます。省略はせず、Inc、Corp、LLCなどのサフィックスもすべて含めてください。
「ローカリティ」	ストレージアレイが配置されている市区町村を指定できます。
「country」	ISO（国際標準化機構）3166-1 alpha-2の2桁の国別コード（USなど）を指定できます。
'file'	コントローラの署名済み証明書ファイルの保存先とするファイルとファイルの場所を指定できます。
organizationalUnit	証明書を処理する組織の部門を指定できます。
「州」	ストレージアレイが配置されている都道府県を指定できます。これは省略しないでください。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save storageArray keyManagementClientCSR
commonName="192.0.2.1"
organization="Widgets Are Us, Inc."
locality="sedgwick"
country="US"
file="latestCertificate"
organizationalUnit="Products Unit"
stateProvince="Kansas";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイのログインバナーを保存する - SANtricity CLI

save storageArray loginBanner'コマンドを使用すると、ログインバナーをローカルマシンに保存できます。バナーテキストには、ユーザがセッションを確立する前に表示される注意と同意を求めるメッセージを含めることができます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドは、どのロールのユーザも実行できます。

構文

```
save storageArray loginBanner file="file_name"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ログインバナーファイルの名前。

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージレイのパフォーマンス統計を保存する - SANtricity CLI

save storageArray performanceStats コマンドは、パフォーマンス統計をファイルに保存します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドを使用する前に'set session performanceMonitorInterval' コマンドとset session performanceMonitorIterations' コマンドを実行して統計情報の収集頻度を指定します

構文

```
save storageArray performanceStats file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>パフォーマンス統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <pre>'file="C:\Program Files\CLI\logs\sastat.csv "'</pre> <p>パフォーマンス統計を含むファイルのデフォルト名は'performanceStatistics.csv'です任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージレイのRLSカウントを保存する - SANtricity CLI

save storageArray RLSCounts コマンドは、Read Link Status (RLS) カウンタをファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
save storageArray RLSCounts file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	RLSカウンタの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例： 'file="C:\Program Files\CLI\logs\rlscnt.csv" RLSカウンタを格納するファイルのデフォルト名は'read-link-status.csv'です任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります

注：

RLSカウンタを効率よくファイルに保存するには、次の手順を実行します。

1. すべてのRLSカウンタを0に設定するには、「reset storageArray RLSBaseline」コマンドを実行します。
2. ストレージアレイをあらかじめ決めた時間だけ実行します（2時間など）。
3. save storageArray RLSCountsファイル`=[.code] filename` コマンドを実行します。

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイの **SAS PHY** カウントを保存する - **SANtricity CLI**

save storageArray SASSPHYCountsコマンドは、SAS物理レイヤ（SAS PHY）カウンタをファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

SAS PHYカウンタをリセットするには、「reset storageArray SASSPHYBaseline.」コマンドを実行します。

構文

```
save storageArray SASPHYCounts file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>SAS PHYカウンタの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイルパスとファイル名は二重引用符（"）で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\sasphy.csv</p> <p>SAS PHYエラー統計を格納するファイルのデフォルト名は'SAS-phy-error-log.csv'です任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイの **SOC** カウントを保存する - **SANtricity CLI**

save storageArray SOCCountsコマンドは'SOCエラー統計をファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、アービトレーテッドループトポロジ内のFibre Channelデバイスに対してのみ有効です。

構文

```
save storageArray SOCCounts file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>SOCエラー統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\logs\sockstat.csv "</pre> <p>SOCエラー統計を格納するファイルのデフォルト名は、「SoC-statistics.csv」です。任意のファイル名を使用できますが、.csv拡張子を使用する必要があります</p>

注：

SOCエラー統計を効率的にファイルに保存するには、次の手順を実行します。

1. すべてのSOCカウンタを0に設定するには、「reset storageArray SOCBaseline.」 コマンドを実行します。
2. ストレージアレイをあらかじめ決めた時間だけ実行します（2時間など）。
3. save storageArray SOCCountsファイル`=[.code]`*filename* コマンドを実行します。

最小ファームウェアレベル

6.16

ストレージアレイの状態キャプチャを保存する - SANtricity CLI

save storageArray stateCapture コマンドは、ストレージ・アレイの状態キャプチャをファイルに保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
save storageArray stateCapture file="<em>filename</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	<p>状態キャプチャの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（"）で囲みます。 例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\logs\state.txt"</pre> <p>任意のファイル名を使用できますが'.txt'拡張子を使用する必要があります</p> <p>状態キャプチャを格納するファイルのデフォルト名は'state-capture-data.txt'ですこのコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。</p>

ストレージレイのサポートデータを保存する - SANtricity CLI

save storageArray supportDataコマンドは、ストレージレイのサポート関連情報をファイルに保存します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

次の表に、収集可能なサポートデータの種類を示します。

データのタイプ	ファイル名と概要
自動ロードバランシングの統計情報	<p>「alb - statistics -a. txt」</p> <p>「ALB -統計- B.txt」</p> <p>このファイルはコントローラごとに1つずつ生成され、自動ロードバランシング機能に関連するさまざまな統計情報を指定します。この機能を使用すると、オフライン分析ツールでさらに詳細な分析を行うことができます。</p>
コアダンプメタデータ	<p>「all-cumpcoredump.xml」です</p> <p>このファイルには、アレイのコアダンプメタデータが格納されます。</p> <div>  <p>リリース8.25で、core-dump-info.xmlからall-coredump.xmlに名前が変更されました。</p> </div>
AutoSupport のステータス	<p>「autosupport.xml」を指定します</p> <p>このファイルには、特定のアレイについてのASUPの現在のステータスが格納されます。</p>
AutoSupport 履歴ファイル	<p>「autosupport.history.xml」を指定します</p> <p>このファイルには、特定のアレイに関するすべてのASUPメッセージ（標準とAutoSupport OnDemandの両方のメッセージ）が指定されます。テーブル内の各エントリは、特定のアレイのいずれかのリポジトリに現在あるASUPメッセージに対応します。</p>
AutoSupport ログ	<p>asup-transmission-logs.txt</p> <p>このファイルには、送信されたすべてのAutoSupportメッセージが格納されます。</p>
Webサーバクライアント情報	<p>client-info.txt</p> <p>このファイルには、Web Servicesの各種クライアント情報が格納されます。</p> <div>  <p>このパラメータは、E2700アレイとE5600アレイには適用されません。</p> </div>

データのタイプ	ファイル名と概要
ドライブケーブルトポロジ	<p>「connection.txt」 このファイルには、ドライブトレイ環境サービスモジュール（ESM）とコントローラペアの間の接続に関する情報が含まれます。</p>
累積統計のバンドル	<p>「cumuls-ddrive -vol-stats.xml」 を指定します</p> <p>このファイルには、コントローラの累積統計が格納されます。</p>
動作不良ドライブのログ	<p>「controller-droe-error-event-log.txt」 というエラーが表示されます</p> <p>このファイルには、ストレージレイコントローラのドライブに関するエラーとイベントログメッセージが格納されます。</p>
コントローラヘルスイメージのメタデータ	<p>「all-cumpcoredump.xml」 です</p> <p>このファイルには、DPLコントローラのヘルスイメージの情報が格納されます。</p> <div>  <p>リリース8.25で、core-dump-info.xmlからall-coredump.xmlに名前が変更されました。</p> </div>
コントローラAのDOM 0ジャーナルファイル（E2800またはE5700のみ）	<p>「dom0-complete-journal-a. 7z」 と入力します</p> <p>このファイルには、各コントローラに1つずつ、詳細なLinuxシステムログが格納されています。これには、Linuxパッケージと標準のLinuxユーティリティおよびサービスのログが含まれます。</p>
コントローラBのDOM 0ジャーナルファイル（E2800またはE5700のみ）	<p>「dom0-complete-journal-bz7z`。」 と入力します</p> <p>このファイルには、各コントローラに1つずつ、詳細なLinuxシステムログが格納されています。これには、Linuxパッケージと標準のLinuxユーティリティおよびサービスのログが含まれます。</p>
コントローラAのその他のDOM 0ログファイル（E2800またはE5700のみ）	<p>「dom0-misc-logs-A.7z」 を参照してください</p> <p>このファイルには、各コントローラに1つずつ、ジャーナルに格納できないシステムログが含まれています。RAIDアプリケーションのシリアルログやハイパーバイザーのデバッグログが含まれます。</p>

データのタイプ	ファイル名と概要
コントローラBのその他のDOM 0ログファイル (E2800またはE5700のみ)	<p>「dom0-misc-logs -b.7z」を参照してください</p> <p>このファイルには、各コントローラに1つずつ、ジャーナルに格納できないシステムログが含まれています。RAIDアプリケーションのシリアルログやハイパーバイザーのデバッグログが含まれます。</p>
ドライブのコマンドエージングタイムアウト値	<p>'drive-command-aging-timeout.txt'このファイルにはすべてのドライブのコマンドエージングタイムアウトフィールドのデフォルト値と現在の値が含まれています</p>
ドライブの健全性ログ	<p>「drive-health-data.bin」このファイルには、ドライブのヘルスに関連するさまざまなドライブ情報が含まれています。</p> <div>  <p>このファイルはバイナリファイルであり、判読可能な形式に変換するにはオフラインパーサが必要になります。</p> </div>
ドライブのパフォーマンス分析データ	<p>「drive-performe-log.txt」</p> <p>このファイルには、ドライブのパフォーマンスデータが格納されます。パフォーマンスが想定よりも低いドライブを特定するのに役立ちます。</p>
Enterprise Management Windowの設定	<p>emwdata_v04.bin</p> <p>このファイルには、EMWの設定データストアファイルが格納されます。</p> <div>  <p>このファイルは、E2800とE5700のサポートバンドルには含まれていません。</p> </div>
トレイのイベントログです	<p>expansion-tray -log.txt</p> <p>ESMのイベントログです。</p>
リポジトリの分析に失敗しました	<p>'failed-repository-Analysis.txt'と入力します</p> <p>このファイルには、リポジトリの障害に関する分析情報が格納されます。</p>

データのタイプ	ファイル名と概要
ストレージアレイの機能	「feature-bundle.txt」このファイルには、ストレージアレイで使用可能なボリューム、ドライブ、ドライブトレイの数、および使用可能な機能とその制限のリストが格納されます。
ファームウェアインベントリ	「firmware-inventory.txt」このファイルには、ストレージアレイ内のすべてのコンポーネントのすべてのファームウェアバージョンのリストが含まれています。
InfiniBandインターフェイス統計情報（InfiniBandのみ）	ib-statistics.csv このファイルには、InfiniBandインターフェイスの統計情報が格納されます。
I/Oパス統計情報	「io-path-statistics.7z」このファイルには、アプリケーションパフォーマンスの問題の分析に使用できる、各コントローラの生のパフォーマンスデータが含まれています。
ホストインターフェイスチップのIOCダンプ情報	「IOC-DUMP_info.txt」このファイルには、ホストインターフェイスチップのIOCダンプ情報が格納されています。
ホストインターフェイスチップのIOCダンプログ	IOC_dump.gzこのファイルにはコントローラのホスト・インターフェイス・チップのログ・ダンプが格納されていますこのファイルはgz形式で圧縮されています。zipファイルは、カスタマーサポートバンドル内にファイルとして保存されます。
iSCSI接続（iSCSIのみ）	「iscsi-session-connections.txt」このファイルには、現在のすべてのiSCSIセッションのリストが含まれています。
iSCSI統計（iSCSIのみ）	「iscsi-statistics.csv」このファイルには、イーサネットMAC、イーサネット伝送制御プロトコル（TCP）/インターネットプロトコル（IP）、およびiSCSIターゲットの統計情報が含まれる。
iSERインターフェイスの統計情報（iSER over InfiniBandのみ）	iSER - statistics-csvこのファイルにはiSER over InfiniBandを実行するホスト・インターフェイス・カードの統計情報が含まれています

データのタイプ	ファイル名と概要
メジャーイベントログ	<p>「major-event-log.txt」このファイルには、ストレージ・アレイ上で発生するイベントの詳細なリストが格納されます。このリストは、ストレージアレイ内のディスクのリザーブされた領域に保存されます。リストには、ストレージアレイの設定イベントとコンポーネント障害が記録されます。</p>
マニフェストファイル	<p>'manifest.xml</p> <p>このファイルには、アーカイブファイルに含まれるファイルと、各ファイルから収集されたステータスがテーブル形式で格納されます。</p>
ストレージ管理ソフトウェアの稼働情報	<p>「msw-runtime-info.txt」</p> <p>このファイルには、ストレージ管理ソフトウェアアプリケーションの稼働情報が格納されます。ストレージ管理ソフトウェアで現在使用されているJREバージョンが含まれます。</p>
NVMe-oFの統計	<p>「nvmeof - statistics.csv」です</p> <p>このファイルには、NVMeコントローラ統計、NVMeキュー統計、転送プロトコル（InfiniBandなど）のインターフェイス統計などの統計が格納されます。</p>
NVSRAMデータ	<p>「NVSRAMデータ.txt」このコントローラファイルは、コントローラのデフォルト設定を指定します。</p>
オブジェクトバンドル	<p>object-bundle`.bin object-bundle.json</p> <p>このバンドルには、ファイルが生成された時点における、ストレージアレイとそのコンポーネントのステータスの詳細な概要が含まれます。</p>
パフォーマンス統計の要約	<p>perf-stat-daily-a.csv`perf-stat-dail-summary-bcsv`</p> <p>このファイルには、コントローラごとに1つのファイルで構成される、さまざまなコントローラパフォーマンス統計が格納されます</p>
永続的予約と登録	<p>「persistent-reservations.txt」このファイルには、ストレージアレイ上のボリュームの詳細なリストと永続的予約および登録が含まれています。</p>

データのタイプ	ファイル名と概要
ストレージ管理ソフトウェアのユーザ設定	<p>「pref-01.bin」</p> <p>このファイルには、ユーザ設定の永続的データストアが格納されます。</p> <div>  <p>このファイルは、E2800またはE5700のサポートバンドルには含まれていません。</p> </div>
Recovery Guruの手順	<p>「recovery-guru-procedures.html」 このファイルには、ストレージアレイで検出された問題に応じて発行されたすべてのRecovery Guruトピックの詳細なリストが含まれています。E2800とE5700のアレイでは、Recovery Guruの詳細のみが格納され、HTMLファイルは含まれません。</p>
リカバリプロファイル	<p>「recovery-profile.csv」：このファイルには、最新のリカバリプロファイルレコードと履歴データの詳細な概要が含まれています。</p>
SAS PHYエラーログ	<p>SAS-phy-error-logs.csv</p> <p>このファイルには、SAS PHYのエラー情報が格納されます。</p>
状態キャプチャデータ	<p>「state-capture-data.txt」 このファイルには、ストレージアレイの現在の状態の詳細な概要が含まれています。</p>
ストレージアレイ構成	<p>「storage-array-configuration.cfg」 このファイルには、ストレージアレイ上の論理構成の詳細な概要が含まれます。</p>
ストレージアレイプロファイル	<p>「storage-array-profile.txt」 このファイルには、ストレージアレイのすべてのコンポーネントとプロパティの概要が含まれています。</p>
トレースバッファの内容	<p>「trace-buffers.7z」 このファイルには、デバッグ情報を記録するために使用されるコントローラのトレースバッファの内容が含まれています。</p>

データのタイプ	ファイル名と概要
トレイキャプチャデータ	tray -component-state-capture.7zトレイにドロワーが含まれている場合、診断データはこのzipファイルにアーカイブされます。このzipファイルには、ドロワーを搭載するトレイごとにテキストファイルが含まれています。Zipファイルは、カスタマーサポートバンドル内にファイルとして保存されます。
読み取り不能セクター	読み取り不能セクター.txtこのファイルには、ストレージ・アレイに記録されたすべての読み取り不能セクターの詳細なリストが含まれます
Webサービストレースログ（E2800またはE5700のみ）	「web-server-trace-log-a. 7z」 「web-server-trace-log-b. 7z」 このファイルには、コントローラごとに1つずつ、デバッグ情報を記録するために使用されるWeb Servicesトレースバッファが含まれています。
ワークロードキャプチャ分析ログファイル	「WLC-analytics -a.lz4」 「WLC-analytics - B. lz4」 このファイルはコントローラごとに1つで、LBAヒストグラム、読み取り/書き込み比率、アクティブなすべてのボリュームにおけるI/Oスループットなど、計算された主なワークロード特性が含まれています。
Xヘッダーデータファイル	「x-header-data.txt」 このAutoSupport メッセージ・ヘッダーは、プレーン・テキストのキーと値のペアで構成されています。このペアには、配列とメッセージ・タイプに関する情報が含まれます。

構文

```
save storageArray supportData file="<em>filename</em>" [force=(TRUE | FALSE)]
```

```
save storageArray supportData file="<em>filename</em>"
[force=(TRUE | FALSE) |
csbSubsetid=(basic | weekly | event | daily | complete) |
csbTimeStamp=<em>hh:mm</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ストレージアレイのサポート関連データの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイルパスとファイル名は二重引用符（" "）で囲みます。例： 'file="C:\Program Files\CLI\logs\supdat.7z
「フォース」	コントローラ処理をロックできなかった場合に、サポートデータを強制的に収集するためのパラメータ。サポートデータを強制的に収集するには、このパラメータを「true」に設定します。デフォルト値は'FALSE'です

注：

ファームウェアレベル7.86以降では、ファイル名の拡張子は .7z。7.86より前のバージョンのファームウェアを実行している場合、ファイル拡張子は .zip。

最小ファームウェアレベル

7.80で'force'パラメータが追加されました

8.30で、E2800ストレージアレイの情報が追加されました。

インストールされた信頼された **CA** 証明書を取得する - **SANtricity CLI**

save storageArray trustedCertificate' コマンドは'アレイにインストールされている信頼されたCA証明書を取得します取得したファイルに含まれているのは、アレイのWebサーバから要求されたCA証明書です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
save storageArray trustedCertificate [allUserInstalled |
aliases=("alias1" ... "aliasN")]
path="fileLocation"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allUserInstalled」	ユーザがインストールした証明書の取得を指定できます。エイリアスを指定しなかった場合のデフォルトのオプションは「allUserInstalled」です。
「別名」	取得するインストールされている信頼された証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。
「path」	コントローラの信頼された証明書のローカルの保存先を指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "save storageArray trustedCertificate allUserInstalled
path="C:\";"

SMcli -n Array1 -c "save storageArray trustedCertificate
aliases=("myAlias" "anotherAlias") path="C:\";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイイベントの保存 - **SANtricity CLI**

save storageArray warningEventsコマンドは、メジャーイベントログのイベントをファイルに保存します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、メジャーイベントログのイベントをファイルに保存します。保存できるイベントは次のとおりです。

- 重大イベント--ただちに対処する必要があるストレージレイでのエラー。このエラーをすぐに修正しないと、データアクセスが失われるおそれがあります。
- 警告イベント--パフォーマンスの低下や別のエラーからのリカバリ機能の低下をもたらすストレージレイでのエラー。データへのアクセスは失われませんが、別のエラーが発生した場合にデータアクセスが失われないようにするために、このエラーを修正する必要があります。
- 情報イベント--通常の動作に影響を与えないストレージレイでのイベント発生。このイベントでは、設定の変更や、ストレージレイのパフォーマンスを評価する際に役立つその他の情報が報告されます。
- デバッグイベント--エラーの原因となった手順や状態の判別に役立つ情報を提供するストレージレイで発生したイベント。この情報が記録されたファイルをテクニカルサポートに送信して、エラーの原因を特定できます。



一部のストレージレイでは、4つのイベントタイプがすべてサポートされない場合があります。

構文

```
save storageArray (allEvents | criticalEvents |  
warningEvents | infoEvents | debugEvents)  
file="<em>filename</em>"  
[count=<em>numberOfEvents</em>]  
[forceSave=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allEvents」	すべてのイベントをファイルに保存するためのパラメータ。
「criticalEvents」です	重大イベントのみをファイルに保存するためのパラメータ。
「warningEvents」	警告イベントのみをファイルに保存するためのパラメータ。
「infoEvents」	情報イベントのみをファイルに保存するためのパラメータ。
「debugEvents」	デバッグイベントのみをファイルに保存するためのパラメータ。

パラメータ	説明
'file'	<p>イベントの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（""）で囲みます。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\logs\events.txt"</pre> <p>メジャー・イベント・ログの内容を格納するファイルのデフォルト名は'major-event-log.txt'ですこのコマンドでは、保存されているファイルにファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名にはファイル拡張子を指定する必要があります。</p>
「count」	<p>ファイルに保存するイベントの数。countの値を入力しない場合は、指定したイベントタイプに一致するすべてのイベントがファイルに保存されます。countの値を入力した場合は、その数のイベント（最後に入力したイベントからの数）だけがファイルに保存されます。整数値を使用します。</p>
「forceSave」をクリックします	<p>ビューからフィルタで除外したデバッグイベントを強制的にファイルに保存するためのパラメータ。イベントを強制的に保存するには、このパラメータを「true」に設定します。デフォルト値は'FALSE'です</p> <div>  <p>このパラメータを使用すると、SANtricity イベントビューアからフィルタで除外されたデバッグイベントが保存されます。</p> </div>

最小ファームウェアレベル

7.77で、次のパラメータが追加されました

- 「warningEvents」
- 「infoEvents」
- 「debugEvents」
- 「forceSave」をクリックします

設定...

非同期ミラーグループの設定 - SANtricity CLI

set asyncMirrorGroup' コマンドは'非同期ミラー・グループのプライマリ側のコントローラ所有者が初期同期または再同期を実行するときに使用する同期設定と警告しきい値を

変更します

サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

同期設定を変更すると、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアの同期処理に適用されます。

構文

```
set asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>]
[volume="repos_xxxx" increaseRepositoryCapacity
(repositoryVolume=("repos_xxxx"))]
[syncInterval=<em>integer</em> (minutes | hours | days)]
[warningSyncThreshold=<em>integer</em> (minutes | hours | days)]
[warningRecoveryThreshold=integer (minutes | hours | days)]
[userLabel="<em>New_asyncMirrorGroupName</em>"]
[warningThresholdPercent=<em>percentValue</em>]
[role=(primary | secondary)]
[autoResync=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	変更する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「volume」	<p>容量を拡張する非同期ミラーグループリポジトリボリュームの名前。</p> <p>リポジトリボリュームの名前は2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「repos」という用語 ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子 <p>リポジトリボリュームの名前は二重引用符 (") で囲みます。</p>
「syncInterval」	<p>変更されたデータの更新をローカルストレージレイからリモートストレージレイに自動的に送信する間隔を指定します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。</p>
「warningSyncThreshold」	<p>非同期ミラーグループ内のすべてのボリュームの同期にかかる時間が指定した時間よりも長い場合に、警告がトリガーされるまでの待機時間を指定します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。</p>
「warningRecoveryThreshold」	<p>リモートストレージレイのポイントインタイムイメージの自動データ更新が指定した時間よりも古くなった場合に、警告がトリガーされるまでの待機時間を指定します。しきい値は、前回の更新終了時点からの経過日数で定義します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。</p> <div>  <p>リカバリポイントのしきい値は、同期間隔のしきい値の2倍に設定する必要があります。</p> </div>
「userLabel」のように入力します	<p>非同期ミラーグループに付ける新しい名前。このパラメータは、非同期ミラーグループの名前を変更する場合に使用します。新しい非同期ミラーグループ名は二重引用符 (") で囲みます。</p>
「warningThresholdPercent」	<p>ミラーリポジトリボリュームの容量が指定した割合に達したときに警告がトリガーされるかどうかを判断するパーセント値を指定します。しきい値は、残りの容量の割合 (%) で定義します。</p>

パラメータ	説明
「役割」	このパラメータを使用して、非同期ミラーグループをプライマリロールに昇格するか、非同期ミラーグループをセカンダリロールに降格します。非同期ミラーグループをプライマリロールとして定義するにはこのパラメータをprimaryに設定します非同期ミラーグループをセカンダリロールとして定義するにはこのパラメータをsecondaryに設定します
「autoResync」	<p>非同期ミラーグループ内の非同期ミラーペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間の自動再同期の設定。このパラメータには次の値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [enabled]--自動再同期がオンになっています何しなくても、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは再同期されます。 • disabled --自動再同期がオフになっていますプライマリ・ボリュームとセカンダリ・ボリュームを再同期するには'start asyncMirrorGroup'コマンドを実行する必要があります

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

非同期ミラーグループリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つのボリュームだけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、そのボリュームの容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、未使用のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

監査ログ設定 - SANtricity CLI

監査ログの設定は'set auditLog'コマンドで行います

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set auditLog (logLevel={all | writeOnly} |  
    fullPolicy={overwrite | preventSystemAccess} |  
    maxRecords=<em>n</em> | warningThreshold=<em>n</em>)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「logLevel」	ロギングのレベルを指定できます。有効な選択肢は、「all」と「writeOnly」です。デフォルト値は「writeOnly」です。
「FullPolicy」を選択します	ログがフルになったときのポリシーを指定できます。有効な選択肢は、「overwrite」と「preventSystemAccess」です。
「maxRecords」です	格納する最大レコード数を指定できます。「n」は30000から50000までの整数です。
「warningThreshold」	フルポリシーが「preventSystemAccess」に設定されている場合に、監査ログがフルに近づいていることを示す警告アラートを送信するパーセンテージを指定できます。0~100の整数値を指定します。このパラメータを0（ゼロ）に設定すると、警告アラートが無効になります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set auditLog logLevel=writeOnly  
fullPolicy=preventSystemAccess maxRecords=40000 warningThreshold=90;"  
  
SMcli completed successfully.
```

AutoSupport ディスパッチサイズ制限の設定 - SANtricity CLI

は、`set storageArray autoSupport dispatchSizeLimit` 配信タイプごとにAutoSupportバンドルとディスパッチの最大サイズを設定します。

このコマンドを使用すると、ユーザはEメールサーバのサポート内容に基づいてEメールサイズを設定できます。サイズを大きくすると、サポートバンドルが切り捨てられる可能性が低くなります。



通常は、NetAppサポートから指示がないかぎり、HTTPSサイズを設定しないでください。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray autoSupport dispatchSizeLimit
  (https=(<sizeInBytes>|unlimited)|email=(<sizeInBytes>|unlimited));
```

パラメータ

パラメータ	説明
https	HTTPSディスパッチの最大サイズ（バイト）。最大サイズが設定されていない場合、デフォルトは50MiBです。値が「unlimited」または0の場合、サイズ制限はありません。指定できる最小サイズは2MiBです。
email	Eメール（SMTP）の最大配信サイズ（バイト）。最大サイズが設定されていない場合、デフォルトは5MiBです。値が「unlimited」または0の場合、サイズ制限はありません。指定できる最小サイズは2MiBです。

AutoSupport HTTP(S)配信方法を指定する - SANtricity CLI

set storageArray AutoSupport httpdeliveryMethodコマンドは、AutoSupport メッセージをHTTP（S）に送信するための配信方法を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray autoSupport deliveryMethod=email
mailRelayServer="mail.example.com" senderEmail="<a
href="mailto:sender@example.com">sender@example.com</a>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	<div>AutoSupport による収集の配信方法を指定できます。有効な選択肢は次のとおりです。</div> <div><ul style="list-style-type: none">• E メール• HTTPS</div> <div><div></div><div>Eメール方式が設定されている場合、AutoSupport OnDemandとRemote Diagnosticsは無効になります。</div></div>
「直接」	HTTPまたはHTTPSプロトコルを使用して、テクニカルサポートのシステムに直接接続できます。
proxyConfigScript	Proxy Auto-Configuration（PAC）スクリプトファイルの場所を指定できます
proxyServer	テクニカルサポートシステムとの接続を確立するために必要なHTTP（S）プロキシサーバの詳細を指定できます。

パラメータ	説明
「ホストアドレス」	プロキシサーバのホストアドレスを指定できます。proxyServerを指定する場合は必須です。
「portNumber」と入力します	プロキシサーバのポート番号を指定できます。proxyServerを指定する場合は必須です。
「ユーザ名」	プロキシサーバのユーザ名が設定されている場合、そのユーザ名を指定できます。
「password」と入力します	プロキシサーバのパスワードが設定されている場合、ユーザがそのパスワードを指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.40

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTP
direct;"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTP
proxyConfigScript=\"http://company.com/~username/proxy.pac\";"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTPS
proxyServer hostAddress=10.117.12.112 portNumber=8080 userName=\"tracyt\"
password=\"1234456\";"

SMcli completed successfully.
```

検証

「start storageArray AutoSupport deliveryTest」コマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

最小ファームウェアレベル

8.40

整合性グループのスナップショットボリュームを設定する - SANtricity CLI

set cgSnapVolumeコマンドは、整合性グループのスナップショット・ボリュームに一意の名前を作成します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set cgSnapVolume [<em>cgSnapVolumeName</em>]
userLabel="<em>cgSnapVolumeName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
cgSnapVolume	名前を変更する整合性グループのボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は角かっこ ([]) で囲みます。
「userLabel」のように入力します	整合性グループのSnapshotボリュームに付ける新しい名前。新しいSnapshotボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

整合性グループの属性を設定する - SANtricity CLI

set consistencyGroupコマンドは'スナップショット・コンシステンシ・グループのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set consistencyGroup ["<em>consistencyGroupName</em>"]
[userLabel="<em>consistencyGroupName</em>"]
[repositoryFullPolicy=(failBaseWrites | purgeSnapImages)]
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em>]
[autoDeleteLimit=<em>numberOfSnapImages</em>]
[rollbackPriority=(lowest | low | medium | high | highest)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroupName」	プロパティを設定する整合性グループの名前。整合性グループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「userLabel」 のように入力します	Snapshot整合性グループに付ける新しい名前。新しい整合性グループ名は二重引用符（"）で囲みます。
repositoryFullPolicy	Snapshotリポジトリボリュームの容量が上限に達している場合にSnapshot処理をどのように続行するかを指定します。ベースボリュームへの書き込みを停止する（failBaseWrites）か、Snapshotイメージを削除（パージ）する（purgeSnapImages）かを選択できます。デフォルトのアクションはpurgeSnapImagesです
repositoryFullLimit	リポジトリの容量がこの割合に達すると、Snapshotリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。

パラメータ	説明
'autoDeleteLimit'	各整合性グループでは、Snapshotイメージの自動削除を実行して、グループ内のSnapshotイメージの総数を指定したレベル以下に保つように設定できます。このオプションを有効にすると、Snapshotグループ内に新しいSnapshotイメージが作成されるたびに、制限値に準拠するためにグループ内の最も古いSnapshotイメージが自動的に削除されます。この処理によってリポジトリ容量が解放されて、残りのSnapshotイメージに対するcopy-on-write要求に使用できるようになります。
「rollBackPriority」を参照してください	ストレージアレイが稼働しているときの整合性グループのロールバック処理の優先度。有効な値は'highest'high'high'medium'low'low'lowest'です

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

ロールバックの優先度によって、システムパフォーマンスを考慮せずにロールバック処理に割り当てるシステムリソースの量が決まります。値がHighの場合は'ロールバック・オペレーションが他のすべてのホストI/Oより優先されることを示します値が'low'の場合'ホストI/Oへの影響を最小限に抑えてロールバック操作を実行する必要があります

自動削除

各SnapshotグループでSnapshotイメージの自動削除を実行して、グループ内のSnapshotイメージの総数を指定したレベル以下に保つように設定できます。Snapshotグループ内のSnapshotイメージの数が上限に達すると、「autoDeleteLimit」パラメータは、Snapshotグループ内に新しいSnapshotイメージが作成されるたびにSnapshotイメージを自動的に削除します。autoDeleteLimitパラメータは、パラメータで定義されたイメージの最大数に達するまで、Snapshotグループ内の最も古いSnapshotイメージを削除します。このようにSnapshotイメージが削除されることでリポジトリ容量が解放されて、残りのSnapshotイメージに対するcopy-on-write要求に使用できるようになります。

最小ファームウェアレベル

7.83

整合性グループにメンバーを追加する - SANtricity CLI

set consistencyGroup addCGMemberVolumeコマンドは、新しいベースボリュームを既存のコンシステンシグループにメンバーとして追加します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

新しい整合性グループのメンバーとして既存のリポジトリボリュームを指定するか、または新しいリポジトリボリュームを作成できます。新しいリポジトリボリュームを作成するときは、そのボリュームを追加する既存のボリュームグループまたは既存のディスクプールを指定します。

既存のリポジトリボリュームを使用する場合の構文

```
set consistencyGroup ["consistencyGroupName"]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume="volumeGroupName"
```

ボリュームグループに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文

```
set consistencyGroup ["consistencyGroupName"]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume=("volumeGroupName"
capacity=capacityValue (KB|MB|GB|TB|bytes))
```

ディスクプールに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文

```
set consistencyGroup ["consistencyGroupName"]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume=("diskPoolName"
capacity=capacityValue (KB|MB|GB|TB|bytes))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroup」	新しいメンバーボリュームを追加する整合性グループの名前。新しいメンバーボリュームは、Snapshot処理のベースボリュームです。整合性グループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
「addCGMemberVolume」	<p>追加するベースボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。</p> <p>既存のリポジトリボリュームまたは既存のSnapshotボリュームを指定すると、コマンドは失敗します。</p>
リポジトリボリューム	<p>このパラメータには2つの機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存の整合性グループ内のリポジトリボリュームを使用する場合は、そのリポジトリボリュームを指定します。 • 新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、そのボリュームを作成するボリュームグループまたはディスクプールを指定します。 <p>ボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。</p>
「容量」	<p>ボリュームグループまたはディスクプールに作成する新しいリポジトリボリュームのサイズ。サイズは、bytes、KB、MB、GB、TBのいずれかの単位で定義します。</p>

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

整合性グループは、Snapshotのソースボリュームであるベースボリュームの集まりです。複数のベースボリュームを1つの整合性グループにまとめることで、各ベースボリュームに対して同じSnapshot処理を実行できるようになります。このコマンドでは、_MEMBER_はSnapshot処理のベースボリュームを意味します。整合性グループのメンバーに関連付けられたSnapshotイメージは、イメージ間の整合性を維持しながら、バッチ形式で操作できます。

各メンバーボリュームには、対応するリポジトリボリュームが必要です。repositoryVolumeパラメータを使用すると、メンバーボリュームとリポジトリボリュームの関係を定義できます。repositoryVolumeパラメータでは、次のいずれかの操作を実行できます。

- 整合性グループに接続されている既存のリポジトリボリューム
- 新しいリポジトリボリュームを作成するボリュームグループまたはディスクプール

既存のリポジトリを含む整合性グループにメンバーを追加する目的は次の2つです。

- repositoryVolumeパラメータを指定せずにコマンドを実行すると、新しいリポジトリボリュームを作成できます。repositoryVolumeパラメータを指定せずにコマンドを実行すると、他のすべてのリポジトリボリュームが格納されたボリュームグループまたはディスクプールに新しいリポジトリボリュームが作成されます。このコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"
```

- 既存のリポジトリボリュームが空で、別のメンバーボリュームに関連付けられていない場合は、そのリポジトリボリュームを再利用できます。リポジトリボリュームの特定の順序や関係を維持したい場合は、再利用を推奨します。既存の空のリポジトリボリュームを再利用するには、そのボリュームの名前を確認しておく必要があります。リポジトリ・ボリュームの名前を確認するには'show allVolumes summary'コマンドを使用します。すべてのリポジトリボリューム名の形式は「repos_XXXX」です。「XXXX」は、ストレージ管理ソフトウェアによって生成された一意の識別子です。このコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"  
repositoryVolume="repos_0011"
```

リポジトリボリュームは、任意のボリュームグループまたはディスクプールに配置できます。他のリポジトリボリュームと同じ場所に配置する必要はありません。リポジトリ・ボリュームを任意のボリューム・グループまたはディスク・プールに配置するには'repositoryVolume'パラメータを使用して'ボリューム・グループ'または'ディスク・プール'とリポジトリ・ボリュームのサイズを指定しますこのコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"  
repositoryVolume=("12" capacity=2 GB)
```

この例では、「12」は既存のボリュームグループまたは既存のディスクプールの名前です。capacityパラメータには、リポジトリボリュームグループに必要なサイズを定義します。

ボリュームグループまたはディスクプールに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、ボリュームグループ名と容量、またはディスクプール名と容量を丸かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

コントローラのDNS設定を行う - SANtricity CLI

set controller dnsServers'コマンドは、コントローラのDomain Name System (DNS;ドメインネームシステム) 設定を更新します。DNSは、コントローラとネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバの完全修飾ドメイン名を解決するために使用されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

作業を開始する前に、次の点を確認します。

- DNSサーバが設定されている。
- プライマリDNSサーバに障害が発生した場合に備えて、プライマリDNSサーバとバックアップDNSサーバのアドレスを把握しておきます。IPv4アドレスでもIPv6アドレスでもかまいません。



このコマンドは両方のコントローラに送信する必要があります。このコマンドはコントローラ固有です。



アレイの管理ポートを動的ホスト構成プロトコル (DHCP) ですでに設定し、かつ1つ以上のDNSサーバまたはNTPサーバをDHCPセットアップに関連付けている場合は、DNSまたはNTPを手動で設定する必要がありません。この場合、DNS / NTPサーバのアドレスはアレイによってすでに自動的に検出されているはずです。

構文

```
set controller[a] DNSServers=(auto| (Address1 [Address2]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「DNSサーバ」	<p>このパラメータは、コントローラのDNSサーバを設定します。DHCPが提供するDNSサーバを使用するには'auto'を指定しますそれ以外の場合は、1つまたは2つのDNSサーバをスペースで区切って指定します。</p> <div><p>アレイの管理イーサネットポートは、IPv4プロトコルとIPv6プロトコルを同時にサポートできます。アドレスはIPv4アドレスでもIPv6アドレスでもかまいません。複数のアドレスを指定する場合、アドレスタイプが一致している必要はありません。</p></div> <p>複数のアドレスを指定すると、指定した順にアドレスが使用されます (1番目がプライマリアドレス、2番目がバックアップアドレス)。</p>
「AddressX」	ipv4address

例

```
set controller[a] DNSServers=auto;
set controller[a] DNSServers=(192.168.1.1);
set controller[b] DNSServers=(192.168.1.1 192.168.1.105);
set controller[b] DNSServers=(2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334
192.168.1.1)
```

最小ファームウェアレベル

8.25

コントローラのホストポートプロパティを設定する - **SANtricity CLI**

set controller HostPortコマンドは'iSCSI'iSER'NVMe over InfiniBand 'および'NVMe over RoCE'ホストポートのネットワーク・プロパティを変更します。プロパティの変更には、IPv4とIPv6のプロパティ、ポート速度、最大フレームペイロードが含まれます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)



このコマンドは、廃止された置き換えます **iSCSIのホストポートのネットワークプロパティを設定します** コマンドを実行します

構文

```

set controller [(a|b)] hostPort ["portLabel"[, "physical"|"virtual"]]
  (IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
  IPv6LocalAddress=(FE80):(0000):(0000):(0000):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF) |
  IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
  IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
  enableIPv4=(TRUE | FALSE) |
  enableIPv6=(TRUE | FALSE) |
  enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) |
  enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE) |
  enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) |
  enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE) |
  fecMode=(auto:none:reedSolomon:fireCode) |
  IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp) |
  IPv6ConfigurationMethod=(static | auto) |
  IPv4GatewayIP=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
  IPv6HopLimit=[0-255] |
  IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-255] |
  IPv6NdReachableTime=[0-65535] |
  IPv6NdRetransmitTime=[0-65535] |
  IPv6NdTimeOut=[0-65535] |
  IPv4Priority=[0-7] |
  IPv6Priority=[0-7] |
  IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
  IPv4VlanId=[1-4094] |
  IPv6VlanId=[1-4094] |
  maxFramePayload=[1500-9000] |
  tcpListeningPort=(3260 | [49152-65535]) |
  portSpeed=(autoNegotiate | 10 | 25 | 40 | 50 | 100))


```


パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	プロパティを定義するコントローラを指定できます。

パラメータ	説明
「ホストポート」	<p>プロパティを定義するホストポートラベルを指定できます。200 GBのホスト・ポートの場合に限り、physicalまたはvirtualをパラメータとして指定できます</p> <div>  <p>200 GBのホスト・ポート接続に値を指定しない場合、デフォルトでphysicalパラメータが設定されます</p> </div>
「ipv4address」と入力します	アドレスを次の形式で入力できます： (0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255) 。
「IPV6LocalAddress」と入力します	アドレスを次の形式で入力できます： (FE80) : (0000) : (0000) : (0000) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) 。
IPv6RoutableAddress	アドレスを次の形式で入力できます： (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) 。
「IPV6RouterAddress」	アドレスを次の形式で入力できます： (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) 。
「enableIPv4」と入力します	IPv4を有効にすることができます。
「enableIPv6」	IPv6を有効にすることができます。IPv6アドレススペースは128ビットです。コロンで区切られた8つの16ビット16進ブロックで表されます。
enableIPv4Vlan	IPv4 VLANを有効にすることができます。VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。
enableIPv6Vlan	IPv6 VLANを有効にすることができます。VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。

パラメータ	説明
enableIPv4Priority	ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にできます。共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。
enableIPv6Priority	ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にできます。共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。
「fecMode」	<p>ホストポートのFECモードを次のいずれかのオプションに設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「auto」と入力します • 「NONE」 • 「ReedSolomon」 • 「fireCode」
IPv4ConfigurationMethodを指定します	IPv4の静的アドレスまたはDHCPアドレスを設定できます。
IPv6ConfigurationMethod`	IPv6の静的アドレスまたはDHCPアドレスを設定できます。
'IPv4GatewayIP'	ゲートウェイアドレスを次の形式で入力できます： (0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255)。
IPv6HopLimit`	IPv6パケットが経由できるホップの最大数を設定できます。デフォルト値は64です。
IPv6NdDetectDuplicateAddress	IPアドレスが一意であることを確認するために送信する近隣要求メッセージの数を設定できます。

パラメータ	説明
IPv6NdReachableTime	リモートIPv6ノードが到達可能とみなされる時間（ミリ秒）を設定できます。デフォルト値は30000ミリ秒です。
IPv6NdRetransmitTime`	パケットをIPv6ノードに再送信し続ける時間をミリ秒単位で設定できます。デフォルト値は1000ミリ秒です。
IPv6NdTimeOut`	IPv6ノードのタイムアウト値をミリ秒単位で設定できます。デフォルト値は30000ミリ秒です。
「IPv4Priority」のように表示されます	IPv4パケットのプライオリティ割り当てを設定できます。
IPv6Priority	IPv6パケットのプライオリティ割り当てを設定できます。
「IPv4SubnetMask」のように指定します	サブネットマスクアドレスを次の形式で入力できます：（0-255）．（0-255）．（0-255）．（0-255）。
'IPv4VlanId'	IPv4 VLAN IDを設定できます
IPv6VlanId	IPv6 VLAN IDを設定できます
maxFramePayload	<p>ネットワークで送信されるパケットまたはフレームの最大サイズを設定できます。標準イーサネットフレームのペイロード部分は1500に、ジャンボイーサネットフレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークパス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理できる必要があります。デフォルト値は1500バイト/フレームです。</p> <div>  <p>NVMe over RoCE環境で最大限のパフォーマンスを実現するには、フレームサイズを4200に設定します。</p> </div>
tcpListeningPort	イニシエータからのiSCSIログインをリスンするために使用するTCPポート番号を設定できます。デフォルトポートは3260です。

パラメータ	説明
「portSpeed」	<p>ポートの通信速度をメガビット/秒（Mb/秒）単位で設定できます。</p> <div>  <p>このパラメータは、25GbpsのiSCSIホストインターフェイスカードと100Gbpsのイーサネットホストインターフェイスカードでのみサポートされます。25GbpsのiSCSIホストインターフェイスカードでは、1つのポートの速度を変更すると、カード上の4つのポートすべての速度が変更されます。この場合に使用できるオプションは10または25です。100Gbpsイーサネットホストインターフェイスカードで、リリース8.50で新たに1つのポートの速度を変更しても、カード上の他のポートには影響しません。この場合の選択可能なオプションは、autoNegotiate、10、25、40、50です。100GbEと表示されます。</p> </div>

ホストポートタイプ別のパラメータサポート状況

パラメータがサポートされるかどうかは、次の表に示すように、ホストポートタイプ（iSCSI、iSER、NVMe over InfiniBand、またはNVMe over RoCE）によって異なります。

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
「ipv4address」と入力します	はい。	はい。	はい。	はい。
「IPV6LocalAddress」と入力します	はい。			はい。
IPv6RoutableAddresses	はい。			はい。
「IPV6RouterAddress」	はい。			はい。
「enableIPv4」と入力します	はい。			はい。
「enableIPv6」	はい。			はい。

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
enableIPv4Vlan	はい。			いいえ
enableIPv6Vlan	はい。			いいえ
enableIPv4Priority	はい。			いいえ
enableIPv6Priority	はい。			いいえ
IPv4ConfigurationMethodを指定します	はい。			はい。
IPv6ConfigurationMethod`	はい。			はい。
'IPv4GatewayIP'	はい。			はい。
IPv6HopLimit`	はい。			
IPv6NdDetectDuplicateAddress	はい。			
IPv6NdReachableTime	はい。			
IPv6NdRetransmitTime`	はい。			
IPv6NdTimeOut`	はい。			
「IPv4Priority」のよう に表示されます	はい。			いいえ
IPv6Priority	はい。			いいえ
「IPv4SubnetMask」のよう に指定します	はい。			はい。
'IPv4VlanId'	はい。			いいえ
IPv6VlanId	はい。			いいえ

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
maxFramePayload	はい。			はい。
tcpListeningPort	はい。			
「portSpeed」	はい。			はい。

最小ファームウェアレベル

8.41

8.50 - NVMe over RoCE環境についての情報が追加されました。

11.70.1に'fecMode'パラメータが追加されました

iSCSI ホストポートのネットワークプロパティを設定する - SANtricity CLI

set controller iscsiHostPortコマンドは'IPv4とIPv6のプロパティ'ポート速度'最大フレームペイロードなど'ホストポートのネットワーク・プロパティを変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [コントローラのホストポートのプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

構文

```
set controller [(a|b)]
iscsiHostPort [portLabel]
```

```
([IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) ] |
```

```
[IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)] |
```

```
[IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) ]|
```

```
[IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) ]|
```

```
[enableIPv4=(TRUE | FALSE) | enableIPv6=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE) ]|
```

```
[IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp) ]|
```

```
[IPv6ConfigurationMethod=(static | auto)] |
```

```
[IPv4GatewayIP=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[IPv6HopLimit=[0-255] ]|
```

```
[IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-256] ]|
```

```
[IPv6NdReachableTime=[0-65535] ]|
```

```
[IPv6NdRetransmitTime=[0-65535]] |
```

```
[IPv6NdTimeOut=[0-65535] ]|
```

```
[IPv4Priority=[0-7] | IPv6Priority=[0-7] ]|
```

```
[IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255)] |
```

```
[IPv4VlanId=[1-4094] | IPv6VlanId=[1-4094]] |
```

```
[maxFramePayload=[*frameSize*]] |
```

```
[tcpListeningPort=[3260, 49152-65536]] |
```

```
[portSpeed=[(10 | 25)]])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「enableIPv4」と入力します	次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none">• 正しいです• いいえ
enableIPv4Priority	<p>ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にする場合は、このオプションを選択します。スライダを使用して優先度を 1 から 7 の間で選択します。</p> <p>共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 正しいです• いいえ <div> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</div>

パラメータ	説明
enableIPv4Vlan	<p>VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>
「enableIPv6」	<p>IPv6アドレススペースは128ビットです。コロンで区切られた8つの16ビット16進ブロックで表されます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ
enableIPv6Priority	<p>ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にする場合は、このオプションを選択します。スライダを使用して優先度を 1 から 7 の間で選択します。</p> <p>共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>

パラメータ	説明
enableIPv6Vlan	<p>VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>
「ipv4address」と入力します	次の形式でアドレスを入力します：（0-255）．（0-255）．（0-255）．（0-255）
「IPV4ConfigurationMethod」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 静的 • DHCP
「IPV4GatewayIP」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しいです • いいえ
「IPV4Priority」	<p>0~7の値を入力します。</p> <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>
「IPV4SubnetMask」	次の形式でサブネットマスクを入力します：（0-255）．（0-255）．（0-255）．（0-255）
「IPV4VlanId」	<p>1~4094の値を入力します。</p> <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>
IPV6ConfigurationMethod	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 静的 • 自動

パラメータ	説明
「IPV6HopLimit」	<p>このオプションは、IPv6パケットが経由できるホップの最大数を設定します。</p> <p>デフォルト値は「64」です。</p>
「IPV6LocalAddress」と入力します	<p>次の形式でアドレスを入力します：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)</p>
「IPV6NdDetectDuplicateAddress」と入力します	<p>0~256の値を入力します。</p>
「IPV6NdReachableTime」	<p>このオプションは、リモートIPv6モードが到達可能とみなされる時間を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は30000ミリ秒です。</p>
「IPV6NdransmitTime」	<p>このオプションは、IPv6ノードにパケットを再送信し続ける時間を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は「1000`milliseconds」です。</p>
「IPV6NdTimeOut」	<p>このオプションは、IPv6ノードのタイムアウト値を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は30000ミリ秒です。</p>
「IPV6Priority」	<p>0~7の値を入力します。</p> <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>
「IPV6RoutableAddress」	<p>次の形式でアドレスを入力します：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)</p>
「IPV6RouterAddress」	<p>次の形式でアドレスを入力します：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)：(0-FFFF)</p>
「IPV6VlanId」	<p>1~4094の値を入力します。</p> <div>  <p>このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p> </div>

パラメータ	説明
maxFramePayload	<p>「maxFramePayload」 オプションはIPv4とIPv6で共有され、ネットワークで送信できる最大のパケットまたはフレームです。標準イーサネット・フレームのペイロード部分は1500に設定され、ジャンボ・イーサネット・フレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークパス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理する必要があります。</p> <p>デフォルト値は1500バイト/フレームです。1500~9000 の値を入力する必要があります。</p>
「portSpeed」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10. • 25 <div>  <p>このオプションは、25Gb/sイーサネットホストインターフェイスカードでのみ有効です。1つのポートの速度を変更すると、カード上の4つのポートすべての速度が変更されます。</p> </div> <div>  <p>iscsiHostPortパラメータのportSpeedオプションの値は'メガビット/秒 (Mb/s)' 単位です</p> </div>
tcpListeningPort	<p>リスニングポートは、コントローラがホスト iSCSI イニシエータからの iSCSI ログインをリスンするために使用する TCP ポート番号です。デフォルトのリスニングポートは 3260 です。3260、または 49152~65535 の値を入力する必要があります。</p>

iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["ch 2"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります ({キャレット} を使用)。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["e0b^|0b"]
```

下位互換性のために、引用符と角カッコではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。



- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort[3]
```

最小ファームウェアレベル

7.15で、新しいiSCSIホストポートオプションが追加されました。

7.60で'portSpeed'オプションが追加されました

8.10で、iSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

8.40で、「iscsiHostPort」パラメータの「portSpeed」オプションが改定されました。これは25Gb/sイーサネットホストインターフェイスカードでのみ有効であり、1つのポートの速度を変更するとカード上の4つのポートすべての速度が変更されることに注意してください。

8.41で、このコマンドは廃止されました。

コントローラのNTP設定を行う - SANtricity CLI

set controller NTPServers'コマンドは、コントローラのNTP設定を設定し、コントローラがSNTP（Simple Network Time Protocol）を使用してクロックを外部ホストと自動的に同期できるようにします。

サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この機能を有効にすると、コントローラは設定されたNTPサーバを定期的に照会し、その結果を使用して内部のクロックを更新します。一方のコントローラだけでNTPが有効になっている場合、代替コントローラのクロックはNTPが有効なコントローラと定期的に同期されます。どちらのコントローラでもNTPが有効になっていない場合は、定期的にコントローラ間で相互にクロックが同期されます。



このコマンドはコントローラ固有です。両方のコントローラでNTPを設定する必要はありませんが、設定しておくことで、ハードウェア障害や通信障害が発生した場合にアレの同期度が向上します。





完全修飾ドメイン名を使用してNTPを設定する場合、操作が成功するためにはそれらのコントローラにもDNSを設定する必要があります。を参照してください [コントローラのDNS設定を指定します](#) を参照してください。

構文

```
set controller(a|b) NTPServers=(disabled|auto|(Address1 [Address2]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	NTP設定を変更するコントローラ。有効なコントローラ識別子は、aまたはbです

パラメータ	説明
「NTPサーバ」	<p>このパラメータは、コントローラのNTPサーバを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTPサポートをオフにするには'disabled'を指定します • DHCPサーバから提供されるNTPサーバ・アドレスを使用するには'auto'を指定します <div>  <p>このオプションは、コントローラの少なくとも1つの管理ポートがDHCP経由でインターフェイスパラメータを取得するように設定され、かつDHCPサーバにNTPサーバが少なくとも1つ設定されている場合にのみ使用してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • それ以外の場合は、1つまたは2つのNTPサーバをスペースで区切って指定します。アドレスは、ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。複数のアドレスを指定する場合、アドレスタイプが一致している必要はありません。複数のアドレスを指定すると、指定した順にアドレスが使用されます（1番目がプライマリアドレス、2番目がバックアップアドレス）。 <div>  <p>「例」セクションに示すように、NTPサーバ名は引用符で囲む必要があります。</p> </div>
「住所」	"DomainName"
IPv4Address	<p>IPv6Address</p> <p>[NOTE] ==== ドメイン名を指定する場合は、コントローラがサーバのIPアドレスを解決できるようにDNSサーバも設定する必要があります。</p> <p>====</p>

例

```
set controller[a] NTPServers=disabled;
set controller[a] NTPServers=auto;
set controller[a] NTPServers=("0.pool.ntp.org" "1.us.pool.ntp.org");
set controller[b] NTPServers=(192.168.1.105 "1.us.pool.ntp.org");
set controller[b] NTPServers=(2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334);
```

8.42で、NTP認証用のキークレデンシャルパラメータが追加されました。

コントローラのサービスアクション許可インジケータの設定 - **SANtricity CLI**

set controllerコマンドは、コントローラトレイまたはコントローラドライブトレイ内のコントローラの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700アレイとE5600アレイを含む個々のストレージアレイの環境を行います。

コンテキスト (**Context**)

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。(電源ファンキャニスターまたはインターコネクトバッテリーキャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには'**set tray serviceAllowedIndicator**'コマンドを使用します)



このコマンドは、E2700、E5600、EF560（および他の旧世代のEシリーズまたはEFシリーズのコントローラ）でのみ有効です。E2800コントローラトレイには警告インジケータが1つ付いており、1) 障害が発生した場合、および2) 障害が発生したコンポーネントを安全に取り外すことができる場合にのみ点灯します。

構文

```
set controller [(a| b)]
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラファームウェアから構文エラーが返されます。

パラメータ	説明
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

最小ファームウェアレベル

6.14

コントローラーの設定 - SANtricity CLI

set controllerコマンドは、コントローラの属性を定義します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set controller [(a|b)]
[availability=(online | offline | serviceMode)]
[ethernetPort [(1| 2)] ethernetPortOptions]
[globalNVSramByte [nvramOffset]=(nvramByteSetting | nvramBitSetting)]
[hostNVSramByte [hostType, nvramOffset]=(nvramByteSetting |
nvramBitSetting)]
[IPv4GatewayIP=ipAddress]
[IPv6RouterAddress=ipv6Address]
[iscsiHostPort [portLabel] iscsiHostPortOptions]
[rloginEnabled=(TRUE | FALSE)]
[serviceAllowedIndicator=(on | off)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	プロパティを定義するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラのファームウェアから構文エラーが返されます。
可用性	コントローラのモード。「online」、「offline」、または「serviceMode」（service）に設定できます。
ethernetPort`	管理イーサネットポートの属性（オプション）。このパラメータで指定できるエントリについては、このあとの構文要素の表を参照してください。IPアドレス、ゲートウェイアドレス、サブネットマスクアドレスなどの多数の設定を指定できます。
「globalNVSRAMByte」と入力します	コントローラNVSRAMの一部。領域内の開始バイトオフセットを使用して変更する領域と、NVSRAMに格納される新しいデータのバイト値またはビット値を指定します。
「hostNVSRAMByte」と入力します	ホスト固有の領域のNVSRAM。特定のホストのホストインデックス、領域内の開始オフセット、バイト数、およびNVSRAMに格納される新しいデータのバイト値またはビット値を指定します。
'IPv4GatewayIP'	ネットワークへのインターフェイスを提供するノードのIPアドレス。IPv4ゲートウェイのアドレス形式は、*（0～255）.（0～255）.（0～255）.（0～255）.（0～255）*です
IPv6RouterAddress	2つ以上の論理サブネットを接続するIPv6ルータのIPアドレス。IPv6ルータのアドレス形式は'(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)'です
「iscsiHostPort」のように入力します	<p>このパラメータでは、コントローラのiSCSIポートのオプションを設定できます。iSCSIポートのラベルまたは番号を入力し、そのポートのオプションを選択します。</p> <p>詳細については、以下の「iSCSIホストポートラベルの識別」セクションを参照してください。</p>

パラメータ	説明
rloginEnabled	リモートログイン機能をオンにするかオフにするかの設定。リモートログイン機能をオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。リモートログイン機能をオフにするには、このパラメータをFALSEに設定します。
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンにするかオフにするかの設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["ch 2"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります ({キャレット} を使用)。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["e0b^|0b"]
```


下位互換性のために、引用符と角カッコではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。



- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort[3]
```

ethernetPort/パラメータのオプション

```
enableIPv4=(TRUE | FALSE) |
```

```
enableIPv6=(TRUE | FALSE) |
```

```
IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF): (0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
IPv4ConfigurationMethod=[(static | dhcp)] |
```

```
IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
duplexMode=(TRUE | FALSE) |
```

```
portSpeed=[(autoNegotiate | 10 | 100 | 1000)]
```

iSCSIHostPortパラメータのオプション

IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |

IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |

IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |

IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |

enableIPv4=(TRUE | FALSE) | enableIPv6=(TRUE | FALSE) |

enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE) |

enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE) |

IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp) |

IPv6ConfigurationMethod=(static | auto) |

IPv4GatewayIP=(TRUE | FALSE) |

IPv6HopLimit=[0-255] |

IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-256] |

IPv6NdReachableTime=[0-65535] |

```
IPv6NdRetransmitTime=[0-65535] |
```

```
IPv6NdTimeOut=[0-65535] |
```

```
IPv4Priority=[0-7] | IPv6Priority=[0-7] |
```

```
IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
IPv4VlanId=[1-4094] | IPv6VlanId=[1-4094] |
```

```
maxFramePayload=[*frameSize*] |
```

```
tcpListeningPort=[3260, 49152-65536] |
```

```
portSpeed=[( 10 | 25)]
```

注：



ファームウェア・バージョン7.75より前の「set controller」コマンドでは、「NVSRAMByte」パラメータがサポートされていました。「NVSRAMByte」パラメータは廃止されており、「hostNVSRAMByte」パラメータまたは「globalNVSRAMByte」パラメータのいずれかに置き換える必要があります。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。すべてのパラメータを使用する必要はありません。

「availability」パラメータを「serviceMode」に設定すると、代替コントローラがすべてのボリュームの所有権を取得します。指定したコントローラはボリュームの割り当てをすべて削除され、ボリュームの所有権の取得を拒否するようになります。サービス・モードは「availability」パラメータが「online」に設定されるまで「リセット・サイクルとパワー・サイクルを越えて維持されます」

NVSRAM情報を表示するには「show controller NVSRAM」コマンドを使用しますNVSRAMに変更を加える場合は、事前にテクニカルサポートに連絡して変更可能なNVSRAMの領域を確認してください。

duplexModeオプションをTRUEに設定すると、選択したEthernetポートは全二重に設定されますデフォルト値は半二重です(duplexModeパラメータはFALSEに設定されています)

IPv4設定またはIPv6設定が確実に適用されるようにするには「iscsiHostPort」オプションを次のように設定する必要があります

- enableIPv4 =true
- enableIPv6= 「true

IPv6アドレススペースは128ビットです。コロンで区切られた8つの16ビット16進ブロックで表されます。

maxFramePayloadオプションはIPv4とIPv6で共有されます標準イーサネット・フレームのペイロード部分は1500に設定され、ジャンボ・イーサネット・フレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークパス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理できる必要があります。

portSpeedオプションは、メガビット/秒（Mb/秒）で表されます。

iscsiHostPortパラメータのportSpeedオプションの値は'メガビット/秒（Mb/s）単位です

次の値は'iscsiHostOptions'のデフォルト値です

- IPv6HopLimit`オプションは64`です。
- IPv6NdReachableTimeオプションは30000ミリ秒です。
- IPv6NdRetransmitTime`オプションは1000ミリ秒です。
- IPv6NdTimeOut`オプションは30000ミリ秒です。
- tcpListeningPortオプションは'326`です

最小ファームウェアレベル

7.15で'bootp'パラメータが削除され'新しいEthernetポート・オプションと新しいiSCSIホスト・ポート・オプションが追加されました

7.50で、「IPV4Gateway」パラメータと「IPV6RouterAddress」パラメータがiSCSIホストポートオプションからコマンドに移動されました。

7.60で'iscsiHostPort'パラメータのportSpeedオプションが追加されました

7.75で、「NVSRAMByte」パラメータが廃止されました。

8.10で、iSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

ディスクプールの設定（ディスクプールの変更） - SANtricity CLI

set diskPool'コマンドは'ディスク・プール（Dynamic Capacity ExpansionまたはDCE）に容量を追加するか'ディスク・プール全体のコントローラ所有権を変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この2つの処理は同時に実行できません。

構文

```
set diskPool [<em>diskPoolName</em>]
(addDrives=[<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>] |
addCapacity=(<em>diskPoolCapacity</em>))
[owner=(a| b)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	変更するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「addDrives」を参照してください	<p>ディスクプールに追加するドライブ。大容量ドライブトレイの場合は、追加するドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、追加するドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。スロットIDの値は'1～24'ですトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <div> この機能の最大ドライブ数は12本です。</div>
「addCapacity」	ディスクプールに追加するストレージ容量。このパラメータを指定すると、必要な追加容量を満たすドライブが自動的に選択されます。容量は'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます
「owner」をクリックします	ディスクプールを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです所有者を指定しない場合は、コントローラファームウェアによって所有者が決定されます。

注：

ディスクプール内の既存のボリュームは、新しいドライブを追加する間もオンラインのままで、I/O処理が可能です。容量を追加するには、ディスクプールが完了状態である必要があります。ディスク・プールがcomplete状態でない場合は新しいドライブを追加する前にset diskPool completeコマンドを実行します

容量を追加するには'addDrives'パラメータで個のドライブを指定するか'addCapacity'パラメータでドライブ容量を指定します。「addDrives」を使用する場合、ホストは、操作を実行する前にドライブセットを検証する必要があります。「addCapacity」パラメータを使用すると、指定した容量が追加する最小容量として使用されます。候補ドライブのうち、サービス品質が最適で、かつ指定した以上の容量を持つドライブが使用されます。最小限の要件を満たす候補がない場合や、指定したドライブを使用できない場合や属性の不一致が検出された場合は、処理が失敗します。

このコマンドを使用して、ディスクプールの所有権をストレージレイ内のあるコントローラから別のコントローラに変更することもできます。所有権の変更とドライブまたは容量の追加を同時に実行することはできません。

最小ファームウェアレベル

7.83

ディスクプールの設定 - SANtricity CLI

set diskPool'コマンドは'指定したパラメータに基づいてディスク・プールに関連づけられた属性を設定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set (diskPool [<em>diskPoolName</em>] |
diskPools [<em>diskPoolName1</em> ... <em>diskPoolNameN</em>] |
allDiskPools)
[reservedDriveCount=<em>reservedDriveCountValue</em>]
[warningThreshold=(warningThresholdValue | default)]
[criticalThreshold=(criticalThresholdValue | default)]
[criticalPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[degradedPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[backgroundPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[userLabel=<em>diskPoolName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	属性を設定するディスクプールの名前。ディスクプール名は角カッコ（[]）で囲みます。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ディスクプール名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「diskPools」	<p>属性を設定する複数のディスクプールの名前。以下のルールを使用して、ディスクプールの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。• 各名前は二重引用符（""）で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「allDiskPools」	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのディスクプールの属性を設定します。
「reservedDriveCount」	このパラメータは、ディスクプール内のすべてのドライブに、障害ドライブの再構築のみに使用されるスペースを確保します。この数の各単位は、1つの障害ドライブをディスクプールの残りのドライブに再構築するための容量を表します。

パラメータ	説明
「warningThreshold」	<p>ディスクプールの容量がこの割合に達すると、ディスクプールの上限に近づいているという警告アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。最適な操作を行うには、このパラメータの値を「criticalThreshold」パラメータの値よりも小さくする必要があります。</p> <p>有効な値は0~100です。</p> <p>デフォルト値は50です。</p> <p>このパラメータを「0」に設定すると、警告アラートが無効になります。</p> <p>これをデフォルトに設定した場合、警告アラートのしきい値はコントローラファームウェアによって決定されます</p>
「criticalThreshold」です	<p>ディスクプールの容量がこの割合に達すると、ディスクプールの上限に近づいているという重大アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。最適な操作を行うには、このパラメータの値をwarningThresholdパラメータの値よりも大きくする必要があります</p> <p>有効な値は0~100です。</p> <p>デフォルト値は85%です。</p> <p>このパラメータを「0」に設定すると、警告アラートと重大アラートの両方が無効になります。</p> <p>これをデフォルトに設定した場合、クリティカル・アラートのしきい値はコントローラ・ファームウェアによって決定されます</p>
「criticalPriority」です	<p>ディスクプール上の重大イベントの再構築処理の優先度。たとえば、少なくとも2つのドライブ障害が発生したあとのディスクプールの再構築などです。</p> <p>有効な値は'high' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' ですデフォルト値は「highest」です。</p>

パラメータ	説明
「degradedPriority」	<p>ディスクプールでデグレードイベントが発生した場合の再構築処理の優先度。たとえば、1つのドライブ障害が発生したあとのディスクプールの再構築などです。</p> <p>有効な値は'high'high'high'medium'low'low'lowest'です デフォルト値は'high'です</p>
「backgroundPriority」	<p>ディスクプール上のバックグラウンド処理の優先度。</p> <p>有効な値は'high'high'high'medium'low'low'lowest'です デフォルト値は'low'です</p>
「userLabel」のように入力します	<p>ディスクプールに付ける新しい名前。ディスクプール名は二重引用符 ("") で囲みます。</p>

注：

ディスクプール名は一意である必要があります。ユーザラベルには、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

任意のディスクプールをセットで指定できます。複数のディスク・プールを選択した場合は'userLabel'の値を設定するとエラーが発生します

オプションパラメータの値を指定しない場合は、デフォルト値が割り当てられます。

ディスクプールのアラートのしきい値

各ディスクプールには2段階の重大度レベルのアラートがあり、ディスクプールのストレージ容量が上限に近づいたときにユーザに通知します。アラートのしきい値は、ディスクプール内の使用可能な総容量に対する使用済み容量の割合です。アラートは次のとおりです。

- 警告—ディスクプール内の使用済み容量がフルに近づいていることを通知する第1レベルのアラートです。警告アラートのしきい値に達すると、要注意状態が生成され、ストレージ管理ソフトウェアにイベントが送信されます。警告しきい値よりも、重大しきい値のほうが優先されます。デフォルトの警告しきい値は50%です。
- 重大—ディスクプール内の使用済み容量がフルに近づいていることを通知する最も重大なレベルのアラートです。重大アラートのしきい値に達すると、要注意状態が生成され、ストレージ管理ソフトウェアにイベントが送信されます。警告しきい値よりも、重大しきい値のほうが優先されます。重大アラートのデフォルトのしきい値は85%です。

警告アラートの値は常に重大アラートの値より小さくする必要があります。警告アラートの値が重大アラートの値と同じ場合は、重大アラートのみが送信されます。

ディスクプールのバックグラウンド処理

ディスクプールは次のバックグラウンド処理をサポートします。

- 再構築
- Instant Availability Format (IAF)
- の形式で入力し
- 容量の動的拡張 (DCE)
- Dynamic Capacity Reduction (DCR)
- Dynamic Volume Expansion (DVE) (ディスクプールの場合、DVEは実際はバックグラウンド処理ではなく、同期処理としてサポートされています)。

ディスクプールでは、バックグラウンドコマンドはキューに配置されません。複数のバックグラウンドコマンドを順次開始できますが、複数のバックグラウンド処理を一度に開始すると、前に開始したコマンドの完了が遅延します。サポートされているバックグラウンド処理の相対的な優先度レベルは次のとおりです。

1. 再構築
2. の形式で入力し
3. IAF
4. DCE/DCR

最小ファームウェアレベル

7.83

ドライブのホットスペアを設定する - SANtricity CLI

set drive hotspare コマンドは1つ以上のドライブをホット・スペアとして割り当てまたは割り当て解除します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set (drive [<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] |
drives [<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>])
hotSpare=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ（[]）で囲みます。</p>
「ホットスペア」	<p>ドライブをホットスペアとして割り当てるための設定。ドライブをホット・スペアとして割り当てるには'このパラメータをTRUEに設定しますドライブからホットスペアの割り当てを削除するには'このパラメータをFALSEに設定します</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

外部ドライブをネイティブに設定する - SANtricity CLI

「set drive nativeState」コマンドを使用すると、見つからない（外部）ドライブが元のボリュームグループに再び追加され、新しいストレージレイのボリュームグループに追加されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイのボリュームグループに属しているドライブは、ネイティブとみなされます。ストレージアレイのボリュームグループに属していないドライブ、またはボリュームグループのドライブが新しいストレージアレイに転送される際に一緒にインポートされなかったドライブは、外部ドライブとみなされます。後者の場合は、新しいストレージアレイに不完全なボリュームグループが作成されます。

この処理は、緊急のリカバリ目的で、1つ以上のドライブのステータスを外部からネイティブに変更して元のボリュームグループ内で元のステータスに戻す必要がある場合にのみ使用します。



データ破損またはデータ損失の可能性--前述した以外の理由でこのコマンドを使用すると、通知なしにデータが失われる可能性があります。

構文

```
set (drive=(trayID],[drawerID],[slotID) |  
drives=(trayID1],[drawerID1],[slotID1 ...  
trayIDn],[drawerIDn],[slotIDn) |  
allDrives) nativeState
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800、E5700、EF600、およびEF300コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「allDrives」を参照してください	すべてのドライブを選択するための設定。

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

7.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ドライブの状態を設定する - SANtricity CLI

set drive operationalState コマンドは'ドライブ'をFailed状態に設定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ドライブを最適状態に戻すには'ドライブの再活性化コマンド'を使用します

構文

```
set drive [<em>trayID</em>,[<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>]  
operationalState=failed [copyDrive]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイ'と'小容量ドライブトレイ'の両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

5.20

7.60で'drawerID'ユーザー入力が増加されました

FIPSドライブセキュリティ識別子の設定 - SANtricity CLI

set drive securityIDコマンドは'FIPSドライブ'を元の製造元の設定に戻すために使用しま

す

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、FIPSドライブをメーカー出荷時の設定にリセットし、既存のドライブデータをすべて消去します。この処理は元に戻すことができません。セキュリティキーファイルが無効または見つからないか、パズルが不明なためにドライブがロックされた場合、この処理が必要になることがあります。既存のドライブデータはすべて消去されます。


FDEドライブを消去するには'start secureEraseコマンドを使用します

構文

```
set drive [<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>]  
securityID="string"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

パラメータ	説明
「securityID」	<p>消去するドライブのセキュリティIDを文字列形式で指定します。この文字列の最大文字数は32文字です。セキュリティIDの形式は製造元によって異なります。</p> <div>  <p>セキュリティIDを確認するには、ドライブを取り外し、キャニスターラベルのセキュリティIDを確認します。</p> </div>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

例

```
set drive [1,31,4] securityID="V2zdVLTdGWdWyTALGHns";
```

最小ファームウェアレベル

8.25

ドライブサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI

set drive serviceAllowedIndicator コマンドは'保守操作可能インジケータライト機能をサポートするドライブトレイ内のドライブで'保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラー

を返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

構文

```
set (drive [<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] |
drives [<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>])
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.16

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ドライブチャネルステータスの設定 - SANtricity CLI

set driveChannelコマンドは'ドライブ・チャネルの動作を定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)]
status=(optimal | degraded)
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	ステータスを設定するドライブチャネルの識別番号。有効なドライブ・チャネル値は'1'2'3'4'5'です'6'7'または'8'ドライブチャネル番号は角カッコ（[]）で囲みます。
ステータス	ドライブチャネルの状態。ドライブ・チャネルのステータスは'optimal'または'degraded'に設定できます

注：

最適なオプションを使用して'デグレード状態のドライブ・チャネルを最適状態に戻しますドライブ・チャネルに問題が発生し'ストレージ・アレイがデータ転送にさらに時間を必要とする場合は' degradedオプションを使用します

最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャネル識別子の更新が追加されました。

メール（SMTP）配信方法を指定する - SANtricity CLI

set storageArray AutoSupport smtpiveryMethodコマンドは、AutoSupport メッセージを電子メール（SMTP）に送信するための配信方法を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray autoSupport deliveryMethod=email
mailRelayServer="serverAddress"
senderEmail="emailAddress" destinationAddress="destination1@example.com"
destinationAddress="destination2@example.com";
```

パラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	<p>AutoSupport による収集の配信方法を指定できます。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• E メール• HTTPS <div> Eメール方式が設定されている場合、AutoSupport OnDemandとRemote Diagnosticsは無効になります。</div>
mailRelayServer'	AutoSupport 収集用のメールリレーサーバを指定できます。
「senderEmail」	AutoSupport コレクションの送信メールアドレスを指定できます。

パラメータ	説明
destinationAddress	AutoSupportディスパッチを送信するEメールアドレス。このパラメータを複数回指定すると、ディスパッチを複数のアドレスに送信できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportConfig
deliveryMethod=email mailRelayServer=\"mailserver.company.com\"
senderEmail=\"user@company.com\";"

SMcli completed successfully.
```

検証

「*start storageArray AutoSupport deliveryTest*」コマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

最小ファームウェアレベル

8.40

電子メールアラート設定を構成する - SANtricity CLI

set emailAlertコマンドは指定されたテクニカル・サポートまたは組織に電子メールを送信するように電子メールを設定しますEメールアラートには、イベントの概要、影響を受けるストレージに関する詳細情報、およびお客様の連絡先情報が含まれています。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300ストレージアレイに適用されます。ただし、E2700アレイまたはE5600アレイの場合は、スクリプトコマンドではなくSMcliコマンドとして、このコマンドを使用できます。この場合、コマンドは管理ドメイン内のすべてのアレイに適用されます。

構文

```

set emailAlert
  serverAddress="<em>serverAddress</em>" |
  serverEncryption=<em>none</em> | <em>smtps</em> | <em>starttls</em> |
  serverPort=<em>port value</em> |
  serverUsername="<em>username</em>" |
  serverPassword="<em>password</em>" |
  senderAddress="<em>emailAddress</em>" |
  additionalContactInfo="<em>filename</em>" |
  (recipientAddresses=("<em>emailAddress1</em>" ...
"<em>emailAddressN</em>") |
  addRecipientAddresses=("<em>emailAddress1</em>" ...
"<em>emailAddressN</em>"))

```

パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	<p>Eメールサーバのアドレスを設定できます。Eメールサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。</p>
「serverEncryption」	<p>サーバとの通信に使用される暗号化。次のいずれかの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>none</i>-暗号化なし • <i>smtps</i>- SSL/TLS接続を作成する(暗黙的なTLS) • <i>_STARTTLS</i> -暗号化されていない接続を作成し'SSL/TLSセッションを確立します(明示的TLS)
「サーバポート」	<p>サーバへの接続に使用するTCPポート。デフォルト値は暗号化タイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>none</i>-デフォルトはポート25です • <i>smtps</i>-デフォルトはポート465です • <i>_STARTTLS</i> -デフォルトでポート587に設定します
「serverUsername」と入力します	<p>サーバに認証クレデンシャルを提供するユーザ名。ユーザ名を指定する場合は、パスワードも指定する必要があります。</p>
「serverPassword」と入力します	<p>サーバに認証クレデンシャルを提供するためのパスワード。パスワードを指定する場合は、ユーザ名も指定する必要があります。</p>

パラメータ	説明
「senderAddress」	送信者のEメールアドレスを設定できます。
「additionalContactInfo」	Eメールアラートで使用する追加の連絡先情報が含まれているファイル名を指定できます。
「受信者住所」	受信者Eメールアドレスを設定できます。この設定オプションを使用すると、既存のEメールアドレスが消去されます。すべての名前をカッコで囲みます。各名前は二重引用符 ("") で囲みます。名前はそれぞれスペースで区切ります。
「addRecipientAddressesアドレス」	受信者Eメールアドレスを既存のリストに追加できます。すべての名前をカッコで囲みます。各名前は二重引用符 ("") で囲みます。名前はそれぞれスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set emailAlert
serverAddress="email.server.domain.com"
serverEncryption=("smtps") |
serverPort="smtps" |
serverUsername="username" |
serverPassword="password" |
senderAddress=no-reply@server.domain.com
additionalContactInfo="C:\additionalInfo.txt"
recipientAddresses=("person1@email.domain.com"
"person2@email.domain.com");"

SMcli -n Array1 -c "set emailAlert
addRecipientAddresses=("person3@netapp.com");"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では'serverEncryption'ServerPort'serverUsername'serverPassword'パラメータが追加されています

イベントアラートフィルタリングの設定 - SANtricity CLI

「set event alert」 コマンドは、特定のアラート対象イベントに関連する通知を無効または有効にすることによって、アラートイベント通知を管理します。特定のアラート対象

イベントに関する通知を無効にするには、次のコマンドを実行します。「ブロック」特定のアラート対象イベントに関する通知を有効にするには、そのイベントのブロックを解除します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません

コンテキスト (Context)

ストレージアレイを定義する際に、アラートを設定し、イベントアラートの管理方法を定義できます。アラートを送信するようにストレージアレイを設定した場合は、アラート対象イベントが発生したときに指定の受信者に通知が送信されます。通知には、次のいずれかまたはすべての種類を使用できます。

- E メール
- syslog
- SNMPトラップ通知

イベントアラートの設定CLIコマンドは、1つのストレージアレイに対して機能します。あるストレージアレイでこのコマンドを実行すると、そのストレージアレイのみにコマンドが適用されます。CLIコマンドの実行対象でない他のストレージアレイでは、デフォルトの動作が実行されます。



イベントアラートをブロックしても、イベントはシステムイベントログに記録されます。すべてのイベントは引き続きイベントログに記録されます。



このコマンドを使用して、アラート対象でないイベントをアラート対象にすることはできません。

イベントアラートをブロックする構文

```
set blockEventAlert <em>eventType</em>
```

イベントアラートをブロック解除する構文

```
set unBlockEventAlert <em>eventType</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
<code>eventType`</code>	<p>このパラメータは、イベントの整数値です。イベント値を16進形式で入力します（0x280Dなど）。値が16進形式であることを示すために、常に「* 0x」で始まるようにしてください。0xを使用しないと、ブロックまたはブロック解除コマンドが適用される前に、値が10進数として解釈されて16進値に変換されます。これにより、原因 が誤ったイベントをブロックまたはブロック解除する可能性があります。</p> <p>無効なイベントを入力すると、エラーが表示されません。</p>

最小ファームウェアレベル

8.10で

ホストの設定 - SANtricity CLI

`set host` コマンドは、ホストをホスト・グループに割り当てるか、ホストを別のホスト・グループに移動します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドでは、新しいホストグループを作成し、そのホストグループにホストを割り当てることもできます。このコマンドで実行される操作は、ホストに個別のマッピングがあるかどうかによって異なります。

構文

```
set host [hostName]
hostGroup=("<em>hostGroupName</em>" | none | defaultGroup)
userLabel="<em>newHostName</em>"
hostType=(<em>hostTypeIndexLabel</em> | <em>hostTypeIndexNumber</em>)
```

パラメータ

パラメータ	説明
ホスト	ホストグループに割り当てるホストの名前。ホスト名は角カッコ ([]) で囲みます。ホスト名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホスト名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「hostGroup」と入力します	ホストを割り当てるホストグループの名前。（次の表に、ホストに個別のマッピングがあるかどうかに関係なく、コマンドの実行方法を示します）。ホストグループ名は二重引用符 (") で囲みます。defaultGroupオプションは'ボリュームがマップされているホストを含むホスト・グループです
「userLabel」のように入力します	新しいホスト名。ホスト名は二重引用符 (") で囲みます。
「hostType」	ホストポートのホストタイプのインデックスラベルまたはインデックス番号。使用可能なホストタイプ識別子のリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを使用します。ホストタイプに特殊文字が含まれている場合は、ホストタイプを二重引用符 (") で囲みます。

ホストグループのパラメータ	ホストに個別の割り当てがあります	ホストに個別の割り当てがありません
「 <i>hostGroupName</i> 」と入力します	ホストは現在のホスト・グループから削除され' <i>hostGroupName</i> 'で定義された新しいホスト・グループの下に配置されます	ホストは現在のホスト・グループから削除され' <i>hostGroupName</i> 'で定義された新しいホスト・グループの下に配置されます
「NONE」	ホストが独立したパーティションとしてホストグループから削除され、ルートノードに配置されます。	ホストが現在のホストグループから削除され、デフォルトグループに配置されます。
defaultGroup	コマンドが失敗します。	ホストが現在のホストグループから削除され、デフォルトグループに配置されます。

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

ホストチャネルの設定 - **SANtricity CLI**

set hostChannelコマンドは'ホスト・チャネルのループIDを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set hostChannel [hostChannelNumber]  
preferredID=portID
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ホストチャネル」	<p>ループIDを設定するホストチャネルの識別番号。ホストチャネルの識別番号は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>使用するコントローラモデルに適したホストチャネル値を使用してください。コントローラトレイは、1つのホストチャネルまたは最大8つのホストチャネルをサポートします。有効なホスト・チャネル値は'A1' A2'A3""A4'A5'です A6` , A7 , A8, B1 , B2 ` , 「B3」、「B4」、「B5」、「B6」、「B7」、または「B8」。</p>
「preferredID`」	指定したホストチャネルのポート識別子。ポートIDの値は0～127です

ホストグループの設定 - SANtricity CLI

set hostGroup コマンドは、ホスト・グループの名前を変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set hostGroup [<em>hostGroupName</em>]  
userLabel="<em>newHostGroupName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「hostGroup」と入力します	名前を変更するホストグループの名前。ホストグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。ホストグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホストグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「userLabel」のように入力します	ホストグループの新しい名前。新しいホストグループ名は二重引用符 (") で囲みます。

注：

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

6.10

ホストポートの設定 - SANtricity CLI

set HostPort コマンドは、ホスト・ポートのプロパティを変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800

、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



iSCSI環境では、ホストポートがイニシエータとみなされるため、このコマンドは機能しません。代わりに'set iscsiInitiator'コマンドを使用しますを参照してください [iSCSIイニシエータを設定する](#)。

構文

```
set hostPort [<em>portLabel</em>] userLabel=<em>newPortLabel</em>
[host=<em>hostName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ホストポート」	ホストタイプを変更するホストポートの名前、または新しい名前を作成するホストポートの名前。ホストポート名は角かっこ ([]) で囲みます。ホストポート名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホストポート名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲みます。
「userLabel」 のように入力します	ホストポートに付ける新しい名前。ホストポートの新しい名前は二重引用符 (") で囲みます。
ホスト	HBAまたはHCAホストポートを定義するホストの名前。ホスト名は二重引用符 (") で囲みます。

注：

ユーザラベルには、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

6.10

イニシエータの設定 - SANtricity CLI

set initiatorコマンドは'イニシエータ・オブジェクトを更新します

サポートされているアレ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [iSCSIイニシエータを設定する](#) コマンドを実行します



このコマンドは、iSCSI、iSER、NVMe over RoCE、NVMe over InfiniBand、NVMe over Fibre Channelに対してのみ使用できます。

構文

```
set initiator (["initiatorName"] | <"initiatorQualifiedName">)  
([userLabel="newInitiatorName"] |  
[host="newHostName"] | [chapSecret="newSecurityKey"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
イニシエータ	プロパティを設定するイニシエータIDを指定できます。名前は二重引用符("")で囲みますさらに、値がユーザラベルである場合は名前を角かっこ ([]) で、値が修飾名 (iqnやnqnなど) である場合は名前を山かっこ (<>) で囲む必要があります。
「userLabel」のように入力します	イニシエータオブジェクトの新しいユーザラベルを入力できます。新しいユーザラベルは二重引用符 ("") で囲みます。
ホスト	ホストポートを接続する新しいホストを入力できます。ホスト名は二重引用符 ("") で囲みます。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用する新しいセキュリティキーを入力できます。セキュリティキーは二重引用符 ("") で囲みます。このパラメータは'iSCSI'およびiSERのホスト・インターフェイス・タイプにのみ適用できます

iSCSIイニシエーターの設定 - SANtricity CLI

set iscsiInitiator コマンドは iSCSI イニシエーターの属性を設定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [イニシエーターの設定](#) コマンドを実行します

構文

```
set iscsiInitiator (["<em>initiatorUserLabel</em>"] |  
<"_iscsiInitiatorName_">)  
(userLabel="<em>newName</em>" |  
host="<em>newHostName</em>" |  
chapSecret="<em>newSecurityKey</em>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「initiatorUserLabel」のように入力します	<p>属性を設定するiSCSIイニシエータのユーザラベル。iSCSIイニシエータのユーザラベルは、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p> <div>  <p>イニシエータのユーザラベルの先頭には、ホストポートが接続されているホスト名を指定します。ホストにはホストポート識別子が複数存在する可能性があるため、ホストポートIDには一意のサフィックスを使用します。ホスト名がICTM1590S02H1の場合、イニシエータラベルは次のようになります。</p> </div> <pre>set iscsiInitiator ["ICTM1590S02H1_AA"]</pre>
「iscsiInitiatorName」のように指定します	<p>属性を設定するイニシエータの名前。「iscsiInitiatorName」は、二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。</p> <div>  <p>「iscsiInitiatorName」は、iSCSI Qualified Name (iqn) です。次に例を示します。</p> </div> <pre>set iscsiInitiator <"iqn.2016-11.com.vmware.iscsi:ictm1509s02h1"></pre>

パラメータ	説明
「userLabel」のように入力します	<p>iSCSIイニシエータに使用する新しいユーザラベル。新しいユーザラベルは二重引用符 ("") で囲みます。</p> <div>  <p>イニシエータユーザラベルは、ホストポートが接続されているホスト名で始めることを推奨します。ホストにはホストポート識別子が複数存在する可能性があるため、ホストポートIDには一意のサフィックスを使用します。ホスト名がICTM1590S02H1の場合、イニシエータのユーザラベルの例を示します。</p> </div> <pre>set iscsiInitiator ["ICTM1590S02H1_AA"]</pre>
ホスト	<p>ホストポートを接続する新しいホストの名前。ホスト名は二重引用符 ("") で囲みます。次に例を示します。</p> <pre>["ICTM1590S02H2"]</pre>
「チャプターシークレット」	<p>ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。セキュリティキーは二重引用符 ("") で囲みます。</p>

注：

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAPは、_secret_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret'パラメータを使用しますCHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペース	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	
,	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C

D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\]	^	_	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

iSCSI ターゲットのプロパティを設定する - SANtricity CLI

set iscsiTargetコマンドはiSCSIターゲットのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ターゲットのプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

構文

```
set iscsiTarget ["<em>userLabel</em>"]
authenticationMethod=(none | chap) |
chapSecret=<em>securityKey</em> |
targetAlias="<em>userLabel</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iscsiTarget」と入力します	プロパティを設定するiSCSIターゲット。「 <i>userLabel</i> 」は二重引用符（""）で囲みます。また'ユーザー・ラベルがターゲット・エイリアスである場合は' <i>userLabel</i> 'を角かっこ（[]）で囲む必要がありますユーザー・ラベルがiSCSI Qualified Name (IQN)である場合は'山かっこ（<>）で囲む必要があります
「authenticationMethod」を指定します	iSCSIセッションを認証する手段。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。
targetAlias	ターゲットに使用する新しい名前。名前は二重引用符（""）で囲みます。

注：

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル（CHAP）は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAPは、_secret_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret/パラメータを使用しますCHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペース	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	
、	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C
D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\]	^	_	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

iSERターゲットの設定 - SANtricity CLI

set iserTargetコマンドはiSERターゲットのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイ環境 SMcliパッケージがすべてインストールされていれば、EF600およびEF300アレイ

ロール

このコマンドをE2800、E5700、EF600、またはEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ターゲットのプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

構文

```
set iserTarget ["<em>userLabel</em>"]
authenticationMethod=(none | chap) |
chapSecret=<em>securityKey</em> |
targetAlias="<em>userLabel</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iserTarget」と入力します	プロパティを設定するiSERターゲット。「userLabel」は二重引用符 ("")で囲みます。また'ユーザー・ラベルがターゲット・エイリアスである場合は'userLabel'を角かっこ ([])で囲む必要がありますユーザー・ラベルがiSCSI Qualified Name (IQN)である場合は'山かっこ (<>)'で囲む必要があります
「authenticationMethod」を指定します	iSCSIセッションを認証する手段。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。
targetAlias	ターゲットに使用する新しい名前。名前は二重引用符 ("")で囲みます。

注：

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAPは、_secret_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret'パラメータを使用しますCHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペース	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	
,	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C
D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\]	^	—	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

最小ファームウェアレベル

8.20で

8.41で、このコマンドは廃止されました。

セッションの設定 - **SANtricity CLI**

「set session errorAction」 コマンドは、現在のスクリプトエンジンセッションの実行方法を定義します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、Security Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)


このコマンドでは、セッションはコマンドの実行期間に限定されます。ストレージアレイに対してパラメータが永続的に設定されるわけではありません。

構文

```
set session errorAction=(stop | continue)
password="storageArrayPassword"
performanceMonitorInterval=intervalValue
performanceMonitorIterations=iterationValue
```

```
set session errorAction=(stop | continue)
password="storageArrayPassword"
userRole=(admin | monitor)
performanceMonitorInterval=intervalValue
performanceMonitorIterations=iterationValue
```

パラメータ

パラメータ	説明
「errorAction」	処理中にエラーが発生した場合のセッションの応答方法。エラーが発生した場合にセッションを停止するか、セッションを続行するかを選択できます。デフォルト値は「stop」です。（このパラメータは、構文エラーではなく実行エラーに対する処理を定義します。エラー条件によっては、「continue」の値が無効になる場合があります）。
「 password 」と入力します	<div>ストレージアレイのパスワード。パスワードは二重引用符 ("") で囲みます。</div> <div><div></div><div>クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'このパラメータは使用されませんパスワードはCLIコマンドスクリプトの実行前に指定する必要があります、スクリプトの実行中は変更できません。</div></div>

パラメータ	説明
'performanceMonitorInterval'	<p>パフォーマンスデータを収集する頻度。データをキャプチャするポーリング間隔の整数値を秒単位で入力します。値の範囲は'3'~3600秒ですデフォルト値は「5'秒」です。</p> <div>  <p>クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'このパラメータは使用されませんデフォルトの間隔を変更するには、代わりに影響を受ける個々のコマンドでこのパラメータを使用します。このコマンドは'save storageArray performanceStatsおよびshow drive performanceStatsです</p> </div>
'performanceMonitorIterations'	<p>キャプチャするサンプルの数。整数値を入力します。キャプチャされるサンプルの値の範囲は'1'~3600ですデフォルト値は「5」です。</p> <div>  <p>クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'このパラメータは使用されませんデフォルトのイテレーション値を変更するには、代わりに影響を受ける個々のコマンドでこのパラメータを使用します。このコマンドは'save storageArray performanceStatsおよびshow drive performanceStatsです</p> </div>

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

パスワードは、管理ドメイン内の各ストレージアレイに保存されます。以前にパスワードが設定されていない場合は、パスワードは必要ありません。パスワードは、最大30文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。（ストレージアレイのパスワードは、「set storageArray」コマンドを使用して定義できます）。

指定したポーリング間隔とサンプル数は、セッションを終了するまで有効です。セッションを終了すると、ポーリング間隔とサンプル数がデフォルト値に戻ります。

最小ファームウェアレベル

5.20

8.40 -クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'password'UserRole"performanceMonitorInterval'および'performanceMonitorIterations'パラメータを廃止しました

スナップショットグループのスケジュールを設定する - SANtricity CLI

set snapGroup enableScheduleコマンドは'スナップショット・グループのスナップショ

ット・イメージを取得するスケジュールを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]
enableSchedule=(TRUE | FALSE)
schedule (immediate | snapshotSchedule)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	プロパティを設定するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「enableSchedule」	このパラメータを使用して、Snapshot処理のスケジュール機能をオンまたはオフにします。スナップショットのスケジュール設定をオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますスナップショットのスケジュール設定をオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

enableScheduleパラメータとscheduleパラメータを使用すると'スナップショット・グループのスナップショット・イメージの作成をスケジュールできますこれらのパラメータを使用すると、日単位、週単位、または月単位（曜日単位または日付単位）でSnapshotをスケジュールできます。enableScheduleパラメータは'スナップショットをスケジュールする機能をオンまたはオフにしますスケジュールリングをイネーブルにする場合は'schedule'パラメータを使用して'スナップショットをいつ実行するかを定義します

次に'schedule'パラメータのオプションの使用方法を示します

- 「immediate」 --コマンドを入力すると'スナップショット・イメージが作成され'コピー・オン・ライト・オペレーションが開始されます

- `startDate` --スナップショットイメージを作成してcopy-on-write操作を実行する特定の日付日付の入力形式は「MM:DD:YY」です。開始日を指定しない場合は、現在の日付が使用されます。このオプションの例は'`startDate=06:27:11`'です
- `scheduleDay` --スナップショットイメージを作成してcopy-on-write処理を実行する曜日を指定します。これらの値は'`Monday`'`Tuesday`'`Tuesday`'`Wednesday`'`Thursday`'`Friday`', 「土曜日」、「日曜日」、「すべて」。このオプションの例は'`scheduleDay=wednesday`'です
- `startTime` --スナップショットイメージを作成し'コピー・オン・ライト操作を開始する時刻時刻の入力形式は「HH:MM」です。「HH」は時間、「MM」は時間を過ぎた分です。24時間制を使用します。たとえば、午後2:00は14:00です。このオプションの例は'**`startTime=14:27`**'です
- `scheduleInterval` - copy-on-write処理の間に最小値を設定する時間（分単位）。コピー処理の実行時間によっては、複数のcopy-on-write処理が重複して実行されるようなスケジュールが作成される可能性があります。このオプションを使用すると、copy-on-write処理が間隔を空けて実行されるようになります。「`scheduleInterval`」オプションの最大値は1440分です。このオプションの例は「*
`scheduleInterval=180 *`」です。
- `endDate` --スナップショットイメージの作成を停止してcopy-on-write操作を終了する特定の日付日付の入力形式は「MM:DD:YY」です。このオプションの例は'**`endDate=11:26:11`**'です
- `noEndDate`--スケジュールされたcopy-on-write操作を終了させない場合は'このオプションを使用します後でコピー・オン・ライト操作を終了する場合は'`set snapGroup`コマンドを再入力し'終了日を指定する必要があります
- `timesPerDay`-スケジュールを1日に実行する回数このオプションの例は'`timesPerDay=4`'です
- `timezone`-ストレージレイが動作しているタイムゾーンを定義するには、このパラメータを使用します。タイムゾーンは次の2つの方法のいずれかで定義できます。
 - '`GMT±HH:mm`'-- GMTからのタイムゾーンオフセット。オフセットを時間と分で入力します。たとえば、GMT-06:00は米国の中央タイムゾーンです。
 - テキスト文字列—標準的なタイムゾーンのテキスト文字列。たとえば、「America/Chicago」または「Australia/Brisbane」と入力します。タイムゾーンのテキスト文字列では大文字と小文字が区別されます。誤ったテキスト文字列を入力すると、GMT時間が使用されます。テキスト文字列は二重引用符で囲みます。

スケジュールを定義するためのコード文字列の例を次に示します。

```
enableSchedule=true schedule startTime=14:27
```

```
enableSchedule=true schedule scheduleInterval=180
```

```
enableSchedule=true schedule timeZone=GMT-06:00
```

```
enableSchedule=true schedule timeZone="America/Chicago"
```

「`scheduleInterval`」オプションも使用する場合、ファームウェアでは、2つのオプションの最小値を選択することにより、「`timesPerDay`」オプションと「`scheduleInterval`」オプションの間が選択されます。ファームウェアは、「`scheduleInterval`」オプションの値を設定した「`scheduleInterval`」オプションの値で1440を割るこ

とによって、「scheduleInterval」オプションの整数値を計算します。たとえば、 $1440/180 = 8$ のようになります。ファームウェアは'timesPerDay'の整数値と'計算されたscheduleInterval'の整数値を比較し'より小さい値を使用します

スケジュールを削除するには'schedule'パラメータを指定してdelete volumeコマンドを使用します'schedule'パラメータを指定してdelete volumeコマンドを実行すると'スケジュールのみが削除され'スナップショット・ボリュームは削除されません

最小ファームウェアレベル

7.83

7.86で、「scheduleDate」オプションおよび「month」オプションが追加されました。

スナップショットグループリポジトリボリューム容量の設定 - SANtricity CLI

set snapGroup increase/decreaseRepositoryCapacityコマンドは'スナップショット・グループのリポジトリ・ボリュームの容量を増減します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

容量を増やすための構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"] increaseRepositoryCapacity
(repositoryVolumes="repos_xxxx" |
repositoryVolumes=((<em>volumeGroupName</em>
[capacity=<em>capacityValue</em>]))) |
repositoryVolumes=((<em>diskPoolName</em>
[capacity=<em>capacityValue</em>]))))
```

容量を減らす場合の構文

```
set snapGroup ["snapGroupName"]
decreaseRepositoryCapacity
count=numberOfVolumes
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	容量を増減するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角っこ（[]）で囲みます。
リポジトリボリューム	<p>容量を拡張するリポジトリボリュームの名前。使用可能な標準ボリュームがリポジトリボリュームに追加され、リポジトリボリュームの容量が拡張されます。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存のリポジトリボリュームの名前を使用します • このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「repos」という用語 • ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子 <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符（"）で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベースボリュームの容量の割合を表す整数値 • ベースボリュームの容量の割合を表す小数値 • リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes' 'KB' 'MB' 'GB' 'TB'の単位で定義されます <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>このコマンドを実行すると、ストレージ管理ソフトウェアによって、Snapshotボリューム用のリポジトリボリュームが作成されます。</p>

パラメータ	説明
「count」	Snapshotグループから削除するリポジトリボリュームの数。整数値を使用します。

注：

ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

リポジトリボリュームの名前は、新しいSnapshotグループを作成するときに、ストレージ管理ソフトウェアおよびファームウェアによって自動的に作成されます。リポジトリボリュームの名前は変更できません。名前を変更すると、Snapshotイメージとのリンクが切断されます。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットグループのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI

set snapGroup mediaScanEnabledコマンドは'スナップショット・グループ上でメディア・スキャンを実行します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	メディアスキャンを実行するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットグループ属性の設定 - SANtricity CLI

set snapGroupコマンドは'スナップショット・グループのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]  
[userLabel="<em>snapGroupName</em>"] |  
[repositoryFullPolicy=(failBaseWrites | purgeSnapImages)] |  
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em> ] |  
[autoDeleteLimit=<em>numberOfSnapImages</em>] |  
[rollbackPriority=(lowest | low | medium | high | highest)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	プロパティを設定するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「userLabel」 のように入力します	Snapshotグループに付ける新しい名前。このパラメータは、Snapshotグループの名前を変更する場合に使用します。新しいSnapshotグループ名は二重引用符 ("") で囲みます。
repositoryFullPolicy	Snapshotイメージグループのリポジトリボリュームが上限に達している場合にSnapshotイメージ処理をどのように続行するかを指定します。ベースボリュームへの書き込みを停止する (failBaseWrites) か、Snapshotイメージを削除 (パージ) する (purgeSnapImages) かを選択できます。デフォルトのアクションはpurgeSnapImagesです
repositoryFullLimit	リポジトリボリュームの容量がこの割合に達すると、Snapshotイメージのリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。
'autoDeleteLimit'	リポジトリフルポリシーのSnapshotイメージのパージを選択した場合に自動的に削除するSnapshotイメージの最大数。整数値を使用します。デフォルト値は32です。

パラメータ	説明
「rollBackPriority」を参照してください	このパラメータを使用して、システムパフォーマンスを犠牲にしてシステムリソースをロールバック処理に割り当てるかどうかを決定します。有効な値は'high'high'medium'low'low'low'low'です。ロールバック操作が他のすべてのホストI/Oより優先されることを示しますlowestの値は'ホストI/Oへの影響を最小限に抑えてロールバック操作を実行することを示します

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

最小ファームウェアレベル

7.83

読み取り専用スナップショットボリュームを読み取り/書き込みボリュームに設定する - SANtricity CLI

set snapVolume convertToReadWriteコマンドは'読み取り専用ボリュームであるスナップショット・ボリュームを'読み取り/書き込みボリュームであるスナップショット・ボリュームに変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドを使用して、読み取り/書き込みボリュームに新しいリポジトリボリュームを指定したり、リポジトリボリュームのフルの警告レベルを設定したりすることもできます。

構文

```
set snapVolume ["<em>snapImageVolumeName</em>"] convertToReadWrite  
[(repositoryVolume="repos_xxxx" |  
repositoryVolume=(<em>volumeGroupName</em>)  
[capacity=<em>capacityValue</em>])  
repositoryVolume=(<em>diskPoolName</em>)  
[capacity=<em>capacityValue</em>]]  
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	読み取り専用から読み取り/書き込みに変更するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。

パラメータ	説明
リポジトリボリューム	<p>読み取り/書き込みボリュームに使用するリポジトリボリュームの名前。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存のリポジトリボリュームの名前を使用します • このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「repos」という用語 • ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子 <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符 ("") で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベースボリュームの容量の割合を表す整数値 • ベースボリュームの容量の割合を表す小数値 • リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>このコマンドを実行すると、ストレージ管理ソフトウェアによって、Snapshotボリューム用のリポジトリボリュームが作成されます。</p>
repositoryFullLimit	<p>リポジトリボリュームの容量がこの割合に達すると、Snapshotイメージのリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。</p>

注：

ユーザラベルには、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

リポジトリボリュームの名前は、新しいSnapshotグループを作成するときに、ストレージ管理ソフトウェアおよびファームウェアによって自動的に作成されます。リポジトリボリュームの名前は変更できません。名前を変更するとSnapshotイメージとのリンクが切断されます。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームのリポジトリボリューム容量を設定する - **SANtricity CLI**

set snapVolume increase/decreaseRepositoryCapacity コマンドは'スナップショット・ボリュームのリポジトリ・ボリュームの容量を増減します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

容量を増やすための構文

```
set snapVolume["snapVolumeName"] increaseRepositoryCapacity
(repositoryVolumes="repos_xxxx" |
repositoryVolumes=(<em>volumeGroupName</em>)
[capacity=<em>capacityValue</em>] |
repositoryVolumes=(<em>diskPoolName</em>)
[capacity=<em>capacityValue</em>])
```

容量を減らす場合の構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"] decreaseRepositoryCapacity
count=<em>numberOfVolumes</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	プロパティを設定するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。

パラメータ	説明
リポジトリボリューム	<p>容量を拡張するリポジトリボリュームの名前。使用可能な標準ボリュームがリポジトリボリュームに追加され、リポジトリボリュームの容量が拡張されます。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存のリポジトリボリュームの名前を使用します • このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「repos」という用語 • リポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子 <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符（""）で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベースボリュームの容量の割合を表す整数値 • ベースボリュームの容量の割合を表す小数値 • リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>新しいリポジトリボリュームの名前は丸かっこで囲みます。</p>
「count」	<p>削除するボリュームの数。整数値を使用します。</p>

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

Snapshotリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI

「set snapVolume mediaScanEnabled」コマンドは、スナップショットボリュームに使用されているドライブ上でメディアスキャンを実行します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

必要に応じて、データの冗長性チェックを実行することもできます。

構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]  
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE) [redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	プロパティを設定するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
mediaScanEnabled	Snapshotボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームの名前変更 - SANtricity CLI

set snapVolume コマンドは既存のスナップショット・ボリュームの名前を変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]
userLabel="<em>snapImageVolumeName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	名前を変更するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「userLabel」 のように入力します	Snapshotボリュームに付ける新しい名前。新しいSnapshotボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMPコミュニティの更新 - SANtricity CLI

「set snmpcommunity」 コマンドは、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) コミュニティに新しい名前を作成します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set snmpCommunity communityName="snmpCommunityName"
newCommunityName="newSnpCommunityName"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「CommunityName」 の略	名前を変更する既存のSNMPコミュニティの名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。

パラメータ	説明
「newCommunityName」と入力します	SNMPコミュニティに付ける新しい名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMP MIB II システムグループ変数の更新 - SANtricity CLI

set snmpSystemVariables コマンドは、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のシステム変数を変更します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

次のシステム変数は、Management Information Base II (MIB-II) データベースで管理されています。

- システムの名前
- システム担当者の名前
- システムの場所

構文

```
set snmpSystemVariables
[sysName=<em>newSystemName</em>]
[sysContact=<em>contactName</em>]
[sysLocation=<em>systemLocation</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「sysName」と入力します	SNMPシステムに付ける新しい名前。システム名には、SNMPおよびMIBの標準の規則を使用します。SNMPシステム名は角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
「sysContact」と入力します	管理下システムの担当者の名前と、この担当者への連絡方法に関する情報。SNMP担当者名は角かっこ ([]) で囲みます。
「sysLocation」と入力します	システムの物理的な場所（「3rd FLR」など）。SNMPシステムの場所は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPトラップの送信先を更新する - SANtricity CLI

set snmpTrapDestination trapReceiveripコマンドを使用すると、SNMPトラップの送信先に関する認証エラーメッセージの送信をオンまたはオフにできます。エラーは、SNMPエージェントがSNMPマネージャからメッセージを受信したが、メッセージに無効なコミュニティ名またはユーザ名が含まれている場合に発生します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set snmpTrapDestination trapReceiverIP=ipAddress
(communityName="<em>communityName</em>" | (userName="<em>userName</em>"
[engineId=(local | engineId)]))
[sendAuthenticationFailureTraps=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「trapReceiverIP」と入力します	トラップメッセージの送信先であるSNMPマネージャのIPアドレス。

パラメータ	説明
「CommunityName」の略	トラップメッセージを送信するSNMPコミュニティの名前。
「ユーザ名」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザの名前。
「engineID」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は、「local」です。ローカルSNMPエージェントは、権限のあるエージェントであるか、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定する16進数の文字列です。
「sendAuthenticationFailureTraps」	このパラメータは、SNMPマネージャへの認証エラーメッセージの送信をオンまたはオフにします。認証失敗メッセージを送信するには、パラメータを「true」に設定します。認証失敗メッセージを送信しないようにするには、パラメータをFALSEに設定します。デフォルトは「true」です。

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPv3 USMユーザーの更新 - SANtricity CLI

set snmpUser usernameコマンドは、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）USMユーザを更新します。ユーザ名を持つユーザが1人だけの場合は、変更するUSMユーザがユーザ名で識別されます。ユーザ名とエンジンIDが同じでないユーザが複数ある場合、そのユーザはユーザ名とエンジンIDで識別されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set snmpUser userName="snmpUserName" [engineId=(local | engineId)]
[newUserName="newSnmpUserName"] [newEngineId=(local | engineId)]
[authProtocol=(none | sha | sha256 | sha512) authPassword="authPassword"]
[privProtocol=(none | aes128) privPassword="privPassword"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ユーザ名」	更新するSNMP USMユーザの名前。SNMP USMユーザ名を二重引用符 ("") で囲みます。
「engineId」	更新するSNMP USMユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は'local'である場合もあれば'リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定するための16進数の数値文字列である場合もあります
「newSnmpUserName」を選択します	SNMPユーザに付ける新しい名前。SNMPユーザ名は二重引用符 ("") で囲みます。デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたユーザ名です。
「newEngineId」	ユーザの信頼できるSNMPエンジンIDの識別子として使用する新しいエンジンID。ローカルSNMPエージェントを権限のあるエージェントに指定する場合は「[.code] local」、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定する場合は16進数の文字列を指定する場合は「[.code] local」となります。デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたエンジンIDです。
「authProtocol」	<p>ユーザに使用するHMAC（認証プロトコル）。次のいずれかの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 'none'- SNMPメッセージの認証なし（デフォルト） • sha`SHA-1認証 • 「SHA256」 -SHA-256認証を使用します • 「SHA512` -SHA-512認証」を参照してください <p>デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義された認証プロトコルです。</p>
「authPassword」	ユーザの認証に使用するパスワード。認証プロトコルがSHA、SHA256、またはSHA512'の場合に指定する必要があります

パラメータ	説明
「プライベートプロトコル」	<p>ユーザに使用されるプライバシープロトコル（暗号化）。次のいずれかの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 'none'- SNMPメッセージの暗号化なし（デフォルト） • aes128-aes-18暗号化 <p>デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたプライバシープロトコルです。</p>
「プライベートパスワード」	<p>ユーザのプライバシー/暗号化に使用するパスワード。プライバシープロトコルが「aes128」の場合は、この値を指定する必要があります。</p>

最小ファームウェアレベル

8.72

ストレージアレイの自動ロードバランシングを有効または無効に設定する - SANtricity CLI

set storageArray autoLoadBalancingEnableコマンドは、自動ロードバランシング機能を有効または無効にします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray autoLoadBalancingEnable=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「storageArray storageArray storageArray」	このパラメータがストレージアレイに対して機能することを示します。

パラメータ	説明
autoLoadBalancingEnable	このパラメータは、コントローラの自動ロードバランシングをオンまたはオフにします。自動ロードバランシングをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。自動ロードバランシングをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。

自動ロードバランシングとは何ですか？

自動ロードバランシング機能を使用すると、負荷の変化に動的に対応してボリュームのコントローラ所有権が自動的に調整されるため、コントローラ間でワークロードが移動する際の負荷の不均衡が解消され、I/Oリソースの管理が強化されます。

各コントローラのワークロードは継続的に監視され、ホストにインストールされたマルチパスドライバとの連携により、必要に応じて自動的に負荷を分散できます。ワークロードがコントローラ間で自動的に再分散されるため、ストレージレイの負荷の変化に合わせてボリュームのコントローラ所有権を手動で調整する必要がなくなり、ストレージ管理者の負担が軽減されます。

自動ロードバランシングを有効にすると、次の機能が実行されます。

- コントローラのリソース利用率を自動的に監視して負荷を分散します。
- ボリュームのコントローラ所有権が必要に応じて自動的に調整され、ホストとストレージレイの間のI/O帯域幅が最適化されます。

自動ロードバランシングの有効化と無効化

自動ロードバランシングは、SANtricity OS（コントローラソフトウェア）8.30以降に付属のすべてのストレージレイでデフォルトで有効になります。Linux、Windows、VMwareのマルチパスドライバでは、自動ロードバランシング機能を使用できます。コントローラをSANtricity OS（コントローラソフトウェア）8.25以前から8.30以降にアップグレードした場合、自動ロードバランシングはストレージレイでデフォルトで無効になります。

自動ロードバランシングは、ストレージレイの状況に応じて無効にすることができます。たとえば、次のような場合です。

- 特定のボリュームのコントローラ所有権については、ワークロードを分散するために自動的に変更されないようにする場合。
- 高度に調整された環境で、コントローラ間の負荷分散が特定の要件を満たすように意図的に設定されている。

SANtricity Storage Managerで、個別のストレージレイの自動ロードバランシング機能を有効または無効にするには、ストレージレイ>*構成*>*自動ロードバランシング*メニューオプションを選択します。

SANtricity システムマネージャで、**Settings**>*System*を選択し、*Additional Settings*セクションまで下にスクロールして、**Enable/Disable automatic load balancing** チェックボックスを選択して、個々のストレージレイの機能をイネーブルまたはディセーブルにします。

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoLoadBalancingEnable=true;"

SMcli completed successfully.
```



「ドライブがプライマリパスを喪失」状態がアクティブな場合、自動ロードバランシングがワークロードを分散することができません。自動ロードバランシング機能でワークロードが分散されるためには、この状態が非アクティブである必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.30

AutoSupport メッセージ収集スケジュールの設定 - SANtricity CLI

set storageArray autoschedule' AutoSupport コマンドは、AutoSupport メッセージを送信する毎日および毎週の時間と曜日を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ドメイン内のストレージアレイについて、毎日および毎週のどのタイミングでメッセージを送信するかの範囲（時間単位）を指定できます。
- 週次スケジュールの場合は、AutoSupport による収集と送信を優先する曜日を選択します。

構文

```
set storageArray autoSupport schedule dailyTime=<em>startTime-endTime</em>
[dayOfWeek=(Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday)]
weeklyTime=<em>startTime-endTime</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「dailyTime」	<`startTime`>-<`endTime`>-すべてのストレージレイのAutoSupport データの収集を開始および終了する時刻を指定しますstartTimeとendTimeは24時間形式のHH：00で、時刻を指定する必要があります。たとえば、午後9時などです「21：00」と入力する必要があります。
「DayOfWeek」	(Sunday
Monday	Tuesday
Wednesday	Thursday
Friday	Saturday) AutoSupport バンドル収集データの収集を優先する曜日（日曜~土曜）を指定します（複数可）。「DayOfWeek」パラメータは、括弧で囲み、スペースで区切る必要があります。
「weeklyTime」	<`startTime`>-<`endTime`>-選択した曜日ごとにAutoSupport バンドル収集データの収集を開始および終了する時刻を指定します。「startTime」と「endTime」はHH：MM[am

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport schedule dailyTime=14:00-15:00 weeklyTime=1:00-5:00;"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport schedule dailyTime=14:00-15:00 dayOfWeek=(Monday Friday) weeklyTime=1:00-5:00;"

SMcli completed successfully.
```

検証

スケジュールの変更結果を確認するには、「show storageArray autoSupport AutoSupport」コマンドを使用します。

最小ファームウェアレベル

8.40

AutoSupport メンテナンス ウィンドウを有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray autoSupportMaintenanceWindowコマンドは、AutoSupport メンテナンスウィンドウ機能をオンまたはオフにします。

メンテナンス期間を使用して、エラーイベント発生時に自動でチケットが作成されないようにします。通常運用モードでは、問題 がある場合、ストレージアレイはAutoSupport を使用してテクニカルサポートにケースをオープンします。AutoSupport がメンテナンス期間に入ると、この機能は抑制されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray autoSupportMaintenanceWindow (enable | disable)
  emailAddresses=("emailAddress1" "emailAddress2" ...)
  [duration=<duration_in_hours>];
```

パラメータ

パラメータ	説明
「メールアドレス」	メンテナンス期間の要求が処理されたときに確認のEメールを受け取るEメールアドレスのリスト。Eメールアドレスは5つまで指定できます。
「期間」	任意。メンテナンス期間を有効にする期間（時間数）。省略した場合、サポートされる最大期間（72時間）が使用されます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow enable
  emailAddresses=\"me@company.com\" duration=5;"

SMcli completed successfully.
```

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow enable
  emailAddresses=(\"me1@company.com\" \"me2@company.com\");"

SMcli completed successfully.
```

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow disable
    emailAddress=(\"me1@company.com\" \"me2@company.com\"
\"me3@company.com\"
    \"me4@company.com\" \"me5@company.com\");"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

AutoSupport OnDemand 機能を有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray autoSupportOnDemand' コマンドは、AutoSupport OnDemand 機能をオンまたはオフにします。この機能を使用すると、テクニカルサポートはAutoSupport データ送信を調整でき、不足しているサポートデータの再送信を要求できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

この機能を有効にする前に、まずストレージアレイでAutoSupport 機能を有効にする必要があります。この機能を有効にすると、必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。

構文

```
set storageArray autoSupportOnDemand (enable | disable)
```

パラメータ

パラメータ	説明
'enable	disable

例


```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportOnDemand enable;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

検証

show storageArray storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の2行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport is enabled on this storage array.  
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.  
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage array.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

AutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray autoSupportRemoteDiagコマンドは、AutoSupport OnDemand Remote Diagnostics機能をオンまたはオフにします。この機能により、テクニカルサポートは、サポートデータを要求して問題をリモートで診断できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この機能を有効にする前に、まずAutoSupport 機能、次にAutoSupport OnDemand機能をストレージアレイ上で有効にします。

3つの機能は、次の順序で有効にする必要があります。

1. AutoSupport を有効にします
2. AutoSupport OnDemandを有効にします
3. AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします

構文

```
set storageArray autoSupportRemoteDiag (enable | disable)
```

パラメータ

パラメータ	説明
'enable	disable

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportRemoteDiag enable;"

SMcli completed successfully.
```

検証

show storageArray storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の3行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is enabled on this storage array.
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage array.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイを設定してキャッシュミラーデータアシュアランスチェックを有効または無効にする - **SANtricity CLI**

set storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnableコマンドを使用すると、キャッシュミラーのData Assuranceチェックを有効または無効にできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドパラメータが新しくなりました。

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの上書きを許可する設定 - **SANtricity CLI**

set storageArray controllerHealthImageAllowOverWriteコマンドは、コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイで、新しいコントローラヘルスイメージによって既存のコントローラヘルスイメージが上書きされるようにするフラグをコントローラに設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、コマンドはエラーを返します。



ファームウェア・バージョン8.20で'coreDumpAllowOverWrite'パラメータが'controllerHealthImageAllowOverWrite'パラメータに置き換えられました

構文

```
set storageArray controllerHealthImageAllowOverWrite
```

パラメータ

なし

注：

コントローラヘルスイメージが取得されると、「allow overwrite」フラグが設定されます。コントローラヘルスイメージが取得されない場合、イメージは48時間で期限切れになり、その後「allow overwrite」フラグが設定されます。「set storageArray controllerHealthImageAllowOverWrite」コマンドを使用して「allow overwrite」フラグを設定すると、イメージが取得された場合と同様に、48時間の期限が適用されなくなります。

最小ファームウェアレベル

7.86

8.20で'*coreDumpAllowOverWrite '*パラメータが'controllerHealthImageAllowOverWrite'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイディレクトリサーバの役割マッピングを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray DirectoryServer rolesコマンドでは、指定したディレクトリサーバのロールマッピングを定義できます。ロールマッピングは、各種のSMcliコマンドを実行しようとするユーザを認証するために使用されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

必要なもの

マッピングできるロールは次のとおりです。

- * Storage admin *--ストレージ・オブジェクト（ボリュームやディスク・プールなど）への読み取り/書き込みのフル・アクセス。セキュリティ構成へのアクセスはありません。
- * Security admin *--アクセス管理、証明書管理、監査ログ管理のセキュリティ構成へのアクセス、および従来の管理インターフェイス（SYMbol）のオン/オフの切り替え機能。
- * Support admin *--ストレージアレイのすべてのハードウェアリソース、障害データ、MELイベント、およびコントローラファームウェアアップグレードへのアクセス。ストレージオブジェクトやセキュリティ設定にはアクセスできません。
- * Monitor *--すべてのストレージオブジェクトへの読み取り専用アクセスが可能です。セキュリティ設定へのアクセスはありません。

構文

```
set storageArray directoryServer ["<em>domainId</em>"]
    groupDN="<em>groupDistinguishedName</em>"
    roles=("<em>role1</em>"..."<em>roleN</em>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「DirectoryServer」を参照してください	ロールマッピングを設定するドメインをIDで指定できます。
「groupDN」	マッピングリストに追加するグループの識別名（DN）を指定できます。
「役割」	定義したグループ内のユーザに1つ以上のロールを指定できます。複数のロールを入力する場合は、値をスペースで区切ります。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 「storage.monitor」• 「storage.admin」• 「security.admin」と入力します• 「support.admin」と入力します

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
    groupDN="CN=ng-hsg-bc-madridsecurity,OU=Managed,
    OU=MyCompanyGroups,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
    roles=("storage.monitor" "security.admin"
    "storage.admin");"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
    groupDN="CN=ng-epg-engr-manageability,OU=Managed,
    OU=MyCompanyGroups,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
    roles=("support.admin");"

SMcli completed successfully.
```

ストレージレイディレクトリサーバーの設定 - SANtricity CLI

set storageArray DirectoryServer コマンドは、ディレクトリサーバの設定を更新します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray directoryServer ["domainId"]
(domainNames=("domainName1"..."domainNameN") |
addDomainNames=("domainName1"..."domainNameN") |
serverUrl="serverUrl" |
bindAccount="username" bindPassword="password" |
searchBaseDN="distinguishedName" |
usernameAttribute="attributeName" |
groupAttributes=("attrName1"..."attrNameN") |
addGroupAttributes=("attrName1"..."attrNameN"))
[skipConfigurationTest={true | false}]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「DirectoryServer」を参照してください	設定を更新するドメインIDを指定できます。
「ドメイン名」	ディレクトリサーバに対して有効なドメイン名を1つ以上設定できます。複数の名前を入力する場合は、値をスペースで区切ります。この設定オプションを使用すると、既存のドメイン名が消去されます。
「addDomainNames」	ディレクトリサーバに対して有効なドメイン名を1つ以上追加できます。複数の名前を入力する場合は、値をスペースで区切ります。
「serverURL」	サーバのURLを指定できます。

パラメータ	説明
bindAccount	バインドアカウントとして使用するユーザ名を指定できます。
bindPassword	バインドパスワードとして使用するパスワードを指定できます。
「SearchBaseDN」	グループメンバーシップを判断するためにLDAPユーザオブジェクトを検索する検索ベース識別名を指定できます。
「ユーザ名属性」	グループメンバーシップを判断するためのユーザオブジェクトの検索に使用する属性を指定できます。指定した場合'文字列には'ログイン時に使用されるユーザ名に置き換えられる変数'{uid}'を含める必要があります例:sAMAccountName={uid}
「groupAttributes」を参照してください	<p>グループの識別名の検索に使用するグループ属性を設定できます。識別名は、ロールマッピングのグループメンバーシップを判断するために使用されます。</p> <div>  <p>複数のグループを入力する場合は、値をスペースで区切ります。</p> </div> <div>  <p>このパラメータを使用すると、既存のグループが消去されます。</p> </div>
「addGroupAttributes」を参照してください	<p>グループの識別名の検索に使用するグループ属性を追加できます。識別名は、ロールマッピングの目的でグループメンバーシップを判断するために使用されます。</p> <div>  <p>複数のグループを入力する場合は、値をスペースで区切ります。</p> </div>
skipConfigurationTest	設定が保存される前に、設定テストをスキップできます。デフォルトは「false」です。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
                serverUrl="ldaps://hqldap.eng.mycompany.com:636";"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
                bindAccount="bindDN2" bindPassword="thePassword2"
                searchBaseDN="OU=_Users,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
                usernameAttribute="sAMAccountName"
groupAttributes=("memberOf");"

SMcli completed successfully.
```

外部キー管理設定の設定 - SANtricity CLI

set storageArray externalKeyManagement コマンドは、外部キー管理サーバのアドレスとポート番号を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
set storageArray externalKeyManagement
serverAddress=<em>serverAddress</em>
serverPort=<em>portNumber</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	外部キー管理サーバのアドレスを指定できます。サーバアドレスは、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。

パラメータ	説明
「サーバポート」	外部キー管理サーバのポート番号を指定できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray externalKeyManagement
serverAddress=192.0.2.1 serverPort=8081;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ホスト接続レポートの有効化または無効化 - SANtricity CLI

set storageArray hostConnectivityReporting' コマンドは、コントローラでホスト接続レポートを有効または無効にします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray hostConnectivityReporting (enable | disable)
```

コンテキスト (Context)

ストレージアレイでホスト接続レポートを有効にすると、ストレージアレイでは、ストレージアレイのコントローラと設定されているホストの間の接続が引き続き監視され、ケーブルの緩み、損傷、欠落またはホストに関するその他の問題によって接続が中断された場合にアラートが表示されます。ストレージアレイでホストタイプが正しく指定されていない場合（フェイルオーバーで問題が発生する可能性があります）も通知されません。



ホスト接続レポートを無効にするには、まず自動ロードバランシングを無効にする必要があります。



自動ロードバランシングが無効な場合も、ホスト接続レポートは有効にしておくことができます。



ホスト接続レポートおよび自動ロードバランシングは、Linux DHALUA、Windows / Windows クラスタ、およびVMwareの各ホストタイプでのみ機能します。

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.42新しいコマンドパラメータ。

ストレージアレイのICMP応答を設定する - SANtricity CLI

set storageArray icmpPingResponse'コマンドは'セッションと接続のネゴシエーション可能な設定のデフォルト値を返しますこのデフォルト値は'ストレージ・アレイのネゴシエーション開始点を表します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray icmpPingResponse=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「icmpPingResponse」	このパラメータは、エコー要求メッセージをオンまたはオフにします。エコー要求メッセージをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。エコー要求メッセージをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。

注：

Internet Control Message Protocol (ICMP) は、ネットワーク内のオペレーティングシステムが、要求された

サービスを使用できない、ホストまたはルータにアクセスできないなど、IPに関連するエラーメッセージ、テストパケット、および情報メッセージを送信するために使用されます。ICMP応答コマンドは、ICMPエコー要求メッセージを送信し、ICMPエコー応答メッセージを受信して、ホストに到達できるかどうか、およびそのホストとのパケットの送受信にかかる時間を判断します。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの **iSNS** サーバーの **IPv4** アドレスを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray isIPv4ConfigurationMethodコマンドは、IPv4 Internet Storage Name Service (iSNS) の設定方法とアドレスを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray isnsIPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp)
isnsIPv4Address=<em>ipAddress</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択しますIPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できますDHCPを有効にするには'isnsIPV4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります
「isnsIPV4Address」と入力します	iSNSサーバに使用するIPアドレス。このパラメータは、IPv4設定の「static」値とともに使用します。DHCPサーバでIPv4インターネットiSNSサーバのIPアドレスを設定する場合は'isnsIPV4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります

注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワークのシームレスな統合を支援します。

DHCPサーバは、ネットワークアドレスなどの設定パラメータをIPノードに渡します。クライアントは、必要なすべてのIP設定パラメータをDHCPから取得できます。再利用可能なネットワークアドレスを自動的に割り当てることができます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの **iSNS** サーバの **IPv6** アドレスを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray isnsIPv6Addressコマンドは、iSNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray isnsIPv6Address=<em>ipAddress</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「isnsIPv6Address」	iSNSサーバに使用するIPv6アドレス。

注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワーク

のシームレスな統合を支援します。iSNSは、iSCSIデバイス、Fibre Channelデバイス、またはその組み合わせで構成されるストレージネットワークで価値を発揮します。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの **iSNS** サーバーのリスニングポートを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray isnsListeningPortコマンドは、iSNSサーバのリスニングポートを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray isnsListeningPort=<em>listeningPortIPAddress</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するIPアドレス。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'~65535ですデフォルト値は「53205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">受信するクライアント接続要求を監視しますサーバへのトラフィックを管理します <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>

注：

リスニングポートはデータベースサーバ上で次のアクティビティを実行します。

- 受信するクライアント接続要求をリスン（監視）しています
- サーバへのトラフィックの管理

クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの iSNS 登録を設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsRegistrationコマンドを使用するとIPv4またはIPv6のInternet Storage Name Service (iSNS) サーバのいずれかにストレージ・アレイを一覧表示できます

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

IPv4の構文

```
set storageArray isnsRegistration=(TRUE | FALSE)
isnsIPv4ConfigurationMethod=[static | dhcp]
isnsIPv4Address=<em>ipAddress</em>
[isnsListeningPort]
```

IPv6の構文

```
set storageArray isnsRegistration=(TRUE | FALSE)
isnsIPv6Address=<em>ipAddress</em>
[isnsListeningPort]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「isnsRegistration」	<p>iSNSサーバにiSCSIターゲットを登録するかどうか。iSCSIターゲットを一覧表示するには'パラメータをTRUEに設定します</p> <p>このパラメータを「true」に設定した場合、IPv4設定にも次のパラメータを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「isnsIPV4ConfigurationMethod」 • 「isnsIPV4Address」と入力します <p>このパラメータを「true」に設定した場合、IPv6設定にも次のパラメータを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「isnsIPV6Address」 <p>オプションで'isnsListeningPort'パラメータを使用して'ポートモニタを定義し'サーバへのトラフィックを管理することもできます</p> <p>iSNSサーバからストレージレイの登録を削除するには、このパラメータをFALSEに設定します。</p>
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	<p>iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択しますIPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できますDHCPを有効にするには'isnsIPV4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります</p>
「isnsIPV4Address」と入力します	<p>iSNSサーバへの接続に使用するIPv4アドレス。このパラメータは、IPv4設定の「static」値とともに使用します。DHCPサーバでIPv4インターネットiSNSサーバのIPアドレスを設定する場合は'isnsIPV4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります</p>
「isnsIPV6Address」	<p>iSNSサーバへの接続に使用するIPv6アドレス。</p>

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するポート番号。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'~65535ですデフォルト値は「3205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受信するクライアント接続要求を監視します • サーバへのトラフィックを管理します <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>

注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワークのシームレスな統合を支援します。

DHCPサーバは、ネットワークアドレスなどの設定パラメータをIPノードに渡します。クライアントは、必要なすべてのIP設定パラメータをDHCPから取得できます。再利用可能なネットワークアドレスを自動的に割り当てることができます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの iSNS サーバーの更新を設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsServerRefreshコマンドは、iSNSサーバのネットワークアドレス情報を更新します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドはIPv4に対してのみ有効です。

構文

```
set storageArray isnsServerRefresh
```

パラメータ

なし

注：

DHCPサーバがフル機能で動作していない場合やDHCPサーバが応答しない場合は、更新処理に2~3分かかることがあります。

設定方法をDHCPに設定していない場合は、「set storageArray isnsServerRefresh」コマンドによってエラーが返されます。設定方法をDHCPに設定するには、「set storageArray isnsIPV4ConfigurationMethod」コマンドを使用します。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイコントローラのバッテリー学習サイクルを設定する - SANtricity CLI

set storageArray learnCycleDate controllerコマンドは、コントローラのバッテリー学習サイクルを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ストレージアレイの各コントローラに別々の学習サイクルを設定するには、両方のコントローラにこのコマンドを送信します。



学習サイクルはリンクされないため、一方のコントローラのバッテリー学習サイクルが中断しても、もう一方のコントローラのバッテリー学習サイクルには影響しません。



学習サイクルの完了には数時間かかることがあります。

構文

```
set storageArray learnCycleDate (controller[(a| b)] )  
(daysToNextLearnCycle=<em>numberOfDays</em> |  
day=<em>dayOfTheWeek</em>) time=<em>HH:MM</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「* controller *」と入力します	<p>バッテリー学習サイクルを指定するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラファームウェアから構文エラーが返されます。</p> <div><p>このパラメータを省略すると、デュアルコントローラアレイの両方のコントローラのバッテリー学習サイクルが設定されます。</p></div>
「daysToNextLearnCycle」	有効な値は'0'~'7'です。ここで'0'はすぐに'7'は7日以内です。「daysToNextLearnCycle」パラメータは、次の学習サイクルのあと7日以内に実行されます。
日	'day'パラメータの有効な値は曜日です(Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, and Saturday)。曜日を設定すると、現在スケジュールされている学習サイクルのあと、指定した曜日に次の学習サイクルがスケジュールされます。
「time」	24時間形式の時刻。たとえば、午前8:00などです。「08:00」と入力します。午後9時「21:00」と入力し、午後9:30と入力します「21:30」と入力します。

例

```
set storageArray learnCycleDate controller [a] daysToNextLearnCycle=4  
time=08:30;
```

注：

学習サイクルは、7日間に1回だけ実行されるように設定できます。

'time'パラメータは'学習サイクルを実行する特定の時刻を選択します値を入力しない場合、コマンドはデフォルト値の「00：00」（深夜0時）を使用します。

指定した日時が過去の場合、次の学習サイクルは指定した次の曜日に実行されます。

最小ファームウェアレベル

7.15

8.30で'controller'パラメータが追加されました

ストレージアレイのローカルユーザーパスワードまたは**SYMBOL**パスワードを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray localUsernameコマンドとset storageArray symbolコマンドを使用すると、特定のロールにローカルユーザ名パスワードまたはSYMBOLパスワードを設定できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、Security Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
set storageArray (localUsername={ <em>admin</em> | <em>storage</em> | <em>security</em> | <em>support</em> | <em>monitor</em>} | symbol [userRole={admin | monitor}]) password="string" adminPassword="string"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「localUsername」と入力します	パスワードを変更するユーザを指定できます。有効な選択肢は、「admin」、「storage」、「support」、「monitor」、「security」です。

パラメータ	説明
「symbol」	<p>SYMBOLパスワードを変更できます。有効な選択肢は「admin」と「monitor」です。</p> <div>  <p>これは、非推奨の「set storageArray password」コマンドに代わるコマンドです。</p> </div>
「password」と入力します	ロールのパスワードを指定できます。
「adminPassword」のように入力します	adminパスワードを指定できます。adminパスワードは新しいパスワードを設定する際に必要です。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray localUsername=storage
password="newPassword" adminPassword="theAdminPassword";"
SMcli -n Array1 -c "set storageArray localUsername=admin
password="newAdminPassword" adminPassword="theAdminPassword";"
SMcli -n Array1 -c "set storageArray symbol userRole=admin
password="newSymbolPassword" adminPassword="theAdminPassword";"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40で、コマンドが追加されました。

ストレージアレイのログインバナーを設定する - SANtricity CLI

set storageArray loginBanner'コマンドを使用すると'ログインバナーとして使用するテキスト・ファイルをアップロードできますバナーテキストはユーザがSANtricity System Managerでセッションを確立する前またはコマンドを実行する前に表示されるもので、注意と同意を求めるメッセージを含めることができます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray loginBanner file="path_to_login_banner"
```

コンテキスト (Context)

テキストファイルをロードすると、ファイルがストレージアレイに保存されます。バナーテキストは、SANtricity System Managerのログイン画面の前またはコマンドを実行する前に表示されます。

パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ログインバナーのテキストファイルが格納されているファイルパスとファイル名。 <div> ログインバナーファイルは空にできません。また、サイズは5KB以下である必要があります。</div>

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージアレイ管理インターフェースの設定 - **SANtricity CLI**

set storageArray ManagementInterfaceコマンドは、コントローラの管理インターフェースを変更します。ストレージアレイとその管理ソフトウェア間の機密性を確保したり、外部ツールにアクセスしたりするには、管理インターフェースのタイプを変更します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray managementInterface restOnly={true | false}
```

パラメータ

パラメータ	説明
「リストア専用」	<p>trueに設定するとRESTfulインターフェイスのみが使用可能な管理インターフェイスになりますこのインターフェイスでは、ストレージアレイと管理ソフトウェアの間の接続が暗号化されます。</p> <p>falseに設定するとストレージ・アレイと管理ソフトウェア間の従来のインタフェースが許可されますこのインターフェイスは暗号化されません。</p> <p>従来の管理インターフェイス（SANtricity SMI-SプロバイダやOnCommand Insight（OCI）など）と直接通信するツールには、「restOnly」パラメータを「false」に設定しないかぎり機能しません。詳細については、テクニカルサポートにお問い合わせください。</p>

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray managementInterface restOnly=true;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

ODX を有効化または無効化する - SANtricity CLI

set storageArray odxEnabledコマンドは、ストレージアレイのオフロードデータ転送（ODX）をオンまたはオフにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ストレージアレイではもともとODXがオンになっています。ODXを実行しない場合や、ODXが原因でストレージアレイに問題が発生している場合は、このコマンドを使用してODXをオフにします。影響を受けるストレージアレイは、コマンドの実行元のストレージアレイのみです。

構文

```
set storageArray odxEnabled=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「odxEnabled」	ODXをオンまたはオフにするための設定。ODXをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。ODXをオフにするには、このパラメータをFALSEに設定します。デフォルト設定では、ODXはオンになっています。

注：

ODXを使用すると、バッファ読み取りとバッファ書き込みの処理を使用せずにデータを転送できます。データ転送処理にホストが直接関与する必要はありません。ODXが有効になっていない場合、ソースストレージからホストにデータが読み取られ、ホストからターゲットストレージに書き込まれます。ODXが有効な場合は、データ転送処理はストレージインフラによって直接管理されます。データはホストを経由せずに、ソースストレージからターゲットストレージに直接移動されます。

最小ファームウェアレベル

8.20で

ストレージアレイのパスワードの長さを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray passwordlengthコマンドを使用すると、adminユーザはストレージアレイのすべての新規または更新されたパスワードに最小長を設定できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されません。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray passwordLength=<INTEGER>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「パスワードの長さ」	すべての新規または更新されたパスワードの最小文字数を設定できます。
「整数」	すべての新規または更新されたパスワードに最低限必要な文字数を0~30で設定できます。

例

```
SMcli <array_ip> -u <username> -p <password> -c "set storageArray  
passwordLength=0;"  
  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドが追加されました。

再構築時にストレージレイのPQ検証を設定する - SANtricity CLI

set storageArray pqValidateOnReconstructコマンドは、再構築時のストレージレイのP/Q検証状態を設定します。この機能を有効にすると、データ+Pとデータ+Qの両方を使用してデータが再構築され、再構築結果の整合性がチェックされたうえで、続行方法が決定されます。

サポートされているレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この機能には、環境 ディスクプールと、デュアルパリティを備えたRAID 6ボリュームグループがあります。この場合、1本のドライブで障害が発生してもボリュームグループまたはディスクプールでの冗長性が確保されるため、再構築時にデータとパリティの整合性をチェックすることが可能です。再構築時に不整合が検出された場合、ボリュームでData Assuranceが有効になっていれば、不整合の発生源を特定し、残りのドライブを使用してデータを再構築することができます。この機能が有効で、ボリュームでData Assuranceが有効になっていない場合、あるいは不整合が複数のドライブにまたがる場合、再構築されるブロックは読み取り不能とマークされます。

SSDドライブでは検証によって再構築時間が長くなる可能性があるため、この機能はメディアタイプに応じて有効または無効にすることができます。特定のメディアタイプに対してこの機能を有効にすると、そのメディアタイプを使用するすべてのプールおよびRAID 6ボリュームグループに適用されます。

構文

```
set storageArray pqValidateOnReconstruct (enable | disable)
driveMediaType=(hdd | ssd | allMedia)
```

パラメータ

パラメータ	説明
pqValidateOnReconstruct`	再構築時のP/Q検証を変更します。
「enable」または「disable」	再構築時のP/Q検証を有効または無効にします。
driveMediaType	再構築時のP/Q検証を設定するドライブメディアタイプ。次のドライブメディアタイプがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• 「hdd」は、ハードディスクドライブの検証状態を設定することを示します• 「ssd」は、ソリッド・ステート・ディスク上で検証状態を設定することを示します• allMediaは、ストレージ・アレイ内のすべてのメディアに対して検証状態を設定することを示します

ドライブメディアタイプにハードディスクドライブを指定する例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray pqValidateOnReconstruct enable
driveMediaType=hdd;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

ドライブメディアタイプにソリッドステートドライブを指定する例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray pqValidateOnReconstruct disable
driveMediaType=ssd;"
```

```
SMcli completed successfully.
```

ストレージアレイの冗長モードを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray redundancyMode コマンドは、ストレージ・アレイの冗長モードをシンプ
レックスまたはデュプレックスに設定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800
、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに
は、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray redundancyMode=(simplex | duplex)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「冗長性モード」	コントローラが1台しかない場合は' simplexモードを 使用しますコントローラが2台ある場合は、「 duplex」 モードを使用します。

ストレージアレイリソースのプロビジョニングされたボリュームを設定する -
SANtricity CLI

set storageArray resourceProvisionedVolumes コマンドは、DULBE機能を無効にします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含む
すべてのストレージアレイを環境 します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要で

す。

コンテキスト (Context)

リソースプロビジョニングは、大容量のボリュームを迅速に初期化するための機能です。


リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームです。ボリュームの作成時にドライブ容量が割り当てられますが（ボリュームに割り当てられます）、ドライブブロックの割り当てが解除されます（マッピングが解除されます）。リソースプロビジョニングボリュームでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化は実行されません。代わりに、各RAIDストライプは、ストライプ内のボリュームブロックへの最初の書き込み時に初期化されます

リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グループまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable (DULBE) エラーリカバリ機能がサポートされます。リソースでプロビジョニングされたボリュームを作成すると、そのボリュームに割り当てられていたすべてのドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ブロックの割り当てを解除すると、SSDの消耗度が改善され、書き込みパフォーマンスが最大化されます。向上率はドライブのモデルと容量によって異なります。

構文

```
set storageArray resourceProvisionedVolumes=(enable|disable)
```

パラメータ

パラメータ	説明
resourceProvisionedVolumes	<div>リソースプロビジョニング機能が有効かどうかを指定する設定。リソースのプロビジョニングを無効にするにはこのパラメータをdisableに設定しますデフォルト値は「enable」です。</div> <div> この値を変更するのは、今後作成される環境 ボリュームグループおよびプールだけです。既存のボリュームグループやプールの値は変更されません。</div>

最小ファームウェアレベル

8.63

証明書失効チェック設定の設定 - SANtricity CLI

set storageArray revocationCheckSettingsコマンドを使用すると、失効チェックを有効または無効にしたり、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバを設定したりできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

OCSPサーバは、スケジュールされた有効期限よりも前に認証局 (CA) によって取り消された証明書がないかどうかをチェックします。CAによる証明書の発行に問題がある場合や、秘密鍵が侵害された場合は、失効チェックを有効にすることができます。



OCSPサーバの完全修飾ドメイン名を使用できるようにするために、両方のコントローラにDNSサーバが設定されていることを確認してください。

失効チェックを有効にすると、ストレージアレイは失効した証明書を使用したサーバへの接続を拒否します。

構文

```
set storageArray revocationCheckSettings ([revocationCheckEnable =  
boolean] &| [ocspResponderUrl=stringLiteral])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「revocationCheckEnable」と入力します	証明書失効チェックを有効にするには'true'に設定します
「ocspResponderUrl」	証明書失効チェックに使用するOCSPレスポンスサーバのURL。 <div> OCSPレスポンスアドレスを指定すると、証明書ファイル内のOCSPアドレスが指定したアドレスで上書きされます。</div>

最小ファームウェアレベル

8.42

内部ストレージアレイのセキュリティキーを設定する - SANtricity CLI

set storageArray securityKeyコマンドは、ドライブセキュリティ機能を実装するために

ストレージアレイ全体で使用されるセキュリティキーを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイ内のセキュリティ対応ドライブをセキュリティ保護されたボリュームグループまたはディスクプールに割り当てると、そのドライブはセキュリティキーを使用してセキュリティ有効ドライブになります。セキュリティキーを設定する前に、「create storageArray securityKey」コマンドを使用してセキュリティキーを作成する必要があります。



このコマンドは、内部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
set storageArray securityKey
```

パラメータ

なし

注：

セキュリティ対応ドライブには暗号化処理を高速化するハードウェアが搭載されており、それぞれに固有のドライブキーがあります。セキュリティ対応ドライブは、セキュリティ保護されたボリュームグループに追加されるまで他のドライブと同じように動作し、追加された時点でセキュリティ有効ドライブになります。

セキュリティ有効ドライブは、電源がオンになるたびにコントローラから正しいセキュリティキーを取得する必要があります。取得するまではデータの読み取りや書き込みを実行できません。つまり、セキュリティ有効ドライブは2つのキーを使用します。1つはデータの暗号化と復号化を行うドライブキー、もう1つは暗号化プロセスと復号化プロセスを許可するセキュリティキーです。set storageArray securityKeyコマンドは'ストレージ・アレイ内のすべてのコントローラとセキュリティ対応ドライブにセキュリティ・キーをコミットしますFull Disk Encryption機能により、セキュリティ有効ドライブがストレージアレイから物理的に取り外された場合、セキュリティキーがわからないかぎりそのドライブのデータを他のデバイスから読み取ることはできません。

最小ファームウェアレベル

7.50

ストレージレイのSyslog構成の更新 - SANtricity CLI

set storageArray syslog'コマンドを使用すると、syslogサーバのアドレス、プロトコル、またはポート番号を変更できます。

サポートされているレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray syslog id="<id>"
serverAddress="<address>"
port=<port> protocol=("udp" | "tcp" | "tls")
components=(componentName=("auditLog") ...)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	syslog受信側のホスト名またはIPアドレス。
「PORT」	syslog受信側のポート番号。
「プロトコル」	syslogの転送プロトコル。指定できる値はUDP、TCP、またはTLSです。
「コンポーネント」	syslogサーバに記録されるコンポーネントエントリのリスト。現時点では、監査ログのみがサポートされています。
「componentName」	コンポーネント名。現時点では「auditLog」のみがサポートされています。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray syslog
id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\"
serverAddress=\"192.168.2.1\" port=514 protocol=\"udp\"
components=(componentName=\"auditLog\");"
ID: 331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e Server Address: 192.168.2.1
Port: 514 Protocol: udp
Components
1. Component Name: auditLog
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

ストレージアレイの時間を設定する - SANtricity CLI

set storageArray timeコマンドは、コントローラのクロックをこのコマンドを実行するホストのクロックと同期することによって、ストレージアレイ内の両方のコントローラのクロックを設定します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray time
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイトレイの位置を設定する - SANtricity CLI

set storageArray trayPositionsコマンドは、ストレージアレイ内のトレイの位置を定義します。このコマンドには、ストレージアレイ内のすべてのトレイを含める必要があります。

す。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray trayPositions=(controller | <em>trayID</em> ...  
<em>trayIDn</em>)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「トレイポジション」	すべてのトレイIDのリスト。リストでのトレイIDの順序によって、ストレージアレイ内のコントローラトレイとドライブトレイの位置が定義されます。有効な値は「0」～「99」です。トレイIDの値はスペースで区切って入力します。トレイID値のリストは丸かっこで囲みます。コントローラトレイに有効なトレイ位置の範囲外の識別子が定義されているストレージアレイの場合は'controller'値を使用します

注：

このコマンドでは、トレイIDの「trayPositions」リスト内の位置によって、ストレージアレイ内のトレイの位置を定義します。たとえば、IDが84のコントローラトレイとIDが1、12のドライブトレイがある場合、そして50、「trayPositions」シーケンス(84 1 12 50)は、コントローラトレイを1番目の位置に、ドライブトレイ1を2番目の位置に、ドライブトレイ12を3番目の位置に、ドライブトレイ50を4番目の位置にそれぞれ配置します。trayPositionsシーケンス(1 84 50 12)は'コントローラトレイを2番目の位置に'ドライブトレイ1を1番目の位置に'ドライブトレイ50を3番目の位置に'ドライブトレイ12を4番目の位置に配置します



ストレージアレイ内のすべてのトレイは、trayPositionsパラメータで定義されているリストに含める必要があります。リストのトレイ数がストレージアレイのトレイの総数と一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。



管理ソフトウェアでは、最初の位置が上に、以降の位置が下から順に表示されます。

最小ファームウェアレベル

6.10

6.14と6.16では'controller'は有効な値ではありません

ストレージレイの名前なし検出セッションを設定する - SANtricity CLI

set storageArray unnamedDiscoverySession'コマンドを使用すると'ストレージレイは名前のない検出セッションに参加できます

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set storageArray unnamedDiscoverySession=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「unnamedDiscoverySession」	このパラメータは、名前のない検出セッションをオンまたはオフにします。名前のない検出セッションをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。名前のない検出セッションをオフにするには'パラメータをFALSEに設定します

注：

検出は、イニシエータが使用可能なターゲットを判別するプロセスです。検出は、電源投入/初期化時に実行されます。また、バスポロジが変更された場合（追加デバイスが追加された場合など）も実行されます。

名前のない検出セッションは、ログイン要求でターゲットIDを指定せずに確立される検出セッションです。名前のない検出セッションでは、ターゲットのターゲットIDもターゲットポータルグループIDも使用できません。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージレイのユーザーセッションの設定 - SANtricity CLI

set storageArray userSession'コマンドを使用すると、System Managerでタイムアウトを設定して、非アクティブなユーザセッションを指定した時間が経過すると切断される

ようにすることができます。

サポートされているアレ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

次のいずれかの処理を実行するには、このコマンドを使用します。

- ユーザセッションのタイムアウトを秒単位で設定します。最小タイムアウト値は900秒（15分）です。
- 0に設定して、セッションタイムアウトをオフにします。

パラメータ

なし

構文

```
set storageArray userSession sessionTimeout=n
```

最小ファームウェアレベル

8.41

VAAI を有効化または無効化する - SANtricity CLI

set storageArray vaaiEnabledコマンドは、ストレージレイのVMware vStorage API Array Architecture (VAAI) をオンまたはオフにします。

サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイでは最初からVAAIがオンになっています。VAAIを実行しない場合や、VAAIが原因でストレージアレイに問題が発生している場合は、このコマンドを使用してVAAIをオフにします。影響を受けるストレージアレイは、コマンドの実行元のストレージアレイのみです。

構文

```
set storageArray vaaiEnabled=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「vaaiEnabled」	VAAIをオンまたはオフにするための設定。VAAIをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。VAAIをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト設定では、VAAIはオンになっています。

注：



VAAIを使用すると、一部のストレージタスクがサーバハードウェアからストレージアレイにオフロードされます。ストレージタスクをストレージアレイにオフロードすると、ホストで実行する必要のあるタスクが削減されるため、ホストのパフォーマンスが向上します。



「show storageArray odxSetting」名を使用してVAAI設定を表示します。

最小ファームウェアレベル

8.20で

ストレージアレイの設定 - SANtricity CLI

set storageArrayコマンドは'ストレージ・アレイのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン8.10で'cacheFlushStop'パラメータが廃止されましたストレージ管理ソフトウェアの今後のリリースで削除される予定です



構文

```

set storageArray
([autoLoadBalancingEnable=(TRUE | FALSE)]|
[autoSupportMaintenanceWindow AutoSupport Maintenance Window parameters]|
[autoSupport schedule AutoSupport Schedule Parameters]|
[autoSupportConfig (enable | disable)]|
[autoSupportOnDemand (enable | disable)]|
[autoSupportRemoteDiag (enable |disable)]|
[cacheBlockSize=cacheBlockSizeValue]|
[cacheFlushStart=cacheFlushStartSize]|
[cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable=(TRUE | FALSE)]|
[controllerHealthImageAllowOverWrite]|
[defaultHostType=("hostTypeName" |"hostTypeIdentifier")] |
[directoryServer directory server parameters]|
[externalKeyManagement external key management parameters]|
[failoverAlertDelay=delayValue]|
[hostConnectivityReporting (enable | disable)]|
[icmpPingResponse=(TRUE | FALSE)]|
[isnsIPV4ConfigurationMethod isns IPV4 Config Method Parameters]|
[isnsIPv6Address=ipAddress]|
[isnsListeningPort=listeningPortIPAddress]|
[isnsRegistration=(TRUE | FALSE)]|
[learnCycleDate learn cycle parameters]|
[localUsername=local user name parameters]|
[loginBanner file="path_to_login_banner"]|
[managementInterface restOnly={true | false}]|
[mediaScanRate=(disabled | 1-210)]|
[odxEnabled=(TRUE | FALSE)]|
[password="password"]|
[passwordLength=<INTEGER>]|
[pqValidateOnReconstruct P/Q Validate on Reconstruct parameters]|
[redundancyMode=(simplex | duplex)]|
[revocationCheckSettings revocation check settings parameters]|
[securityKey]|
[symbol SYMbol user name and password parameters]|
[syslog syslog parameters]|
[time]|
[trayPositions=(controller | trayID ... trayIDn)]|
[unnamedDiscoverySession=(TRUE | FALSE)]|
[userLabel="storageArrayName"]|
[userSession sessionTimeout=n]|
[vaaiEnabled=(TRUE | FALSE)])


```

パラメータ

パラメータ	説明
autoLoadBalancingEnable	<p>このパラメータは、コントローラの自動ロードバランシングを有効にします。オプションを有効にするには'このパラメータをTRUEに設定しますこのオプションを無効にするには'このパラメータをFALSEに設定します</p> <div>  <p>自動ロードバランシング機能を有効にすると、ホスト接続レポート機能も有効になります。</p> </div>
AutoSupport スケジュール	AutoSupport メッセージを送信する毎日の時間帯および毎週の時間帯と曜日を設定します。
'autoSupportConfig'	<p>ファームウェアで重大なMELイベントが検出されるたびにサポートデータを自動収集するかどうかの設定。このパラメータには次の値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • enable --サポートデータの収集をオンにします • disable --サポートデータの収集をオフにします <p>このパラメータは、次の場合にのみ使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストレージアレイでAutoSupport（ASUP）機能を使用できません • 以前にこのパラメータを使用していたストレージアレイの設定をサポートするため <div>  <p>このパラメータはASUPコマンドと一緒に使用することはできません。</p> </div>
「autoSupportMaintenanceWindow」	AutoSupport メンテナンス期間をオンまたはオフにし、設定します。
「cacheBlockSize」	コントローラがキャッシュの管理に使用するキャッシュブロックサイズ。有効な値は'4'(4KB)'8'(8KB)'16'(16KB)'または'32'(32KB)です
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable`	このパラメータは、コントローラでのキャッシュミラーData Assuranceチェックを有効にします。オプションを有効にするには'このパラメータをTRUEに設定しますこのオプションを無効にするには'このパラメータをFALSEに設定します

パラメータ	説明
「cacheFlushStart」を参照してください	キャッシュ内の書き込み前のデータがこの割合に達すると、キャッシュフラッシュが発生します。0から100までの整数値を使用してパーセンテージを定義します。デフォルト値は '80' です
「cacheFlushStop」	<div>  <div>このパラメータは廃止予定で、今後のリリースで削除される予定です。</div> </div> <p>キャッシュ内の書き込み前のデータがこの割合まで下がると、キャッシュフラッシュが停止します。0から100までの整数値を使用してパーセンテージを定義します。この値は'cacheFlushStart'パラメータの値より小さくする必要があります</p>
controllerHealthImageAllowOverWrite	コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージレイで、新しいコントローラヘルスイメージによる既存のコントローラヘルスイメージの上書きを許可するフラグをコントローラに設定します。
defaultHostType	コントローラが接続されている未設定のホストポートに割り当てられるデフォルトのホストタイプ。ストレージレイの有効なホストタイプのリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを実行します。ホストタイプは名前または数値で識別されます。ホストタイプ名は二重引用符 ("") で囲みます。ホストタイプが数値IDの場合、二重引用符で囲まないでください。
「DirectoryServer」を参照してください	ロールマッピングを含むディレクトリサーバ設定を更新します。
「externalKeyManagement」と入力します	外部キー管理サーバのアドレスとポート番号を設定します
FailoverAlertDelay	フェイルオーバーアラートの遅延時間（分単位）。遅延時間の有効値は0～60分です。デフォルト値は「5」です。

パラメータ	説明
「hostConnectivityReporting」のように入力します	<p>このパラメータは、コントローラのホスト接続レポートを有効にします。オプションを有効にするには'このパラメータをenableに設定します'オプションを無効にするには'このパラメータをdisableに設定します'</p> <div>  <p>自動ロードバランシングが有効なときにホスト接続レポートを無効にしようとすると、エラーが発生します。自動ロードバランシング機能を無効にしてから、ホスト接続レポート機能を無効にしてください。</p> </div> <div>  <p>自動ロードバランシングが無効な場合も、ホスト接続レポートは有効にしておくことができます。</p> </div>
「icmpPingResponse」	<p>このパラメータは、エコー要求メッセージをオンまたはオフにします。エコー要求メッセージをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。エコー要求メッセージをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。</p>
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	<p>iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択しますIPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)'サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できますDHCPを有効にするには'isnsIPV4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります</p>
「isnsIPv6Address」	<p>iSNSサーバに使用するIPv6アドレス。</p>

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するIPアドレス。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'~65535ですデフォルト値は「53205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 受信するクライアント接続要求を監視します • サーバへのトラフィックを管理します <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>
「isnsRegistration」	<p>このパラメータは、ストレージアレイをiSCSIターゲットとしてiSNSサーバに登録します。iSNSサーバにストレージ・アレイに登録するには'このパラメータをTRUEに設定しますiSNSサーバからストレージアレイを削除するには、このパラメータをFALSEに設定します。</p> <div>  <p>set storageArrayコマンドを実行しているときは、他のパラメータとともに「isnsRegistration」パラメータを使用することはできません。</p> </div> <p>iSNS登録の詳細については' set storageArray isnsRegistrationコマンドを参照してください</p>
learnCycleDate	<p>コントローラのバッテリー学習サイクルを設定します。</p>
「localUsername」と入力します	<p>特定のロールのローカルユーザパスワードまたはSYMBOLパスワードを設定できます。</p>
「loginBanner」	<p>ログインバナーとして使用するテキストファイルをアップロードできます。バナーテキストはユーザがSANtricity System Managerでセッションを確立する前またはコマンドを実行する前に表示されるもので、注意と同意を求めるメッセージを含めることができます</p>

パラメータ	説明
「管理インターフェイス」	コントローラの管理インターフェイスを変更します。ストレージレイとその管理ソフトウェア間の機密性を確保したり、外部ツールにアクセスしたりするには、管理インターフェイスのタイプを変更します。
mediaScanRate	メディアスキャンを実行する日数。有効な値は、（メディアスキャンをオフにする）、または 1`day to `210 days（1`dayは最速のスキャン速度、`210`daysは最も遅いスキャン速度）です。 `disabled`または`1~210`以外の値を指定すると`disabled`、メディアスキャンは機能しません。
「odxEnabled」	ストレージレイのオフロードデータ転送（ODX）をオンまたはオフにします。
「password」と入力します	ストレージレイのパスワード。パスワードは二重引用符（""）で囲みます。 <div>  <p>このパラメータは8.40リリースで廃止されました。代わりに'localUsername'またはシンボルの'symbol'パラメータを'password'または'adminPassword'パラメータとともに使用します</p> </div>
'passwordLength'	すべての新規または更新されたパスワードの最小文字数を設定できます。0~30の値を指定します。
pqValidateOnReconstruct`	再構築時のP/Q検証を変更します。
「冗長性モード」	コントローラが1台しかない場合は'simplexモード'を使用しますコントローラが2台ある場合は、「duplex」モードを使用します。
「revocationCheckSettings」	失効チェックを有効または無効にすることができます。また、Online Certificate Status Protocol（OCSP）サーバを設定できます。

パラメータ	説明
「securityKey」	<p>ドライブセキュリティ機能を実装するためにストレージアレイ全体で使用される内部セキュリティキーを設定します。</p> <div>  <p>内部セキュリティキーに使用されます。外部キー管理サーバを使用する場合は、「create storageArray securityKey」 コマンドを使用します。</p> </div>
「symbol」	特定のロールのSYMBOLパスワードを設定できます。
「syslog」	syslogサーバのアドレス、プロトコル、またはポート番号を変更できます。
「time」	コントローラのクロックをこのコマンドを実行するホストのクロックと同期することで、ストレージアレイの両方のコントローラのクロックを設定します。
「トレイポジション」	<p>すべてのトレイIDのリスト。リストでのトレイIDの順序によって、ストレージアレイ内のコントローラトレイとドライブトレイの位置が定義されます。有効な値は「0」～「99」です。トレイIDの値はスペースで区切って入力します。トレイID値のリストは丸かっこで囲みます。コントローラトレイに有効なトレイ位置の範囲外の識別子が定義されているストレージアレイの場合は' controller値を使用します</p> <div>  <p>'controller' オプションは'ファームウェア・リリース6.14以降は有効ではありません</p> </div>
「unnamedDiscoverySession」	ストレージアレイを名前のない検出セッションの対象にします。
「userLabel」 のように入力します	ストレージアレイの名前。ストレージアレイ名は二重引用符 ("") で囲みます。
「userSession」	非アクティブな状態が一定の時間続いたユーザセッションは切断されるよう、System Managerでタイムアウトを設定できます。
「vaaiEnabled」	ストレージアレイのVMware vStorage API Array Architecture (VAAI) をオンまたはオフにします

注：

「isnsRegistration」を除き、このコマンドを使用する場合は、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

AutoSupportデータ



このパラメータはASUPコマンドと一緒に使用することはできません。

set storageArray autoSupportConfigコマンドをイネーブルにすると、重大なメジャーイベントログ（MEL）イベントが検出されるたびに、ストレージアレイのすべての設定および状態情報が返されます。設定と状態の情報はオブジェクトグラフの形式で返されます。オブジェクトグラフには、関連するすべての論理オブジェクトと物理オブジェクト、およびストレージアレイでのそれらの関連する状態情報が表示されます。

set storageArray autoSupportConfigコマンドは、次のように構成情報と状態情報を収集します

- 設定と状態の情報は72時間ごとに自動的に収集されます。設定と状態の情報はストレージアレイのzipアーカイブファイルに保存されます。アーカイブファイルには、アーカイブファイルの管理に使用されるタイムスタンプが記録されます。
- ストレージアレイごとに2つのzipアーカイブファイルが保持されます。zipアーカイブファイルはドライブに保存されます。72時間後、最も古いアーカイブファイルが新しいサイクルで上書きされます。
- このコマンドを使用して設定と状態の情報の自動収集を有効にすると、最初の情報収集が開始されます。
問題 コマンドの実行後に情報が収集されることにより、アーカイブファイルが1つ作成され、タイムスタンプサイクルが開始されます。

set storageArray autoSupportConfigコマンドは、複数のストレージアレイで実行できます。

キャッシュブロックサイズ

キャッシュブロックサイズを定義する場合は、一般に小さくてランダムなI/Oストリームを必要とするストレージアレイに4KBのキャッシュブロックサイズを使用します。大半のI/Oストリームが4KBより大きく8KBより小さい場合は、8KBのキャッシュブロックサイズを使用します。大規模なデータ転送、シーケンシャルI/O、または高帯域幅のアプリケーションを必要とするストレージアレイには、16KBまたは32KBのキャッシュブロックサイズを使用します。

「cacheBlockSize」パラメータは、ストレージアレイ内のすべてのボリュームでサポートされるキャッシュブロックサイズを定義します。すべてのコントローラタイプがすべてのキャッシュブロックサイズをサポートするわけではありません。冗長構成の場合は、ストレージアレイ内の両方のコントローラが所有するすべてのボリュームがこのパラメータの対象となります。

キャッシュフラッシュが開始されます

キャッシュフラッシュを開始するための値を定義するときに低すぎると、ホスト読み取りに必要なデータがキャッシュに存在しない可能性が高くなります。また、キャッシュレベルを維持するために必要なドライブ書き込み回数が増えるため、システムオーバーヘッドが増大してパフォーマンスが低下します。

デフォルトのホストタイプ

ストレージパーティショニングが有効になっているホストタイプを定義する場合、デフォルトのホストタイプはデフォルトグループにマッピングされているボリュームのみに適用されます。ストレージパーティショニングが有効になっていない場合は、ストレージアレイに接続されているすべてのホストが同じオペレーティング

システムを実行していて、デフォルトのホストタイプと互換性がある必要があります。

メディアスキャンの速度

メディアスキャンは、ストレージアレイ内の最適なステータスで、変更処理が実行中ではなく、「mediaScanRate」パラメータが有効になっているすべてのボリュームで実行されます。「mediaScanRate」パラメータをイネーブルまたはディセーブルにするには、「set volume」コマンドを使用します。

パスワード

パスワードは各ストレージアレイに保存されます。保護を最適化するには、パスワードが次の基準を満たしている必要があります。

- パスワードは8~30文字で指定する必要があります。
- 大文字を1つ以上含む。
- 小文字を1つ以上含む。
- 数字を1つ以上含む。
- パスワードには、英数字以外の文字（<>@+など）を少なくとも1文字含める必要があります。



ストレージアレイでFull Disk Encryptionドライブを使用している場合は、ストレージアレイのパスワードに次の基準を使用する必要があります。



暗号化されたフルディスク暗号化ドライブのセキュリティキーを作成するには、ストレージアレイのパスワードを設定する必要があります。

最小ファームウェアレベル

5.00で'defaultHostType'パラメータが追加されました

5.40では'failoverAlertDelay'パラメータが追加されています

6.10に、「redundancyMode」、「trayPositions」、「time」パラメータが追加されています。

6.14で'alarm'パラメータが追加されました

7.10で、「icmpPingResponse」、「unnamedDiscoverySession」、「isnsIPv6Address」、および「isnsIPv4ConfigurationMethod」パラメータが追加されました。

7.15で、キャッシュブロックサイズと「learnCycleDate」パラメータが追加されました。

7.86では'alarm'パラメータが使用されなくなったので削除され'coreDumpAllowOverWrite'パラメータが追加されました

8.10で、「cacheFlushStop」パラメータが廃止されました。

8.20で'odxEnabled'および'vaaiEnabled'パラメータが追加されました。

8.20で、「cacheBlockSize」パラメータが更新され、「cacheBlockSizeValue」が4（4KB）に追加されました。

8.20で、coreDumpAllowOverWriteパラメータが「controllerHealthImageAllowOverWrite」パラメータに置き換えられました。

8.30で'autoLoadBalancingEnable'パラメータが追加されました

8.40で'localUsername'パラメータが追加されました(ユーザ名変数と'password'または'adminPassword'パラメータで使用されます)また'symbol'パラメータ(ユーザ名変数と'password'または'adminPassword'パラメータとともに使用されます)も追加されます

8.40で、「password」および「UserRole」スタンドアロンパラメータが廃止されました。

8.40で、「ManagementInterface」パラメータが追加されました。

8.40で、「externalKeyManagement」パラメータが追加されました。

8.41で、「cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable」、「DirectoryServer」、「userSession」、「passwordLength」、および「loginBanner」パラメータが追加されました。

8.42で'pqValidateOnReconstruct'syslog'hosttivConnectivityReporting'revocationCheckSettings'パラメータが追加されました

同期ミラーリングの設定 - SANtricity CLI

set SyncMirror コマンドは'リモート・ミラー・ペアのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE2800またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
set syncMirror (localVolume [<em>volumeName</em>] |
localVolumes [<em>volumeName1 ... volumeNameN</em>])
[role=(primary | secondary)]
[syncPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[autoResync=(enabled | disabled)]
[writeOrder=(preserved | notPreserved)]
[writeMode=(synchronous | asynchronous)]
[force=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「localVolume」です	<p>プロパティを定義するローカルボリュームの名前。プライマリボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。プライマリボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、プライマリボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。</p>
「localVolumes」を参照してください	<p>プロパティを定義する複数のローカルボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 各名前は二重引用符 (") で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「役割」	<p>ローカルボリュームをプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして機能させるための設定。ボリュームをプライマリ・ボリュームとして定義するにはこのパラメータをprimaryに設定しますボリュームをセカンダリ・ボリュームとして定義するにはこのパラメータをsecondaryに設定しますこのパラメータは、ボリュームがミラー関係にある場合にのみ適用されます。</p>
「syncPriority」	<p>ホストI/Oアクティビティに対する完全同期の優先度。有効な値は'highest'high'high'medium'low'low'lowest'です</p>

パラメータ	説明
「autoResync」	<p>リモートミラーペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間の自動再同期の設定。このパラメータには次の値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [enabled]--自動再同期がオンになっています何もしなくても、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは再同期されます。 • disabled --自動再同期がオフになっていますプライマリ・ボリュームとセカンダリ・ボリュームを再同期化するには'resume SyncMirror コマンドを実行する必要があります
「writeOrder」です	<p>このパラメータは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの間のデータ転送の書き込み順序を定義します。有効な値は「preserved」または「notPreserved」です。</p>
「writeMode」です	<p>このパラメータは、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへの書き込み方法を定義します。有効な値は「synchronous」または「asynchronous」です。</p>
「フォース」	<p>ストレージレイ間の通信リンクがダウンすると、強制的にロールが反転されるため、ローカル側で昇格または降格を行うと、プライマリまたはセカンダリが二重で存在する状態になります。ロール反転を強制的に実行するにはこのパラメータをTRUEに設定しますデフォルト値は'FALSE'です</p> <div>  <p>「force」パラメータは、「role」パラメータを使用する場合にのみ使用してください。</p> </div>

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

同期優先度によって、ミラー関係のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間のデータの同期に使用されるシステムリソースの量が定義されます。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してデータの完全同期が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

「writeOrder」パラメータは非同期書き込みモードにのみ適用され、整合グループの一部になります。「writeOrder」パラメータを「preserved」に設定すると、リモート・ミラー・ペアは、ホストからプライマリ・ボリュームへの書き込みと同じ順序で、プライマリ・ボリュームからセカンダリ・ボリュームへデータを送信します。送信リンクに障害が発生した場合、完全な同期が行われるまで、データはバッファされます。この処理では、バッファされたデータを維持するために追加のシステムオーバーヘッドが必要になる可能性があるため、処理が遅くなります「writeOrder」パラメータを「notPreserved」に設定すると、システムはバッファ内のデータを維持する必要がなくなりますが、セカンダリボリュームのデータがプライマリボリュー

ムと同じになるように、完全な同期を強制的に実行する必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.10

Syslog設定を構成する - SANtricity CLI

set syslog' コマンドは'syslogアラート情報を設定しますアラート対象のイベントが発生するたびにsyslogサーバにアラートを送信するように、イベントモニタを設定できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

- syslogサーバのアドレスを確認しておく必要があります。このアドレスは、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。
- syslogサーバのUDPポート番号を確認しておく必要があります。通常は514です。

構文

```
set syslog [defaultFacility=<em>facilityNumber</em>]  
| [defaultTag=<em>defaultTag</em>]  
| [syslogFormat=<em>rfc3164</em>|<em>rfc5424</em>]  
| (serverAddresses=(<em>serverAddress:portNumber ...  
serverAddress:portNumber</em>)  
| addServerAddresses=(<em>serverAddress:portNumber ...  
serverAddress:portNumber</em>))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「defaultFacility」	任意。デフォルトのファシリティ番号を指定できます。デフォルトのファシリティは、0~23の数値で指定します。

パラメータ	説明
defaultTag	任意。デフォルトのタグを指定できます。文字列は引用符で囲みます。
'syslogFormat'	syslogメッセージに使用されるメッセージング形式。次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • rfc3164` - RFC 3164標準フォーマット • rfc5424` - RFC 5424標準のフォーマット
「serverAddresses」と入力します	1つ以上のsyslogサーバアドレスを、関連付けられているポート番号とともに設定できます。この設定オプションを使用すると、既存のサーバアドレスが削除されます。syslogサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。UDPポートは、0~65535の数値で指定します。通常は、syslogのUDPポートは514です。すべてのアドレスをカッコで囲みます。複数のアドレスを入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。
「addServerAddresses」と入力します	1つ以上のsyslogサーバアドレスを、関連付けられているポート番号とともに追加できます。この設定オプションを使用しても、既存のサーバアドレスは削除されません。syslogサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。UDPポートは、0~65535の数値で指定します。通常は、syslogのUDPポートは514です。すべてのアドレスをカッコで囲みます。複数のアドレスを入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "set syslog
serverAddresses=("ICTM1402S02H2.company.com:22");"

SMcli -n Array1 -c "set syslog
addServerAddresses=("serverName1.company.com:514"
"serverName2.company.com:514");"

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では、syslogメッセージ形式を指定するための「syslogFormat」パラメータが追加されました。

ターゲットプロパティの設定 - SANtricity CLI

set target'コマンドは'認証方式やエイリアス名など'iSCSI/iSERターゲットのプロパティを変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止された置き換えます [iSERターゲットを設定します](#) および [iSCSIターゲットのプロパティを設定します](#) コマンド

構文

```
set target (["targetAliasName"] | <"targetQualifiedName">)  
(authenticationMethod=(none | chap chapSecret="newSecurityKey") |  
targetAlias="newAliasName")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	設定するターゲットを指定できます。ターゲットのエイリアス名または修飾名（iqnなど）を指定できます。ターゲット識別子は二重引用符（""）で囲みます。また、識別子がエイリアスである場合は角かっこ（[]）、修飾名である場合は山かっこ（<>）で囲む必要があります。
「authenticationMethod」を指定します	セッションの認証方法を設定できます。有効な選択肢は「none」または「chap」です。
「チャプターシークレット」	ピア接続を認証するためのセキュリティキーを入力できます。これは、「authenticationMethod」が「CHAP」に設定されている場合にのみ該当します。

パラメータ	説明
targetAlias	ターゲットの新しいエイリアス名を指定できます。名前は二重引用符 ("") で囲みます。

最小ファームウェアレベル

8.41

シンボリックボリュームの属性を設定する - SANtricity CLI

set volume コマンドは、シン・ボリュームのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

パラメータを使用して、1つ以上のシンボリックボリュームのプロパティを定義できます。

構文

```
set (volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
[newCapacity=<em>capacityValue</em>]
[repositoryMaxCapacity=<em>capacityValue</em>]
[repositoryExpansionPolicy=(automatic|manual)]
[warningThresholdPercent=<em>warningThresholdPercentValue</em>]
[addRepositoryCapacity=capacity-spec] [hostReportingPolicy=(standard |
thin)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「volume」	プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 ("") で囲んだ上で山カッコ (<>) で囲みます。
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「newCapacity」です	<p>このパラメータは、シンボリックボリュームの仮想容量を拡張します。仮想容量は、ボリュームにマッピングされているホストにボリュームが報告する値です。既存の容量以下の値を指定すると、エラーが原因 されます。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</p> <p>最小仮想容量は32MBです。</p> <p>最大仮想容量は256TBです。</p>
repositoryMaxCapacity *	<p>このパラメータは、リポジトリボリュームの最大容量を設定します。リポジトリボリュームの物理容量よりも小さい値は指定できません。新しい値を指定した結果、容量が警告しきい値よりも少なくなる場合、コマンドからエラーが返されます。</p> <div>  <p>repositoryMaxCapacity コマンドは'repositoryExpansionPolicy=automatic'と連携します</p> </div>
repositoryExpansionPolic *	<p>このパラメータは'拡張ポリシーをautomaticまたはmanualに設定します。ポリシーをautomaticからmanualに変更すると'最大容量値 (クォータ) はリポジトリボリュームの物理容量に変わります</p>

パラメータ	説明
「warningThresholdPercent」	<p>シンボリユームの容量がこの割合に達すると、シンボリユームの上限に近づいているという警告アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。</p> <p>有効な値は1~100です。</p> <p>このパラメータを100に設定すると、警告アラートは無効になります。</p>
「addRepositoryCapacity」を参照してください	<p>このパラメータは、ディスクプールの空きエクステントから容量を割り当てます。十分なスペースがない場合、コマンドは失敗します。</p> <div>  <p>コマンド「addRepositoryCapacity」は、「repositoryExpansionPolicy>manual」と連動します。</p> </div>
「hostReportingPolicy」	<p>このパラメータは、シンボリユームのホストへの報告方法を変更します。有効な値は「standard」または「thin」です。</p>

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

次の表に、シンボリユームの容量制限を示します。

容量のタイプ	サイズ
最小仮想容量	32 MB
最大仮想容量	256 TB
最小物理容量	4 GB
最大物理容量	257TB

シンボリユームでは、標準ボリュームで行われるすべての処理がサポートされます。ただし、次の例外があります。

- ・シンボリユームのセグメントサイズは変更できません。
- ・シンボリユームでは読み取り前冗長性チェックを有効にできません。
- ・ボリュームコピーでは、シンボリユームをターゲットボリュームとして使用できません。
- ・同期ミラーリング処理ではシンボリユームを使用できません。

シンボリウムを標準ボリュームに変更する場合は、ボリュームコピー処理を使用してシンボリウムのコピーを作成します。ボリュームコピーのターゲットは常に標準ボリュームです。

最小ファームウェアレベル

7.83

トレイ属性の設定 - SANtricity CLI

set tray コマンドは'トレイのユーザー定義属性を設定します

構文

```
set tray [<em>trayID</em>] (chassisName | assetTag)="<em>userID</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	属性を設定する特定のトレイを指定します。トレイIDの値は、0 ~ 99です。エンクロージャIDの値の前後にブラケット ([]) を挿入する必要があります。
「chassisName」	新しいエンクロージャに指定するシャーシの名前または番号。シャーシ名には、最大32文字の英数字を任意に組み合わせて使用できます。大文字と小文字のどちらも使用できます。アンダースコア文字 (_) とハイフン (-) も使用できます。シャーシ名にはスペースを使用できません。シャーシ名は引用符 (" ") で囲む必要があります。
「assetTag」	新しいエンクロージャに指定する資産タグの名前または番号。資産タグは、最大10文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。大文字と小文字のどちらも使用できます。アンダースコア文字 (_) とハイフン (-) も使用できます。アセットタグ名にスペースは使用できません。資産タグ名の前後に引用符 (" ") を挿入する必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.16

ドロワーサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI

set tray drawer コマンドは'ドライブを格納するドロワーの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ドロワーは大容量ドライブトレイで使用されます。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。このコマンドは、ドロワーを使用するドライブトレイのみに使用します。ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

構文

```
set tray [<em>trayID</em>] drawer [<em>drawerID</em>]  
serviceAllowedIndicator=(on | off | forceOnWarning)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	ドロワーが配置されているトレイ。トレイIDの値は'0～99'ですトレイIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。トレイIDの値を入力しない場合は、コントローラトレイのトレイIDがデフォルト値となります。
「ドロワー」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするドロワーの場所。ドロワーIDの値は「1」～「5」です。ドロワーID値は角カッコ ([]) で囲みます。
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	<p>保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。</p> <p>「forceOnWarning」の使用方法については、「Notes」を参照してください。</p>

注：

このコマンドを入力するには、ドライブトレイが次の条件を満たしている必要があります。

- ドライブトレイが高温状態でないこと。
- ファンのステータスが最適である必要があります。
- ドライブトレイのコンポーネントがすべて設置されている。
- ドライブドロワー内のボリュームがデグレード状態でないこと。ボリュームがデグレード状態のときにドライブドロワーからドライブを取り外すと、ボリュームで障害が発生する可能性があります。



上記の条件を1つでも満たしていない場合は、このコマンドを実行しないでください。問題

コマンドが送信される前に、対象のドライブドロワー内のドライブを使用するすべてのボリュームがチェックされて、ボリュームがドロワー損失から保護されているかどうかを確認されます。ボリュームがドロワー損失から保護されている場合は、ボリュームへのI/Oアクティビティを停止することなく保守操作可能設定コマンドが続行されます。

該当するドロワーにドロワー損失から保護されないボリュームがある場合は、それらのボリュームへのI/Oアクティビティを停止する必要があります。警告が表示され、このコマンドを完了するべきではないことが示されます。

大容量ドライブトレイ全体の保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには' set tray serviceAllowedIndicatorコマンドを使用します

forceOnWarningパラメータの使用

コンポーネントを取り外す準備をしていて、ボリュームがドロワー損失から保護されないことを通知する警告を無視するには、次のパラメータを入力します。

```
serviceAllowedIndicator=forceOnWarning
```

forceOnWarningパラメータは'コンポーネントをコントローラファームウェアに削除する準備をする要求を送信し' set drawer serviceAllowedIndicatorコマンドを強制的に続行します



このパラメータを指定するとドロワー内のすべてのドライブにアクセスできなくなるため、ボリュームが使用停止になる場合があります、ホストのリブートが必要になるなど、リカバリが複雑になる可能性があります。このパラメータを使用するときは注意してください。

最小ファームウェアレベル

7.60

トレイ識別の設定 - SANtricity CLI

set trayコマンドは'ストレージ・アレイ内のコントローラ・トレイ'コントローラ・ドライブ・トレイ'またはドライブ・トレイのトレイIDを設定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイ環境 SMcliパッケージがすべてインストールされていれば、EF600およびEF300アレイ

ロール

このコマンドをE2800、E5700、EF600、またはEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、トレイIDをコントローラファームウェアから設定可能なコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイにのみ有効です。トレイIDをスイッチで設定するコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイには使用できません。

構文

```
set tray ["<em>serialNumber</em>"] id=<em>trayID</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	トレイIDを設定するコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイのシリアル番号。シリアル番号には、英数字を任意に組み合わせで指定できます。文字数に制限はありません。シリアル番号は二重引用符 ("") で囲みます。
「id」	コントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイのトレイIDの値。トレイIDの値は'0' '9'または'10' '99'です <div><div></div><div>DE5600、DE1600、DE6600の各エンクロージャの場合は、シリアル番号の前にテキスト「SN」とスペースを付加します。たとえば、「SN SV23802522」と入力します。</div></div> <div><div></div><div>トレイIDの値はかっこで囲む必要はありません。</div></div> <div><div></div><div>「00」から「09」までのトレイ値は、コントローラによって拒否されます。これらの値を指定するには0～9を使用します</div></div>

注：

このコマンドは、当初CE6998コントローラトレイをサポートしていましたCE6998シリーズのコントローラトレイはさまざまなドライブトレイに接続でき、これにはトレイIDがスイッチで設定されるドライブトレイも含まれます。CE6998シリーズのコントローラトレイをスイッチで設定されたトレイに接続する場合、コントローラトレイの有効なトレイID値は「80~99」です。これにより、接続されたドライブトレイのトレイIDとの競合を回避できます。

トレイサービスアクション許可インジケータの設定 - SANtricity CLI

set tray serviceAllowedIndicatorコマンドは'電源ファンキャニスター'相互接続バッテリーキャニスター'または環境サービスモジュール(ESM)キャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

コントローラキャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには'set controller serviceAllowedIndicator'コマンドを使用します

構文

```
set tray [<em>trayID</em>]  
(powerFan [(left | right | top | bottom)] |  
interconnect |  
esm [(left | right | top | bottom)]) |  
battery [(left | right)] |  
fanCanister [(left | right)] |  
powerCanister [(top | bottom)] |  
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	電源ファンキャニスター、インターコネクトキャニスター、ESMキャニスター、またはバッテリーキャニスターが取り付けられているトレイ。トレイIDの値は'0～99'ですトレイIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。トレイIDの値を入力しない場合は、コントローラトレイのトレイIDがデフォルト値となります。
「パワーファン」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにする電源ファンキャニスター。有効な電源ファン・キャニスター識別子は'left'right'top'bottom'です電源ファンキャニスター識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
相互接続	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするインターコネクトバッテリーキャニスター。
「ESM」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするESMキャニスター。有効なESMキャニスター識別子は'left'right'top'bottom'です
「バッテリー」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするバッテリー。有効なバッテリー識別子は'left'または'right'です
「fanCanister」の略	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするファンキャニスター。有効なファン・キャニスター識別子は'left'または'right'です
「パワーキャニスタ」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにする電源キャニスター。有効な電源キャニスター識別子は'top'または'bottom'です
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

注：

このコマンドは、CE6998コントローラトレイで使用するために定義されたコマンドですCE6998コントローラトレイの発売前に出荷されたコントローラトレイではサポートされません

例

次のコマンドは、IPアドレス155.155.155.155のトレイ5に取り付けられている左側のESMの保守操作可能イ

ンジケータライトをオンにします。

```
SMcli 123.145.167.214 123.145.167.215 -c "set tray [5]  
ESM [left] serviceAllowedIndicator=on;"
```

最小ファームウェアレベル

6.14で、次のパラメータが追加されました

- 「パワーファン」
- 相互接続

6.16で、次のパラメータが追加されました

- 「tray」
- 「ESM」

7.60で'top'とbottom'の識別子が追加されます

7.60で'powerCanisterおよびfanCanisterパラメータが追加されました

ボリュームグループ内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI

set volumeコマンドは'ボリューム・グループ内のボリュームのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ほとんどのパラメータでは、1つ以上のボリュームのプロパティを定義できます。一部のパラメータでは、1つのボリュームのプロパティのみを定義することもできます。構文の定義は、複数のボリュームに適用できるパラメータと、1つのボリュームにしか適用できないパラメータを、別々に示しています。



ボリュームグループ内のボリューム数が32を超える構成では、このコマンドの実行中にタイムアウトとなり、ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生する可能性があります。ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生した場合は、ホストI/Oを休止し、処理をやり直してください。

1つ以上のボリュームに適用される構文

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)  
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>  
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)  
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)  
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)  
owner=(a|b)  
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)  
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)  
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)  
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>  
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)  
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)  
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)  
owner=(a|b)  
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)  
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)  
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```

set (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"] |
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"] | volume
<"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)

```

```

set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)

```

```

set (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"] |
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"] | volume
<"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)

```

```

set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
reservedFutureOption1=(TRUE | FALSE)

```

1つのボリュームのみに適用される構文

```

set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>)]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```

```

set (volume [<"<em>volumeName</em>">] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em>
... <em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>)]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```

```

set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>slotIDn</em>)]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```


パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのボリュームのプロパティを設定します。
「volume」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	<p>プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 (") で囲んだ上で山かっこ (<>) で囲みます。</p> <div>  <p>このコマンドを実行するときは、WWIDにコロンは使用しないでください。</p> </div>
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。 • 各名前は二重引用符 (") で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「cacheFlushModifier」	ボリュームのデータが物理ストレージにフラッシュされる前にキャッシュに保持される最大時間。有効な値については、「メモ」セクションを参照してください。
「cacheWithoutBatteryEnabled」	バッテリーなしのキャッシュをオンまたはオフにするための設定。バッテリーなしのキャッシュをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。バッテリーなしのキャッシュをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。

パラメータ	説明
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「mirrorCacheEnabled」	ミラーキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ミラー・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますミラー・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「modificationPriority」	ストレージアレイが稼働している間のボリューム変更の優先度。有効な値は'highest'high'high'medium'low'low'lowest'です
「owner」をクリックします	ボリュームを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですこのパラメータは、ボリュームの所有者を変更する場合にのみ使用します。
「preReadRedundancyCheck」	<p>読み取り前冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。読み取り前冗長性チェックをオンにすると、読み取りデータを含むストライプに対してRAID冗長性データの整合性が検証されます。読み取り前冗長性チェックは読み取り処理でのみ実行されます。読み取り前冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します読み取り前冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します</p> <div>  <p>RAID 0ボリュームなどの非冗長ボリュームでは、このパラメータを使用しないでください。</p> </div>
readCacheEnabled	読み取りキャッシュをオンまたはオフにするための設定。リード・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますリード・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「writeCacheEnabled」を使用します	書き込みキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ライト・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますライト・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します

パラメータ	説明
「cacheReadPrefetch」というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します キャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します
「dataAssuranceDisabled」	<p>特定のボリュームのData Assuranceをオフにするための設定。</p> <p>このパラメータは、ボリュームがData Assuranceに対応している場合にのみ有効です。このパラメータは、Data Assuranceをサポートするボリュームが、Data Assuranceをサポートできないボリュームに変更します。</p> <div>  <p>このオプションを有効にできるのは、ドライブがDAをサポートする場合のみです。</p> </div> <p>Data AssuranceをサポートするボリュームからData Assuranceを削除するには、このパラメータを「true」に設定します。</p> <div>  <p>いったんData Assuranceを削除したボリュームでは、Data Assuranceをリセットすることはできません。</p> </div> <p>Data Assuranceを削除したボリューム上のデータに対してData Assuranceをリセットするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボリュームからデータを削除します。 2. ボリュームを削除します。 3. 削除したボリュームのプロパティを使用して新しいボリュームを再作成します。 4. 新しいボリュームに対してData Assuranceを設定します。 5. データを新しいボリュームに移動します。
「addCapacity」	プロパティを定義するボリュームのストレージサイズ（容量）を増やすための設定。サイズは'bytes' 'KB' 'MB' 'GB' 'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。

パラメータ	説明
「addDrives」を参照してください	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>新しいサイズに対応する追加のドライブを指定する必要がある場合は、このパラメータを「addCapacity」パラメータとともに使用します。</p>
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「segmentSize」のように表示されます	コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータ量 (KB) を指定します。有効な値は'8'16'32'64'128'です 「256」または「512」。
「userLabel」のように入力します	既存のボリュームに付ける新しい名前。新しいボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
「preReadRedundancyCheck」	読み取り処理中にストライプのRAID冗長性データの整合性をチェックするための設定。RAIDレベル0などの非冗長ボリュームには、この処理を使用しないでください。冗長性の整合性をチェックするには'このパラメータをTRUEに設定しますストライプ・チェックを行わない場合は'このパラメータをFALSEに設定します

注：

ボリューム数が32を超えるボリュームグループでは、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、この処理の完了前にタイムアウトとなり、内部コントローラのリポートが発生する可能性もあります。この問題が表示された場合は、ホストI/Oを休止し、処理をやり直してください。

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

これらのパラメータは、一度に1つのボリュームのみに適用できます。

- 「addCapacity」
- 「segmentSize」 のように表示されます
- 「userLabel」 のように入力します
- 「logicalUnitNumber」 と入力します

容量の追加、ドライブの追加、およびセグメントサイズの確認

「addCapacity」パラメータ、「addDrives」パラメータ、または「segmentSize」パラメータを設定すると、長時間実行される処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはありません。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

キャッシュフラッシュ修飾子

次の表に、キャッシュフラッシュ修飾子の有効な値を示します。

価値	説明
「即時」	データはキャッシュに配置され次第フラッシュされます。
「.25」	データは250ミリ秒後にフラッシュされます。
5.	データは500ミリ秒後にフラッシュされます。
「.75」	データは750ミリ秒後にフラッシュされます。
「1」	データは1秒後にフラッシュされます
1.	データは1500ミリ秒後にフラッシュされます。
2.	データは2秒後にフラッシュされます
「5」	データは5秒後にフラッシュされます
「10」	データは10秒後にフラッシュされます
20歳	データは20秒後にフラッシュされます
「60」	データは60秒（1分）後にフラッシュされます。

価値	説明
120	データは120秒（2分）後にフラッシュされます。
300	データは300秒（5分）後にフラッシュされます。
「1200」	データは1200秒（20分）後にフラッシュされます。
「3600」	データは3600秒（1時間）後にフラッシュされます。
「無限」	キャッシュ内のデータには、年齢や時間の制約はありません。データは、コントローラによって管理されるその他の条件に基づいてフラッシュされます。



「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以上に設定しないでください。テストを目的とした場合は例外です。「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以上に設定したテストを実行した後、「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以下に戻します。

バッテリーなしのキャッシュを有効にしました

バッテリーなしの書き込みキャッシュを有効にすると、コントローラのバッテリーが完全に放電されている場合、フル充電されていない場合、または取り付けられていない場合でも書き込みキャッシュが実行されます。無停電電源装置（UPS）やその他のバックアップ電源がない場合にこのパラメータを「true」に設定すると、ストレージレイへの給電が停止した場合にデータが失われる可能性があります。書き込みキャッシュが無効になっている場合、このパラメータは効果がありません。

修正の優先順位

変更優先度は、ボリュームのプロパティを変更する際に使用されるシステムリソースの量を定義します。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してボリュームの変更が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

キャッシュ読み取りプリフェッチ

「cacheReadPrefetch」パラメータを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシュにコピーする間、追加のデータブロックをキャッシュにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシュから処理できる可能性が高くなります。キャッシュ読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。使用するストレージレイの設定によって、コントローラがキャッシュに読み込む追加のデータブロックの数が決まります。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。

セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。

ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ（マルチメディアなど）を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。（データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます）。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

最小ファームウェアレベル

5.00で「addCapacity」パラメータが追加されました。

7.10で、「preReadRedundancyCheck」パラメータが追加されました。

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

7.75で、「dataAssuranceDisabled」パラメータが追加されました。

8.10で、キャッシュフラッシュテーブルの「cacheFlushModifier」パラメータの値が修正されました。

ボリュームマッピングの設定 - SANtricity CLI

set volume logicalUnitNumber'コマンドは'ボリュームとホストまたはホストグループ間の論理ユニット番号(LUN)またはネームスペースID (NSID)マッピングを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ボリュームグループまたはディスクプール内のボリュームに対して使用できます。



オンラインボリュームコピーで使用されているSnapshotボリュームには、このコマンドは使用できません。

構文

```
set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <"wwID"> | accessVolume)
logicalUnitNumber=<em>lun</em>
(host="<em>hostName</em>" |
hostGroup=("<em>hostGroupName</em>" | defaultGroup)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	LUNを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	LUNを定義するボリュームのWorld Wide Identifier（WWID）。WWIDは二重引用符（"）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。
「accessVolume」のようになります	アクセスボリュームの論理ユニット番号。LUNは、アクセスボリュームに設定できる唯一のプロパティです。
「logicalUnitNumber」と入力します	<p>特定のホストにマッピングするLUNまたはネームスペースID。このパラメータは、ホストをホストグループにも割り当てます。</p> <div>  <p>LUNまたはネームスペースIDには、ホストオペレーティングシステムでサポートされる範囲内の未使用の値を指定する必要があります。ホストでサポートされないLUNまたはネームスペースIDにボリュームをマッピングした場合、エラーは発生しませんが、ホストはボリュームにアクセスできなくなります。</p> </div>
ホスト	ボリュームのマッピング先であるホストの名前。ホスト名は二重引用符（"）で囲みます。
「hostGroup」と入力します	ボリュームのマッピング先であるホストグループの名前。ホストグループ名は二重引用符（"）で囲みます。defaultGroupはボリュームがマッピングされているホストを含むホスト・グループです

注：

ホストグループはオプションのトポロジ要素であり、同じボリュームへのアクセスを共有する一連のホストを指定するかどうかを定義できます。ホストグループは論理エンティティです。ホストグループは、同じボリュームへのアクセスを共有できるホストが複数ある場合にのみ定義してください。

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

アクセスボリュームは、ストレージ管理ソフトウェアとストレージアレイコントローラの間のインバンド通信に使用されるSAN環境内のボリュームです。このボリュームはLUNアドレスまたはNSIDアドレスを使用し、アプリケーションデータストレージには使用できない20MBのストレージスペースを使用します。アクセスボリュームは、インバンド管理されるストレージアレイでのみ必要です。「accessVolume」パラメータを指定した場合、設定できる唯一のプロパティは「logicalUnitNumber」パラメータです。

最小ファームウェアレベル

7.83で、ディスクプールのSnapshotボリュームが追加されました。

ボリュームの **SSD** キャッシュを設定する - **SANtricity CLI**

set volume ssdCacheEnabledコマンドは'特定のボリュームのSSDキャッシュ機能を使用したキャッシュのオン/オフを切り替えます

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ボリュームは次のいずれかです。

- 標準ボリューム。名前またはWWIDで識別されます
- Snapshotボリューム
- 整合性グループのSnapshotボリューム

標準ボリュームに適用される構文

```
set volume ([<em>volumeName</em>] | <"WWID">) ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

Snapshotボリュームに適用される構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"] ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

整合性グループのSnapshotボリュームに適用される構文

```
set cgSnapVolume ["<em>cgSnapVolumeName</em>"] ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	SSDキャッシュをオンまたはオフにする標準ボリュームの名前。ボリュームの名前は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲む必要があります。
「volume」	SSDキャッシュをオンまたはオフにする標準ボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 (") で囲んだ上で山かっこ (<>) で囲みます。
「SnapVolume」	SSDキャッシュをオンまたはオフにするSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの名前は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
cgSnapVolume	SSDキャッシュをオンまたはオフにする整合性グループのSnapshotボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「ssdCacheEnabled」を入力します	SSDキャッシュをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。SSDキャッシュをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。

注：

SSDキャッシュは、一度に1つのボリュームに対してオンまたはオフにすることができます。

ボリュームのSSDキャッシュをオフにすると、そのボリュームのSSDキャッシュがページされます。

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

ボリュームコピーの設定 - SANtricity CLI

set VolumeCopy targetコマンドは'ボリューム・コピー・ペアのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン7.83では'copyType=(online | offline)パラメータは使用されなくなりました

このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

構文

```
set volumeCopy target [<em>targetName</em>]
source [<em>sourceName</em>]
[copyPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[targetReadOnlyEnabled=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	データのコピー先となるボリュームの名前。ターゲットボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ターゲットボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ターゲットボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「source」を参照してください	データのコピー元のボリュームの名前。ソースボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ソースボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ソースボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「copyPriority」	ホストのI/Oアクティビティに対するボリュームコピーの優先度。有効な値は'highest'high'high'medium'low'low'lowest'です
targetReadOnlyEnabled	ターゲットボリュームへの書き込みを可能にするか、ターゲットボリュームからの読み取りのみを可能にするかを選択する設定。ターゲット・ボリュームに書き込むには'このパラメータをFALSEに設定しますターゲット・ボリュームに書き込みできないようにするには'このパラメータをTRUEに設定します
「copyType」	<div>  このパラメータは廃止されました。 </div>

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

最小ファームウェアレベル

5.40

7.83で'copyType=(online | offline)パラメータが削除されました

ボリュームグループの強制状態を設定する - SANtricity CLI

set volumegroup forcedState'コマンドは'ボリュームグループを強制状態に移行します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

start volumeGroup importコマンドを使用してボリュームグループをインポート済みの状態に移行しない場合、またはハードウェアエラーのためにインポート操作が機能しない場合は、このコマンドを使用します。強

制状態のボリュームグループはインポート可能です。インポート後にハードウェアエラーを特定できます。

構文

```
set volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] forcedState
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	強制状態に移行するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

ボリュームグループを構成するドライブを、あるストレージアレイから別のストレージアレイに移動できます。CLIには、ドライブを移動するためのコマンドが3つあります。コマンドは'start volumeGroup export'start volumeGroup import'および'set volumeGroup forcedState'です

強制状態のボリュームグループにはインポート処理を実行できます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループの設定 - SANtricity CLI

set volumegroupコマンドは'ボリューム・グループのプロパティを定義します


サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



1つのコマンドで実行できる処理（ドライブの追加、RAIDレベルの変更、またはボリュームグループ所有権の変更）は1つだけです。1つのコマンドで複数の処理を実行することはできません。

構文

```
set volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]
[addDrives=(<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>) ]|
[raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6) ]|
[owner=(a|b) ]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	プロパティを設定するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。
「addDrives」を参照してください	<p>ボリュームグループに追加するドライブの場所。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0'～'99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
raidLevel	ボリュームグループのRAIDレベル。有効な値は'0' '1' '3' '5' または '6' です
「owner」をクリックします	ボリュームグループを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですこのパラメータは、ボリュームグループの所有者を変更する場合にのみ使用します。

注：

ボリューム数が32を超えるボリュームグループでは、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、ボリュームグループ定義が設定される前にタイムアウト時間が終了したために、内部コントローラのリポートが発生する場合があります。この問題が表示された場合は、ホストI/O処理を休止し、もう一度コマンドを実行します。

このコマンドではパラメータを1つしか指定できません。



'addDrives'パラメータまたは'raidLevel'パラメータを指定すると'長時間実行される処理が開始され'停止することはできません

'addDrives'パラメータは'大容量ドライブ・トレイと小容量ドライブ・トレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

トラブルシューティング

ドライブを追加して大容量のボリュームグループを拡張しようとする、Dynamic Capacity Expansion (DCE；動的容量拡張) と呼ばれ、処理に失敗する場合があります。次のメッセージが表示されます。

リターン・コード：エラー26 -ボリューム・グループ内のドライブ数と関連ボリュームのセグメント・サイズが原因で、変更処理を完了できません。セグメントサイズの変更オプションを使用して、ボリュームグループ内のすべてのボリュームのセグメントサイズを128KB以下に縮小します。次に操作を再試行します

7.35.xx.xxファームウェアを実行するシステムでは、上記のメッセージではなく次のメッセージが表示されて処理が失敗する場合があります。

リターン・コード:エラー462 -ファームウェアが十分なキャッシュ・メモリを割り当てられなかったためSYMBOL手順 を実行できませんでしたエラー発生時の操作：proc_startVolum

上記のメッセージに加えて、DCE処理を実行するための十分なキャッシュがないことを通知するメジャーイベントログ (MEL) イベントが発生する場合があります。

この問題は、7.xxファームウェアを実行しているコントローラで発生する可能性があります。

DCEを実行するには、元のボリュームから読み取られたデータと拡張後のボリュームに書き込まれるデータをバッファするための十分なメモリが必要です。拡張処理でのドライブ数、ストライプサイズ、およびミラー処理が有効かどうかという要因の組み合わせによっては、DCE処理を実行するためのメモリが不足することがあります。

上記の状況が発生した場合は、次の方法で対処できます。

- 他の未割り当てのドライブを使用して必要なサイズのボリュームグループを作成します。
- 現在のボリュームグループを削除し、必要な数のドライブでボリュームグループを再作成します。
- 使用するセグメントサイズを縮小して処理を再試行してください。
- 可能であれば、コントローラにメモリを追加してから、処理を再試行してください。

最小ファームウェアレベル

7.10で、RAID 6機能が追加されました。

7.30で'availability'パラメータが削除されました

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ディスクプール内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI

set volumesコマンドは'ディスク・プール内のボリュームのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ディスクプール内のボリューム数が32を超える構成では、このコマンドの実行中にタイムアウトとなり、ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリポートが発生する可能性があります。ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリポートが発生した場合は、ホストを休止状態にして処理をやり直してください。

構文

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)  
addCapacity = <em>capacityValue</em>[KB|MB|GB|TB|Bytes] |  
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em> |  
cacheReadPrefetch = (TRUE | FALSE) |  
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE) |  
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE) |  
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |  
preReadRedundancyCheck = (TRUE | FALSE) |  
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |  
redundancyCheckEnabled = (TRUE | FALSE) |  
segmentSize = <em>segmentSizeValue</em>  
userLabel = <em>userlabelValue</em>  
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |  
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのボリュームのプロパティを設定します。
「volume」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角っこ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角っこで囲む必要があります。
「volume」	<p>プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier（WWID）。WWIDは二重引用符（""）で囲んだ上で山っこ（<>）で囲みます。</p> <div>  <p>このコマンドを実行するときは、WWIDにコロンは使用しないでください。</p> </div>
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角っこ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角っこ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「addCapacity」	<p>プロパティを定義するボリュームのストレージサイズ（容量）を増やすための設定。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。</p> <p>このパラメータはシンボリックボリュームに対しては無効です。</p>
「cacheFlushModifier」	ボリュームのデータが物理ストレージにフラッシュされる前にキャッシュに保持される最大時間。有効な値については、「メモ」セクションを参照してください。

パラメータ	説明
「cacheReadPrefetch」というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します。キャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します。
「cacheWithoutBatteryEnabled」	バッテリーなしのキャッシュをオンまたはオフにするための設定。バッテリーなしのキャッシュをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。バッテリーなしのキャッシュをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します。メディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「mirrorCacheEnabled」	ミラーキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ミラー・キャッシュをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します。ミラー・キャッシュをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します。
「owner」をクリックします	ボリュームを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。このパラメータは、ボリュームの所有者を変更する場合にのみ使用します。
「preReadRedundancyCheck」	<p>読み取り前冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。読み取り前冗長性チェックをオンにすると、読み取りデータを含むストライプに対してRAID冗長性データの整合性が検証されます。読み取り前冗長性チェックは読み取り処理でのみ実行されます。読み取り前冗長性チェックをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します。読み取り前冗長性チェックをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します。</p> <div>  RAID 0ボリュームなどの非冗長ボリュームでは、このパラメータを使用しないでください。 </div>

パラメータ	説明
readCacheEnabled	読み取りキャッシュをオンまたはオフにするための設定。リード・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますリード・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「userLabel」のように入力します	既存のボリュームに付ける新しい名前。新しいボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
「writeCacheEnabled」を使用します	書き込みキャッシュ機能をオンにするための設定。

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

これらのパラメータは、一度に1つのボリュームのみに適用できます。

- 「addCapacity」
- 「segmentSize」のように表示されます
- 「userLabel」のように入力します

容量とセグメントサイズを追加

「addCapacity」パラメータまたは「segmentSize」パラメータを設定すると、長時間実行中の処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはありません。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

キャッシュフラッシュ修飾子

次の表に、キャッシュフラッシュ修飾子の有効な値を示します。

価値	説明
「即時」	データはキャッシュに配置され次第フラッシュされます。
「. 25」	データは250ミリ秒後にフラッシュされます。
5.	データは500ミリ秒後にフラッシュされます。

価値	説明
「.75」	データは750ミリ秒後にフラッシュされます。
「1」	データは1秒後にフラッシュされます
1.	データは1500ミリ秒後にフラッシュされます。
2.	データは2秒後にフラッシュされます
「5」	データは5秒後にフラッシュされます
「10」	データは10秒後にフラッシュされます
20歳	データは20秒後にフラッシュされます
「60」	データは60秒（1分）後にフラッシュされます。
120	データは120秒（2分）後にフラッシュされます。
300`	データは300秒（5分）後にフラッシュされます。
「1200」	データは1200秒（20分）後にフラッシュされます。
「3600」	データは3600秒（1時間）後にフラッシュされます。
「無限」	キャッシュ内のデータには、年齢や時間の制約はありません。データは、コントローラによって管理されるその他の条件に基づいてフラッシュされます。

バッテリーなしのキャッシュを有効にしました

バッテリーなしの書き込みキャッシュを有効にすると、コントローラのバッテリーが完全に放電されている場合、フル充電されていない場合、または取り付けられていない場合でも書き込みキャッシュが実行されます。無停電電源装置（UPS）やその他のバックアップ電源がない場合にこのパラメータを「true」に設定すると、ストレージレイへの給電が停止した場合にデータが失われる可能性があります。書き込みキャッシュが無効になっている場合、このパラメータは効果がありません。

修正の優先順位

変更優先度は、ボリュームのプロパティを変更する際に使用されるシステムリソースの量を定義します。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してボリュームの変更が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

キャッシュ読み取りプリフェッチ

「cacheReadPrefetch」パラメータを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシュにコピーする間、追加のデータブロックをキャッシュにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシュから処理できる可能性が高くなります。キャッシュ読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。使用するストレージアレイの設定によって、コントローラがキャッシュに読み込む追加のデータブロックの数が決まります。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。

セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。

ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ（マルチメディアなど）を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。（データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます）。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

最小ファームウェアレベル

7.83

表示...

ドライブのダウンロード進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show allDrives downloadProgress」コマンドは、「download drive firmware」コマンドまたは「download storageArray driveFirmware」コマンドの対象となるドライブのファームウェアダウンロードのステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show allDrives downloadProgress
```

パラメータ

なし

注：

すべてのファームウェアダウンロードが正常に完了すると、このコマンドはSuccessfulを返します。ファームウェアダウンロードが1つでも失敗した場合、対象の各ドライブのファームウェアダウンロードのステータスが表示されます。このコマンドから返されるステータスを次の表に示します。

ステータス	定義（ Definition ）
「成功しました」	ダウンロードはエラーなしで完了しました。
「未試行」	ダウンロードは開始されませんでした。
「部分的なダウンロード」	ダウンロードが進行中です。
「失敗しました」	ダウンロードは完了しましたが、エラーがあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

ドライブのパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI

show allDrives performanceStatsコマンドは'ドライブのパフォーマンスに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージレイ内の各ドライブについて次の情報を返します。

- ドライブを含むストレージレイ
- 現在のI/Oレイテンシ
- 最大I/Oレイテンシ
- 最小I/Oレイテンシ
- 平均I/Oレイテンシ

構文

```
show (allDrives |drive
[<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] | drives
[<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>]) performanceStats
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allDrives」を参照してください	ストレージレイ内のすべてのドライブに関する情報を返すための設定。
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合

は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

次の例に示すように'show drive performanceStats'コマンドはドライブのパフォーマンス統計を返します

```
"Performance Monitor Statistics for Storage Array: remote_pp -  
Date/Time: 10/23/12 3:47:27 PM -  
Polling interval in seconds: 5"  
  
"Objects","Current IO Latency","Maximum IO Latency","Minimum IO Latency",  
"Average IO Latency"  
  
"Capture Iteration: 1","","","",""  
"Date/Time: 10/23/12 3:47:27 PM","","","",""  
"Drive Tray 0, Slot 1","0.0","0.0","0.0","0.0"
```

最小ファームウェアレベル

7.86

ドライブの表示 - SANtricity CLI

show allDrivesコマンドを実行すると、ストレージレイ内のドライブに関する情報が返されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各ドライブについて次の情報を返します。

- ドライブの総数
- ドライブのタイプ (SASまたはNVMe4K)
- 基本ドライブに関する情報
 - トレイの場所とスロットの場所
 - ステータス

- 容量
- データ転送率
- 製品ID
- ファームウェアレベル
- SSDドライブの消耗度に関する情報（アレイにSSDドライブが搭載されていない場合は表示されません）
 - 平均消去回数。
 - スペアブロックの残量
 - 使用済み寿命の割合（11.41リリースの新機能）。使用済み寿命は、これまでにSSDドライブに書き込まれたデータ量を、ドライブの理論上の合計書き込み量で割った値です。
- ドライブチャンネルに関する情報
 - トレイの場所とスロットの場所
 - 優先チャンネル
 - 冗長チャンネル
- ホットスペアの適用対象範囲
- 各ドライブの詳細



NVMeドライブの製造日情報は返されません。

構文

```
show <a id="__indexterm-1" type="indexterm">allDrives
[driveMediaType=(HDD | SSD | unknown | allMedia)] | [driveType=( SAS |
NVMe4K)] | (drive [<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] |
drives [<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>]
summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allDrives」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのドライブに関する情報を返すための設定。

パラメータ	説明
driveMediaType	<p>情報を取得するドライブメディアのタイプ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HDD]--ドライブトレイにハードドライブがある場合は'このオプションを使用します • SSD'--ドライブトレイにソリッドステートドライブがある場合は'このオプションを使用します • 不明—どのタイプのドライブメディアがドライブトレイにあるかわからない場合は'このオプションを使用します • [allMedia]--ドライブトレイにあるすべてのタイプのドライブメディアを使用する場合に'このオプションを使用します
「ドライブタイプ」	<p>情報を取得するドライブのタイプ。ドライブタイプを混在させることはできません。</p> <p>有効なドライブタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「SAS」 • 「NVMe4K」 <p>ドライブタイプを指定しない場合、このコマンドはデフォルトでany typeになります。</p>
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>
「概要」	<p>指定したドライブのステータス、容量、データ転送率、製品ID、およびファームウェアバージョンを返すための設定。</p>

注：

ストレージ・アレイ内のすべてのドライブのタイプと場所に関する情報を確認するには'allDrives'パラメータを使用します

ストレージアレイ内のSASドライブに関する情報を確認するには、「drivetype」パラメータを使用します。

特定の場所にあるドライブのタイプを確認するには'drive'パラメータを使用し'ドライブのトレイIDとスロットIDを入力します

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

5.43

7.60で'drawerID'ユーザー入力と'driveMediaType'パラメータが追加されました

8.41で、E2800、E5700、またはEF570システムのSSDドライブの消耗度レポート情報が追加されました。使用済み寿命の割合の形式で表示されます。

ホストポートの表示 - SANtricity CLI

「show allHostPorts」 コマンドは、設定されたホストポートに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイに接続されているすべてのホストポートについて次の情報を返します。

- ホストポートの識別子
- ホストポート名
- ホストタイプ

構文

```
show allHostPorts
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるHBAホストポート情報の例を次に示します。

HOST PORT IDENTIFIER	HOST PORT NAME	HOST TYPE
12:34:56:54:33:22:22:22	Jupiter1	Solaris
12:34:56:78:98:98:88:88	Pluto1	Windows 2000/Server 2003
Clustered		
54:32:12:34:34:55:65:66	Undefined	Undefined

最小ファームウェアレベル

5.40

SNMPコミュニティを表示する - SANtricity CLI

show allSnmpCommunitiesコマンドは、ストレージアレイに定義された簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）コミュニティに関する情報を返します。SNMPコミュニティは、ルータ、スイッチ、プリンタ、ストレージデバイスなどのデバイスの集合です。デバイスを管理および監視するためにグループ化されています。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

返される情報には次のものがあります。

- コミュニティの合計数
- トラップの送信先の合計数
- SNMPコミュニティの名前

構文

```
show (allSnmpCommunities |
snmpCommunity communityName="snmpCommunityName" |
snmpCommunities [snmpCommunityName1 ...
snmpCommunityNameN])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnmpCommunities」を参照してください	ストレージレイ内のすべてのSNMPコミュニティに関する情報を返すためのパラメータ。
「CommunityName」の略	情報を取得するSNMPコミュニティの名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。
「snmpCommunities」を参照してください	情報を取得する複数のSNMPコミュニティの名前。以下のルールを使用して、SNMPコミュニティの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。• 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	SNMPコミュニティの合計数とSNMPトラップの送信先の合計数のリストを返すためのパラメータ。このパラメータを使用すると、詳細情報はすべて省略されます。

注：

SNMPは、マネージャと管理対象デバイスが属する1つ以上のコミュニティをサポートします。SNMP要求のデータパケットには、未加工のパスワードとして機能する_community string_inが含まれます。SNMPエージェントは、認識できないコミュニティストリングを含むGET要求やSET要求を拒否できます。コミュニティストリングは、エージェントからマネージャに送信されるトラップ通知にも含まれます。

組み込みのSNMPエージェントは、IPv4とIPv6の両方をサポートします。

このコマンドから返されるSNMPコミュニティ情報の例を次に示します。

```
SNMP COMMUNITIES-----
SUMMARY
  Total SNMP Communities: 2
  Total SNMP Trap Destinations: 1
DETAILS
  SNMP Community: TestComm1
  SNMP Permission: Read Only
    Associated Trap Destination:
    Trap Receiver IP Address: 10.113.173.133
    Send Authentication Failure Traps: true
  SNMP Community: Test2
  SNMP Permission: Read Only
    Associated Trap Destination:
```

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPv3 USM ユーザーの表示 - SANtricity CLI

「show allsnmpUsers」コマンドは、ストレージアレイに対して定義された簡易ネットワーク管理（SNMP）USMユーザに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnpUsers |
  snmpUser userName="snmpUsername" |
  snmpUsers [snmpUserName1 ... snmpUserNameN])
[summary]
```

このコマンドから返されるSNMPユーザ情報は次のようになります



```
SNMP USERS-----

SUMMARY

    Total SNMP Users: 2
    Total SNMP Trap Destinations: 1

DETAILS

    SNMP User: TestUser1
    SNMP Engine ID: local
    SNMP Permission: Read Only
    SNMP Authentication Protocol: sha
    SNMP Privacy Protocol: aes128

    Associated Trap Destination:

    Trap Receiver IP Address  Send Authentication Failure
Traps                        10.113.173.133                false

    SNMP User: TestUser2
    SNMP Engine ID: local
    SNMP Permission: Read Only
    SNMP Authentication Protocol: sha256
    SNMP Privacy Protocol: none

    Associated Trap Destination:
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnmpUsers」を参照してください	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのSNMPユーザに関する情報を返します。
「ユーザ名」	情報を取得するSNMPユーザの名前。SNMPユーザ名は二重引用符（"）で囲みます。

パラメータ	説明
「snmpUsers」	<p>情報を取得する複数のSNMPユーザの名前。以下のルールを使用して、SNMPユーザの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（"）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	<p>SNMPユーザの総数とSNMPトラップの送信先の合計数のリストを返すためのパラメータ。このパラメータを使用すると、詳細情報はすべて省略されます。</p>

最小ファームウェアレベル

8.72

アレイラベルの表示 - SANtricity CLI

Show array label コマンドは、ストレージ・アレイ・ラベルが定義されているか、または既存のすべてのストレージ・アレイ・ラベルが定義されているかを示す情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境します。

構文

```
show storageArrayLabel label <em>userDefinedString</em>
show storageArrayLabel all
```

パラメータ

パラメータ	説明
「userDefinedString」	<p>ストレージアレイのユーザ定義のラベルを指定できます。</p>

最小ファームウェアレベル

8.60

非同期ミラーグループの表示 - SANtricity CLI

「show asyncMirrorGroup summary」 コマンドは、1つ以上の非同期ミラーグループの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドでは、不完全な非同期ミラーペアも含め、各非同期ミラーグループに関連付けられている非同期ミラーペアも表示されます。

このコマンドを使用して、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアについて、定期的なデータ同期の進捗状況を表示することもできます。

構文

```
show (allAsyncMirrorGroups |
  asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>] |
  asyncMirrorGroups [<em>asyncMirrorGroupName1</em> ...
  <em>asyncMirrorGroupNameN</em>])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allAsyncMirrorGroups」を参照してください	このパラメータを使用して、すべての非同期ミラーグループのプロパティを表示します。
「asyncMirrorGroup」	設定情報および定期的なデータ同期の進捗状況を表示する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroups」を参照してください	<p>情報を取得する複数の非同期ミラーグループの名前。以下のルールを使用して、非同期ミラーグループの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	このパラメータは、1つ以上の非同期ミラーグループについて、同期の進捗状況の概要を表示します。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

非同期ミラーグループの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show asyncMirrorGroup synchronizationProgress」コマンドは、ローカルストレージアレイとリモートストレージアレイ間の非同期ミラーグループの_PERIODIC_SYNCHRONIZATIONの進捗状況を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアについて、データ同期の進捗状況を返します。このコマンドの進捗状況は、完了したデータ同期の割合で示されます。



同期には、初期同期と定期的同期の2種類があります。初期非同期ミラー・グループ同期の進行状況は'*Long Running Operations*ダイアログに表示され'show storageArray longRunningOperations'コマンドを実行することによって表示されます

構文

```
show asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>]  
[synchronizationProgress]  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	ローカルとリモートのストレージアレイ間の非同期ミラーグループの同期を表示する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角カッコ（[]）で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「synchronizationProgress」と入力します	このパラメータは、非同期ミラーグループの定期的な同期の進捗状況を表示します。
「概要」	このパラメータは、ローカルとリモートのストレージアレイ間の非同期ミラーグループの同期に関する概要を表示します。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

監査ログ設定の表示 - SANtricity CLI

show auditLog configurationコマンドを使用すると'ストレージ・アレイの監査ログ設定が表示されます

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show auditLog configuration
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show auditLog configuration;"

Logging level: All
Full policy: Overwrite
Maximum records: 30,000 count
Warning threshold: 90 percent

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

監査ログの概要を表示 - SANtricity CLI

show auditLog summaryコマンドは'監査ログの概要情報を表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show auditLog summary
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show auditLog summary;"

Total log records: 1,532
First log record: 1493070393313 (2017-04-24T16:46:33.313-0500)
Last log record: 1493134565128 (2017-04-25T10:36:05.128-0500)

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ブロックされたイベントを表示する - **SANtricity CLI**

「show blockedEventAlertList」コマンドは、「set blockEventAlert」コマンドによって現在ブロックされているイベントのリストを返します。このリスト内のイベントは、アラートの端末とパラメータ、つまりEメール、syslog、トラップの通知を使用して設定した通知を送信しないイベントです。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

コンテキスト (**Context**)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

構文

```
show blockedEventAlertList
```

例

出力には、ブロックされたイベントごとに1行があり、16進数形式でイベントの種類とイベントの概要が表示されます。出力の例を次に示します。

```
Executing Script...
0x280D Enclosure Failure
0x282B Tray Redundancy Lost
Script execution complete.
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.10で

証明書の表示 - SANtricity CLI

[Show certificates]コマンドを使用すると、CLIパッケージの信頼ストアにインストールされている証明書を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境します。

構文

```
show localCertificate all | alias alias
```

パラメータ

パラメータ	説明
「alias」	ユーザ定義のエイリアスを使用して証明書を指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.60

整合性グループのスナップショットイメージを表示する - SANtricity CLI

「show CGSnapImage」コマンドは、1つ以上のSnapshot整合性グループに含まれる1つまたは複数のSnapshotイメージを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800

、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show ((CGSnapImage [(<em>CGSnapImageName</em> |  
<em>CGSnapImageSequenceNumber</em>)]) |  
(CGSnapImages [(<em>CGSnapImageNumber1</em> ...  
<em>CGSnapImageNumbern</em> |  
<em>CGSnapImageSequenceNumber1</em> ...  
<em>CGSnapImageSequenceNumbern</em>)])) |  
allCGSnapImages  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「CGSnapImage」または「CGSnapImages」	<p>整合性グループ内のSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整合グループの名前 • 整合性グループ内のSnapshotイメージの識別子。 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整合性グループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 • 最新—コンシステンシ・グループで作成された最新のスナップショット・イメージを表示する場合に'このオプションを使用します • oldest --コンシステンシ・グループで作成された最も古いスナップショット・イメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>複数のSnapshotイメージ名またはシーケンス番号を入力できます。すべてのSnapshotイメージ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。Snapshotイメージ名はそれぞれスペースで区切ります。</p>
「allCGSnapImages」を参照してください	整合性グループのすべてのSnapshotイメージを返すための設定。
「概要」	ストレージレイ内のすべてのSnapshotイメージの概要情報をリストで返すための設定。

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshot整合性グループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、Snapshot整合性グループsnapCGroup1内のSnapshotイメージ12345を表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImage ["snapCGroup1:12345"];
```


Snapshot整合性グループsnapCGroup1内の最も新しいSnapshotイメージを表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImage ["snapCGroup1:newest"];
```

複数のSnapshot整合性グループsnapCGroup1、snapCGroup2、snapCGroup3内のSnapshotイメージを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImages ["snapCGroup1:12345 snapCGroup2:newest  
snapCGroup3:oldest"];
```

上記の例では、Snapshot整合性グループの名前とSnapshotイメージの識別子がコロン（:）で区切られています。

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームパリティチェックジョブの表示 - SANtricity CLI

。 show check volume parity jobs コマンドは、すべてのボリュームチェックパリティジョブとそのステータスを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show check volume parity jobs;
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

11.80

整合性グループの表示 - SANtricity CLI

「show consistencyGroup」 コマンドは、1つ以上のコンシステンシグループに関する情報を返します。

サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレに適用されます。

ロー

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage Adminローが必要です。

構文

```
show (allConsistencyGroups | consistencyGroup
[<em>consistencyGroupName</em>] |
consistencyGroups [<em>consistencyGroupName1</em> ...
<em>consistencyGroupNameN</em>])
[(summary | schedule)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allConsistencyGroups」	ストレージアレ内のすべての整合性グループに関する情報を返すための設定。
「consistencyGroup」	情報を取得する整合性グループの名前。整合性グループ名は角かっこ ([]) で囲みます。整合性グループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、整合性グループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「consistencyGroups」	<p>情報を取得する複数の整合性グループの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	整合グループに関する概要情報をリストで返すための設定。
「スケジュール」	このパラメータは、整合性グループのスケジュールに関する情報を返します。

最小ファームウェアレベル

7.83

署名済み証明書の表示 - SANtricity CLI

show controller arrayManagementSignedCertificate summary コマンドは、指定されたコントローラからの現在の署名付き証明書の概要を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show controller [(a|b)] arrayManagementSignedCertificate summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。

例

出力例は、以下に示すものと異なる場合があります。

```
SMcli -n Array1 -c "show controller[a] arrayManagementSignedCertificate  
all summary;"
```

```
=====
Controller A Signed Certificate
=====
Subject DN:   CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:    CN=Corp Root CA
Start:        <date>
Expire:       <date>

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

インストールされたルート/中間 **CA** 証明書の概要を表示する - **SANtricity CLI**

「show controller cAcertificate」コマンドは、指定されたコントローラからインストールされたCA証明書の要約を表示します。このコマンドは「delete controller cAcertificate」コマンドを実行する前に使用すると、削除する証明書のエイリアス名を知ることができます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show controller [(a|b)] caCertificate [all | aliases=("<em>alias1</em>"
... "<em>aliasN</em>")] summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラをユーザが指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。
「すべて」	すべてのルート/中間証明書を取得するように指定できます。
「別名」	取得するルート/中間証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

```
SMcli -n Array1 -c "show controller[a] caCertificate all summary;"

SMcli -n Array1 -c "show controller[b] caCertificate alias=("myAlias"
"anotherAlias") summary;"
=====
Controller A Authority Certificates
=====
Alias:          19527b38-8d26-44e5-8c7f-5bf2ca9db7cf
Subject DN:     CN=My Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=My Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date
-----
Alias:          myAliasName
Subject DN:     CN=My Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=My Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date

SMcli completed successfully.
```

コントローラの診断ステータスを表示する - SANtricity CLI

show controller コマンドは 'start controller diagnostic' コマンドによって開始されたコントローラ診断のステータスを返します

診断が完了すると、診断テストの結果がすべて表示されます。診断テストが終了していない場合は、終了したテストの結果のみが表示されます。テストの結果は端末に表示されますが、ファイルに書き込むこともできます。

構文

```
show controller [(a| b)] diagnosticStatus [file=<em>filename</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。
'file'	診断テストの結果を格納するファイルの名前。このコマンドでは、ファイル名にファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名を入力するときに拡張子を追加する必要があります。

コントローラのNVSRAMを表示する - SANtricity CLI

show controller NVSRAM コマンドは NVSRAM バイト値に関する情報を返します

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するに

は、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、指定したホストタイプのNVSRAMバイト値のリストを返します。オプションのパラメータを入力しない場合は、すべてのNVSRAMバイト値のリストが返されます。

構文

```
show (allControllers | controller [(a|b)])  
NVSRAM [hostType=<em>hostTypeIndexLabel</em> | host="<em>hostName</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allControllers」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する情報を返すための設定。
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。
「hostType」	ホストタイプのインデックスラベルまたはインデックス番号。使用可能なホストタイプ識別子のリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを使用します。
ホスト	コントローラに接続されているホストの名前。ホスト名は二重引用符 (") で囲みます。

注：

set controllerコマンドを使用してNVSRAM値を変更する前に'show controller NVSRAMコマンドを使用してNVSRAMの一部またはすべてを表示しますNVSRAMに変更を加える場合は、事前にテクニカルサポートに連絡して変更可能なNVSRAMの領域を確認してください。

コントローラの表示 - SANtricity CLI

show controllerコマンドは、コントローラに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージレイ内の各コントローラについて次の情報を返します。

- ステータス（オンラインまたはオフライン）
- 現在のファームウェアとNVSRAMの設定
- 保留中のファームウェア設定とNVSRAM設定（存在する場合）
- ボードID
- 製品ID
- 製品リビジョン
- シリアル番号
- 製造日
- キャッシュサイズまたはプロセッササイズ
- コントローラが設定されている日付と時刻
- 関連付けられているボリューム（優先所有者を含む）
- イーサネットポート
- 物理ディスクインターフェイス
- Fibre Channelホストインターフェイスのみに適用されるホストインターフェイス

構文

```
show (allControllers | controller [(a|b)])  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allControllers」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する情報を返すための設定。
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
「概要」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

次に、show controllerコマンドによって返される情報の例を示します。この例で示されているのはあくまでも出力であり、ストレージレイ構成のベストプラクティスを示すものではありません。

```
Controller in slot A

Status: Online
Current configuration
  Firmware version: 96.10.21.00
    Appware version: 96.10.21.00
    Bootware version: 96.10.21.00
  NVSRAM version: N4884-610800-001
Pending configuration
  Firmware version: Not applicable
    Appware version: Not applicable
    Bootware version: Not applicable
  NVSRAM version: Not applicable
  Transferred on: Not applicable
Board ID: 4884
Product ID: INF-01-00
Product revision: 9610
Serial number: 1T14148766
Date of manufacture: October 14, 2006
Cache/processor size (MB): 1024/128
Date/Time: Wed Feb 18 13:55:53 MST 2008
Associated Volumes (* = Preferred Owner):
  1*, 2*, CTL 0 Mirror Repository*, Mirror Repository 1*,
  JCG_Remote_MirrorMenuTests*
Ethernet port: 1
  MAC address: 00:a0:b8:0c:c3:f5
  Host name: ausctlr9
  Network configuration: Static
  IP address: 172.22.4.249
  Subnet mask: 255.255.255.0
  Gateway: 172.22.4.1
  Remote login: Enabled
Drive interface: Fibre
  Channel: 1
  Current ID: 125/0x1
  Maximum data rate: 2 Gbps
```

```
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Drive interface: Fibre
Channel: 2
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Drive interface: Fibre
Channel: 3
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Drive interface: Fibre
Channel: 4
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Host interface: Fibre
Port: 1
Current ID: Not applicable/0xFFFFFFFF
Preferred ID: 126/0x0
NL-Port ID: 0x011100
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Topology: Fabric Attach
World-wide port name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f6
World-wide node name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f5
Part type: HPFC-5200      revision 10
Host interface: Fibre
Port: 2
Current ID: Not applicable/0xFFFFFFFF
Preferred ID: 126/0x0
NL-Port ID: 0x011100
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
```

```
Topology: Fabric Attach
World-wide port name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f7
World-wide node name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f5
Part type: HPFC-5200      revision 10
```

summaryパラメータを使用すると、ドライブチャネル情報とホストチャネル情報を含まない情報のリストが返されます。

show storageArrayコマンドは、コントローラに関する詳細情報も返します。

最小ファームウェアレベル

5.43で'summary'パラメータが追加されました

ディスクプールの表示 - SANtricity CLI

show diskPoolコマンドは'ディスク・プールに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ディスクプールに関する次の情報を返します。

- ステータス（最適、デグレード、失敗、不明など）
- 合計容量
- 予約済み容量、使用可能容量、使用不可容量
- 使用済み容量、空き容量、使用率
- 現在の所有者（スロットAのコントローラまたはスロットBのコントローラ）
- ドライブメディア（SAS）
- ドライブメディアタイプ（HDDまたはSSD）
- ドライブインターフェイスタイプ（Fibre Channel、iSCSI、InfiniBand、SAS）
- トレイ損失の保護（yesまたはno）
- セキュリティ対応-ディスクプールがセキュリティ対応ドライブだけで構成されているかどうかを示します。セキュリティ対応ドライブには、FDEドライブとFIPSドライブがあります。
- セキュア-ディスクプールでドライブセキュリティがオンになっている（セキュリティ有効）かどうかを示します。

- 残り容量の通知設定（重大警告と早期警告）
- 優先度の設定
- 関連付けられているボリュームと空き容量
- 関連付けられているドライブ
- Data Assurance機能およびData Assuranceが有効なボリュームがある
- リソースプロビジョニング機能

構文

```
show diskPool [<em>diskPoolName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	情報を取得するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ（[]）で囲みます。ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ディスクプール名を二重引用符（" "）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

このコマンドは、ストレージレイプロファイルのディスクプールに関する内容を表示する場合に使用します。

最小ファームウェアレベル

7.83

ドライブチャネル統計情報の表示 - SANtricity CLI

「show driveChannel stats」 コマンドは、ドライブチャネルの累積データ転送とエラー情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

コントローラが自動的にドライブチャンネルをデグレードした場合、このコマンドは区間統計も表示します。このコマンドを使用すると、1つの特定のドライブチャンネル、複数のドライブチャンネル、またはすべてのドライブチャンネルに関する情報を表示できます。

構文

```
show (driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)] |  
    driveChannels [1 2 3 4 5 6 7 8] |  
    allDriveChannels) stats
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	情報を表示するドライブチャンネルの識別番号。有効なドライブ・チャンネル値は'1' '2' '3' '4' '5' です '6' '7' または '8' ドライブチャンネルは角かっこ ([]) で囲みます。 このパラメータは、1つのドライブチャンネルの統計情報のみを表示する場合に使用します。
「ドライブチャンネル」	情報を表示する複数のドライブチャンネルの識別番号。有効なドライブ・チャンネル値は'1' '2' '3' '4' '5' です '6' '7' または '8' ドライブチャンネルの値をスペースで区切って指定し、角かっこ ([]) で囲みます。 このパラメータは、複数のドライブチャンネルの統計を表示する場合に使用します。
「allDriveChannels」 のようになります	ドライブチャンネルをすべて選択する識別子。

注：

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャンネル識別子の更新が追加されました。

電子メールアラートの設定を表示する - SANtricity CLI

「show emailAlert summary」 コマンドは、電子メールアラートの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show emailAlert summary
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show emailAlert summary;"
```

```
EMAIL ALERT SETTINGS
```

```
Mail server address: email@company.com
```

```
Mail server encryption: starttls
```

```
Mail server port: 587
```

```
Mail server user name: accountName
```

```
Mail server password: secret123
```

```
Email sender address: no-reply@company.com
```

```
Recipient Email
```

```
recipient@company.com
```

```
recipient-two@company.com
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

SMTP暗号化を指定するパラメータ（none、smtps、STARTTLS）、SMTPポート、およびSMTPクレデンシャル（ユーザ名とパスワード）を11.70.01に追加しました。

現在の **iSCSI** セッションを表示する - **SANtricity CLI**

show iscsiSessionsコマンドはiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットのiSCSIセッションに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show iscsiInitiator ["<em>initiatorName</em>" | "<iqn">] iscsiSessions
```

```
show iscsiTarget ["<em>targetName</em>" | "<iqn">] iscsiSessions
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iscsiInitiator」と入力します	<p>セッション情報を取得するiSCSIイニシエータの名前。</p> <p>iSCSIイニシエータがラベルまたはエイリアスを使用している場合は、そのラベルまたはエイリアスを二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>iSCSIイニシエータがiSCSI修飾名（IQN）を使用している場合は、IQNを二重引用符（"）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。</p>
「iscsiTarget」と入力します	<p>セッション情報を取得するiSCSIターゲットの名前。</p> <p>iSCSIターゲットがラベルまたはエイリアスを使用している場合は、iSCSIターゲットラベルまたはエイリアスを二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>iSCSIターゲットがiSCSI修飾名（IQN）を使用している場合は、IQNを二重引用符（"）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。</p>

例

Retrieve initiator:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show
iscsiSessions;"
```

Initiator information:

Host user label:	bbb000b00b0
Host port user label:	bbb000b00b0b0
Name:	iqn.0b0b-0b.com:b0b0b0b0b0b0
Alias:	None

Host port user label:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show iscsiInitiator
[\"bbb000b00b0b0\"] iscsiSessions;"
```

IQN:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show iscsiInitiator
<\"iqn.0b0b-0b.com:b0b0b0b0b0b0\"> iscsiSessions;"
```

注:

このコマンドを引数なしで入力すると、現在実行中のすべてのiSCSIセッションに関する情報が返されます。次のコマンドは、現在のすべてのiSCSIセッションに関する情報を返します。

```
show iscsiSessions
```

情報を限定するには、特定のiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットを入力します。このコマンドは、指定したiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットのセッションに関する情報のみを返します。

イニシエータ名は、1~30文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。IQNは255文字以内で指定し、次の形式を使用します。

```
iqn.yyyy-mm.naming-authority:unique name
```

最小ファームウェアレベル

7.10

交換可能なドライブの表示 - SANtricity CLI

show replaceableDrivesコマンドを使用すると、ストレージレイ内の交換可能ドライブ

がすべて表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各交換可能ドライブについて次の情報を返します。

- トレイの場所とスロットの場所
- ドライブが属するボリュームグループの名前
- WWN (World Wide Name)
- ドライブのステータス

構文

```
show replaceableDrives
```

出力例

```
Replaceable drive at Tray 0, Slot 3
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c50028785aff00000000000000000
    Status: Removed
Replaceable drive at Tray 0, Slot 23
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c500095d46df00000000000000000
    Status: Removed
Replaceable drive at Tray 0, Slot 24
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c500287854d700000000000000000
    Status: Removed
```

最小ファームウェアレベル

7.10

スナップショットグループの表示 - SANtricity CLI

「show snapGroup」 コマンドは、1つ以上のSnapshotイメージ・グループに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnapGroups | snapGroup [snapGroupName] |  
snapGroups ["snapGroupName1" ... "snapGroupName"] )  
[summary | schedule]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapGroups」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのSnapshotグループに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapGroup」	情報を取得するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は角カッコ ([]) で囲みます。Snapshotグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、Snapshotグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「snapGroups」を参照してください	<p>情報を取得する複数のSnapshotグループの名前。以下のルールを使用して、Snapshotグループの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>Snapshotグループ名に特殊文字が含まれている場合や、数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	Snapshotグループに関する概要情報をリストで返すための設定。
「スケジュール」	Snapshotグループのコピー処理のスケジュールに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドから返されるSnapshotグループ情報の例を次に示します。

```
SNAPSHOT GROUP DETAILS
```

```
SNAPSHOT GROUPS-----
```

```
SUMMARY
```

```
Total Snapshot Groups: 1
Total Snapshot Images: 0
Enabled Snapshot Image Schedules: 0
Status: 1 Optimal, 0 Non Optimal
```

Name	Type	Status	Associated Base Volume
2_SG_01	Standard	Optimal	2

Total Repository Capacity	Available Repository Capacity	Snapshot Image Limit
10.318 GB	10.318 GB (100%)	0

Snapshot Images	Scheduled
0	No

DETAILS

Snapshot Group "2_SG_01"

Status: Optimal
Type: Standard
Associated base volume: 2
Cluster size: 65,536 bytes

Repository

Total repository volumes: 3
Aggregate repository status: Optimal
Total repository capacity: 10.318 GB
Used capacity: 0.000 MB (0%)
Available repository capacity: 10.318 GB (100%)
Repository full policy: Auto-purge Snapshot Images
Utilization alert threshold: 75%

Snapshot images

Total Snapshot images: 0
Auto-delete Snapshot images: Disabled
Snapshot image schedule: Not Applicable

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットイメージを表示 - SANtricity CLI

「show snapImage」 コマンドは、ユーザが以前に作成したSnapshotイメージに関する

情報を返します。

サポートされているアレ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレ

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

特定のSnapshotイメージを表示するための構文

```
show (allSnapImages | snapImage ["<em>snapImageName</em>"] |
snapImages ["<em>snapImageName1</em>" ... "<em>snapImageNamen</em>"])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapImages」	ストレージアレ内のすべてのSnapshotイメージに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapImage」	<p>情報を取得するSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループの名前• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。• 最新—スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します• oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

パラメータ	説明
「snapImages」	<p>情報を取得する複数のSnapshotイメージの名前。以下のルールを使用して、Snapshotイメージの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（"）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	このパラメータは、Snapshotイメージに関する概要情報をリストで返します。

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、SnapshotグループsnapGroup1内のSnapshotイメージ12345を表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show snapImage ["snapGroup1:12345"];
```

SnapshotグループsnapGroup1内の最も新しいSnapshotイメージを表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show snapImage ["snapGroup1:newest"];
```

複数のSnapshotグループsnapGroup1、snapGroup2、snapGroup3内のSnapshotイメージを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
show snapImages ["snapGroup1:12345 snapGroup2:newest snapGroup3:oldest"];
```

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームの表示 - SANtricity CLI

show snapVolumeコマンドは1つ以上のスナップショット・ボリュームに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnapVolumes | snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>" |  
snapVolumes ["<em>snapVolumeName1</em>" ... "<em>snapVolumeNameN</em>"])  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapVolumes」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのSnapshotボリュームに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapVolume」	情報を取得するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角カッコ ([]) で囲みます。
「snapVolumes」を参照してください	情報を取得する複数のSnapshotボリュームの名前。以下のルールを使用して、Snapshotボリュームの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。• 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	Snapshotボリュームに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドから返されるSnapshotボリューム情報の例を次に示します。

```
SNAPSHOT VOLUME (SNAPSHOT-IMAGE BASED) SUMMARY
```

SUMMARY

Total Snapshot Volumes: 1

Most Recent Snapshot Volume: Day month date hh:mm:ss yyyy

Status: 1 Optimal, 0 Non Optimal

Name	Type	Status	Capacity	Associated Base Volume
2_SV_0001	Standard	Optimal	3.000 GB	2

Snapshot Volume Timestamp	Snapshot Image Timestamp	Mode
1/23/12 6:44:31 PM IST	1/23/12 6:27:36 PM IST	Read Write

Total Repository Capacity	Available Repository Capacity
1.199 GB	0.125 MB (0%)

モニタのサイズによって、情報がどのように折り返されるかが決まり、情報がどのように表示されるかが決まります。

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMP MIB II システムグループ変数を表示する - SANtricity CLI

「show snmpSystemVariables」コマンドは、簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）システム変数に関する情報を返します。システム変数は、Management Information Base II（MIB-II）データベースで管理されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show snmpSystemVariables
```


パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるSNMPシステム変数情報の例を次に示します。

```
SYSTEM VARIABLES
  Sys Name: NONE
  Sys Contact: NONE
  Sys Location: NONE
```

最小ファームウェアレベル

8.30

SSD キャッシュ統計を表示する - SANtricity CLI

「show ssdCache」コマンドは、SSDキャッシュの使用状況に関するデータを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
show ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] [ssdCacheStatistics]
[controller=(a|b|both)]
[file="<em>filename</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	情報を取得するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「ssdCacheStatistics」と入力します	キャッシュ統計情報を取得することを示す'show ssdCache'コマンドのオプションのパラメータ
「controller」と入力します	SSDキャッシュメタデータは、それぞれが所有するボリュームについて各コントローラに格納されています。したがって、SSDキャッシュ統計はコントローラごとに管理および表示されます。有効なコントローラ識別子は'a'b'またはbothですここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラ'both'は両方のコントローラですコントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。コントローラを指定しない場合、デフォルト値は「both」です。
'file'	<p>SSDキャッシュ統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイルには、画面に出力される以外の統計も保存されます。</p> <p>ファイル名は二重引用符 ("") で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\ssdcachestats.csv"</p> <p>任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

注：

画面には次の統計が表示されます。

- * reads *-- SSDキャッシュ対応ボリュームのホスト読み取りの合計数。

読み取り数を書き込み数と比較します。効率的なSSDキャッシュ処理には、読み取り数書き込み数より多いことが必要です。書き込みに対する読み取りの比率が大きいほど、キャッシュ処理が向上します。

- * writes *- SSDキャッシュが有効なボリュームに対するホストの書き込みの合計数。
- キャッシュヒット--キャッシュヒットの数。
- キャッシュヒット率(%)--キャッシュヒット数を読み取りの合計数で割った値。

効果的なSSDキャッシュ処理には、キャッシュヒットの割合が50%より高いことが必要です。この値が小さい場合は、次のような理由が考えられます。

- 書き込みに対する読み取りの比率が小さすぎる
- 読み取りが繰り返されない
- キャッシュ容量が小さすぎる



最適なSSDキャッシュ容量を判別するには'start ssdCache [ssdCacheName] performanceModeling'コマンドを使用して'Performance Modeling Tool'を実行します

- キャッシュ割り当て率 (%) -割り当てられているSSDキャッシュストレージの量。このコントローラで使用可能なSSDキャッシュストレージの割合として表されます。割り当てられたバイト数を使用可能なバイト数で割った値です。

キャッシュ割り当ての割合は、通常は100%と表示されます。この数値が100%未満の場合は、キャッシュがウォームアップされていないか、アクセスされているすべてのデータよりもSSDキャッシュ容量が大きいことを意味します。後者の場合、SSDキャッシュ容量を小さくしても同レベルのパフォーマンスが得られる可能性があります。この値は、キャッシュされたデータがSSDキャッシュに配置されたことを示しているわけではなく、SSDキャッシュにデータを配置可能となる前の準備手順にすぎません。

- キャッシュ使用率 (%) -有効なボリュームのデータを含むSSDキャッシュストレージの量。割り当てられているSSDキャッシュストレージの割合として表されます。この値はSSDキャッシュの利用率または密度を表し、ユーザデータのバイト数を割り当てられたバイト数で割った値です。

キャッシュ使用率の割合は、通常は100%より小さく、多くの場合はさらに小さくなります。この数値は、SSDキャッシュ容量のうち、キャッシュデータが書き込まれている割合を示します。この数値が100%より小さい理由は、SSDキャッシュの各割り当て単位であるSSDキャッシュブロックが、サブブロックと呼ばれる小さい単位に分割され、それぞれ独立して確保されるからです。この値が大きいほど一般には有効ですが、小さい数値でもパフォーマンスが大幅に向上する可能性があります。

ファイルには、次の統計も保存されます。

- * Read Blocks * : ホスト読み取りのブロック数
- 書き込みブロック--ホスト書き込みのブロック数
- フルヒットブロック--ブロックキャッシュヒットの数。

この値は、SSDキャッシュから完全に読み込まれたブロックの数を示します。SSDキャッシュがパフォーマンスの向上に効果があるのは、フルキャッシュヒットである処理に対してのみです。

- 部分ヒット-すべてのブロックではなく、少なくとも1つのブロックがSSDキャッシュ内にあったホスト読み取りの数。これはSSDキャッシュ*ミス*で、ベースボリュームから読み取りが行われた場合に発生します。

部分キャッシュヒットと部分キャッシュヒットブロックは、SSDキャッシュ内にデータの一部しかない処理の結果として発生します。この場合、キャッシュされているHDDボリュームからデータを取得する必要があります。このタイプのヒットの場合、SSDキャッシュから得られるパフォーマンス上のメリットはありません。部分キャッシュヒットブロック数が完全キャッシュヒットブロック数より多い場合は、別のI/O特性タイプ（ファイルシステム、データベース、またはWebサーバ）を使用するとパフォーマンスが向上する可能性があります。

- 部分ヒット--ブロック--部分ヒットのブロック数。

部分キャッシュヒットと部分キャッシュヒットブロックは、SSDキャッシュ内にデータの一部しかない処理の結果として発生します。この場合、キャッシュされているHDDボリュームからデータを取得する必要があります。このタイプのヒットの場合、SSDキャッシュから得られるパフォーマンス上のメリットはありません。部分キャッシュヒットブロック数が完全キャッシュヒットブロック数より多い場合は、別のI/O特性タイプ（ファイルシステム、データベース、またはWebサーバ）を使用するとパフォーマンスが向上する可能性があります。

- *Misses *-- SSDキャッシュ内にブロックがなかったホスト読み取りの数。これはSSDキャッシュミスで、ベースボリュームから読み取りが行われた場合に発生します。

- **Misses** --ブロック--ミスしたブロックの数。
- 取り込み処理（ホスト読み取り）-ベースボリュームからSSDキャッシュにデータがコピーされたホスト読み取りの数。
- 取り込み処理（ホスト読み取り）--ブロック--取り込み処理（ホスト読み取り）のブロック数。
- 取り込み処理（ホスト書き込み）-ベースボリュームからSSDキャッシュにデータがコピーされたホスト書き込みの数。

書き込みI/O処理によってキャッシュが一杯にならないキャッシュ構成設定では、取り込み処理（ホスト書き込み）の数がゼロになることがあります。

- 取り込み処理（ホスト書き込み）--ブロック--取り込み処理（ホスト書き込み）のブロック数。
- 無効化処理-データが無効化された/ SSDキャッシュから削除された回数。キャッシュの無効化処理は、各ホスト書き込み要求、Forced Unit Access（FUA）によるホスト読み取り要求、確認要求、およびその他一部の状況で実行されます。
- リサイクル処理-別のベースボリュームやLBA範囲、またはその両方にSSDキャッシュブロックが再利用された回数。

効果的なキャッシュでは、読み取り処理と書き込み処理の合計数よりも再利用回数が少ないことが重要です。リサイクル処理の回数が読み取りと書き込みの合計数に近い場合、SSDキャッシュはスラッシングしています。キャッシュ容量を増やす必要があります。または、ワークロードがSSDキャッシュの使用に適していません。

- 使用可能バイト数- SSDキャッシュ内でこのコントローラが使用できるバイト数。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

- 割り当てバイト数- SSDキャッシュから割り当てられている、このコントローラのバイト数。SSDキャッシュから割り当てられたバイトは、空の場合と、ベースボリュームのデータが含まれている場合があります。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

- ユーザデータバイト数-- SSDキャッシュ内でベースボリュームのデータを含む割り当てバイト数。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュを表示 - SANtricity CLI

「show ssdCache」 コマンドは、SSDキャッシュに関する情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
show ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	情報を取得するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角カッコ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

注：

このコマンドから返されるSSDキャッシュ情報の例を次に示します。

```
SSD Cache name: my_cache
```

```
Status:                               Optimal
Type:                                   Read Only
I/O characteristic type:             File System
Maximum capacity allowed:             1,862.645 GB
Current capacity:                     557.792 GB
Additional capacity allowed            1,304.852 GB
Drive capacities:                     All 278.896 GB
Quality of Service (QoS) Attributes
  Security capable:                   No
  Secure:                             No
  Data Assurance (DA) capable:        No
Associated drives:

Tray      Slot
0          4
0          11
Volumes using SSD cache:              volume_test
```

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

ストレージアレイの自動構成を表示する - **SANtricity CLI**

「autoConfigure storageArray autoConfiguration」コマンドを実行すると、ストレージアレイが作成するデフォルトの自動設定が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ストレージアレイが特定のプロパティをサポートするかどうかを確認するには、このコマンドを実行するときにプロパティのパラメータを入力します。設定情報を取得する場合、このコマンドのパラメータを入力する必要はありません。

構文

```
show storageArray autoConfiguration
[driveType=(SAS | NVMe4K)
driveMediaType=(HDD | SSD | unknown | allMedia)
raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6)
volumeGroupWidth=<em>numberOfDrives</em>
volumeGroupCount=<em>numberOfVolumeGroups</em>
volumesPerGroupCount=<em>numberOfVolumesPerGroup</em>
hotSpareCount=<em>numberOfHotspares</em>
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
securityType=(none | capable | enabled)
secureDrives=(fips | fde)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブタイプ」	<p>ストレージアレイに使用するドライブのタイプ。</p> <p>ストレージ・アレイ内にドライブのタイプが1つだけの場合は'drivetype'パラメータは必要ありませんストレージアレイ内に複数のドライブタイプがある場合は、このパラメータを使用する必要があります。</p> <p>有効なドライブタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「SAS」• 「NVMe4K」

パラメータ	説明
driveMediaType	<p>ミラーリポジトリボリュームグループに使用するドライブメディアのタイプ。有効なドライブメディアは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HDD]--ドライブトレイにハードドライブがある場合は'このオプションを使用します • SSD'--ドライブトレイにソリッドステートドライブがある場合は'このオプションを使用します • 不明—ドライブトレイ内のドライブメディアのタイプが不明な場合に使用します • [allMedia]--ドライブトレイにあるすべてのタイプのドライブメディアを使用する場合に'このオプションを使用します <p>このパラメータは'repositoryDriveCount'パラメータを使用する場合に使用します</p> <p>ストレージアレイ内に複数のタイプのドライブメディアがある場合は、このパラメータを使用する必要があります。</p>
raidLevel	<p>ストレージアレイ内にドライブが含まれているボリュームグループのRAIDレベル。有効なRAIDレベルは'0'1' 3'5'または'6'です</p>
'volumeGroupWidth'	<p>ストレージアレイ内のボリュームグループ内のドライブ数。ドライブの容量によって異なります。整数値を使用します。</p>
「volumeGroupCount」のように指定します	<p>ストレージアレイ内のボリュームグループの数。整数値を使用します。</p>
「volumesPerGroupCount」	<p>ボリュームグループあたりの容量が同じボリュームの数。整数値を使用します。</p>
「hotSpareCount」を入力します	<p>ストレージアレイ内に必要なホットスペアの数。整数値を使用します。</p>
「segmentSize」のように表示されます	<p>コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータ量 (KB) を指定します。有効な値は'8'16'32'64'128'です 「256」または「512」。</p>

パラメータ	説明
「cacheReadPrefetch」というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します。キャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します
「securityType」	<p>ボリュームグループおよび関連するすべてのボリュームの作成時にセキュリティレベルを指定する設定。有効な設定は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 'none' --ボリュームグループとボリュームは安全ではありません。 • capable --ボリュームグループとボリュームにはセキュリティを設定する機能がありますがセキュリティは有効になっていません • 有効-ボリューム・グループとボリュームでセキュリティが有効になっています
「secureDrives」を参照してください	<p>ボリュームグループで使用するセキュアドライブのタイプ。有効な設定は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • fips — FIPS準拠のドライブのみを使用します • fde — FDE準拠のドライブを使用します <div>  <p>このパラメータは'securityType'パラメータとともに使用しますsecurityTypeパラメータに「none」を指定すると、「secureDrives」パラメータの値は無視されます。これは、セキュアでないボリュームグループにセキュアドライブタイプを指定する必要がないためです。</p> </div>

注：

プロパティを指定しない場合は、ドライブタイプごとにRAIDレベル5の候補が返されます。RAIDレベル5の候補がない場合は、RAIDレベル6、RAIDレベル3、RAIDレベル1、またはRAIDレベル0の候補を返します。自動設定のプロパティを指定すると、ファームウェアがプロパティをサポートできるかどうかコントローラによって検証されます。

ドライブとボリュームグループ

ボリュームグループは、ストレージレイのコントローラによって論理的にグループ化された一連のドライブです。ボリュームグループ内のドライブ数は、RAIDレベルとコントローラファームウェアによって制限されます。ボリュームグループを作成する際は、次のガイドラインに従ってください。

- ファームウェアバージョン7.10以降では、あとから使用するために容量をリザーブできるように、空のボ

リユームグループを作成できます。

- SASとFibre Channelなどのドライブタイプを1つのボリユームグループ内で混在させることはできません。
- ボリユームグループの最大ドライブ数は、次の条件によって異なります。
 - コントローラのタイプ
 - RAIDレベル
- RAIDレベルには、0、1、10、3、5が含まれます。 および6。
 - CDE3992またはCDE3994ストレージアレイでは、RAIDレベル0のボリユームグループとRAIDレベル10のボリユームグループには最大112本のドライブを配置できます。
 - CE6998ストレージアレイでは、RAIDレベル0のボリユームグループとRAIDレベル10のボリユームグループには最大224本のドライブを配置できます。
 - RAIDレベル3、RAIDレベル5、またはRAIDレベル6のボリユームグループに配置できるドライブは最大30本です。
 - RAIDレベル6のボリユームグループには、少なくとも5本のドライブが必要です。
 - RAIDレベル1のボリユームグループに4本以上のドライブがある場合、ストレージ管理ソフトウェアはボリユームグループをRAIDレベル10に自動的に変換します。RAIDレベル1 + RAIDレベル0です。
- ボリユームグループに容量の異なるドライブが含まれている場合は、容量の最も小さいドライブに基づいてボリユームグループ全体の容量が計算されます。
- トレイ/ドロワー損失の保護を有効にする場合のその他の条件については、次の表を参照してください。

レベル	トレイ損失の保護の基準	必要なトレイの最小数
ディスク・プール	ディスクプールに同じトレイのドライブが3本以上含まれない	6.
「RAID 6」	ボリユームグループに同じトレイのドライブが3本以上含まれない	3.
RAID 3またはRAID 5	ボリユームグループ内のドライブがすべて別々のトレイに配置されている	3.
RAID 1	RAID 1ペアのドライブがそれぞれ別のトレイに配置されている	2.
RAID 0	トレイ損失の保護は実現できない。	該当なし

レベル	ドロワー損失の保護の基準	必要なドロワーの最小数
ディスク・プール	プールに5つのドロワーすべてのドライブが含まれていて、各ドロワーに同じ数のドライブが配置されている。60ドライブのトレイでは、ディスクプールの構成が15、20、25、30、35の場合にドロワー損失の保護を実現できます。40、45、50、55、または60ドライブ。	5.
「RAID 6」	ボリュームグループに同じドロワーのドライブが3本以上含まれない。	3.
RAID 3またはRAID 5	ボリュームグループ内のドライブがすべて別々のドロワーに配置されている。	3.
RAID 1	ミラーペアのドライブがそれぞれ別のドロワーに配置されている。	2.
RAID 0	ドロワー損失の保護は実現できない。	該当なし

ホットスペア

ボリュームグループでは、データを保護するための重要な戦略は、ストレージレイ内の使用可能なドライブをホットスペアドライブとして割り当てることです。ホットスペアは、データが格納されていないドライブで、RAID 1、RAID 3、RAID 5、またはRAID 6のボリュームグループでドライブに障害が発生した場合に、ストレージレイでスタンバイとして機能します。ホットスペアを使用すると、ストレージレイの冗長性が向上します。

一般に、ホットスペアドライブには、保護対象のドライブの使用済み容量以上の容量が必要です。ホットスペアドライブのメディアタイプ、インターフェイスタイプ、および容量は、保護対象のドライブと同じである必要があります。

ストレージレイのドライブで障害が発生した場合、通常は障害が発生したドライブの代わりにホットスペアが自動的に使用されます。ドライブ障害の発生時にホットスペアが使用可能であれば、冗長性データパリティを使用してホットスペアにデータが再構築されます。データ退避のサポートでは、障害が発生したドライブとしてマークされる前に、データをホットスペアにコピーすることもできます。

障害が発生したドライブを物理的に交換したら、次のいずれかのオプションを使用してデータをリストアできます。

障害が発生したドライブを交換すると、ホットスペアのデータが交換用ドライブにコピーされます。この操作をコピーバックと呼びます。

ホットスペアドライブをボリュームグループの永続的メンバーとして指定する場合は、コピーバック処理は不要です。

ボリュームグループのトレイ損失の保護およびドロワー損失の保護が可能かどうかは、ボリュームグループを構成するドライブの場所によって異なります。ドライブの障害とホットスペアドライブの場所によっては、トレイ損失の保護とドロワー損失の保護が失われる場合があります。トレイ損失の保護とドロワー損失の保護が影響を受けないようにするには、障害が発生したドライブを交換してコピーバックプロセスを開始する必要があります。

ストレージアレイでは、Data Assurance (DA) が有効なボリュームのホットスペア対象範囲としてDA対応ドライブが自動的に選択されます。

DAが有効なボリュームのホットスペア対象範囲のストレージアレイにDA対応ドライブがあることを確認してください。DA対応ドライブの詳細については、Data Assurance機能を参照してください。

セキュリティ対応 (FIPSおよびFDE) ドライブは、セキュリティ対応とセキュリティ非対応の両方のドライブのホットスペアとして使用できます。セキュリティ非対応ドライブは、他のセキュリティ非対応ドライブに対して、また、ボリュームグループでセキュリティが有効になっていない場合はセキュリティ対応ドライブに対しても、対応可能です。FIPSボリュームグループは、FIPSドライブのみをホットスペアとして使用できます。ただし、FIPSホットスペアは、セキュリティ非対応、セキュリティ対応、およびセキュリティ有効のボリュームグループに対して使用できます。

ホットスペアがない場合でも、ストレージアレイの動作中に、障害が発生したドライブを交換できます。RAID 1、RAID 3、RAID 5、またはRAID 6のボリュームグループの一部であるドライブは、冗長性データパリティを使用して、交換用ドライブにデータを自動的に再構築します。この操作を再構築と呼びます。

セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ (マルチメディアなど) を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。(データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます)。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

キャッシュ読み取りプリフェッチ

キャッシュ読み取りプリフェッチを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシュにコピーすると同時に、追加のデータブロックをキャッシュにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシュから処理できる可能性が高くなります。キャッシュ読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。デフォルトは「true」です。

セキュリティタイプ

ストレージ・アレイのセキュリティ設定を指定するには'securityType'パラメータを使用します

'securityType'パラメータを'enabled'に設定する前に'ストレージ・アレイのセキュリティ・キーを作成する必要があります'ストレージ・アレイのセキュリティ・キーを作成するには'create storageArray securityKey'コマンドを使用します次のコマンドがセキュリティキーに関連しています。

- 「create storageArray securityKey」のように指定します
- 「export storageArray securityKey」のように指定します
- 「import storageArray securityKey」のように入力します
- 「set storageArray securityKey」のように指定します
- [Enable volumeGroup [volumeGroupName] security]を有効にします
- 「enable diskPool [diskPoolName]のセキュリティ」を参照してください

セキュアドライブ

セキュリティ対応ドライブには、Full Disk Encryption (FDE) ドライブと連邦情報処理標準 (FIPS) ドライブがあります。secureDrivesパラメータを使用して、使用するセキュアドライブのタイプを指定します。使用できる値は'FIPs'とFDEです

コマンドの例

```
show storageArray autoConfiguration securityType=capable
secureDrives=fips;
```

最小ファームウェアレベル

7.10で、RAIDレベル6機能が追加され、ホットスペアの制限がなくなりました。

7.50で、「securityType」パラメータが追加されました。

7.75で'dataAssurance'パラメータが追加されました

8.25で'secureDrives'パラメータが追加されました

AutoSupport 構成の表示 - SANtricity CLI

show storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用すると、ストレージアレイのAutoSupport バンドル収集設定が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のストレージアレイが対象です。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドからのコマンド出力は、次の設定情報を表示します。

- AutoSupport 機能、AutoSupport OnDemand機能、およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の管理ドメインのアクティブ化ステータス
- 設定された配信方法に応じた配信パラメータ：
 - 配信方法がEメール (SMTP)：送信先のEメールアドレス、メールリレーサーバ、および送信者のEメールアドレスが表示されます
 - 配信方法がHTTPまたはHTTPS：
 - 直接接続-宛先IPアドレスが表示されます
 - プロキシサーバ接続-ホストアドレス、ポート番号、および認証の詳細が表示されます
 - 自動プロキシ設定スクリプト (PAC) 接続-スクリプトの場所が表示されます
- AutoSupport の日単位および週単位の優先される時間範囲
- ASUPの機能、シャーシのシリアル番号、および設定されている日次/週次スケジュールに関する情報

構文

```
show storageArray autoSupport
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray autoSupport;"
```

```
The AutoSupport feature is enabled on this storage array.
```

```
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.
```

```
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage array.
```

```
Delivery Method: Email (SMTP)
```

```
Destination email address: autosupport@netapp.com
```

```
Mail relay server: mail.example.com
```

```
Sender email address: sender@example.com
```

```
Server encryption type: None
```

```
Server port: 25
```

```

Server username:
Server password: ***
Dispatch size limit: 5242880

Delivery Method: Email (SMTP)
Destination email address: destination1@example.com,
destination2@example.com
Mail relay server: mail.example.com
Sender email address: sender@example.com
Server encryption type: None
Server port: 25
Server username:
Server password: ***
Dispatch size limit: 5242880

Delivery Method: HTTPS
Destination IP address: https://support.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
Dispatch size limit: 52428800

Delivery Method: HTTPS
Destination IP address: https://support.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
Dispatch size limit: Unlimited

The AutoSupport daily schedule preferred time range is from 12:00 AM to
01:00 AM.
The AutoSupport weekly schedule preferred time range is from 10:00 PM
to 11:00 PM on Thursday, Saturday.

AutoSupport Capable   AutoSupport OnDemand Capable   Chassis Serial
Number   Daily Schedule   Weekly Schedule
Yes (enabled)           Yes                               SX94500434
12:55 AM                10:08 PM on Thursdays

SMcli completed successfully.

```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージレイキャッシュミラーデータアシュアランスチェックの有効化を表示 - SANtricity CLI

「show storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable」 コマンドは、キャッシュミラーData Assuranceチェック機能の有効設定ステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドパラメータが新しくなりました。

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージを表示する - **SANtricity CLI**

コントローラヘルスイメージをサポートするストレージアレイでコントローラヘルスイメージが使用可能な場合は、「show storageArray controllerHealthImage」コマンドを実行すると、コントローラキャッシュ上のコントローラヘルスイメージの詳細が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)



ファームウェア・バージョン8.20で'coredump'パラメータは'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。

構文

```
show storageArray controllerHealthImage
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.83

8.20で'coredump'パラメータが'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイの **DBM** データベースを表示する - **SANtricity CLI**

show storageArray dbmDatabase コマンドは、ストレージ・アレイのオンボード・バックアップの場所のメタデータを取得して表示します。バックアップの場所が複数ある場合は、場所ごとにメタデータが表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray dbmDatabase
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返される構成データベース情報の形式は次のようになります。

「構成データベースのMetadataLast Host Backup：<日付スタンプ>」

CTL	場所	リビジョン	ID	生成番号	ステータス	アクセスモード
A	キャッシュ	x.y	999999	999999	R/W	最適
B	キャッシュ	x.y	999999	999999	R/W	最適
該当なし	ディスク	x.y	999999	999999	R/W	最適

最小ファームウェアレベル

7.83

ストレージアレイのディレクトリサービスの概要を表示する - **SANtricity CLI**

「show storageArray DirectoryServices summary」 コマンドは、ディレクトリサービスの設定の概要を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray directoryServices summary
```

パラメータ

なし

例

```

SMcli -n Array1 -c "show storageArray directoryServices summary;"

Directory Servers:
  DomainId1
    Domain name(s): company.com, name2, name3
    Server URL: ldaps://hqldap.test.eng.company.com:636
    Bind account:
      CN=prnldap,OU=securedsvccaccounts,OU=systemaccounts,DC=hq,DC=company,DC=com
    Bind password: *****
    Login base: %s@company.com
    Search base DN: OU=_Users,DC=hq,DC=company,DC=com
    Username attribute: sAMAccountName
    Group attribute(s): memberOf, attributeX
    Default role: Monitor
    Roles Mapping
      Group DN
      CN=ng-hsg-bc-
madridsecurity,OU=Managed,OU=CompanyGroups,DC=hq,DC=company,DC=com
    Roles
      storage.monitor, security.admin, storage.admin
    Group DN
    OU=Managed,OU=CompanyGroups,DC=hq,DC=company,DC=com
    Roles
      storage.monitor
  DomainId2
    Domain name(s): aj.MadridSecurity
    Server URL: ldap://10.113.90.166:389
    Search base DN: CN=Users,DC=aj,DC=madridsecurity
    Username attribute: sAMAccountName
    Group attribute(s): memberOf
    Default role: None
    Roles Mapping
      Group DN
      CN=Administrators,CN=Builtin,DC=aj,DC=MadridSecurity
    Roles
      storage.monitor, storage.admin

SMcli completed successfully.

```

ストレージレイホストの接続レポートを表示する - SANtricity CLI

「show storageArray hostConnectivityReporting」コマンドは、ホスト接続レポート機能の有効化ステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray hostConnectivityReporting
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.42新しいコマンドパラメータ。

ストレージアレイホストトポロジの表示 - **SANtricity CLI**

show storageArray hostTopology'コマンドは'ストレージ・パーティション・トポロジー'ホスト・タイプ・ラベル'ホスト・ストレージ・アレイのホスト・タイプ・インデックスを返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray hostTopology
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるホストポート情報の例を次に示します。

```
TOPOLOGY DEFINITIONS
DEFAULT GROUP
Default type: Windows 2000/Server 2003 Non-Clustered
Host Group: scott
Host: scott1
Host Port: 28:37:48:55:55:55:55:55
Alias: scott11
Type: Windows 2000/Server 2003 Clustered
Host: scott2
Host Port: 98:77:66:55:44:33:21:23
Alias: scott21
Type: Windows 2000/Server 2003 Clustered
Host: Bill
Host Port: 12:34:55:67:89:88:88:88
Alias: Bill1
Type: Windows 2000/Server 2003 Non-Clustered
NVSRAM HOST TYPE INDEX DEFINITIONS
HOST TYPE                                ALUA/AVT STATUS    ASSOCIATED INDEXS
AIX MPIO                                Disabled           9
AVT_4M                                  Enabled            5
Factory Default                          Disabled           0
HP-UX                                    Enabled            15
Linux (ATTO)                             Enabled            24
Linux (DM-MP)                            Disabled           6
Linux (Pathmanager)                      Enabled            25
Mac OS                                    Enabled            22
ONTAP                                    Disabled           4
SVC                                       Enabled            18
Solaris (v11 or Later)                   Enabled            17
Solaris (version 10 or earlier)           Disabled           2
VMWare                                    Enabled            10 (Default)
Windows                                  Enabled            1
```

最小ファームウェアレベル

5.20

ストレージアレイネゴシエーションのデフォルトを表示する - **SANtricity CLI**

show storageArray iscsiNegotiationDefaultsコマンドは、イニシエータとターゲットのネゴシエーションによって決まる接続レベルの設定に関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray iscsiNegotiationDefaults
```

パラメータ

なし

注：

返される情報には、コントローラトレイのデフォルト設定（つまり、ネゴシエーションの開始点である設定）および現在のアクティブな設定が含まれます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイのLUNマッピングを表示する - SANtricity CLI

show storageArray lunMappingsコマンドは、ストレージアレイの論理ユニット番号（LUN）マッピングまたはネームスペースID（NSID）マッピングに関する情報を、ストレージアレイプロファイルから返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

デフォルトグループのLUNマッピングまたはNSIDマッピングは常に表示されます。パラメータを指定せずにこのコマンドを実行すると、すべてのLUNマッピングまたはNSIDマッピングが返されます。

構文

```
show storageArray lunMappings (host ["<em>hostName</em>"] |
hostgroup ["<em>hostGroupName</em>"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
ホスト	LUNマッピングまたはNSIDマッピングを表示する特定のホストの名前。ホスト名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「hostGroup」と入力します	LUNマッピングまたはNSIDマッピングを表示する特定のホストグループの名前。ホストグループ名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドから返されるホストトポロジ情報の例を次に示します。

```
MAPPINGS (Storage Partitioning - Enabled (0 of 16 used))
VOLUME NAME  LUN  CONTROLLER  ACCESSIBLE BY  VOLUME STATUS
Access Volume 7  A,B          Default Group  Optimal
21            21  B           Default Group  Optimal
22            22  B           Default Group  Optimal
```

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージレイのODX設定を表示する - SANtricity CLI

show storageArray odxsetting コマンドは、ストレージレイのオフロードデータ転送 (ODX) およびVMware vStorage API Array Architecture (VAAI) の現在の設定を返します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するに

は、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドの設定は、次のいずれかになります。

- true — ODXとVAAIがオンになっています。
- false — ODXとVAAIはオフになっています。
- Inconsistent -コントローラ間で設定が異なります。
- unknown — ODXまたはVAAIの設定を特定できません。

構文

```
show storageArray odxsetting
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるODXとVAAIの情報の例を次に示します。

```
Windows ODX Setting Status
odxEnabled   True | False | Inconsistent | Unknown
vaaiEnabled  True | False | Inconsistent | Unknown
```

最小ファームウェアレベル

8.20で

ストレージアレイの電源情報を表示する - SANtricity CLI

show storageArray powerInfo'コマンドは'ストレージ・アレイ全体およびストレージ・アレイ内の各トレイで消費される電力量に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray powerInfo
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返される電力消費情報の例を次に示します。

```
total power drawn: 310 watts
number of trays: 1
tray power input details:
  tray id  power supply serial number  input power
  0        0
  0        1                        160 watts
                        150 watts
```

最小ファームウェアレベル

8.10で

証明書失効チェック設定を表示する - SANtricity CLI

show storageArray revocationCheckSettingsコマンドを使用すると、ストレージアレイの証明書失効設定を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

パラメータ

なし

構文

```
show storageArray revocationCheckSettings
```

例

```
SMcli -n Array1 c "show storageArray revocationCheckSettings;"
Revocation Checking: Disabled
OCSP Responder Server URL: https://ocspResponderURL.com
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

ストレージアレイの**Syslog**構成を表示する - **SANtricity CLI**

「show storageArray syslog」コマンドを使用すると、監査ログの格納に使用されるsyslogサーバの設定を表示できます。設定情報には、サーバIDとそのアドレス、プロトコル、およびポート番号が含まれます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray syslog (allServers | id="<id>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
allServers	すべてのsyslog設定を表示します。
ID	指定したIDに一致するsyslog設定を表示します。

例

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray syslog allServers;"
SMcli -n Array1 -c "show storageArray syslog id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\";"

ID:                331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e
Server Address:    192.168.2.1.com
Port:              514
Protocol:          udp
Components
1. Component Name: auditLog

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

インストールされた信頼された **CA** 証明書の概要を表示する - **SANtricity CLI**

show storageArray trustedCertificate summary コマンドは、アレイから信頼されてインストールされたCA証明書の概要を表示します。このコマンドを使用すると、「delete storageArray trustedCertificate」 コマンドを実行する前に、削除する証明書のエイリアス名を確認できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray trustedCertificate [all | allUserInstalled|
aliases=("alias1" ... "aliasN")] summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「すべて」	プリインストールされている証明書とユーザがインストールした証明書を含むすべての証明書を取得するように指定できます。
「allUserInstalled」	ユーザがインストールした証明書をすべて取得するように指定できます。これがデフォルトのオプションです。
「別名」	取得するプリインストールされている証明書またはユーザがインストールした証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

出力例は、以下に示すものと異なる場合があります。

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray trustedCertificate allUserInstalled
summary;"
=====
Trusted Certificates
=====
Alias:          19527b38-8d26-44e5-8c7f-5bf2ca9db7cf
Type:           Pre-installed | User installed
Subject DN:     CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date
-----
Alias:          myAliasName
Type:           Pre-installed | User installed
Subject DN:     CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

未構成のイニシエーターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unconfiguredInitiators コマンドは、ストレージアレイによって検出されたイニシエーターのうち、まだストレージアレイトポロジに設定されていないイニシエーターのリストを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

このコマンドは、に置き換わるものです ["show storageArray unconfiguredIscsiInitiators"](#) コマンドを実行します

構文

```
show storageArray unconfiguredInitiators
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.50

ストレージアレイの未構成の iSCSI イニシエーターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unconfiguredIscsiInitiators コマンドは、ストレージ・アレイによって検出されたイニシエーターのうち、まだストレージ・アレイ・トポロジに設定されていないイニシエーターのリストを返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

このコマンドは廃止されました。置き換えられるコマンドは [です "show storageArray unconfiguredInitiatorsの例を示します"](#)。

構文

```
show storageArray unconfiguredIscsiInitiators
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.10

8.50で、このコマンドは廃止されました

ストレージアレイの読み取り不可能なセクターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unreadableSectors'コマンドは、ストレージアレイ内の読み取り不可能なすべてのセクターのアドレスのテーブルを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

返されるテーブルには、次の情報を示す列見出しが表示されます。

- ボリュームのユーザラベル
- Logical Unit Number (LUN ; 論理ユニット番号)
- アクセス可能かどうか (ホストまたはホストグループから)
- 日付/時刻
- ボリュームから見た論理ブロックアドレス (16進形式- 0xnxxxxxxxx)
- ドライブの場所 (トレイト、スロットs)
- ドライブから見た論理ブロックアドレス (16進形式- 0xnxxxxxxxx)
- 障害のタイプ

データは、まずボリュームユーザラベルでソートされ、次に論理ブロックアドレス (LBA) でソートされます。テーブル内の各エントリは、1つのセクターに対応します。

構文

```
show storageArray unreadableSectors
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイのユーザーセッションを表示する - **SANtricity CLI**

「show storageArray userSession」 コマンドを使用すると、System Managerのセッションタイムアウト時間を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

パラメータ

なし

構文

```
show storageArray userSession
```

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージアレイの表示 - **SANtricity CLI**

show storageArrayコマンドは'ストレージ・アレイ'に関する構成情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)


パラメータを指定すると、ストレージアレイのコンポーネントと機能の値がリスト形式で返されます。1つまたは複数のパラメータを指定してコマンドを入力できます。パラメータを指定せずにコマンドを入力すると、ストレージ・アレイ・プロファイル全体が表示されます（「* profile *」パラメータを入力した場合と同じ情報）。

構文


```
show storageArray
[autoSupport | autoSupportConfig | profile |
batteryAge | connections | defaultHostType | healthStatus |
hostTypeTable | hotSpareCoverage | features | time |
volumeDistribution | longRunningOperations | summary |
preferredVolumeOwners |
iscsiNegotiationDefaults | unconfiguredIscsiInitiators |
autoLoadBalancingEnable |
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable | hostConnectivityReporting]
```

パラメータ

パラメータ	説明
autoLoadBalancingEnable	自動ロードバランシング機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。 <div> 自動ロードバランシング機能を有効にすると、ホスト接続レポート機能も有効になります。</div>
「AutoSupport」	<div> このパラメータは、「https」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対してのみ有効です。E2800またはE5700ストレージアレイがクライアントタイプで実行されている場合は、「autoSupportConfig」パラメータを使用します。</div>

パラメータ	説明
'autoSupportConfig'	<p>サポートデータの自動収集処理の現在の状態を返すためのパラメータ。次の情報が返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 処理が有効か無効か • サポートデータファイルが格納されているフォルダの場所 <div>  <p>このパラメータは、「symbol」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対してのみ有効です。E2800またはE5700ストレージ・アレイがHTTPSクライアント・タイプで稼働している場合はAutoSupport *パラメータを使用します</p> </div>
「batteryAge」	ステータス、バッテリーの寿命（日数）、およびバッテリーの交換が必要になるまでの日数を表示するためのパラメータ。両方のバッテリーの情報が表示されます。
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable`	キャッシュミラーData Assurance機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。
「接続」	ドライブチャネルポートの場所とドライブチャネルの接続先をリスト形式で表示するためのパラメータ。
defaultHostType	デフォルトのホストタイプとホストタイプインデックスを表示するためのパラメータ。
「特長」	ストレージアレイの機能設定を表示するためのパラメータ。
「healthStatus」	ストレージアレイの健全性、論理プロパティ、および物理コンポーネントのプロパティを表示するためのパラメータ。
「hostConnectivityReporting」のように入力します	ホスト接続レポート機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。
「hostTypeTable」	コントローラが認識するすべてのホストタイプを表形式で表示するためのパラメータ。表の各行には、ホストタイプインデックスとホストタイプインデックスが表すプラットフォームが表示されます。

パラメータ	説明
「hotSpareCoverage」と入力します	ストレージレイ内でホットスペアが適用されるボリュームと適用されないボリュームに関する情報を表示するためのパラメータ。
iscsiNegotiationDefaults	イニシエータとターゲットのネゴシエーションによって決まる接続レベルの設定に関する情報を返すためのパラメータ。
'longRunningOperations'	<p>ストレージレイ内のボリュームグループおよびボリュームごとに実行時間の長い処理を表示するためのパラメータ。</p> <p>longRunningOperationパラメータは'次の情報を返します</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボリュームグループまたはボリュームの名前 • 実行時間の長い処理です • ステータス • %完了 • 残り時間
「preredVolumeOwners」のように指定します	ストレージレイ内の各ボリュームの優先コントローラ所有者を表示するためのパラメータ。

パラメータ	説明
「プロファイル」	<p>ストレージアレイを構成する論理コンポーネントと物理コンポーネントのすべてのプロパティを表示するためのパラメータ。この情報は複数の画面に表示されます。</p> <div>  <p>profileパラメータを指定すると、ストレージアレイに関する詳細情報が返されます。この情報は、ディスプレイ上の複数の画面にわたって表示されます。場合によっては、すべての情報を表示するために、ディスプレイバッファのサイズを増やす必要があります。この情報は非常に詳細であるため、出力をファイルに保存することを推奨します。</p> </div> <p>プロファイル出力をファイルに保存するには、次のコマンドを使用します。</p> <pre>c:\...\smX\client>smcli 123.45.67.88 123.45.67.89 -c "show storagearray profile;" -o "c:\folder\storagearray profile.txt"</pre>
「概要」	ストレージアレイ構成に関する概要情報をリストで表示するためのパラメータ。
「time」	ストレージアレイ内の両方のコントローラに設定されている現在時刻を表示するためのパラメータ。
「unconfiguredIscsiInitiators」	ストレージアレイで検出されたイニシエータのうち、ストレージアレイポートに設定されていないイニシエータのリストを返すためのパラメータ。
'volumeDistribution'のように指定します	ストレージアレイ内の各ボリュームの現在のコントローラ所有者を表示するためのパラメータ。

注：

「profile」パラメータを指定すると、ストレージ・アレイに関する詳細情報が表示されます。この情報は、ディスプレイモニタの複数の画面に表示されます。場合によっては、すべての情報を表示するために、ディスプレイバッファのサイズを増やす必要があります。この情報は非常に詳細であるため、出力をファイルに保存することを推奨します。出力をファイルに保存するには、この例のような「show storageArray」コマンドを実行します。

```
-c "show storageArray profile;" -o "c:\\folder\\storageArrayProfile.txt"
```

上記のコマンド構文は、Windowsオペレーティングシステムを実行しているホストを対象としています。実際の構文はオペレーティングシステムによって異なります。

ファイルに情報を保存する場合は、その情報を設定の記録として使用したり、リカバリ時に情報を参照したりできます。



ストレージアレイプロファイルからは大量のデータがラベルとともに返されますが、8.41リリースで、E2800またはE5700ストレージアレイのSSDドライブに関する消耗度レポート情報が新たに追加されました。以前の消耗度レポートに含まれる平均消去回数とスペアブロックの残量に関する情報に加えて、使用済み寿命の割合が追加されました。使用済み寿命は、これまでにSSDドライブに書き込まれたデータ量を、ドライブの理論上の合計書き込み量で割った値です。

「batteryAge」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
Battery status: Optimal  
Age: 1 day(s)  
Days until replacement: 718 day(s)
```

新しいコントローラトレイは「batteryAge」パラメータをサポートしていません

defaultHostTypeパラメータは「この形式で情報を返します

```
Default host type: Linux (Host type index 6)
```

「healthStatus」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
Storage array health status = optimal.
```

「hostTypeTable」パラメータは、この形式で情報を返します。

NVSRAM HOST TYPE INDEX DEFINITIONS

HOST TYPE	ALUA/AVT STATUS	ASSOCIATED INDEXS
AIX MPIO	Disabled	9
AVT_4M	Enabled	5
Factory Default	Disabled	0
HP-UX	Enabled	15
Linux (ATTO)	Enabled	24
Linux (DM-MP)	Disabled	6
Linux (Pathmanager)	Enabled	25
Mac OS	Enabled	22
ONTAP	Disabled	4
SVC	Enabled	18
Solaris (v11 or Later)	Enabled	17
Solaris (version 10 or earlier)	Disabled	2
VMWare	Enabled	10 (Default)
Windows	Enabled	1

「hotSpareCoverage」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
The following volume groups are not protected: 2, 1
Total hot spare drives: 0
  Standby: 0
  In use: 0
```

'features'パラメータは'有効'無効'評価'およびインストール可能な機能を示す情報を返しますこのコマンドから返される機能情報の形式は次のとおりです。

PREMIUM FEATURE	STATUS
asyncMirror	Trial available
syncMirror	Trial available/Deactivated
thinProvisioning	Trial available
driveSlotLimit	Enabled (12 of 192 used)
snapImage	Enabled (0 of 512 used) - Trial version expires
m/d/y	
snapshot	Enabled (1 of 4 used)
storagePartition	Enabled (0 of 2 used)
volumeCopy	Enabled (1 of 511 used)
SSDSupport	Disabled (0 of 192 used) - Feature Key required
driveSecurity	Disabled - Feature Key required
enterpriseSecurityKeyMgr	Disabled - Feature Key required
highPerformanceTier	Disabled - Feature Key required

時刻パラメータは'この形式で情報を返します

```
Controller in Slot A

Date/Time: Thu Jun 03 14:54:55 MDT 2004
Controller in Slot B

Date/Time: Thu Jun 03 14:54:55 MDT 2004
```

'longRunningOperations'パラメータは'次の形式で情報を返します

LOGICAL DEVICES	OPERATION	STATUS	TIME REMAINING
Volume-2	Volume Disk Copy	10% COMPLETED	5 min

'longRunningOperations'パラメータによって返される情報フィールドには'次の意味があります

- 「name」は、長時間の処理が現在実行されているボリュームの名前です。ボリューム名には、「Volume」がプレフィックスとして含まれている必要があります。
- 「operation」は、ボリューム・グループまたはボリューム上で実行される操作を示します。
- '%complete'は'実行時間の長いオペレーションのどれだけが実行されたかを示します
- 「status」には、次のいずれかの意味があります。
 - Pending -長時間の処理はまだ開始されていませんが、現在の処理が完了したあとに開始されます。
 - 実行中—長時間の処理が開始されており'完了するか'ユーザーの要求によって停止されるまで実行されます
- 「残り時間」は、現在の長時間実行動作を完了するまでの残り時間を示します。「時間数と分数」の形式で指定します。残り時間が1時間未満の場合は、分だけが表示されます。残り時間が1分未満の場合は、「less than a minute」というメッセージが表示されます。

volumeDistributionパラメータは'次の形式で情報を返します

```
volume name: 10
    Current owner is controller in slot: A

volume name: CTL 0 Mirror Repository
    Current owner is controller in slot: A

volume name: Mirror Repository 1
    Current owner is controller in slot:A

volume name: 20
    Current owner is controller in slot:A

volume name: JCG_Remote_MirrorMenuTests
    Current owner is controller in slot:A
```

最小ファームウェアレベル

5.00で'defaultHostType'パラメータが追加されました

5.43で'summary'パラメータが追加されました

6.10で'volumeDistribution'パラメータが追加されました

6.14で'connections'パラメータが追加されました

7.10で、「autoSupportConfig」パラメータが追加されました。

7.77で、'longRunningOperations'パラメータが追加されました。

7.83で、ストレージ管理ソフトウェアバージョン10.83でリリースされた新機能のサポートを含む情報が返されるようになりました。また、ストレージアレイの機能のステータスも表示されるようになりました。

8.30で'autoLoadBalancingEnable'パラメータが追加されました

8.40で、「AutoSupport」パラメータが追加されました。

8.40で、「https」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対する「autoSupportConfig」パラメータは廃止されました。

8.41で、SSDドライブの消耗度の監視がストレージアレイプロファイルに追加されました。この情報は、E2800およびE5700ストレージアレイでのみ表示されます。

8.42で、「hostConnectivityReporting」パラメータが追加されました。

8.63で'profile'パラメータ結果の下に'Resource-Provisioned Volumes'エントリが追加されました

同期ミラーリングボリュームの候補を表示する - **SANtricity CLI**

show SyncMirror candidates コマンドは'同期ミラーリング構成のセカンダリ・ボリューム

ムとして使用できる'リモート・ストレージ・アレイ上のボリューム候補に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、一部制限付きで個々のストレージアレイを環境 接続します。E2700またはE5600のアレイに対して実行する場合は、制限はありません。



このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のプラットフォームではサポートされていません。

ロール

該当なし

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
show syncMirror candidates primary="<em>volumeName</em>"
remoteStorageArrayName="<em>storageArrayName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	リモートミラーペアのプライマリボリュームにするローカルボリュームの名前。プライマリボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
remoteStorageArrayName	セカンダリボリュームの候補となるボリュームが配置されているリモートストレージアレイ。リモートストレージアレイ名に特殊文字が含まれている場合は、リモートストレージアレイ名も二重引用符 ("") で囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

5.40

同期ミラーリングボリュームの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show SyncMirror synchronizationProgress」 コマンドは、同期ミラーリング構成のプライマリボリュームとセカンダリボリューム間のデータ同期の進捗状況を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドの進捗状況は、完了したデータ同期の割合で示されます。



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなりSyncMirror *'に置き換えられます

構文

```
show syncMirror (localVolume [<em>volumeName</em>] |  
localVolumes [<em>volumeName1</em>... <em>volumeNameN</em>])  
synchronizationProgress
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	同期の進捗状況をチェックするリモートミラーペアのプライマリボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「ボリューム」	<p>同期の進捗状況をチェックするリモートミラーペアのプライマリボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（"）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

5.40

Syslog 設定の表示 - SANtricity CLI

show syslog summary コマンドは、syslogアラートの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show syslog summary
```

パラメータ

なし

例

```
SYSLOG SUMMARY
  Default facility: 3
  Default tag: StorageArray
  Syslog format: rfc5424
  Syslog Servers
    Server Address          Port Number
    serverName1.company.com 514
    serverName2.company.com 514

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では、syslogメッセージ形式を指定するための「syslogFormat」パラメータが追加されました。

文字列を表示 - SANtricity CLI

「show textstring」コマンドは、スクリプトファイルのテキスト文字列を表示します。このコマンドは、MS-DOSおよびUNIXの「echo」コマンドと似ています。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show "<em>textString</em>"
```

パラメータ

なし

注：

文字列は二重引用符 (") で囲みます。

ボリュームアクションの進行状況を表示する - **SANtricity CLI**

「show volume actionProgress」 コマンドは、ボリューム上で長時間実行されている操作のボリューム操作および実行時間に関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)



ファームウェア・バージョン7.77では'show volume actionProgress'コマンドは廃止されました
このコマンドは、「show storageArray longRunningOperations」に置き換えてください。

完了している長時間の処理の量は割合で示されます（たとえば、25は長時間実行されている処理の25%が完了したことを意味します）。

構文

```
show volume [<volumeName>] actionProgress
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	長時間の処理に関する情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

ボリュームパフォーマンス統計を表示する - **SANtricity CLI**

show volume performanceStatsコマンドは'ボリュームのパフォーマンスに関する情報を

返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各ボリュームについて次の情報を返します。

- ストレージアレイ
- I/Oの合計数/秒
- 読み取り率
- プライマリ読み取りキャッシュヒット率
- プライマリ書き込みキャッシュヒット率
- SSDキャッシュヒット率
- 現在のMBs /秒
- 最大MBs /秒
- 現在のIO/秒
- 最大IOS/s
- 最小IOs /秒
- 平均IOs /秒
- 最小MBs /秒
- 平均MBs /秒
- 現在のIOレイテンシ
- 最大I/Oレイテンシ
- 最小I/Oレイテンシ
- 平均I/Oレイテンシ

構文

```
show (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"]  
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"])  
performanceStats
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返すためのパラメータ。
「 volume 」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。• 各名前は二重引用符 ("") で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。

注：

「show volume performanceStat」コマンドを実行する前に、「set session performanceMonitorInterval」コマンドと「set session performanceMonitorIterations」コマンドを実行して、統計情報を収集する頻度を定義します。

「show volume performanceStat」コマンドは、次の例に示すように、ボリュームのパフォーマンス統計を返します。

```
Performance Monitor Statistics for Storage Array: Tyler -  
Date/Time: 11/6/12 10:00: 34 AM - Polling interval in seconds: 5
```

```
"Storage Arrays","Total IOs","Read %","Primary Read Cache Hit %",  
"Primary Write Cache Hit %","SSD Read Cache Hit %","Current MBs/sec",  
"Maximum MBs/sec","Current IOs/sec","Maximum IOs/sec","Minimum IOs/sec",  
"Average IOs/sec","Minimum MBs/sec","Average MBs/sec","Current IO  
Latency",  
"Maximum IO Latency","Minimum IO Latency","Average IO Latency"  
  
"Capture Iteration: 1","","","","","","","","","","","","","","","",""  
"Date/Time: 11/6/12 10:00:34  
AM","","","","","","","","","","","","","","","","",  
    "", "", "", ""Volume  
Unnamed","0.0","","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0",  
    "0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0"
```

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリューム予約の表示 - SANtricity CLI

「show volume reservations」コマンドは、永続的予約が設定されているボリュームに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>]) reservations
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返すためのパラメータ。
「volume」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

5.40

ボリュームの表示 - SANtricity CLI

show volume summary コマンドは'ボリュームに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、ストレージアレイ内のボリュームについて次の情報を返します。

- ボリュームの数
- 名前

- ステータス
- 容量
- RAIDレベル
- ボリュームが配置されているボリュームグループ
- 詳細：
 - ボリュームID
 - サブシステムID
 - ドライブタイプ (SAS)
 - トレイ損失の保護
 - 優先所有者
 - 現在の所有者
 - セグメントサイズ
 - 修正の優先順位
 - 読み取りキャッシュのステータス (有効または無効)
 - 書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - バッテリなしの書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - ミラーリングありの書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - 書き込みキャッシュをフラッシュします
 - キャッシュ読み取りプリフェッチの設定 (TRUEまたはFALSE)
 - バックグラウンドメディアスキャンの有効化ステータス (有効または無効)
 - 冗長性チェックを伴うメディアスキャンのステータス (有効または無効)
- ミラーリポジトリボリューム

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>]) summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返します。

パラメータ	説明
「volume」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	ボリュームに関する概要情報をリストで返すための設定。

シンボリュームの表示 - SANtricity CLI

show volume コマンドは、指定したシン・ボリュームの拡張履歴または消費容量を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>])
(consumedCapacity |
(expansionHistory [file=<em>fileName</em>]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのシンボリウムに関する情報を返すためのパラメータ。
「 volume 」	情報を取得するシンボリウムの名前。シンボリウム名は角カッコ（[]）で囲みます。シンボリウム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、シンボリウム名を二重引用符（" "）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のシンボリウムの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（" "）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「consumedCapacity」です	シンボリウムの消費容量に関する概要情報をリストで返すための設定。
「拡張の歴史」	シンボリウムの拡張履歴に関する概要情報をリストで返すための設定。
'file'	'file'パラメータは'expansionHistory'パラメータの出力をログに記録するファイルを指定します'file'は'expansionHistory'パラメータとともに使用する場合にのみ有効です無効なファイル名を指定すると、コマンドが失敗します。

注：

「expansionHistory」パラメータを指定すると、次の例のような情報が返されます。

「シン・ボリューム名：ボリューム名リポジトリ・ボリューム名：Repos_nnnn」

ログ時間	拡張タイプ	容量を開始します	容量の終了
MM/DD/YYYY HH:MM:SS	Manual (手動)	Automatic (自動)	nnnnnnnnnバイト

consumedCapacityパラメータを指定すると、次の例のような情報が返されます。

ボリューム	プロビジョニング済み容量	使用済み容量	クォータ	% Prov.消費済み
「VolumeName」	500.000 GB	230.000 GB	700.000 GB	46%

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームコピーのターゲット候補を表示する - SANtricity CLI

「show VolumeCopy source targetCandidates」コマンドは、ボリュームコピー操作のターゲットとして使用できるボリューム候補に関する情報を返します。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeCopy source ["<em>sourceName</em>"] targetCandidates
```

パラメータ

パラメータ	説明
「source」を参照してください	ターゲットボリュームの候補を探すソースボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

ボリュームコピーソース候補の表示 - SANtricity CLI

「show VolumeCopy sourceCandidates」コマンドは、ボリュームコピー操作のソースとして使用できるボリューム候補に関する情報を返します。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeCopy sourceCandidates
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるボリュームコピーソース情報の例を次に示します。

```
Volume Name: finance
  Capacity: 4.0 GB
  Volume Group: 1
Volume Name: engineering
  Capacity: 4.0 GB
  Volume Group: 2
```

ボリュームコピーの表示 - SANtricity CLI

show VolumeCopyコマンドは、ボリューム・コピー操作に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ボリュームコピー処理に関する次の情報を返します。

- コピーステータス
- 開始タイムスタンプ
- 完了タイムスタンプ
- コピー優先度
- ソースボリュームまたはターゲットボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)
- ターゲットボリュームの読み取り専用属性設定

ストレージレイ内の特定のボリュームコピーペアまたはすべてのボリュームコピーペアの情報を取得できます。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

構文

```
show volumeCopy (allVolumes | source ["<em>sourceName</em>"] |  
target ["<em>targetName</em>"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	すべてのボリュームコピーペアでのボリュームコピー処理に関する情報を返すための設定。
「source」を参照してください	情報を取得するソースボリュームの名前。ソースボリューム名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「target」と入力します	情報を取得するターゲットボリュームの名前。ターゲットボリューム名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

ボリュームグループのエクスポート依存関係を表示する - SANtricity CLI

show volumeGroup exportDependenciesコマンドは、あるストレージ・アレイから別のストレージ・アレイに移動するボリューム・グループ内のドライブの依存関係のリストを表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] exportDependencies
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	エクスポート依存関係を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドは、ボリュームグループ内のドライブをスピニングアップし、DACstoreを読み取った上で、ボリュームグループのインポート依存関係のリストを表示します。ボリュームグループはエクスポート状態または強制状態である必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループのインポート依存関係を表示する - SANtricity CLI

show volumeGroup importDependenciesコマンドは、あるストレージ・アレイから別のストレージ・アレイに移動するボリューム・グループ内のドライブの依存関係のリストを表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] importDependencies
[cancelImport=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	インポート依存関係を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。
「cancelImport」	ボリュームグループの依存関係を読み取ったあとにドライブをスピンドウンするための設定。ドライブをスピンドウンするには'このパラメータをTRUEに設定しますドライブを回転させたままにするには'このパラメータをFALSEに設定します

注：

このコマンドは特定のボリュームグループの依存関係を返します。ボリュームグループはエクスポート状態または強制状態である必要があります。表示された依存関係を維持することを決定した場合は'cancelImport'パラメータを適用してドライブをスピンドウンできます

start volumeGroup importコマンドを実行する前に'show volumeGroup importDependencies'コマンドを実行する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループの表示 - SANtricity CLI

show volumeGroupコマンドは'ボリューム・グループに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ボリュームグループに関する次の情報を返します。

- ステータス（最適、デグレード、失敗、不明など）
- 容量
- 現在の所有者（スロットAのコントローラまたはスロットBのコントローラ）
- RAIDレベル
- ドライブメディアタイプ（HDDまたはSSD）
- ドライブインターフェイスタイプ（Fibre Channel、iSCSI、InfiniBand、SAS）
- トレイ損失の保護（yesまたはno）
- セキュリティ対応-ボリュームグループがセキュリティ対応ドライブだけで構成されているかどうかを示します。セキュリティ対応ドライブには、FDEドライブとFIPSドライブがあります。
- セキュア-ボリュームグループでドライブセキュリティがオンになっている（セキュリティ有効）かどうかを示します。
- 関連付けられているボリュームと空き容量
- 関連付けられているドライブ
- Data Assurance機能およびData Assuranceが有効なボリュームがある
- リソースプロビジョニング機能

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	情報を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

このコマンドから返されるボリュームグループ情報の例を次に示します。

Name: SecureGroup

Status: Optimal

Capacity: 120.000 GB

Current owner: Controller in slot A

Quality of Service (QoS) Attributes

RAID level: 5

Drive media type: Hard Disk Drive

Drive interface type: SAS

Shelf loss protection: No

Secure Capable: Yes

Secure: No

Data Assurance (DA) capable: Yes

DA enabled volume present: No

Resource-provisioned: Yes

Total Volumes: 1

Standard volumes: 1

Repository volumes: 0

Free Capacity: 110.000 GB

Associated drives - present (in piece order)

Total drives present: 5

Tray	Slot
99	1
99	2
99	3
99	4
99	5

最小ファームウェアレベル

6.10

SMcli ...

テストアラート - SANtricity CLI

SMcli alertTestコマンドは、Windowsイベントログおよび設定されているすべてのsyslogレシーバにテストアラートを送信します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません

構文

```
SMcli -alertTest
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.83

AutoSupportバンドルコレクション設定の表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportConfig showコマンドは、管理ドメインのAutoSupport バンドル収集設定を表示します。これらの設定は、AutoSupport を有効にしている管理ドメイン内のすべてのストレージアレイに適用されます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E2800またはE5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)

このコマンドからのコマンド出力は、次の設定情報を表示します。

- AutoSupport 機能、AutoSupport OnDemand機能、およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の管理ドメインのアクティブ化ステータス
- 設定された配信方法に応じた配信パラメータ：
 - 配信方法がSMTP：送信先のEメールアドレス、メールリレーサーバ、および送信者のEメールアドレスが表示されます
 - 配信方法がHTTPまたはHTTPS：
 - 直接接続-宛先IPアドレスが表示されます
 - プロキシサーバ接続-ホストアドレス、ポート番号、および認証の詳細が表示されます
 - 自動プロキシ設定スクリプト (PAC) 接続-スクリプトの場所が表示されます

- ストレージアレイごとに、アレイの名前、ASUP対応アレイかどうか、シャーシのシリアル番号、およびアレイのコントローラのIPアドレスをリストするテーブル

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

構文

```
SMcli -autoSupportConfig show
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.25

アクティブ化ステータスの出力例

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management station.
The AutoSupport OnDemand feature is de-activated on this storage
management station.
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is de-activated on this storage
management station.
```

SMTP配信方式の出力例

```
Delivery method: SMTP
Destination email address: http://asupserver.corp.netapp.com/put/AsupPut/
Mail relay server: server.eng.netapp.com
Sender email address: user@netapp.com
```

直接接続のHTTPまたはHTTPS配信方式の出力例

```
Delivery method: HTTP
Destination IP address: http://asupserver.corp.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
```

プロキシ接続のHTTP配信方式の出力例

```
Connection: Proxy server
Host Address: 10.227.76.123
Port number: 8080
Authentication required: Yes
User name: admin
Password: *****
```

自動プロキシ設定スクリプト (PAC) のHTTP配信方式の出力例

```
Connection: Automatic proxy configuration script (PAC)
Script location: http://esgweb.eng.netapp.com/~user/proxy.pac
```

アレイテーブル (すべての配信方法) の出力例

Name	AutoSupport Capable	Chassis Serial Number	IP Address
SA_1	Yes (enabled)	SX94500434	10.113.173.123, 10.113.173.456
SA_2	Yes (disabled)	SX94607107	10.113.174.789, 10.113.174.345
SA_3	No	Not available	10.113.59.58, 10.113.59.59

AutoSupport 構成のテスト - SANtricity CLI

テスト・メッセージを送信してAutoSupport 構成をテストするには'SMcli -autoSupportConfig test'コマンドを使用しますこのコマンドは管理ドメインで動作します。テストメッセージに含めるサンプルデータとして、管理ドメイン内のAutoSupport対応のアレイが選択されます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E2800またはE5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



スケジュールされたAutoSupport メッセージまたはイベントトリガー型メッセージを送信するには、管理ステーションでPersistent Monitorが実行されている必要があります。このコマンドを使用する前にサービスを開始してください。

構文

```
SMcli -autoSupportConfig test reply-toEmail<address>
```

パラメータ

次の表に、AutoSupport テストメッセージを送信するためのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「test」 ようになります	コマンドの必須パラメータ。値は不要です。
「返信メール」	SMTP配信タイプのAutoSupport メッセージの返信先のEメールアドレスを指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.25

HTTP / HTTPS配信を使用したテストの例

HTTPまたはHTTPS配信タイプを使用する場合のこのコマンドの使用例を次に示します。配信用のEメールアドレスは指定しません。

```
SMcli -autoSupportConfig test
The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway.

SMcli completed successfully.
```

SMTP配信を使用したテストの例

このコマンドの使用例を次に示します。SMTP配信方式を使用する場合は、「reply-toEmail」パラメータを使用して宛先アドレスを指定できます。

```
SMcli -autoSupportConfig test reply-toEmail:user@netapp.com
The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway.

An email has been sent to 'user@netapp.com', please check the mailbox
for delivery confirmation.

SMcli completed successfully.
```

AutoSupport の配信方法を指定する - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportConfig コマンドは、AutoSupport メッセージを送信する配信方法を設定します。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (**Context**)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

AutoSupport メッセージを送信するには、次の2種類の配信方法を作成します。

- SMTP — AutoSupport メッセージを送信するための配信方法として電子メールを使用する場合はこの方法を使用します
- HTTP/HTTPS — HTTPまたはHTTPSプロトコルを使用してAutoSupport メッセージを送信する場合はこの方法を使用しますAutoSupport OnDemandまたはAutoSupport Remote Diagnosticsを使用する場合は、HTTPSを使用する必要があります。

配信方法が**SMTP**の場合の構文

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=SMTP
mailRelayServer=<mailRelayServerName> senderMail=<senderEmailAddress>
```

配信方法が**SMTP**の場合のパラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	AutoSupport メッセージの配信方法を指定できます。有効な選択肢はSMTPです。同様に有効なHTTPまたはHTTPSの使用については、このトピックの次のセクションを参照してください。

パラメータ	説明
mailRelayServer'	AutoSupport メッセージのメールリレーサーバを指定できます。
「senderMail」	AutoSupport メッセージの送信元Eメールアドレスを指定できます。

配信方法がHTTP / HTTPSの場合の構文

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod={HTTP|HTTPS}
      {direct|proxyConfigScript=<proxyConfigScript>| proxyServer
hostAddress:<address>portNumber=<portNumber>
[user Name=<user Name>password=<password>]}
```

配信方法がHTTP / HTTPSの場合のパラメータ

次の表に、配信方法がHTTP / HTTPSの場合のパラメータを示します。

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	AutoSupport メッセージの配信方法を指定できます。有効な選択肢はHTTPSとHTTPです（もう1つの選択肢であるSMTPの使用については、前のセクションを参照してください）。
「直接」	HTTPSまたはHTTPプロトコルを使用して、テクニカルサポートのシステムに直接接続できます。
proxyConfigScript	Proxy Auto-Configuration（PAC）スクリプトファイルの場所を指定できます。
proxyServer	テクニカルサポートシステムとの接続を確立するために必要なHTTP（複数可）プロキシサーバの詳細を指定できます。
「ホストアドレス」	プロキシサーバのホストIPアドレスを指定します。
「portNumber」と入力します	プロキシサーバのポート番号。proxyServerパラメータを使用する場合、このパラメータは必須です。
「ユーザ名」	ユーザ名。このパラメータは必須です。
「password」と入力します	認証パスワード。このパラメータは必須です。

例

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=SMTP  
mailRelayServer:server.eng.netapp.com  
senderEmail:user@netapp.com
```

```
SMcli -autoSupportConfig deliveryMethod=HTTPS  
proxyServer hostAddress:10.117.12.112 portNumber=8080  
userName=user password=0987654321
```

検証

SMcli -autoSupportConfig testコマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

AutoSupport ログのキャプチャまたは表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportLogコマンドを使用すると、AutoSupport ログファイルを表示できます。このファイルには、ステータスに関する情報、送信アクティビティの履歴、およびAutoSupport メッセージの配信中に発生したエラーが格納されます。AutoSupportに対応したストレージアレイとAutoSupportが有効なストレージアレイのすべてについてログを使用できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)

このコマンドを使用すると、次の2種類のログを表示できます。

- 現在のログ-現時点でキャプチャされたログを表示します。
- アーカイブログ-アーカイブファイルからログを表示します。



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

構文

```
SMcli -autoSupportLog (all|-n "<em>storageArrayName</em>" | -w
"<em>wwID</em>")
inputArchive=<em>n</em> outputLog=<em>filename</em>
```

パラメータ

次の表に、コマンドのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「すべて」	このパラメータは、管理ドメイン内のすべてのストレージアレイの転送ログを、AutoSupport が有効になっているAutoSupport 機能を使用して作成する場合に使用します。
<i>n</i>	AutoSupport ログを表示するストレージアレイの名前。
「w」	AutoSupport ログを表示するストレージアレイのWorld Wide Identifier (WWID) 。
「inputArchive」と入力します	<p>アーカイブされたAutoSupport ログを指定できますアーカイブ・ファイルは'0～5の整数である'<i>n</i>'です</p> <div>  <p>このパラメータを省略する場合は、現在のAutoSupport ログ（現時点でキャプチャ）を選択します。</p> </div>
「outputLog」と入力します	<p>出力AutoSupport ログファイル名を指定できます。</p> <div>  <p>このパラメータは必須です。</p> </div>

最小ファームウェアレベル

8.25

例

```
SMcli -autosupportLog -n StorageArrayName inputArchive=0
outputLog=ASUPTransmissionLog
```

検証

要求したAutoSupport ログを確認します。ログは、ストレージ管理ソフトウェアがインストールされているクライアントディレクトリにあります。

AutoSupport メッセージ収集スケジュールをリセットする - SANtricity CLI

SMcli autoSupportSchedule reset コマンドは、AutoSupport メッセージが送信される毎日および毎週の時刻と曜日をリセットします。管理ソフトウェアが生成するデフォルトのランダムな値をそのまま使用することも、このコマンドで値を指定することもできます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ソフトウェアは、日単位と週単位のメッセージに関しては時刻を、週単位のメッセージに関しては曜日を、ランダムに選択します。管理ソフトウェアは、1つの管理ドメイン内の2つのストレージアレイがスケジュールされたAutoSupport メッセージを同時に送信しないように対処します。
- 管理ドメイン内のストレージアレイについて、毎日および毎週のどのタイミングでメッセージを送信するか範囲（時間単位）を指定できます。
- 週次スケジュールの場合は、AutoSupport による収集と送信を優先する曜日を選択します。

構文

```
SMcli -autoSupportSchedule reset | (dailyTime=<startTime>-<endTime>  
    dayOfWeek=[Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday]  
    weeklyTime=<startTime>-<endTime>)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「リセット」	スケジュールをリセットし、24時間/週7日（日曜日から土曜日）の間隔で新しいスケジュールを生成します。
「dailyTime」	<`startTime`>-<`endTime`>-すべてのストレージアレイのAutoSupport データの収集を開始および終了する時刻を指定しますstartTimeとendTimeの形式は、HH : MM[am

パラメータ	説明
pm]にする必要があります。	「DayOfWeek」
[Sunday	Monday
Tuesday	Wednesday
Thursday	Friday
Saturday]すべてのストレージレイのAutoSupportバンドル収集データの収集を優先する曜日（日曜日から土曜日）を指定します。`_dayofweek/パラメータは角かっこで囲み、スペースで区切る必要があります。	「weeklyTime」
<`startTime`>-<`endTime`>-選択した曜日ごとにAutoSupport バンドル収集データの収集を開始および終了する時刻を指定します。「 <i>startTime</i> 」と「 <i>endTime</i> 」はHH:MM[am	pm]の形式で指定する必要があります。

最小ファームウェアレベル

8.25

例

```
SMcli -autoSupportSchedule dailyTime=10:00am-11:00am
dayOfWeek=[Monday Thursday Friday] weeklyTime=2:00am-3:00am
```

SMcli -autoSupportSchedule dailyTime = 10 : 00am - 11 : 00am DayOfWeek =[月曜日の金曜日] weeklyTime = 2 : 00am - 3 : 00am

検証

管理ドメインのスケジュールの変更結果を確認するには`SMcli -autoSupportSchedule show`コマンドを使用します

AutoSupport メッセージ収集スケジュールの表示 - SANtricity CLI

SMcli -autoSupportSchedule showコマンドは、日単位と週単位の両方のAutoSupport メッセージの収集と処理のスケジュールを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

自動サポートバンドル収集のスケジュールに関しては、次の点に注意してください。

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ソフトウェアは、日単位と週単位のメッセージに関しては時刻を、週単位のメッセージに関しては曜日を、ランダムに選択します。
- 管理ソフトウェアは、1つの管理ドメイン内の2つのストレージアレイがスケジュールされたAutoSupport メッセージを同時に送信しないように対処します。
- SMcli -autoSupportSchedule resetコマンドを使用すると、優先される時間帯（時間単位）を指定し、管理ドメイン内のストレージ・アレイの日単位と週単位の両方のメッセージを送信できます。週単位のメッセージのスケジュールに関しては、コマンドを使用して優先される曜日を選択します。

構文

```
SMcli -autoSupportSchedule show
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.25

例

出力には、優先される時間帯に続けて、日単位と週単位のスケジュールが表示されます。



両方のスケジュールの優先される時間帯および曜日を選択しない場合、このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェアがランダムに選択した日単位のスケジュールおよび週単位のスケジュールを表示します。

```
SMcli -autoSupportSchedule show
The AutoSupport daily schedule preferred time range is from 12:00 AM to
01:00 AM.
The AutoSupport weekly schedule preferred time range is from 10:00 PM to
11:00 PM on Thursday, Saturday.
```

Name	Daily Schedule	Weekly Schedule
Accounting	12:55 AM	10:08 PM on Thursdays
Finance	12:02 AM	10:30 PM on Saturdays

```
SMcli completed successfully.
```

EMW管理ドメインレベルでAutoSupportを有効化または無効化する（SMcliのみ） - SANtricity CLI

SMcli enable autoSupportFeature コマンドは、すべての管理対象ストレージアレイのAutoSupport（ASUP）機能をオンにし、テクニカルサポートサイトにメッセージを送信できるようにします。ASUP機能を有効にすると、サポート関連データを収集してテクニカルサポートに送信できるように、ASUP対応のストレージアレイが自動的に準備されます。このデータは、リモートでのトラブルシューティングや問題の分析に使用できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト（Context）



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



AutoSupport 機能を使用するには、Persistent Monitorが有効になっている必要があります。



これまでテクニカルサポートサイトに送信された顧客データはありません。

このコマンドは、管理ドメイン内のすべてのASUP対応ストレージアレイに影響します。管理ドメインでこの機能を有効にすると、各ストレージアレイでこの機能を制御できるようになります。

この機能を有効にしたあとに、必要に応じてAutoSupport OnDemand機能を有効にし、さらに必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。

3つの機能は、次の順序で有効にする必要があります。

1. * AutoSupport を有効にします。 *

2. * AutoSupport OnDemand*を有効にします
3. * AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします。*

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportFeature
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig showコマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の行に、有効化のステータスが表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management station.
```

最小ファームウェアレベル

7.86

EMW管理ドメインレベルでAutoSupport OnDemand機能を有効化または無効化する (SMcliのみ) - SANtricity CLI

SMcli enable | disable autoSupportOnDemandコマンドは、AutoSupport OnDemand機能をオンまたはオフにします。この機能を使用すると、テクニカルサポートはAutoSupportデータ送信を調整でき、不足しているサポートデータの再送信を要求できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

この機能を有効にする前に、まず管理ドメインでAutoSupport 機能を有効にする必要があります。この機能を有効にすると、必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。AutoSupport OnDemand機能が有効になっている場合、AutoSupport リモート診断機能はデフォルトで有効になっています。

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportOnDemand
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig showコマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の2行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management
station.
The AutoSupport OnDemand feature is activated on this storage
management station.
```

最小ファームウェアレベル

8.25

EMW管理ドメインレベルでAutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする (SMcliのみ) - SANtricity CLI

SMcli enable | disable autoSupportRemoteDiagコマンドは、AutoSupport リモート診断機能をオンまたはオフにします。この機能により、テクニカルサポートは、サポートデータを要求して問題をリモートで診断できます。

サポートされているアレイ

このコマンド環境 は、管理ドメイン内のE2700とE5600のすべてのストレージアレイを一度に削除します。E4000、E2800、E5700のストレージアレイには適用されません。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。



このコマンドは、管理ドメイン内のすべてのASUP対応ストレージアレイに影響します。

この機能を有効にする前に、まずAutoSupport 機能、次にAutoSupport OnDemand機能を管理ドメイン上で有効にします。

3つの機能はこの順序で有効にする必要があります。

1. * AutoSupport を有効にします。*
2. * AutoSupport OnDemand*を有効にします
3. * AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします。*

構文

```
SMcli enable|disable autoSupportRemoteDiag
```

パラメータ

なし

検証

SMcli -autoSupportConfig showコマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の3行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータス、およびAutoSupport Remote Diagnostics機能のステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is activated on this storage management
station.
The AutoSupport OnDemand feature is activated on this storage management
station.
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is activated on this storage
management station.
```

最小ファームウェアレベル

8.25

自動サポートバンドル収集構成のスケジュール - SANtricity CLI

SMcli supportbundle scheduleコマンドは1つまたは複数のストレージアレイにサポートバンドルを保存するスケジュールを作成または削除しますシステムと構成の情報をテクニカルサポートに送信して分析と診断を依頼するには、サポートバンドルに情報を収集します。



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

次の2種類のスケジュールを作成できます。

- 日次/週次—新しい構成を監視したり、既存の構成をトラブルシューティングするために頻繁にデータを収

集する必要がある場合は、このスケジュールを使用します。

- 月次/年次-ストレージレイの長期的な運用を評価するためにデータを収集する場合は、このスケジュールを使用します。

日次/週次スケジュールを作成するための構文

```
SMcli -supportBundle schedule enable
(all | <em>storageArrayName</em>)
startTime=<em>HH:MM</em>
startDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
endDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
daysOfWeek=[Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday]
data=<em>pathName</em>
```

月次/年次スケジュールを作成するための構文

```
SMcli -supportBundle schedule enable
(all | <em>storageArrayName</em>)
startTime=<em>HH:MM</em>
startDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
endDate=<em>MM:DD:YYYY</em>
months=[January February March April May June July August September
October
November December]
weekNumber=(First|Second|Third|Fourth|Last)
dayOfWeek=(Sunday|Monday|Tuesday|Wednesday|Thursday|Friday|Saturday) |
onDays=[1-31] |
data=<em>pathName</em>
```

スケジュールを削除するための構文



このコマンドは、ストレージレイのスケジュールを完全に削除します。サポートバンドル情報の保存を再開するには、新しいスケジュールを作成する必要があります。

```
SMcli -supportBundle schedule disable
(all | <em>storageArrayName</em>)
```

パラメータ

次の表に、日次/週次スケジュールのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「enable」を選択します	重大なMELイベントが検出されたときに、サポートバンドルの自動収集を有効にします。このパラメータを指定すると、一時停止されていたサポートバンドルデータの収集が再開されます。新しいスケジュールを作成したり既存のスケジュールを変更したりするときは、このパラメータを使用する必要があります。
「すべて」	ホストで検出されたすべてのストレージアレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。
「storageArrayName」のように指定します	スケジュールを設定する特定のストレージアレイの名前。
「startTime」と入力します	<p>サポートバンドルの収集を開始する時刻。時刻の入力形式はHH：MMで、HHは時間、MMは分です。24時間制を使用します。</p> <p>デフォルトの時刻は00：00、深夜0：00です。開始時刻を入力せずにサポートバンドルの収集を有効にすると、データの収集は午前0時に自動的に実行されます。</p>
「startDate」と入力します	<p>サポートバンドルデータの収集を開始する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトは現在の日付です。</p>
「endDate」	<p>サポートバンドルデータの収集を停止する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトはnoneです。</p> <p>このパラメータを使用する場合は、開始日から1週間以上経過した過去ではない日付を指定する必要があります。</p>

パラメータ	説明
曜日	<p>サポートバンドルデータを収集する曜日または曜日。1日以上の日曜日にサポートバンドルデータを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <pre>daysOfWeek=[Tuesday]</pre> <pre>daysOfWeek=[Monday Wednesday Friday]</pre> <p>曜日は角カッコ ([]) で囲みます。複数の日を入力する場合は、各日をスペースで区切ります。</p>
「データ」	<p>サポートバンドルデータの保存先となるファイルパスとファイル名。例：</p> <pre>file="C:\Program Files\CLI\sup\data.txt"</pre> <div>  <p>任意のファイル拡張子を使用できます。</p> </div> <p>ファイルのパスと名前は二重引用符 (") で囲みます。</p>

次の表に、月次/年次スケジュールのパラメータを示します。

パラメータ	説明
「enable」を選択します	<p>重大なMELイベントが検出されたときに、サポートバンドルの自動収集を有効にします。このパラメータを指定すると、一時停止されていたサポートバンドルデータの収集が再開されます。新しいスケジュールを作成したり既存のスケジュールを変更したりするときは、このパラメータを使用する必要があります。</p>
「すべて」	<p>ホストで検出されたすべてのストレージアレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。</p>
「storageArrayName」	<p>スケジュールを設定する特定のストレージアレイの名前。</p>

パラメータ	説明
「startTime」と入力します	<p>サポートバンドルの収集を開始する時刻。時刻の入力形式はHH：MMで、HHは時間、MMは分です。24時間制を使用します。</p> <p>デフォルトの時刻は00：00、深夜0：00です。開始時刻を入力せずにサポートバンドルの収集を有効にすると、データの収集は午前0時に自動的に実行されます。</p>
「startDate」と入力します	<p>サポートバンドルデータの収集を開始する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトは現在の日付です。</p>
「endDate」	<p>サポートバンドルデータの収集を停止する日付。日付の入力形式はMM：DD：YYです。</p> <p>デフォルトはnoneです。</p>
「月」	<p>サポートバンドルデータを収集する年の特定の月または月。1か月以上のサポートバンドルデータを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <pre>months=[June]</pre> <pre>months=[January April July October]</pre> <p>月は角カッコ（[]）で囲みます。複数の月を入力する場合は、各月をスペースで区切ります。</p>
「weekNumber」	<p>サポートバンドルデータを収集する週。例：</p> <pre>weekNumber=first</pre>
「DayOfWeek」	<p>サポートバンドルデータを収集する曜日。1日のサポートバンドルデータのみを収集するには、このパラメータを使用します。例：</p> <pre>dayOfWeek=Wednesday</pre>

パラメータ	説明
「onDays」	<p>サポートバンドルデータを収集する特定の日にちと曜日。例：</p> <div>onDays=[15]</div> <div>onDays=[7 21]</div> <p>日は角カッコ ([]) で囲みます。複数の日を入力する場合は、各日をスペースで区切ります。</p> <div>  <p>'onDays'パラメータは'weekNumber'パラメータまたは'DayOfWeek*'パラメータのいずれかでは使用できません</p> </div>
「データ」	<p>サポートバンドルデータの保存先となるファイルパスとファイル名。例：</p> <div>file="C:\Program Files\CLI\sup\data.txt"</div> <div>  <p>任意のファイル拡張子を使用できます。</p> </div> <p>ファイルのパスと名前は二重引用符 ("") で囲みます。</p>

次の表に、スケジュールを削除する場合のパラメータを示します。

パラメータ	説明
「不可能」	<p>サポートバンドルの自動収集を無効にし、以前に定義されたすべてのスケジュールをただちに削除します。</p> <div>  <p>スケジュールを無効にすると、そのスケジュールも削除されます。</p> </div>
「すべて」	<p>ホストで検出されたすべてのストレージレイを対象に収集スケジュールを設定するには、このパラメータを使用します。</p>

パラメータ	説明
「storageArrayName」	スケジュールを設定する特定のストレージアレイの名前。

注：

allパラメータを使用してすべてのストレージ・アレイに共通のスケジュールを設定すると、個のストレージ・アレイのスケジュールは削除されます。すべてのストレージアレイに1つのスケジュールが設定されている場合、新たに検出されたストレージアレイには同じスケジュールが適用されます。すべてのストレージアレイに1つのスケジュールを設定したあとに単一のストレージアレイにスケジュールを設定すると、新たに検出されたストレージアレイにはスケジュールは設定されません。

このコマンドの使用例を次に示します。最初の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の日次/週次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はDevKit4
- 収集開始時刻は02：00（午前2時）
- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは毎週月曜日と金曜日に収集されます
- このスケジュールには終了日はなく、'SMcli supportbundle schedule disable'コマンドを実行することによってのみ停止できます

```
SMcli -supportBundle schedule enable DevKit4 startTime=02:00
startDate=05:01:2013 endDate=05:10:2014 daysOfWeek=[Monday Friday]
```

2番目の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の月次/年次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はeng_usersです
- 収集開始時刻は04：00（午前4時）
- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは3月、4月、5月、6月、8月に収集されます
- 各月の1日と21日にデータが収集されます
- このスケジュールには終了日はなく、'SMcli supportbundle schedule disable'コマンドを実行することによってのみ停止できます

```
SMcli -supportBundle schedule enable eng_stor1 startTime=04:00
startDate=05:01:2013 months=[March April May June August] onDays=[1 21]
```

3番目の例では、次の基準を満たす、サポートバンドルデータ収集用の月次/年次スケジュールを作成します。

- ストレージアレイ名はfirmware_2です
- 収集開始時刻は22：00（夜10：00）

- 開始日は05：01：2013（2013年5月1日）
- データは3月、4月、5月、6月、8月に収集されます
- 各月の最初の週の金曜日にデータが収集されます
- このスケジュールは05：10：2014（2014年5月10日）に終了

```
SMcli -supportBundle schedule enable firmware_2 startTime=22:00
startDate=05:01:2013 endDate=05:10:2014 months=[March April May June
August]
weekNumber=First dayOfWeek=Friday
```

最小ファームウェアレベル

7.83

開始...

非同期ミラーリング同期を開始する - **SANtricity CLI**

start asyncMirrorGroup synchronize コマンドは'非同期ミラーリングの同期を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start asyncMirrorGroup ["<em>asyncMirrorGroupName</em>"] synchronize
[deleteRecoveryPointIfNecessary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	同期を開始する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（"）で囲みます。

パラメータ	説明
「deleteRecoveryPointIfNecessary」です	リカバリ可能な同期データがリカバリの時間のしきい値を超えた場合にリカバリポイントを削除するためのパラメータ。リカバリポイントの経過時間は、プライマリストレージアレイでデータが取得された時間から計測されます。

最小ファームウェアレベル

7.84

8.10で、「deleteRecoveryPointIfNecessary」パラメータが追加されました。

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

整合性グループスナップショットのロールバックを開始する - SANtricity CLI

start cgSnapImage rollback コマンドは、スナップショット・コンシステンシ・グループのメンバー・ベース・ボリュームへのロールバック操作を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ベースボリュームの内容は、整合性グループのSnapshotボリュームの任意の時点の内容に合わせてすぐに変更されます。ロールバック処理が完了すると、ベースボリュームに対する読み取り/書き込み要求をすぐに実行できるようになります。

整合性グループのSnapshotボリュームに関連付けられているリポジトリボリュームは、ロールバック処理の完了後に発生するベースボリュームと整合性グループSnapshotボリューム間の新しい変更を引き続き追跡します。

メンバーベースボリュームへのロールバック処理を停止するには、「stop cgSnapImage rollback」コマンドを使用します。

構文

```
start cgSnapImage ["<em>snapCGID:imageID</em>"] rollback
memberVolumeSet ("<em>memberVolumeName1</em>" ...
"<em>memberVolumeNameN</em>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「cgSnapImage」をクリックします	<p>ロールバック処理を開始する整合性グループのSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループの名前• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子。 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。• 最新スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します• oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「memberVolumeSet」をクリックします	<p>整合性グループ内のロールバックするメンバーベースボリュームの名前。各メンバーベースボリューム名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で丸かっこで囲みます。</p> <p>ボリューム名は複数入力できます。すべてのボリューム名は一組の角かっこ ([]) で囲みます。各ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。ボリューム名はそれぞれスペースで区切ります。</p> <p>memberVolumeSet'パラメータが使用されない場合'ロールバック・プロセス環境 はコンシステンシ・グループのすべてのメンバー・ボリュームを処理します</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン (:) で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、CG1という名前の整合性グループ内にある最新のSnapshotイメージのロールバック処理を開始する場合は、次のコマンドを使用します。

```
start cgSnapImage ["CG1:newest"] rollback;
```

CG2という名前の整合性グループ内にあるベースボリュームメンバーmemVol1、memVol2、memVol3のSnapshotイメージ12345のロールバック処理を開始するには、次のコマンドを使用します。

```
start cgSnapImage ["CG2:12345"] rollback memberVolumeset=("memVol1 memVol2 memVol3");
```

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームパリティチェックジョブの開始 - SANtricity CLI

。start check volume parity job コマンドは、指定したボリュームで新しいボリュームパリティチェック処理を開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start check volume[<volume_label>] parity job
(startingLba=<start_lba> endingLba=<end_lba> scanPriority=<scan_priority>
repairParityErrors=<true | false>
repairMediaErrors=<true | false>);
```

パラメータ

パラメータ	説明
startingLba	パリティスキャンを開始するボリュームの論理ブロックアドレス。デフォルト値はです 0。
endingLba	パリティスキャンを停止するボリュームの論理ブロックアドレス。デフォルト値はです maximum volume lba。

パラメータ	説明
scanPriority	パリティスキャンの優先順位。デフォルト値は <code>medium</code>
repairParityErrors	パリティスキャン中に検出されたパリティエラーの修復を自動的に試行するかどうかを指定します。デフォルト値は <code>true</code> 。
repairMediaErrors	パリティスキャン中に検出されたメディアエラーの修復を自動的に試行するかどうかを指定します。デフォルト値は <code>true</code> 。

最小ファームウェアレベル

11.80

iSCSI DHCP 更新を開始する - SANtricity CLI

`start controller iscsiHostPort dhcpRefresh` コマンドは iSCSI インタフェースの DHCP パラメータの更新を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべての SMcli パッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300 を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドを E4000、E2800、E5700、EF600、または EF300 のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin ロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

インターフェイスの設定方法が DHCP に設定されていない場合、手順 はエラーを返します。

構文

```
start controller [(a|b)] iscsiHostPort [portLabel] dhcpRefresh
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	iSCSIホストポートが搭載されたコントローラの識別子。有効なコントローラ識別子の値は'a'または'b'です ここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラです
「iscsiHostPort」のように入力します	DHCPパラメータを更新するiSCSIホストポートのラベルまたは番号。 詳細については、次を参照してください。 "iSCSIホストポートラベルの識別"

iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

手順

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["ch 2"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります ({キャレット} を使用)。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort["e0b^|0b"]
```

下位互換性のために、引用符と角カッコではなく角カッコ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。



- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort[3]
```

注：

この処理を実行すると、ポータルのiSCSI接続が終了し、ポータルが一時的に停止します。

最小ファームウェアレベル

7.10

8.10で、iSCSIホストポートの番号付け方法が改定されました。

8.30で、E2800のiSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

コントローラのトレースを開始する - SANtricity CLI

start controllerコマンドは'デバッグ・トレース情報を圧縮ファイルに保存するオペレーションを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。


コンテキスト (**Context**)

デバッグトレース情報は、テクニカルサポートがストレージアレイの稼働状況を分析するために使用します。

構文

```
start controller [(a
| b
| both)] trace
dataType=(current | flushed | currentFlushed | all)
forceFlush=(TRUE | FALSE)
file="<em>fileName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	<p>トレースデバッグ情報を収集するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです「both」を入力すると、両方のコントローラのデバッグを同時に収集できます。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みません。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。</p>
「データ型」	<p>収集するデータのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在のdqトレース—現在のdqトレースを取得します • flushed -フラッシュされたすべてのDQトレース • currentFlushed --現在のDQトレースとフラッシュされたDQトレースの両方を取得します • all --現在のDQトレース、フラッシュされたDQトレース、およびすべてのプラットフォームDQトレース <div>  <p>'datatype=flushed'および'forceFlush=True'の場合'取得時にバッファにフラッシュできるのはアクティブなトレースだけであることを示すエラーメッセージが返されます</p> </div>

パラメータ	説明
「* forceFlush *」	<p>datatypeパラメータで定義されたDQトレース情報が取得されたときに、現在のバッファのDQ情報をフラッシュバッファに移動するための設定。強制的なフラッシュをイネーブルにするには、このパラメータを「true」に設定します。強制的なフラッシュを無効にするにはこのパラメータをFALSEに設定します</p> <div>  <p>'datatype=flushed'および'forceFlush=True'の場合、取得時にバッファにフラッシュできるのはアクティブなトレースだけであることを示すエラーメッセージが返されます</p> </div>
'file'	<p>DQトレース情報の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符（"）で囲みます。</p> <p>ファイルの命名方法については、「メモ」セクションを参照してください。</p>

注：

DQトレース情報は、.zip拡張子の付いた圧縮ファイルに書き込まれます。ファイル名は、ユーザ定義のファイル名とストレージレイ識別子（SAID）を組み合わせたものです。末尾に「dq」も追加されます。完全なファイル名の形式は次のとおりです。

```
user_defined_file_name-SAID-dq.zip
```

圧縮ファイルに含まれる情報を次の表に示します。

ファイル名（ File Name ）	ディレクトリ	コメント
「user_provided_file_name - SAID - A.dq」という形式になります	「SAID /タイムスタンプ/	コントローラAから取得したDQトレースデータ
「user_provided_file_name -sSAID -bdq」という形式になります	「SAID /タイムスタンプ/	コントローラBから取得したDQトレースデータ
「user_provided_file_name-sSAID」 - 「trace_descriptionXM」	「SAID /タイムスタンプ/	将来のデータマイニングに使用する、DQファイルの属性が記述されたXML形式の概要 ファイル。

最小ファームウェアレベル

7.75

ディスクプールのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start diskPool fullProvisioning コマンドは、ディスク・プール内のすべてのボリュームでフル・プロビジョニング操作を開始し、オプションでディスク・プール上のリソース・プロビジョニングを無効にします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

リソースプロビジョニング機能を使用すると、ドライブブロックの大部分を標準ボリュームよりも未割り当ての状態にしておくことで、SSDの寿命が延び、書き込みパフォーマンスが向上します。リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームで、ドライブ容量が割り当てられています（ボリュームに割り当てられて）、ボリュームの作成時にドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ドライブブロックは、ホスト書き込みIOを完了するために必要に応じて割り当てられます。ホストのマッピング解除処理によって、ドライブブロックを未割り当て状態に戻すことができます。リソースプロビジョニングでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化が排除されるため、大容量のボリュームを迅速に初期化できます。


リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グループまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable (DULBE) エラーリカバリ機能がサポートされます。パフォーマンスの向上はドライブのモデルや容量によって異なります。

完全なプロビジョニング形式では、ストレージプール内のボリュームに必要なすべてのブロックがドライブ上で完全にマッピングされます。このコマンドは、プロビジョニングされたリソースのストレージプールにのみ適用できます。disableResourceProvisioning オプションがFALSEに設定されていない場合でも、ボリュームはリソースプロビジョニングされ、ストレージプールに作成された新しいボリュームはリソースプロビジョニングされます。リソース・プロビジョニングを無効にするオプションがtrueに設定されている場合、ボリュームはリソース・プロビジョニングされなくなり、ストレージ・プールに作成された新しいボリュームはリソース・プロビジョニングされません。

構文

```
start diskPool[diskPoolName] fullProvisioning  
[disableResourceProvisioning=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	フルプロビジョニング処理を開始するディスクプール。ディスクプール名は角かっこで囲みます ([])。
disableResourceProvisioning	<p>フルプロビジョニング処理の完了後にリソースプロビジョニングを無効にするかどうかを指定する設定。リソースプロビジョニングの無効化をスキップするには'これをFALSEに設定しますデフォルト値は「true」です。</p> <div>  <p>ストレージ・プールおよび関連するすべてのボリュームでリソース・プロビジョニングを再度有効にするには' Start Disk Pool Resource Provisioning コマンドを使用します</p> </div>

最小ファームウェアレベル

11.72

ディスクプールの検索を開始する - SANtricity CLI

start diskPool locateコマンドは'ドライブ上のインジケータライトを点滅させることにより'指定されたディスク・プールを構成するために論理的にグループ化されたドライブを識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

(ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop diskPool locateコマンドを使用します)

構文

```
start diskPool [<em>diskPoolName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	特定するディスクプールの名前。ディスクプール名は角カッコ ([]) で囲みます。ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ディスクプール名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

ディスクプールのリソースプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start diskPool resourceProvisioningコマンドを使用すると、所定のディスク・プールでリソース・プロビジョニングを有効にし、ディスク・プール内の各ボリュームで非同期オペレーションを実行するリソース・プロビジョニングを開始できます。リソースをプロビジョニングするには、ディスクプール内のすべてのドライブがNVMeのDULBE機能をサポートしている必要があります。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ディスクプールでリソースのプロビジョニングを無効にするには、フルプロビジョニングコマンドとオプションを使用して、リソースのプロビジョニングを無効にします。すべてのドライブがDULBE対応で、ストレージアレイのresourceProvisionedVolumes設定が「true」の場合、ディスクプールは作成時にリソースをプロビジョニングします。

構文

```
start diskPool[<em>diskPoolName</em>] resourceProvisioning
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPoolName」	リソースプロビジョニング機能を有効にするディスクプール。ディスクプール名は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

11.73

ドライブ消去の開始 - SANtricity CLI

start drive eraseコマンドを実行すると、1つまたは複数のドライブからすべてのデータが消去されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のアレイに適用されます。E2700およびE5600のストレージアレイでは動作しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドは、ドライブ上のすべてのデータを完全に削除する場合にのみ実行してください。ドライブがセキュリティ有効の場合、start drive eraseコマンドオプションは暗号化消去を実行し、ドライブのセキュリティ属性をセキュア対応にリセットします。




消去操作は元に戻せません。このコマンドを使用するときは、正しいドライブを選択していることを確認してください。

構文

```
start (drive [trayID,[drawerID,]slotID] |
drives[trayID1,[drawerID1,]slotID1 ... trayIDn,[drawerIDn,]slotIDn]) erase
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ（[]）で囲みます。</p> <div>  <p>drivesリストにストレージアレイのすべてのドライブを指定するとコマンドが拒否されます。</p> </div>

最小ファームウェアレベル

11.70.1

ドライブの初期化を開始する - SANtricity CLI

start drive initializeコマンドは'ドライブの初期化を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



ストレージ・アレイ構成への損傷の可能性--このコマンドを入力すると'すべてのユーザー・データが破棄されます

構文

```
start drive [<em>trayID</em>,[<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>]  
initialize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ドライブの検索を開始する - SANtricity CLI

start drive locateコマンドは'ドライブのインジケータライトを点灯させることでドライブを特定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800

、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop drive locate'コマンドを実行します

構文

```
start drive [trayID],[drawerID],[slotID] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ドライブ再構築の開始 - SANtricity CLI

start drive reconstructコマンドは'ドライブ'の再構築を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start drive [<em>trayID</em>,[<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>]
reconstruct
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイ'と'小容量ドライブトレイ'の両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要

があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

5.43

7.60で'drawerID'ユーザ入力が増加されました

ドライブチャネル障害分離診断の開始 - SANtricity CLI

start driveChannel faultDiagnosticsコマンドは'ドライブチャネルの障害切り分け診断を実行し'結果を保存します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェアバージョン8.10では、start driveChannel faultDiagnosticsコマンドは廃止されました。

構文

```
start driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)]
controller [(a|b)] faultDiagnostics
testDevices=[all |
controller=(a|b) |
esms=[<em>trayID1</em> (left | right), ... , <em>trayIDN</em> (left |
right)] |
drives[<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>]
|[dataPattern=(fixed | pseudoRandom) |
patternNumber=[(<em>0xhexadecimal</em> | <em>number</em>)] |
maxErrorCount=<em>integer</em> |
testIterations=<em>integer</em> |
timeout=<em>timeInterval</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	特定するドライブチャネルの識別番号。ドライブ・チャネルの有効な識別番号は'1'2'3'4'5'です '6'7'または'8'ドライブチャネルの識別番号は角かっこ（[]）で囲みます。
「controller」と入力します	テストするコントローラの識別子。有効なコントローラ識別子の値は'a'または'b'ですここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
「testDevices」	<p>テストするデバイス（コントローラ、環境サービスモジュール[ESM]、またはドライブ）の識別子。「all」を指定するか、診断するデバイスの特定の識別子を入力します。「controller」の識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのRAIDコントローラモジュール、「b」はスロットBのRAIDコントローラモジュールです</p> <p>ESMS'識別子はトレイIDと左または右ですトレイIDは0～99の値で'左または右は背面からドライブトレイを見るときに決定されます</p> <p>'drive'識別子には'トレイ識別子'トレイにドロワーがある場合のドロワー識別子'スロット識別子'が含まれます</p> <p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>
「dataPattern」	テストする再現性の方法。

パラメータ	説明
「patternNumber」と入力します	テストの実行に使用する16進数のデータパターン。 この数は'0000'から'FFFF'までの任意の16進数にすることができます16進数値を示すためには'0x'を前面に配置する必要があります
'maxErrorCount'	テストを終了するまでに許容するエラーの数。
「testIterations」	テストを繰り返す回数。
タイムアウト	テストを実行する時間（分）。

注：

テストするデバイスのタイプを複数入力したり、実行するテストのタイプを複数入力したりできます。

「start driveChannel faultDiagnostics」コマンドと「stop driveChannel faultDiagnostics」コマンドを「start driveChannel faultDiagnostics」コマンドとともに使用します。これらのコマンドは、診断テストの結果をファイルに保存し、診断テストを停止するために必要です。

有効な「patternNumber」エントリの例としては、「0xA5A5」、「0x3C3C」、「8787」、「1234」などがあります。

このコマンドはCtrl + Cキーを押すいつでも停止できます

最小ファームウェアレベル

7.15

ドライブチャネルの検索を開始する - SANtricity CLI

start driveChannel locateコマンドは'特定のドライブチャネルに接続されているドライブトレイのインジケータライトを点灯することによって'そのドライブトレイを識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ドライブトレイのインジケータライトをオフにするには'stop driveChannel locateコマンドを使用します

構文

```
start driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	特定するドライブチャネルの識別番号。ドライブ・チャネルの有効な識別番号は'1'2'3'4'5"です '6'7'または'8`ドライブチャネルの識別番号は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャネル識別子の更新が追加されました。

テストメールアラート設定 - SANtricity CLI

「start emailAlert test」コマンドを使用すると、サンプルの電子メールメッセージを送信して、アラート設定をテストできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start emailAlert test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start emailAlert test;"
```

The sample alert message was successfully sent to the email addresses.

SMcli completed successfully.

最小ファームウェアレベル

8.40

ディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの容量を増やす - **SANtricity CLI**

start increaseVolumeCapacity volume コマンドは、ディスク・プールまたはボリューム・グループ内の標準ボリュームまたはリポジトリ・ボリュームの容量を拡張します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドでは、標準ボリュームはシックボリュームとも呼ばれます。



このコマンドを使用してシンボリックボリュームの容量を拡張することはできません。

構文

```
start increaseVolumeCapacity volume="<volumeName>"  
incrementalCapacity=<volumeCapacity>  
[addDrives=(<trayID1>, [<drawerID1>, ]<slotID1> ...  
<trayIDn>, [<drawerIDn>, ]<slotIDn>) ]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	容量を拡張するディスクプールまたはボリュームグループ内のボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
「増分容量」	ボリュームのストレージサイズ (容量) を拡張するための設定。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。
「addDrives」を参照してください	<p>ボリュームに新しいドライブを追加するための設定。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p> <div>  <p>「addDrives」パラメータは、ボリュームグループの容量を増やす場合にのみ使用できます。パラメータを使用してディスクプールの容量を拡張することはできません。</p> </div>

注：

場合によっては'drive'パラメータがコマンド構文の有効な入力として表示されることがありますただし'このコマンドでは'drive'パラメータを使用できません

「incrementalCapacity」パラメータを設定すると、長時間実行される処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはありません。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

'addDrives'パラメータは'大容量ドライブ・トレイと小容量ドライブ・トレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ド

ロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

7.83

入出力コントローラ (IOC) ダンプの開始 - SANtricity CLI

start IOCLogコマンドは、ホストとコントローラ間のデータ送信のIOCログをダンプします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

コントローラは「a」または「b」として識別されます。各コントローラには最大4つのホストチャネルを設定でき、各チャネルは1~8の番号で一意的に識別されます。

構文

```
start IOCLog [(a1 | a2 | a3 | a4 | a5 | a6 | a7 | a8 | b1 | b2 | b3 | b4 |  
b5 | b6 | b7 | b8)]  
[overwrite=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「コントローラチャンネル識別子」	<p>このパラメータは、IOCダンプの作成元となるコントローラとホストチャンネルを指定します。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。ホストチャンネルは数値で識別されます。コントローラとホストチャンネルの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>有効なコントローラ識別子とホストチャンネルの値は a1、 、 a2、 a3 a4 a5、 、 です。 a6 a7、 、 a8、 b1、 、 b2 b3 b4、 、 b5、 b6、 、 b7 `b8`または。</p> <p>コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。</p>
「上書き」	<p>このパラメータを使用すると、新しいIOCログダンプで既存のダンプが上書きされます。既存のダンプを上書きするには、このパラメータをTRUEに設定します。デフォルト値はFALSEです。</p>

注：

このコマンドは、選択したコントローラのIOCからデバッグログを生成し、コントローラ上の永続的メモリバッファにデータを圧縮して格納します。save IOCLogコマンドを使用すると、デバッグログからデータを取得できます。コントローラから次の状況のエラーが返されます。

- コントローラプラットフォームとHICがIOCダンプをサポートしていない。
- 指定したコントローラに未処理のIOCダンプがあり、overwriteパラメータがfalseに設定されている。
- 指定したコントローラ識別子またはチャンネル識別子が有効な範囲外です。

最小ファームウェアレベル

8.20で

FDEセキュアドライブ消去を開始する - SANtricity CLI

start secureErase driveコマンドは、1つまたは複数のFull Disk Encryption (FDE)ドライブからすべてのデータを消去して、FDEドライブとして再利用できるようにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するに

は、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、FDEドライブがセキュアなボリュームグループまたはディスクプールのメンバーでなくなった場合、またはセキュリティキーが不明な場合にのみ実行します。




ドライブがロックされていて、そのドライブのロックを解除するためのセキュリティキーが使用できないときにFIPSドライブを消去するには、「set drive securityID」コマンドを使用します。

構文

```
[start secureErase (drive
[<em>trayID</em>,[<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] | drives
[<em>trayID1</em>,[<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,[<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角カッコ ([]) で囲みます。</p> <div><p>drivesリストにストレージアレイのすべてのドライブを指定するとコマンドが拒否されます。すべてのドライブを完全消去するには、ドライブのリストを2つのグループに分けて指定し、このコマンドを2回実行します。</p></div>

注：

コントローラファームウェアによってロックが作成され、FDEドライブへのアクセスが制限されます。FDEドライブには、Security Capableという状態があります。セキュリティキーを作成すると、状態はSecurity Enabledに設定され、これによって、ストレージアレイ内に存在するすべてのFDEドライブへのアクセスが制限されます。

最小ファームウェアレベル

7.40

スナップショットイメージのロールバックを開始する - SANtricity CLI

start snapImage rollbackコマンドは'スナップショット・イメージ・セットのロールバック・オペレーションを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

ベースボリュームの内容は、選択したSnapshotイメージボリュームの任意の時点の内容に合わせてすぐに変更されます。ロールバック処理が完了すると、ベースボリュームに対する読み取り/書き込み要求をすぐに実行できるようになります。スナップショット・イメージのロールバック操作を停止するには'stop rollback SnapImageコマンドを使用します

Snapshotイメージに関連付けられているリポジトリボリュームは、ロールバック処理の完了後に発生するベースボリュームとSnapshotイメージボリューム間の新しい変更を引き続き追跡します。



オンラインボリュームコピーに関与するSnapshotイメージには、このコマンドは使用できません。

構文

```
start snapImage ["<em>snapImageName</em>"] rollback
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapImage」	<p>Snapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Snapshotグループの名前 • Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 • 最新--スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します • oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、SnapshotグループsnapGroup1内のSnapshotイメージ12345をロールバックする場合は、次のコマンドを使用します。

```
start snapImage ["snapGroup1:12345"] rollback;
```

SnapshotグループsnapGroup1内の最も新しいSnapshotイメージをロールバックするには、次のコマンドを使用します。

```
start snapImage ["snapGroup1:newest"]rollback;
```

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMPトラップの送信先をテストする - SANtricity CLI

start snmpTrapDestinationコマンドは'特定の簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)コミュニティまたはユーザのトラップレシーバーの接続と識別をテストしますこのコマンドは、トラップレシーバーにトラップメッセージを送信することによって、トラップの送信先をテストします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start snmpTrapDestination trapReceiverIP=ipAddress
  (communityName="<em>communityName</em>" |
  (userName="<em>userName</em>" [engineId=(local | engineId)]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「trapReceverIP」と入力します	トラップメッセージの送信先であるSNMPマネージャのIPアドレス。
「CommunityName」の略	トラップメッセージを送信するSNMPコミュニティの名前。
「ユーザ名」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザの名前。
「engineID」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は「local」です。ローカルSNMPエージェントは権限のあるエージェントで、16進数の数字で、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定します。

最小ファームウェアレベル

8.30

SSD キャッシュの検索を開始する - SANtricity CLI

start ssdCache locateコマンドは'SSDのインジケータライトを点滅させることにより'論理的にグループ化されたソリッド・ステート・ディスク（SSD）を識別します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop ssdCache locateコマンドを使用します

構文

```
start ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	特定するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ（[]）で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを開始する - SANtricity CLI

start ssdCache performanceModelingコマンドは'SSDキャッシュのパフォーマンスモデリングを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

パフォーマンスモデリングは、一定期間のI/Oアクティビティを監視および測定し、さまざまなSSDキャッシュサイズのパフォーマンスを予測します。パフォーマンスは、キャッシュヒット率と平均応答時間の2つの指標を使用して推定されます。パフォーマンスモデリングデータは'stop ssdCache performanceModeling'コマンドを使用してオペレーションを停止するまで使用できません

構文

```
start ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] performanceModeling
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	パフォーマンスをモデリングするSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

パフォーマンスモデリングが終了し、以下のいずれかの条件に該当する場合にパフォーマンスモデリングデータを使用できるようになりました。

- 「stop ssdCache performanceModeling」 コマンドを実行します。
- ストレージ管理ソフトウェアを使用してパフォーマンスモデリングデータを取得する。

パフォーマンスモデリングが終了しても、次のいずれかの条件に該当する場合はデータを使用できません。

- コントローラをリブートした。
- SSDキャッシュ設定に変更を加えた。
- SSDキャッシュの状態が変化した。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

AutoSupport 配信設定のテスト - SANtricity CLI

start storageArray AutoSupport deliveryTestコマンドは、サンプルのAutoSupport バンドル収集メッセージを送信し、指定された配信パラメータを使用してデスティネーションテクニカルサポートシステムへの接続をテストできるようにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray autoSupport deliveryTest
[replyToEmail="<em>address</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「replyToEmail」	AutoSupport テストメッセージの返信先のEメールアドレスを指定できます。配信方法がEメールに設定されている場合にのみ使用/必須です。

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray autoSupport deliveryTest;"

SMcli -n Array1 -c "start storageArray autoSupport deliveryTest
replyToEmail=\"user@company.com\";"

The sample AutoSupport message was successfully sent to the ASUP gateway
server.

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージレイの **AutoSupport** 手動ディスパッチの開始 - **SANtricity CLI**

start storageArray asemanualDispatch' AutoSupport コマンドは、バンドルの完全なサポートバンドルとASUPディスパッチを開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

完了までの時間が長い場合、プロセスが開始されるとコマンドは成功を返します。

構文

```
start storageArray autoSupport manualDispatch
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.63

ストレージアレイ構成データベース診断を開始する - **SANtricity CLI**

start storageArray configDbDiagnosticコマンドは構成データベースに対して整合性チェックを実行します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray configDbDiagnostic
[sourceLocation=(disk | onboard) |
diagnosticType=(fileSystem | mirror) |
controller[(a|b)]]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「sourceLocation」と入力します	<p>このパラメータは、データベースの場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">「disk」は、ドライブ上のデータベースから直接データが取得されることを示します「onboard」は、RPAメモリ上の場所からデータを取得することを示します <p>デフォルトの場所は「disk」です。</p>
'diagnosticType'	<p>データベースで実行する診断テストのレベル。次のいずれかのレベルのテストを実行できます。</p> <p>filesystem --このオプションは'データベースの構造的な整合性をチェックします</p> <p>mirror --このオプションを使用して実行されるテストは'sourceLocation/パラメータの値によって異なります</p> <ul style="list-style-type: none">「* sourceLocation *」パラメータが「disk」に設定されている場合、ピア・コントローラはブロック・チェックを開始します。「* sourceLocation *」パラメータが「onboard」に設定されている場合、ピア・コントローラはレコード・チェックを開始します。 <div><p>「mirror」オプションは、コマンドラインまたはスクリプトエディタからのみ実行できます。このオプションは、ストレージ管理ソフトウェアのGUIからは使用できません。mirrorオプションを指定すると'長時間実行される処理が開始され'停止することはできません</p></div> <p>デフォルト値は「filesystem」です。</p>

パラメータ	説明
「controller」と入力します	診断テストを実行するデータベースが格納されているコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

このコマンドは、構成データベースに対して整合性チェックを実行します。すべてのデータベースレコードがチェックされます。エラーデータは、ディスク上のデータフォルダ内のファイルに自動的に書き込まれます。出力ファイルを指定する必要はありません。



diagnosticType'パラメータをmirrorに設定し'sourceLocation'パラメータをonboardに設定して整合性チェックを実行する原因 と操作を長時間実行できますこれにより、ホストのI/O処理に悪影響が及ぶ可能性があります。この処理は、サポート部門から指示があった場合にのみ実行してください。

診断テストが完了すると、コントローラファームウェアは次のいずれかの結果を返します。

- ・「診断はエラーなしで完了しました。ZIPファイルが作成されていません
- ・「診断がエラーで終了しました。作成されたZIPファイルを参照してください

'+...\Install_dir\data\FirmwareUpgradeReports\timestamp_buildNo.zip +'

構成データベースの不整合が検出された場合、コントローラファームウェアは次の処理を実行します。

- ・不整合の概要 を返します
- ・バイナリデータをZIPファイルに保存します

ZIPファイルは次の場所に保存されます。

'+...\Install_dir\data\FirmwareUpgradeReports\timestamp_buildNo.zip +'

このバイナリデータを使用して問題の原因 を特定したり、バイナリデータを格納しているファイルをテクニカルサポートに送信したりできます。

データベース設定診断テストを停止するには、「stop storageArray configDbDiagnostic」 コマンドを使用します。

また、ストレージ管理ソフトウェアのGUIからデータベース構成の診断テストを開始することもできます。ただし、ストレージ管理ソフトウェアのGUIから診断テストを停止することはできません。実行中の診断テストを停止するには'stop storageArray configDbDiagnostic'コマンドを使用する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.75

7.83で、次のパラメータが追加されました

- 「sourceLocation」と入力します
- 'diagnosticType'
- 「controller」と入力します

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの開始 - SANtricity CLI

start storageArray controllerHealthImage controllerコマンドは、コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイで、ストレージアレイコントローラヘルスイメージを作成します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン8.20で'coredump'パラメータは'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました



このコマンドは、必ずテクニカルサポートの指示に従って使用してください。

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、コマンドはエラーを返します。

構文

```
start storageArray controllerHealthImage controller [(a|b)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	このパラメータは、コントローラのヘルスイメージの作成元のコントローラを指定します。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ ([]) で囲みます。コントローラを指定しないと、ストレージ管理ソフトウェアから構文エラーが返されます。

注：

このコマンドは、選択したコントローラのコアデータを強制的にキャッシュにダンプします。キャッシュデータのコピーをホストファイルに保存するには、「save storageArray controllerHealthImage」コマンドを使用します。

最小ファームウェアレベル

7.83

8.20で'coredump'パラメータが'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイディレクトリサーバーのテスト - **SANtricity CLI**

start storageArray DirectoryServices testコマンドは、設定されているすべてのディレクトリサーバとの通信をチェックし、サーバドメイン設定を検証します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドは、ディレクトリサーバがドメインに1つも追加されていない場合にエラーを返します。

構文

```
start storageArray directoryServices test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray directoryServices test;"

<test results for each domain configured are returned>

SMcli completed successfully.
```

外部キー管理通信のテスト - SANtricity CLI

start storageArray externalKeyManagement test コマンドは、設定されたクレデンシャル（証明書、KMIPサーバのアドレス、KMIPポート番号）を使用して、ストレージアレイが外部KMIPサーバと通信できるかどうかを確認します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

構文

```
start storageArray externalKeyManagement test
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイの iSNS サーバーの更新を開始する - SANtricity CLI

start storageArray isnsServerRefresh コマンドは、iSNSサーバのネットワークアドレス情報の更新を開始します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

DHCPサーバが非常に低速であるか応答しない場合は、更新処理に2~3分かかる可能性があります。



このコマンドはIPv4専用です。

構文

```
start storageArray isnsServerRefresh
```

パラメータ

なし

注：

set storageArray isnsIPv4ConfigurationMethodコマンドを使用して設定をDHCPに設定していない場合、「start storageArray isnsServerRefresh」を実行するとエラーが返されます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの検索を開始する - SANtricity CLI

start storageArray locateコマンドは'ストレージ・アレイのインジケータ・ライトをオンにすることによって'ストレージ・アレイを検索します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージ・アレイのインジケータ・ライトをオフにするには'stop storageArray locate'コマンドを使用します

構文

```
start storageArray locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

OCSP サーバー URL テストを開始する - SANtricity CLI

start storageArray ocsponderUrl testコマンドは、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバの指定したURLへの接続が開いているかどうかをチェックします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

パラメータ

パラメータ	説明
「URL」	OCSPサーバURLのリテラル文字列。 <div><div></div><div>URLを指定しない場合、証明書失効の設定にあるOCSPレスポンスURLが使用されます。</div></div>

構文

```
start storageArray ocsponderUrl test (url=stringLiteral)
```

最小ファームウェアレベル

8.42

ストレージアレイのSyslogテストを開始する - SANtricity CLI

start storageArray syslog testコマンドを使用すると、ストレージアレイとsyslogサーバ間の通信をテストできます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
start storageArray syslog test id="<id>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
ID	テストするsyslog設定ID。このIDは、「show storageArray syslog」コマンドを使用して取得できます。

例

```
SMcli -n Array1 -c "start storageArray syslog test  
id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\";"  
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

同期ミラーリング同期の開始 - SANtricity CLI

start SyncMirror primary synchronizeコマンドは同期ミラーリングの同期を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
start syncMirror primary ["<em>volumeName</em>"] synchronize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	同期を開始するプライマリボリュームの名前。プライマリボリューム名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

Syslog 構成のテスト - SANtricity CLI

start syslog testコマンドは、サンプルメッセージを送信して、syslog設定をテストします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
start syslog test
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "start syslog test;"

The sample alert message was successfully sent to the syslog servers.

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

トレイの位置特定を開始する - **SANtricity CLI**

start tray locateコマンドは'インジケータライトをオンにしてトレイを検索します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

トレイのインジケータライトをオフにするには'stop tray locateコマンドを使用します

構文

```
start tray [trayID] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	特定するトレイ。トレイIDの値は'0～99ですトレイIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームの初期化を開始する - SANtricity CLI

start volume initializeコマンドは'ストレージ・アレイ内のボリュームのフォーマットを開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ボリュームのフォーマットは長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volume [<volumeName>] initialize
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	フォーマットするボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

6.10

シンボリュームの初期化 - SANtricity CLI

start volume initialize'コマンドは'シン・ボリュームを初期化または再初期化します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

使用するパラメータに応じて操作が異なります。

- オプションパラメータなしでこのコマンドを使用すると、シンボリウム上のデータが削除されます。リポジトリボリュームの容量には影響しません。
- オプションのパラメータを指定して、原因 の再初期化およびリポジトリボリュームの操作を実行します。



シンボリュームの初期化は長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volume [<em>volumeName</em>] initialize  
[existingRepositoryLabel=<em>existingRepositoryName</em>]  
[diskPool=<em>diskPoolName</em> capacity=<em>capacityValue</em>]  
[retainRepositoryMembers=(TRUE|FALSE) ]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	初期化を開始するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
'existingRepositoryLabel'です	<p>このパラメータは、リポジトリボリュームを指定したボリュームの候補で置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定する値は、既存のリポジトリボリュームのユーザラベルです。指定するボリュームは、適切な形式の名前を持つ未使用のリポジトリボリュームである必要があります。 新しく指定したリポジトリボリュームが別のディスクプール上にある場合、シンボルボリュームはそのプールに所有権を移します。 デフォルトでは、古いリポジトリボリュームは削除されます。 <p>既存のリポジトリボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲む必要があります。</p>
「diskPool」	<p>指定した容量を持つ新しいリポジトリボリュームを作成するディスクプールの名前。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ディスクプール名を二重引用符 ("") で囲む必要があります。</p> <p>指定した容量を持つ新しいリポジトリ・ボリュームを作成するには'このパラメータをcapacityパラメータとともに使用する必要があります</p>
「容量」	<p>作成するリポジトリボリュームに設定するサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</p> <p>最小物理容量は4GBです。</p> <p>最大物理容量は257TBです。</p> <p>指定した容量を持つ新しいリポジトリ・ボリュームを作成するには'diskPool'パラメータとともにこのパラメータを使用する必要があります</p>
retainRepositoryMembers	<p>このパラメータがTRUEに設定されている場合'古いリポジトリは保持されますデフォルトでは、古いリポジトリは削除されます。既存のリポジトリが再利用される場合、このパラメータは無視されます。</p>

注：

volumeパラメータでボリュームを指定しない場合'このコマンドはリポジトリ内のメタデータをリセットし'実際には'ホストに対してシン・ボリュームが空である则表示されます「* volume *」パラメータでボリュームを指定した場合、そのボリュームは新しく作成されたボリュームに置き換えられま

す。「existingRepositoryLabel」パラメータを使用してボリュームを指定した場合は、既存のボリュームに置き換えられます。別のディスク・プールにある既存のボリュームを'existingRepositoryLabel'パラメータで指定すると'シン・ボリュームは新しいディスク・プールに所有権を変更します

仮想容量、クォータ、警告しきい値など、シンボリュームのボリュームパラメータは、シンボリュームの再初期化後も以前の値のままです。



Immediate Availability Format (IAF) は、64TBを超えるボリュームには適用されません。

次の表に、シンボリュームの容量制限を示します。

容量のタイプ	サイズ
最小仮想容量	32 MB
最大仮想容量	256 TB
最小物理容量	4 GB
最大物理容量	257TB

シンボリュームでは、標準ボリュームで行われるすべての処理がサポートされます。ただし、次の例外があります。

- ・シンボリュームのセグメントサイズは変更できません。
- ・シンボリュームでは読み取り前冗長性チェックを有効にできません。
- ・ボリュームコピーでは、シンボリュームをターゲットボリュームとして使用できません。
- ・同期ミラーリング処理ではシンボリュームを使用できません。

シンボリュームを標準ボリュームに変更する場合は、ボリュームコピー処理を使用してシンボリュームのコピーを作成します。ボリュームコピーのターゲットは常に標準ボリュームです。

最小ファームウェアレベル

7.83

8.30で、シンボリュームの最大容量が256TBに拡張されました。

ボリュームグループのデフラグを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup defr` コマンドは'指定したボリュームグループ上でデフラグ操作を開始します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ボリュームグループのデフラグは長時間の処理で、途中で停止することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] defragment
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	デフラグするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

ボリュームグループ内のボリューム数が32を超えると、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、ボリュームグループ定義が設定される前にタイムアウト時間が終了したために、内部コントローラのリブートが発生する場合があります。この問題が表示された場合は、ホストI/O処理を休止し、もう一度コマンドを実行します。

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームグループのエクスポートを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup exportコマンドは'ボリューム・グループをエクスポート状態に移行します'

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

その後、ボリュームグループを構成するドライブを取り外して、別のストレージアレイに再度取り付けることができます。



これらの手順を実行する前に、に記載されている手順を実行してください [ボリュームグループの移行について説明します](#)。



ボリュームグループ内では、機能に関連付けられているボリュームをストレージアレイ間で移動することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] export
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	エクスポートするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドが正常に実行されると'start volumeGroup importコマンドを実行して'ボリューム・グループの完全な状態への移動を完了できますこれにより'ボリューム・グループを新しいストレージ・アレイで使用できるようになります

ハードウェアの問題によってエクスポートが完了できなかったためにこのコマンドが失敗した場合は、「set volumeGroup forceState」コマンドを使用します。set volumeGroup forceStateコマンドを使用すると'start volumeGroup importコマンドを使用してボリュームグループをインポートできます

ボリュームグループがエクスポート状態または強制状態になったら、ボリュームグループを構成するドライブをストレージアレイから取り外すことができます。ドライブを別のストレージアレイに再度取り付けることができます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループのフルプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup fullProvisioningコマンドは'ディスク・プール内のすべてのボリュームに対してフル・プロビジョニング操作を開始し'オプションでボリューム・グループ上のリソース・プロビジョニングを無効にします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

リソースプロビジョニング機能を使用すると、ドライブブロックの大部分を標準ボリュームよりも未割り当ての状態にしておくことで、SSDの寿命が延び、書き込みパフォーマンスが向上します。リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームで、ドライブ容量が割り当てられています（ボリュームに割り当てられて）、ボリュームの作成時にドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ドライブブロックは、ホスト書き込みIOを完了するために必要に応じて割り当てられます。ホストのマッピング解除処理によって、ドライブブロックを未割り当て状態に戻すことができます。リソースプロビジョニングでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化が排除されるため、大容量のボリュームを迅速に初期化できます。

リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グループまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable（DULBE）エラーリカバリ機能がサポートされます。パフォーマンスの向上はドライブのモデルや容量によって異なります。


完全なプロビジョニング形式では、ボリュームグループ内のボリュームに必要なすべてのブロックがドライブ上で完全にマッピングされます。このコマンドは、プロビジョニングされたリソースボリュームグループにのみ適用できます。disableResourceProvisioningオプションがFALSEに設定されていない場合でも'ボリュームはリソースプロビジョニングされ'ボリュームグループ上に作成された新しいボリュームはリソースプロビジョニングされます'リソース・プロビジョニングを無効にするオプションがtrueに設定されている場合'ボリュームはリソース・プロビジョニングされなくなり'ボリューム・グループに作成された新しいボリュームはリソース・プロビジョニングされません

構文

```
start volumeGroup[volumeGroupName] fullProvisioning
[disableResourceProvisioning=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	フルプロビジョニング処理を開始するボリュームグループ。ボリュームグループ名は角かっこで囲みます ([])。

パラメータ	説明
disableResourceProvisioning	<p>フルプロビジョニング処理の完了後にリソースプロビジョニングを無効にするかどうかを指定する設定。リソースプロビジョニングの無効化をスキップするにはこれをFALSEに設定しますデフォルト値は「true」です。</p> <div>  <p>ボリューム・グループおよび関連するすべてのボリュームでリソース・プロビジョニングを再度有効にするには'Start Volume Group Resource Provisioning'コマンドを使用します</p> </div>

最小ファームウェアレベル

11.72

ボリュームグループのインポートを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup importコマンドは'ボリューム・グループを完了状態に移行して'新しく導入したボリューム・グループを新しいストレージ・アレイで使えるようにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

このコマンドを実行するには、ボリュームグループがエクスポート状態または強制状態である必要があります。コマンドが正常に実行されると、ボリュームグループを使用できるようになります。



ボリュームグループ内では、機能に関連付けられているボリュームをストレージアレイ間で移動することはできません。

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] import
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	インポートするボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

特定の機能（同期ミラーリング、ボリュームコピー、マッピング、永続的予約）に関連する上位のボリュームは、インポート処理から除外されます。

start volumeGroup importコマンドを実行する前に'show volumeGroup importDependenciesコマンドを実行する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループの検索を開始する - SANtricity CLI

start volumegroup locateコマンドは'ドライブ上のインジケータライトを点滅させることにより'指定したボリュームグループを構成するために論理的にグループ化されたドライブを特定します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ドライブのインジケータライトをオフにするには'stop volumegroup locateコマンドを使用します

構文

```
start volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] locate
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	特定するドライブが所属するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角カッコ（[]）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.16

ボリュームグループリソースのプロビジョニングを開始する - SANtricity CLI

start volumeGroup resourceProvisioning コマンドは、指定されたボリュームグループでリソースプロビジョニングを有効にし、ボリュームグループ内の各ボリュームで非同期オペレーションを実行するリソースプロビジョニングを開始します。リソースをプロビジョニングするには、ボリュームグループ内のすべてのドライブがNVMeのDULBE機能をサポートしている必要があります。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminのロールが必要です。

コンテキスト（Context）

ボリュームグループでリソースのプロビジョニングを無効にするには、フルプロビジョニングコマンドとオプションを使用して、リソースのプロビジョニングを無効にします。すべてのドライブがDULBE対応で、ストレージアレイの「resourceProvisionedVolumes」設定が「true」の場合、ボリュームグループは作成時にリソースをプロビジョニングします。

構文

```
start volumeGroup[<em>volumeGroupName</em>] resourceProvisioning
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroupName」と入力します	リソースプロビジョニング機能を有効にするボリュームグループ。ボリュームグループ名は角カッコ（[]）で囲みます。

停止...

非同期ミラーグループの役割の逆転をキャンセルする - **SANtricity CLI**

stop asyncMirrorGroup RoleChangeコマンドは'非同期ミラーグループ間の保留中のロール反転操作をキャンセルします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>] rolechange
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	保留中のロール反転処理をキャンセルする非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。非同期ミラーグループ名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、名前を二重引用符（" "）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

整合性グループのスナップショットのロールバックを停止する - **SANtricity CLI**

stop cgSnapImage rollbackコマンドは'スナップショット・コンシステンシ・グループのメンバー・ベース・ボリュームへのロールバック・オペレーションを停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



整合性グループのSnapshotのロールバック処理をキャンセルすると、ベースボリュームが不確定な状態になり、データが無効になるか整合性を失う可能性があります。関連する整合性グループのSnapshotボリュームは無効になり、使用できなくなります。

構文

```
stop cgSnapImage["<em>snapCGID:imageID</em>"] rollback  
memberVolumeSet ("<em>memberVolumeName1</em>" ...  
"<em>memberVolumeName</em>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
「cgSnapImage」をクリックします	<p>ロールバック処理を停止する整合性グループのSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループの名前• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。• 最新—スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します• oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合にこのオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

パラメータ	説明
「memberVolumeSet」をクリックします	<p>ロールバック処理を停止する整合性グループ内のメンバーベースボリュームの名前。各メンバーベースボリューム名は、二重引用符（"）で囲んだ上で丸かっこで囲みます。</p> <p>複数のメンバーベースボリューム名を入力できます。すべてのメンバーベースボリューム名を1組の角かっこ（[]）で囲みます。各メンバーベースボリューム名は二重引用符（"）で囲みます。メンバーベースボリューム名はそれぞれスペースで区切ります。</p> <p>memberVolumeSet'パラメータが使用されていない場合は'ロールバック・プロセスを停止します環境 は'コンシステンシ・グループのすべてのメンバー・ボリュームを停止します</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、CG1という名前の整合性グループ内にある最新のSnapshotイメージのロールバック処理を停止する場合は、次のコマンドを使用します。

```
stop cgSnapImage ["CG1:newest"] rollback;
```

CG2という名前の整合性グループ内にあるベースボリュームメンバーmemVol1、memVol2、memVol3のSnapshotイメージ12345のロールバック処理を停止するには、次のコマンドを使用します。

```
stop cgSnapImage ["CG2:12345"] rollback memberVolumeset=("memVol1 memVol2 memVol3");
```

最小ファームウェアレベル

7.83

整合性グループのスナップショットボリュームを停止する - SANtricity CLI

stop cgSnapVolumeコマンドを実行すると、整合性グループのSnapshotボリュームを作成するためのcopy-on-write処理が停止します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

copy-on-write処理を再開するには、「resume cgSnapVolume」コマンドを使用します。



このコマンドによって整合性グループのSnapshotボリュームが削除されることはありません。整合性グループのスナップショットボリュームを削除するには'delete cgSnapVolume'コマンドを使用します

構文

```
stop cgSnapVolume [<em>snapVolumeName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
cgSnapVolume	作成を停止する整合性グループのSnapshotボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームパリティチェックジョブの停止 - SANtricity CLI

。stop check volume parity job コマンドは、実行中のボリュームチェックパリティジョブを停止します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop check volume parity job jobId=<job_id>;
```

パラメータ

パラメータ	説明
jobId	停止するボリュームチェックパリティジョブに対応するジョブID。この値は必須です。

最小ファームウェアレベル

11.80

整合性グループ上の保留中のスナップショットイメージを停止する - **SANtricity CLI**

「stop consistencyGroup pendingSnapImageCreation」コマンドは、Snapshot整合性グループに作成される保留中のSnapshotイメージをすべて停止します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

Snapshot整合性グループに保留中のSnapshotイメージがない場合はエラーメッセージが表示され、コマンドは実行されません。

構文

```
stop consistencyGroup  
[<em>consistencyGroupName</em>]pendingSnapImageCreation
```

パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroupName」	保留中のSnapshot処理を停止する整合性グループの名前。整合グループの名前は角かっこ ([]) で囲みます。整合性グループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、整合性グループ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

ディスクプールの検索を停止する - SANtricity CLI

stop diskPool locate コマンドは 'start diskPool locate' コマンドによってオンにされたドライブのインジケータ・ライトをオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop diskPool locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.83

ドライブの検索を停止する - SANtricity CLI

stop drive locate コマンドは 'start drive locate' コマンドによってオンにされたドライブのインジケータライトを消灯します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop drive locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ドライブ交換の停止 - SANtricity CLI

stop drive replace'コマンドは'set drive'コマンドまたは'replace drive'コマンドのいずれかで開始されたデータ・コピー・オペレーションを'**copyDrive**'ユーザー入力で停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop drive replace ([trayID,[drawerID,]slotID] | <"wwID">)
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>
「ドライブ」	<p>交換するドライブのWorld Wide Identifier（WWID）。WWIDは二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

8.20で

ドライブチャネル障害分離診断を停止する - SANtricity CLI

stop driveChannel faultDiagnosticsコマンドは'ドライブ・チャネルの障害切り分け診断を停止しますこれにより'start drive channel fault isolation diagnosticsコマンドが完了する前に停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェアバージョン8.10では、「stop driveChannel faultDiagnostics」コマンドは廃止されました。

構文

```
stop driveChannel faultDiagnostics
```

パラメータ

なし

注：

start driveChannel faultDiagnosticsコマンドと'stop driveChannel faultDiagnosticsコマンドを使用しますこれらのコマンドは、診断テストを開始し、診断テストの結果をファイルに保存するために必要です。

「start driveChannel faultDiagnostics」コマンドは、Ctrl + Cキーを押すいつでも停止できます。

最小ファームウェアレベル

7.15

ドライブチャネルの検索を停止する - **SANtricity CLI**

stop driveChannel locateコマンドは'start driveChannel locateコマンドによってオンにされたドライブトレイのインジケータライトを消灯します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop driveChannel locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

スナップショットグループの保留中のスナップショットイメージを停止する - **SANtricity CLI**

'stop pendingSnapImageCreation' コマンドは、スナップショットまたはスナップショット整合性グループに作成される保留中のスナップショットイメージをすべてキャンセルします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (**Context**)

Snapshotグループに保留中のSnapshotイメージがない場合はエラーメッセージが表示され、コマンドは実行されません。このコマンドは、SnapshotグループまたはSnapshot整合性グループに対して実行できます。

構文

```
stop (snapGroup [<snapGroupName>] |
consistencyGroup [<snapConsistencyGroupName>])
pendingSnapImageCreation
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	保留中のSnapshotイメージを停止するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。Snapshotグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、Snapshotグループ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「consistencyGroup」	保留中のSnapshotイメージを停止するSnapshot整合性グループの名前。Snapshot整合性グループ名は角カッコ（[]）で囲みます。Snapshot整合性グループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、Snapshotグループ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットイメージのロールバックを停止する - SANtricity CLI

stop snapImage rollbackコマンドは'start snapImage rollbackコマンドによって開始されたスナップショット・イメージ・ロールバック・オペレーションを停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）



Snapshotイメージのロールバック処理をキャンセルすると、ベースボリュームが不確定な状態になり、データが無効になるか整合性を失う可能性があります。関連するSnapshotイメージボリュームは無効になり、使用できなくなります。

構文

```
stop snapImage [<em>snapCGID:imageID</em> rollback]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapImage」	<p>ロールバック処理を停止するSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Snapshotグループの名前 • Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 • 最新スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します • oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン (:) で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、SnapshotグループsnapGroup1内のSnapshotイメージ12345のロールバック処理を停止する場合は、次のコマンドを使用します。

```
stop snapImage ["snapGroup1:12345"] rollback;
```

SnapshotグループsnapGroup1内の最も新しいSnapshotイメージのロールバック処理を停止するには、次のコマンドを使用します。

```
stop snapImage ["snapGroup1:newest"] rollback;
```

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームの停止 - SANtricity CLI

stop snapVolume コマンドは、スナップショット・ボリュームのオペレーションを停止します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	停止するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

7.83

SSD キャッシュの検索を停止する - SANtricity CLI

「stop ssdCache locate」コマンドは、「start ssdCache locate」コマンドによってオンにされたソリッドステートディスク (SSD) のインジケータライトをオフにします。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
stop ssdCache locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュ パフォーマンス モデリングを停止する - SANtricity CLI

stop ssdCache performanceModelingコマンドは'パフォーマンスモデリング処理を停止し' SSDキャッシュのパフォーマンスモデリングデータを表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドを実行する前に'start ssdCache performanceModelingコマンドを使用して'パフォーマンスモデリング操作を開始する必要があります必要に応じて、データをファイルに保存することができます。

構文

```
stop ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] performanceModeling  
[file="<em>filename</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	パフォーマンスモデリングを停止するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
'file'	<p>パフォーマンスモデリングデータの保存先となるファイルパスとファイル名。ファイル名は二重引用符 (") で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\ssdcacheperfcsv"</p> <p>任意のファイル名を使用できますが'.csv拡張子を使用する必要があります</p>

注：

このコマンドから返されるパフォーマンスモデリング情報の例を次に示します。モニタのサイズによって、情報がどのように折り返されるかが決まり、情報がどのように表示されるかが決まります。

```
SSD Cache Name: my_cache
Start time: 4/18/12 2:38:26 PM IST
Stop time: 4/18/12 2:38:45 PM IST
Duration : 00:00:19
```

SSD Cache Performance Modeling Data (Response Time):

		SSD Reads		HDD Reads		HDD
Writes	Overall	Avg.		Avg.		
Cache	Response	Response	% of	Response	% of	Response
% of	Time	Time	I/Os	Time	I/Os	Time
Capacity						
I/Os						
186 GB	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms
0.0 %						
372 GB	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms
0.0 %						
557 GB *	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms
0.0 %						
558 GB	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms
0.0 %						
744 GB	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms
0.0 %						
931 GB	0 ms	0 ms	0.0 %	0 ms	0.0 %	0 ms

```

0.0 %
1117 GB      0 ms      0 ms      0.0 %    0 ms      0.0 %    0 ms
0.0 %
1303 GB      0 ms      0 ms      0.0 %    0 ms      0.0 %    0 ms
0.0 %
1489 GB      0 ms      0 ms      0.0 %    0 ms      0.0 %    0 ms
0.0 %
1675 GB      0 ms      0 ms      0.0 %    0 ms      0.0 %    0 ms
0.0 %
1862 GB      0 ms      0 ms      0.0 %    0 ms      0.0 %    0 ms
0.0 %

```

* = Current SSD cache physical capacity.

SSD Cache Performance Modeling Data (Cache Hit %) :

Cache Capacity	Cache Hit %
186 GB	0 %
372 GB	0 %
557 GB *	0 %
558 GB	0 %
744 GB	0 %
931 GB	0 %
1117 GB	0 %
1303 GB	0 %
1489 GB	0 %
1675 GB	0 %
1862 GB	0 %

* = Current SSD cache physical capacity.

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

ストレージアレイ構成データベース診断を停止する - SANtricity CLI

stop storageArray configDbDiagnostic' コマンドは 'start storageArray configDbDiagnostic' コマンドによって起動されたコントローラ・ファームウェアの構成データベースを検証する診断テストを停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop storageArray configDbDiagnostic
```

パラメータ

なし

注：

コントローラファームウェアは、診断テストがキャンセルされたことを確認するメッセージを返します。

また、ストレージ管理ソフトウェアのGUIからデータベース構成の診断テストを開始することもできます。ただし、ストレージ管理ソフトウェアのGUIから診断テストを停止することはできません。実行中の診断テストを停止するには'stop storageArray configDbDiagnostic'コマンドを使用する必要があります

ストレージ・アレイの構成の検証が完了した後に'stop storageArray configDbDiagnostic'コマンドを使用しようとすると'検証が完了したことを示すメッセージは表示されませんこれは想定される動作です。

最小ファームウェアレベル

7.75

7.77で、用法が見直されました。

ストレージアレイドライブのファームウェアのダウンロードを停止する - SANtricity CLI

「stop storageArray driveFirmwareDownload」コマンドは、「download storageArray driveFirmware」コマンドで開始したストレージアレイ内のドライブへのファームウェアダウンロードを停止します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、すでに進行中のファームウェアダウンロードは停止しません。このコマンドは、ダウンロー

ドを待機しているドライブへのファームウェアダウンロードをすべて停止します。

構文

```
stop storageArray driveFirmwareDownload
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイのiSCSIセッションを停止する - SANtricity CLI

「stop storageArray iscsiSession」 コマンドは、ストレージアレイのiSCSIセッションを強制的に終了します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop storageArray iscsiSession [<em>SessionNumber</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「* iscsiSession *」 のようになります	iSCSIセッションの識別番号。iSCSIセッションの識別番号は角かっこ ([]) で囲みます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイの検索を停止する - SANtricity CLI

stop storageArray locate コマンドは start storageArray locate コマンドによってオンにされたストレージ・アレイのインジケータ・ライトをオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop storageArray locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

トレイの位置特定を停止 - SANtricity CLI

stop tray locate コマンドは start tray locate コマンドによってオンにされたトレイのインジケータライトをオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop tray locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームコピーを停止する - SANtricity CLI

'stop VolumeCopy target source' コマンドは、ボリュームコピー操作を停止します。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop volumeCopy target [<em>targetName</em>] source [<em>sourceName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	ボリュームコピー処理を停止するターゲットボリュームの名前。ターゲットボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ターゲットボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ターゲットボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「source」を参照してください	ボリュームコピー処理を停止するソースボリュームの名前。ソースボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ソースボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ソースボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

ボリュームグループの検索を停止する - SANtricity CLI

stop volumeGroup locate コマンドは'start volumeGroup locate' コマンドによってオンにさ

れたドライブのインジケータライトをオフにします

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
stop volumeGroup locate
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.16

中断...

非同期ミラーグループの一時停止 - SANtricity CLI

suspend asyncMirrorGroupコマンドは、すべてのミラーペアのデータの同期を非同期ミラーグループレベルで中断します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

この'suspend'コマンドは'ローカル・ストレージ・アレイ上の変更されたデータがリモート・ストレージ・アレイにコピーされるときに発生する可能性のあるホスト・アプリケーションのパフォーマンスへの影響を軽減します

構文

```
suspend asyncMirrorGroup [asyncMirrorGroupName]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	データの同期を中断する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角カッコ（[]）で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符（"）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

注：

中断状態の非同期ミラーグループでは、ミラーペアのプライマリボリュームからセカンダリボリュームへのデータのコピーは試行されません。非同期ミラーグループのプライマリ側への書き込みは、関連付けられているミラーリポジトリボリュームに永続的に記録されます。非同期ミラーグループが再開されると、プライマリボリュームの変更された領域だけがセカンダリボリュームに書き込まれます。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュを一時停止する - SANtricity CLI

suspend ssdCacheコマンドは、SSDキャッシュを使用しているすべてのボリュームのキャッシュを一時的に停止します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

キャッシュの停止中、ホストの読み取りはSSDキャッシュではなくベースボリュームから処理されます。

構文

```
suspend ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	中断するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角カッコ（[]）で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符（" "）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

注：

キャッシュを再開するには'resume ssdCacheコマンドを使用します

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

同期ミラーリングの一時停止 - **SANtricity CLI**

suspend SyncMirror primariesコマンドは'同期ミラーリング操作を一時停止します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（**Context**）



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

構文

```
suspend syncMirror (primary [<em>primaryVolumeName</em>]
primaries [<em>primaryVolumeName1</em> ... <em>primaryVolumeNameN</em>])
[writeConsistency=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	処理を中断するプライマリボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「原色」	<p>処理を中断する複数のプライマリボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 各名前は二重引用符 (") で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「ライトコンシステンシ」	このパラメータは、このコマンドで特定したボリュームが書き込み整合性グループ内にあるか、別々のボリュームであるかを定義します。同じ書き込み整合性グループ内のボリュームの場合は、このパラメータを「true」に設定します。別々のボリュームの場合は、このパラメータを「FALSE」に設定します。

注：

「writeConsistency」パラメータを「true」に設定すると、ボリュームは書き込み整合性グループ（またはグループ）に属している必要があります。このコマンドは、ボリュームを含むすべての書き込み整合性グループの同期ミラーリングを中断します。たとえば'ボリュームA'B'およびCが書き込み整合性グループに属しており'リモートの対応するボリュームA"B'およびC'がある場合'コマンドは次のようになります

```
suspend syncMirror volume ["A"] writeConsistency=TRUE
```

このコマンドは'A-A'、B-B'、C-C'の同期ミラーリングを中断します。書き込み整合性グループ1= {A、B、C

} と書き込み整合性グループ2= {D、E、F} があるとしてします。

```
suspend syncMirror volumes ["A" "D"] writeConsistency=TRUE
```

両方の書き込み整合性グループの中断

最小ファームウェアレベル

6.10

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。